

千 歳 5 遺 跡

— 北海道縦貫自動車道登別地区埋蔵文化財発掘調査報告書 —

昭 和 57 年 度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

例 言

1. 本書は、北海道縦貫自動車道登別地区及び白老地区埋蔵文化財調査のうち、登別市千歳5遺跡の発掘調査報告書である。

2. 本書の作成は、発掘を担当した(財)北海道埋蔵文化財センター調査部調査第二班がたった。文責者は次の通りである。

I-1~3: 木村尚俊, I-4・6, II-1~3: 鬼柳彰,
III, IV-1・3: 浦辻栄治, IV-2: 大場靖友。

III-1~6の各遺構については、鬼柳彰、浦辻栄治、工藤研治、和泉田毅、佐藤和雄、大場靖友が分担執筆した。

3. 遺構図の作成は和泉田毅があたり、遺物図版については、土器を浦辻栄治、石器を大場靖友が担当した。

遺構・遺物の写真は佐藤和雄が担当した。

遺構・遺物の実測図の縮尺は次の通りである。

住居跡: 60分の1, 石囲い炉・土壇・Tピット: 40分の1

(遺構に付属しない焼土は図示していない)

土器・礫石器(石斧類を含む): 3分の1, 剥片石器・土製品・石製品: 2分の1

4. 本書では、各種の遺構を次の記号で表示する。

住居跡: H, 石囲い炉: S, 土壇: P, Tピット: TP, 遺構

に付属しない焼土: F(H-2, H-5, P-34, F-3は欠番)

5. 放射性炭素による年代測定は、京都産業大学山田治氏に依頼した。

目 次

例 言

I 調査の概要	1
1.調査要項	1
2.調査体制	1
3.調査の経緯	2
4.発掘区の設定	2
5.遺物の分類	3
土 器	3
石 器	4
6.調査の要約	8
II 遺跡の環境と立地	11
1.自然環境	11
2.周辺の遺跡	12
3.層 位	12
III 遺構と遺構出土の遺物	18
1.住居跡	20
2.石囲い炉	73
3.土塋	75
4.Tピット	100
5.焼 土	101
6.一括出土石斧	103
IV 包含層出土の遺物	104
1.土 器	104
2.石器等	106
3.遺物の分布について	110
資 料 編	141
表	143
写真図版	194



H-3 炉跡セクション



包含層出土の有孔石製品，三角形土製品

I. 調査の概要

1. 調査要項

事業名：北海道縦貫自動車道登別地区及び白老地区埋蔵文化財発掘調査業務
 事業委託者：日本道路公団札幌建設局
 事業受託者：財団法人 北海道埋蔵文化財センター
 遺跡名：千歳5遺跡（北海道教育委員会登載番号 J-03-23）
 所在地：登別市千歳町147-2, 197
 調査面積：3,980 m²
 調査期間：昭和57年5月9日～昭和58年3月31日

2. 調査体制

財団法人 北海道埋蔵文化財センター	理事長	浅井理一郎
	業務部長	皆川 富三
	調査部長	藤本 英夫
調査部	調査第二班長	木村 尚俊（発掘担当者）
〃	文化財保護主事	鬼柳 彰
〃	〃	青柳 文吉
〃	〃	浦辻 栄治
〃	〃	工藤 研治
〃	調査補助員	和泉田 毅
〃	〃	佐藤 和雄
〃	〃	大場 靖友

調査にあたっては、文化庁、奈良国立文化財研究所及び北海道教育委員会の指導を受けた。
 また次の諸機関及び人々の協力を得た。（順不同、敬称略）

登別市役所
 登別市教育委員会
 苫小牧市埋蔵文化財センター
 登別市立図書館
 登別市郷土資料館
 北海道開拓記念館 赤松 守雄
 〃 山田 悟郎

I. 調査の概要

北海道大学環境科学研究科	花岡 正光
札幌医科大学解剖学第二講座	大島 直行
〃	西本 豊弘
北海道登別南高等学校	街道 重昭

3. 調査の経緯

本遺跡は、北海道教育委員会が昭和55年度に実施した登別市内の一般分布調査によって発見されたものである。日本道路公団は北海道縦貫自動車道（函館～稚内）の建設を進めているが、本遺跡が、このうちの東室蘭インターチェンジと登別インターチェンジ間の予定路線内にあることから、発見後ただちに北海道教育委員会と協議を行ない、記録保存のための調査を実施することになった。

調査の委託を受けた当センターでは、同年秋に範囲確認のための調査を実施、発掘調査対象面積は3,980㎡と確定された。

発掘調査は昭和57年5月9日に開始され、10月29日に完了した。遺物の水洗、注記、分類カードの作成は、これと並行して行なった。遺物実測、トレース、報告書の作成は、同年11月1日から実施して、昭和58年3月31日に終了した。

4. 発掘区の設定

発掘調査の実施にあたっては、道路予定線内のセンター杭 S T A. 69+00 と S T A. 70+00 を結ぶ直線と、これに直交する線を設定した。これを基準線として調査区全域を覆う 5 m グリッドを設け、調査区北西隅から 10 m ごとに南へ A・B・C・・・、東へ 0・1・2・・・の記号を付した。グリッドの呼称は該当する 10 m 四方の北西角の杭を用いた。5 m グリッドについては、各 10 m グリッドの北西から左回りに a・b・c・d の記号を付した。

遺物の取り上げにあたっては 5 m グリッドをさらに、2.5 m グリッドに 4 分割して出土位置を記録した。

5. 遺物の分類

出土した資料の整理にあたって、土器・石器とも従来から当センターが使用している分類基準を用いた。この分類基準は新千歳空港建設用地内における美沢川流域の遺跡調査の成果をもとに作成し、後、北海道縦貫自動車道江別地区の発掘資料により修正したものである。

礫、土製品、石製品は分類対象から除外する。

土 器

縄文時代草創期に属する資料をⅠ群とし、早期をⅡ群、以下順次、前・中・後・晩期をⅢ群・Ⅳ群・Ⅴ群とし、続縄文時代・擦文時代に属する資料をそれぞれⅥ群・Ⅶ群としている。

今回の調査ではⅠ～Ⅱ群・Ⅶ群の資料は出土していないので、これを省略し、Ⅲ～Ⅵ群の分類を示すこととした。

〈Ⅲ群〉

縄文時代中期に属する土器群。本群はa・bの2類に分類される。後者はさらにb-1・b-2・b-3の3類に細分される。

a類：円筒土器上層式に相当するもの

b-1類：天神山式に相当するもの 嵐山遺跡出土資料に類するものは本類に含めておく。

b-2類：柏木川式およびそれに近似したもの

b-3類：北筒式に相当するもの 小島の沢Ⅰ式を含む

〈Ⅳ群〉

縄文時代後期に属する土器群。本群はa・b・cの3類に分類される。

a類：余市式・手稲砂山式および入江式に相当するもの

b類：手稲式および茶津洞穴Ⅳ層出土資料に相当するもの

c類：堂林式および茶津洞穴Ⅲ層出土資料に相当するもの

〈Ⅴ群〉

縄文時代晩期に属する土器群・本群はa・b・cの3類に分類される

a類：大洞B・B-C式に相当するもの。上ノ国式に類似するものを含む

b類：大洞C・C₂式に相当するもの

c類：大洞A・A'式に相当するもの タンネトウL式を含む

〈Ⅵ群〉

続縄文時代の土器群。今回の調査では恵山式に相当するものが出土している。

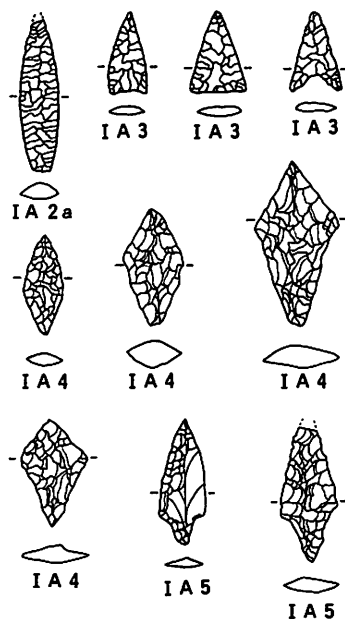
I. 調査の概要

石 器

〈I群〉 石鏃・槍先類

A：石鏃

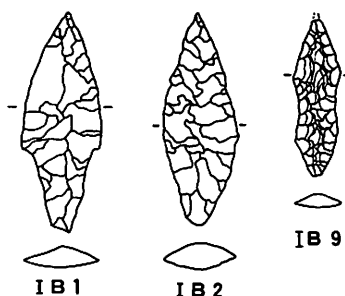
- 1：石刃鏃（今回は、出土していない）
- 2：細身で薄いもの。基部が内湾するもの
 - a：柳葉形のもの
 - b：五角形になるもの（今回は、出土していない）
 - c：大きめのもの（今回は、出土していない）
- 3：三角形のもの
（基部にえぐりのあるものも含む）
- 4：茎が明瞭に見られないもの
（ひし形のもの、基部が丸くなるもの）
- 5：茎をもつもの



- 8：破片など
- 9：今後、分類を必要とするもの

B：槍先

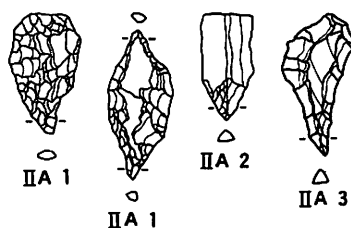
- 1：茎をもつもの
- 2：茎が明瞭に見られないもの
（ひし形のものも含む）
- 8：破片など
- 9：今後、分類を必要とするもの



〈II群〉 石錐類

A：石錐

- 1：刺突部をつくりだしたもの
（刺突部が複数のものもある）
- 2：棒状のもの
- 3：棒状のものにつまみ部がつくりだされたもの



- 8：破片など
- 9：今後、分類を必要とするもの

〈III群〉 ナイフ・スクレイパー類

A：つまみ付きナイフ

- 1：二次加工が片面全体に施され、その面の右側縁に急角

度の刃部をもつもの

- 2 : 二次加工が片面全体に施されるもの
- 3 : 二次加工が周辺に施されるもの
- 4 : 両面加工のもの

8 : 破片など

9 : 今後、分類を必要とするもの

B : スクレイパー

- 1 : 石べらと称されるもの
- 2 : まる形のもの (ラウンド・スクレイパー)

8 : 破片など

9 : 今後、分類を必要とするもの

〈IV群〉 石斧類

A : 石斧

- 1 : 擦り切り手法によって製作されたもの
- 2 : 敲打痕 (ベッキング) のみられるもの
- 3 : 打ち欠きによる製形がみられるもの
- 4 : 素材を大きく変形することなく、刃部のみに磨きがみられるもの
- 5 : 全面磨製のもの

8 : 素材、末製品、すり切り残片、破片など

9 : 今後、分類を必要とするもの

B : 石のみ

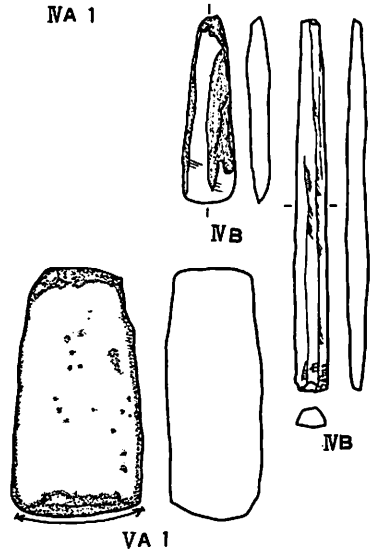
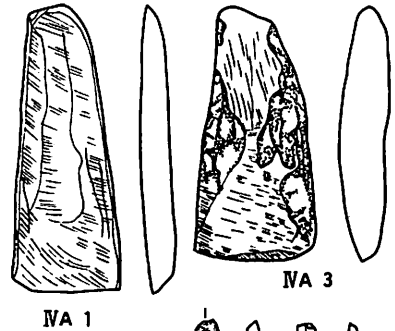
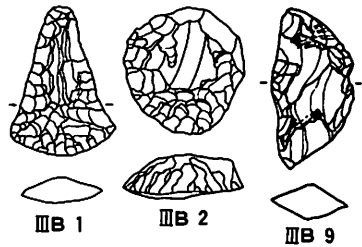
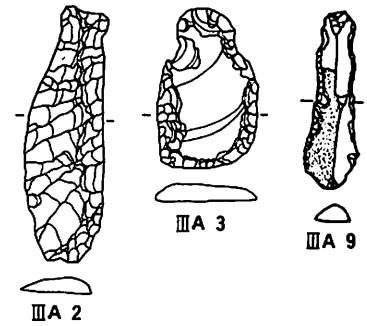
〈V群〉 たたき石、台石類

A : たたき石

- 1 : 棒状の一端、もしくは両端にたたき痕がみられるもの
- 2 : 扁平礫の周辺にたたき痕がみられるもの
- 3 : 扁平礫の腹、背面にたたき痕がみられるもの
(くぼみ石と称されるものも含む)

8 : 破片など

9 : 今後、分類を必要とするもの



I. 調査の概要

B：台石（石器製作，その他の作業でテーブルと
なったもの 出土状態などの状況証拠を重視）

1：台石（板状の面の平坦面に使用痕がみられ
るもの）

8：破片など

9：今後，分類を必要とするもの

〈Ⅵ群〉 すり石・石皿類

A：すり石

1：断面がすみまる三角形の礫の稜をすったもの

2：扁平礫の側縁をすったもの

3：扁平礫を半円状に粗く打ち欠き弦をすったも
の（今回は，出土していない）

4：北海道式石冠と称されるもの

5：円礫状で，すり面が曲面のもの（側辺にたた
き痕がみられるものが多い）

8：破片など

9：今後，分類を必要とするもの

B：石皿（すり面のあるもの）

1：石皿（板状の石の平坦面に，広くすり面がみ
られるもの）

8：破片など

9：今後，分類を必要とするもの

〈Ⅶ群〉 ^{いしのこ}石鋸・^{といし}砥石類

A：石鋸

1：石鋸（刃部が直線状になるもの）

8：破片など

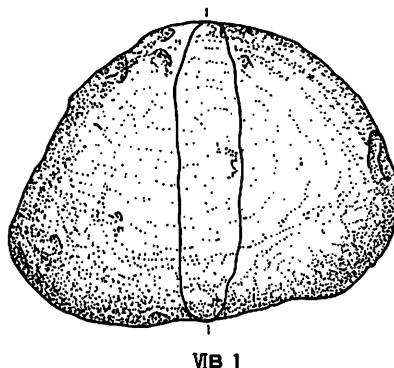
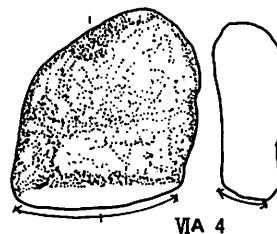
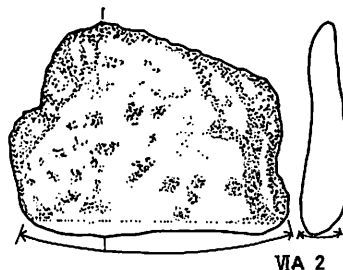
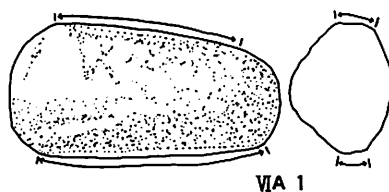
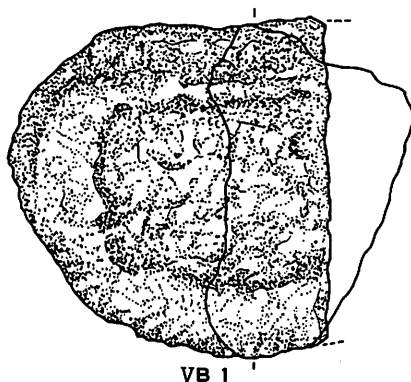
9：今後，分類を必要とするもの

B：砥石

1：研磨面に溝があるもの

（今回は，出土していない）

2：研磨面だけのもの



8：破片など

9：今後、分類を必要とするもの

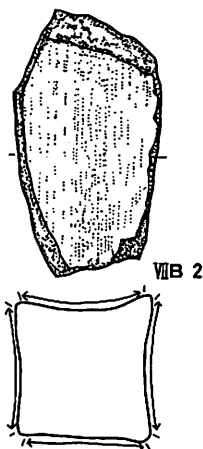
〈Ⅶ群〉 石錘類（今回は、出土していない）

A：石錘

1：打ち欠きを4ヶ所にもつもの

2：長軸の両端に打ち欠きをもつもの

3：短軸の両端に打ち欠きをもつもの



8：破片など

9：今後、分類を必要とするもの

〈Ⅸ群〉 石核・剥片類

A：石核（剥片石器の素材となる原石等も含む）

B：剥片・破片

〈Ⅹ群〉 加工痕、使用痕のみられる剥片・礫など

A：

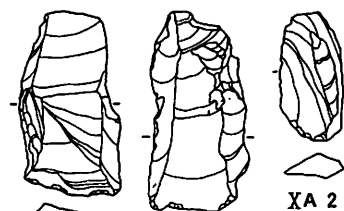
1：剥片に加工痕が見られ、今後分類を必要とするもの（定形的な石器としては認定されていないもの。彫器、ピエス・エス・キユを呼称されるもの。それらの削片などを含む。）

2：剥片に使用痕のみられるもの。

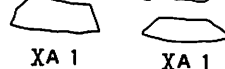
B：礫に加工痕・使用痕がみられ、今後、分類を必要とするもの



IX A



XA 2



XA 1

XA 1

I. 調査の概要

6. 調査の要約

今回の千歳5遺跡の発掘調査では、縄文時代中期末から後期初頭につくられたものと推定される遺構が、63か所検出された。これらの遺構の種類と内訳は、住居跡が18か所、土壌が36か所、Tピットが2か所、焼土跡が7か所である。住居跡としたものは皿状の大きな落ちこみで、床面に炉跡と、柱穴とみられるピットが検出された遺構である。

土壌としたものには、径20cmから数mにおよぶものがあるが、どのような目的で掘りこまれたか、不明確なものが多い。このなかには、形状・出土遺物などからみて、墓墳と考えられるものが数カ所あるが、人骨・ベンガラなどは検出されていない。また土壌のなかには、他の住居跡と規模、形状などが異なるために、これに含めたが、焼土、柱穴状のピットが検出されていることから判断すると、住居跡の可能性もあるものもある。

Tピットは調査区の南北に1カ所ずつあるが、これと列をなすものは検出されなかった。

焼土としたものは7か所ある。調査区の全域に堆積している黒褐色腐植土層（Ⅳa1'層）中には、赤色あるいはオレンジ色の火山灰がブロック状に分布しており、これとの判別が困難であったが、この7か所には、わずかの炭化物が混入しているために、焼土であることが判明した。F-1と6では土器がともなっており、各1個体ずつ復元されている。

遺構の多くは、Ⅳa1'層上部から掘りこまれているものと判断されるが、遺構内部の埋土も、この層を主体としているために、掘りこみ面を確認することは、極めて困難であった。

表土およびⅡ層の火山灰除去後、調査区内の数か所に、皿状の窪みが認められたため、トレンチ調査を行って、これらの窪みが住居跡であることを確認した。しかし、これらの住居跡の多くは斜面上部では、地山ローム層まで掘りこまれているが、下部ではⅣa1'層中にあり、平面的に掘り下げを行っても、壁、床面を明瞭に確認できないことが明らかになった。とくに調査区西半部のゆるやかな斜面の遺構では、地山ローム層にまったく達していないことが推測された。

このため、グリッドラインに沿って、幅50cmのトレンチ調査をほぼ全域に行ない、遺構の存在が予想された部分については、随時、サブトレンチを設定し、土層断面の観察によって遺構確認を行うこととした。しかし、この方法によっても確認が難しい遺構が多く、特に小型のピットは、Ⅳa1'層下部、あるいは地山漸移層まで掘り下げた段階で、発見されたものが多い。

したがって、今回の調査では、掘りこみ面を確実に把握できたものは数例のみであるが、その他の遺構については、遺物の出土状態、付近の遺構との土層の比較によって、掘りこみ面を判断した。

遺物は約15万点出土した。このうち土器は破片数で約8万点ある。Ⅲ群b-3類に属する北筒式・煉瓦台式が主体を占め、Ⅳ群a類の余市式・Ⅲ群b-3類のノダップⅡ式がこれに続く。Ⅲ群a類の円筒上層式、およびⅣ群b類の手稲式土器もわずかではあるが出土している。

石器は礫・剝片を含めて約7万点出土しており、Ⅲ群b-3類、あるいはⅣ群a類の土器にともなうものと考えられる。このほかに三角形土製品・滑車形の有孔石製品なども発見された。

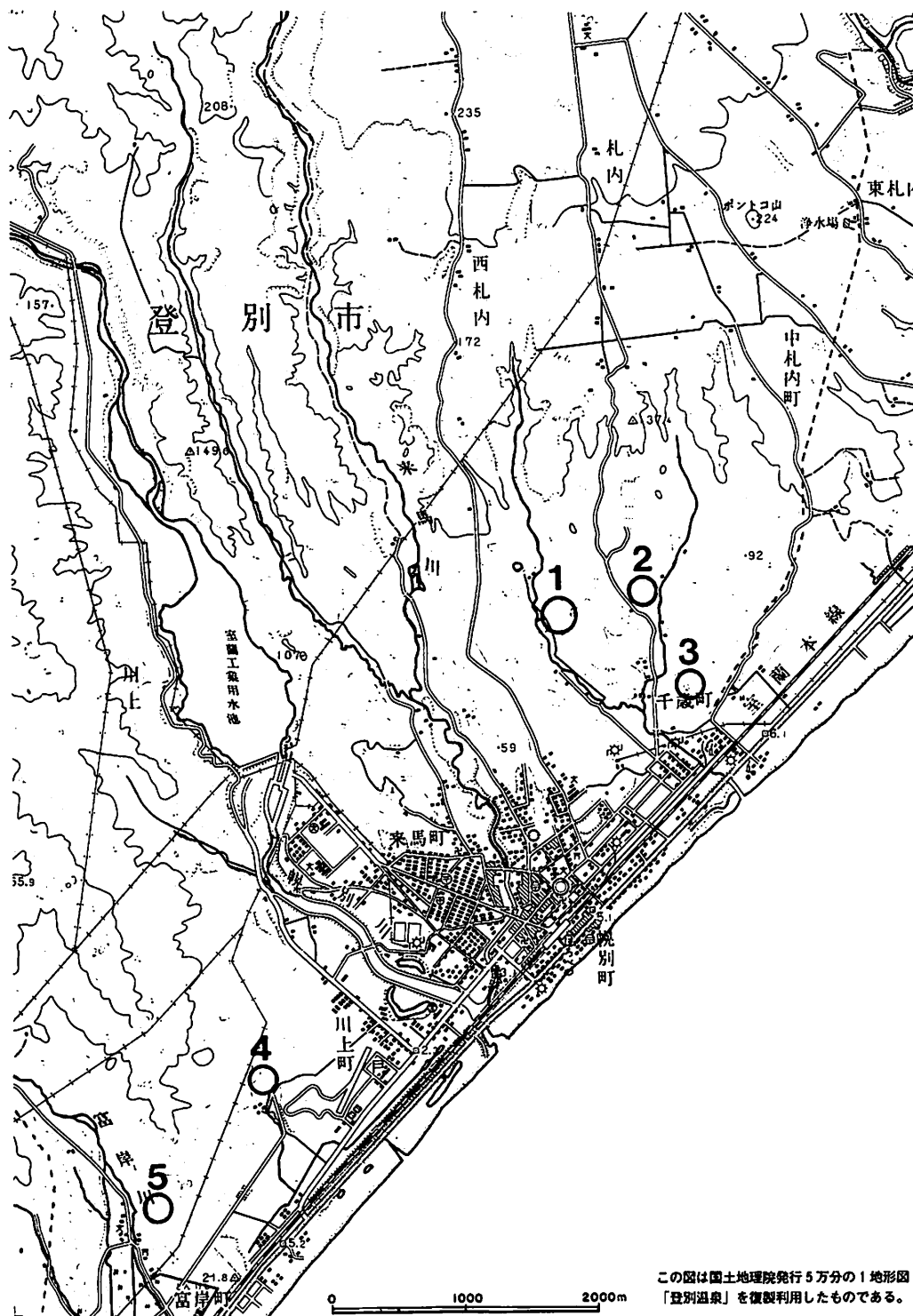


図1-1 千歳5遺跡とその周辺の遺跡

- (1. 千歳5遺跡 2. 千歳4遺跡 3. 千歳6遺跡
4. 川上B遺跡 5. 富岸小学校遺跡)

I. 調査の概要

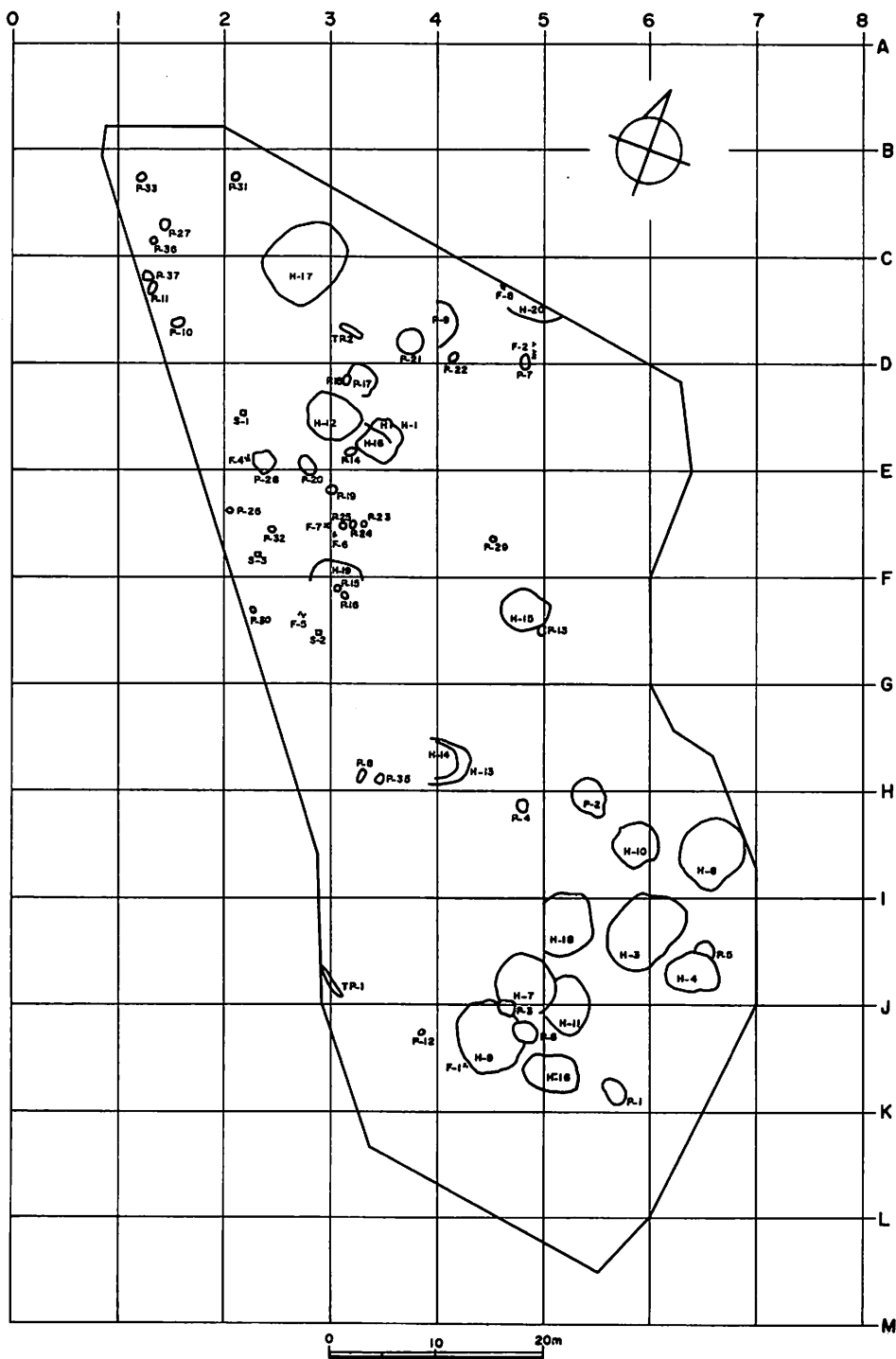


图 1-2 遺構位置図

Ⅱ．遺跡の環境と立地

1．自然環境

千歳5遺跡は幌別町市街地の東側を流れる岡志別川上流に位置している。この付近から北東部一帯に広がる札内台地は背後に急峻な山岳をひかえた丘陵地帯で、北から南へゆるやかに傾斜し南辺は海岸平野に達している。台地の基盤は更新世の登別溶結凝灰岩で、この上に火山灰性の土壌が堆積している。

札内台地を縦断するように登別川・来馬川^{いば}などの中小河川が深い谷を刻んで南北に流れている。これらの河川の一つである岡志別川は、台地中央付近の札内町南部、来馬町東端に源を発し、千歳町を経て太平洋に注いでいる。延長は約5kmで、現在、流路は中流域から改修され、コンクリートで護岸されている。

岡志別川は、「幌別町のアイヌ語地名」(知里真志保・山田秀三)によると、「語源はよく分らないが、O(川尻) Kas(魚捕小屋) un(ある) Pet(川) のようにも聞こえる。」と説明されている。また今回の調査地区を含む上流は、ハルキオカシベツ[harki(左の) okaspet(オカシベツ川)]と呼ばれている。

遺跡は谷の開口部より約0.5km上流左岸の丘陵西斜面にある。谷底は沖積され、遺跡付近では幅80mほどの平地になっている。

背後の丘陵は札内台地中央部より南へ延びる尾根の一つで、調査地区は谷に面する斜面の標

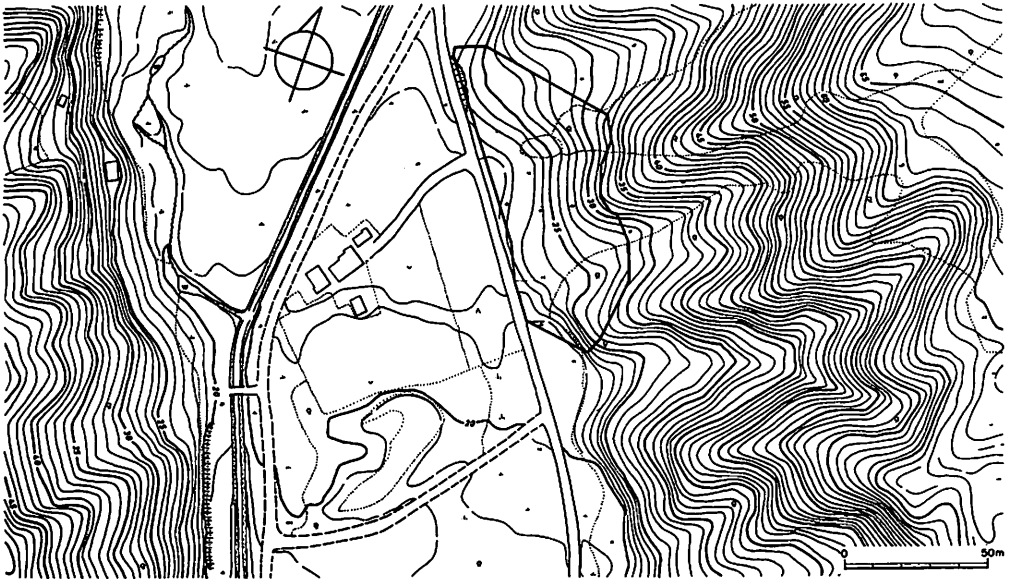


図2-1 遺跡周辺の地形および概念図

Ⅱ．遺跡の環境と立地

高20m～33mの部分にあたる。中央部に丘陵から支尾根が張り出し、その南側と北側は浅い沢になっている。

この付近の植生は、終戦後放牧地として利用されていたために、現在ではクマイザサと灌木の疎林になっている。

2．周辺の遺跡

札内台地南西部、岡志別川の本流と支流沿いには、道教委作成の埋蔵文化財包蔵地分布図によると、本遺跡の他に6か所の遺跡が掲載されている。このうち千歳4、6遺跡は、すでに発掘調査が実施され、報告書が刊行されている。千歳4遺跡は本遺跡の東約1kmの岡志別川支流のエコイカウオカシベツ川とシンノシケウオカシベツ川の合流点に近い丘陵西斜面にあり、縄文時代中期後葉から後期中葉の遺構・遺物が発掘

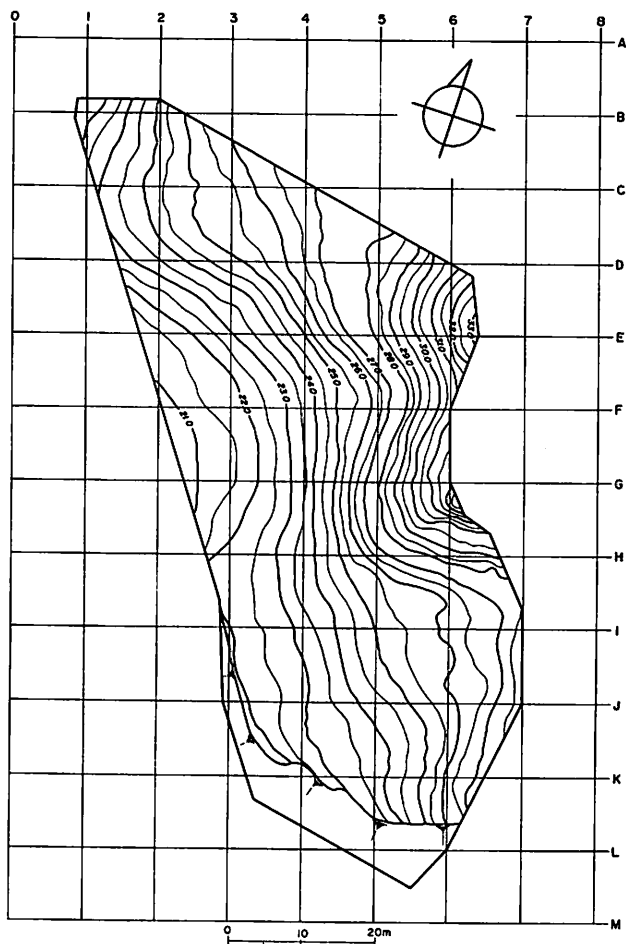


図2-2 Ⅲ層上面測量図

されている。また千歳6遺跡は岡志別川の下流北東岸の台地端部にあり、やはり同時期の遺構・遺物が発見されている。両遺跡と千歳5遺跡との距離は数kmで、時期・立地条件ともに共通する点が多い。

この他に幌別川、来馬川沿いには、チャシ・包蔵地が数ヵ所知られている。幌別町市街地南西の川上B遺跡は、当センターで本遺跡と同時に発掘調査を実施しており、縄文時代早期から後期に至る遺構・遺物が発掘された。

また富岸川沿いにも、3か所の遺跡があり、このうち富岸遺跡は、当センターが昭和55年度に発掘調査を実施した。縄文時代早期から後期の遺物が出土している。

3．層 序

層序は大別すると、火山灰、腐植土、地山ローム層に分けられる。上層は層厚20～30cmの灰褐色火山灰層（Ⅰ層）と、5cm前後の明灰色火山灰層（Ⅱ層）で明瞭に分層される。Ⅰ層はわずかに腐植質を含んでおり、有珠a系統の火山灰とされている。Ⅱ層は有珠b系統といわれる

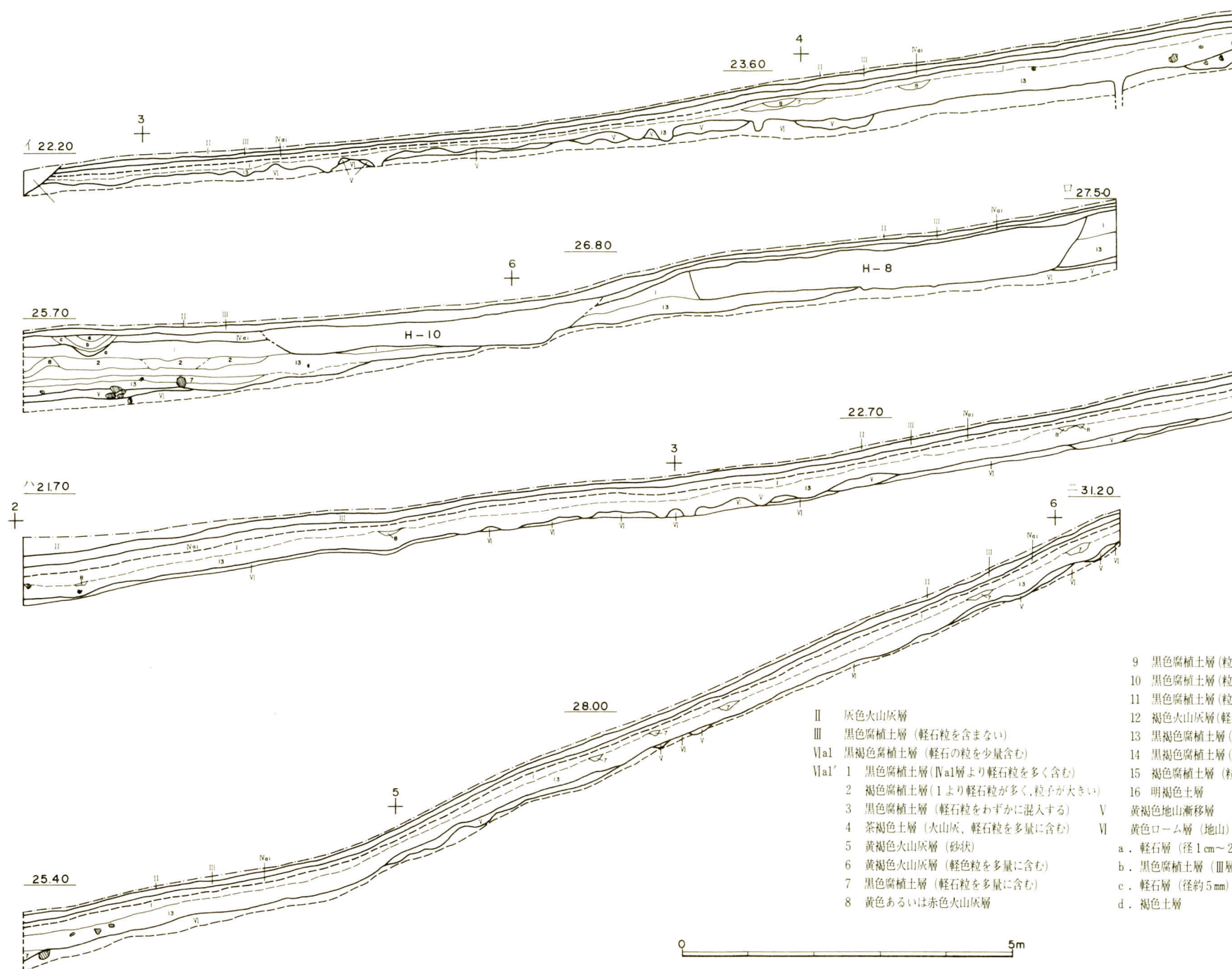


図2-3 メインベルトセクション図(1)

Ⅱ. 遺跡の環境と立地

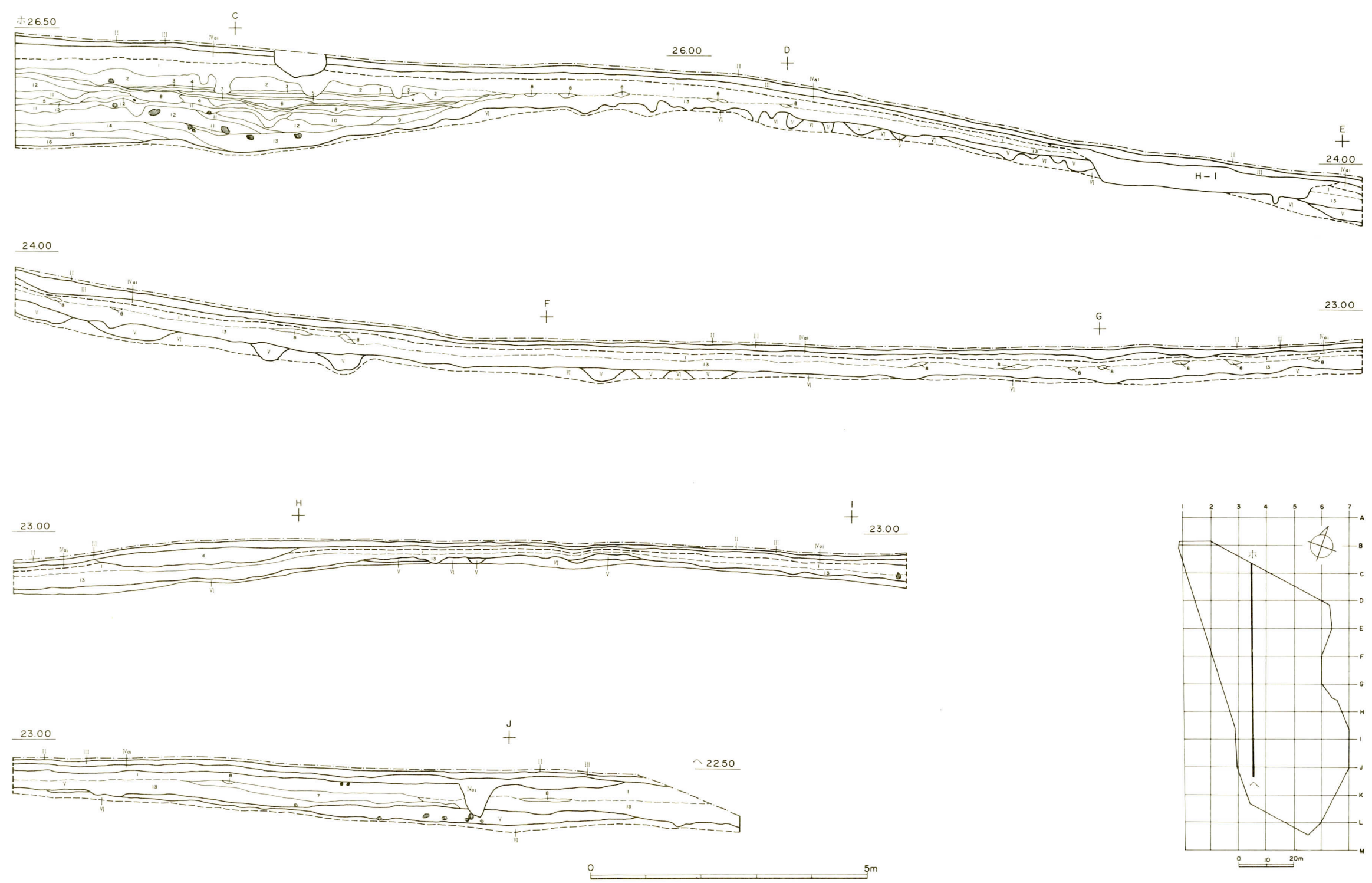


図2-4 メインベルトセクション図(2)

火山灰で径1～3cmほどの灰白色の軽石が含まれている。

腐植土はⅢ層とⅣ層に大別される。Ⅲ層は漆黒の粘質腐植土層で火山灰、軽石を含んでいない。Ⅰ層からⅢ層までは、無遺物層である。

Ⅳ層は上層の火山灰をわずかに混入するか、あるいはまったく混入しない黒褐色腐植土層（Ⅳa1層）と、これよりやや明るく、火山灰を比較的多く含む黒褐色腐植土層（Ⅳa1'層）に分けられる。この上層と下層の境は明瞭ではない。Ⅳa1'層は中間に赤色あるいはオレンジ色の火山灰をブロック状に混入しており、これを境にⅣa1'－1層とⅣa1'－13層に分れる。遺物はⅣa1層とⅣa1'－1層に包含しており、遺構はⅣa1'－1層中から掘りこまれている。

Ⅳa1'層は南側と北側の沢の部分では、1層と13層の間に種々の層が混入している。北側の沢では水流によって堆積したものと考えられる火山灰、腐植土が十数層に細分できる。また沢の下部には径10cm前後の軽石が多数みられる。南側の沢でも、Ⅳa1'層は5～6層に細分され、やはり軽石が多量に含まれている。

V層は灰黒褐色あるいは褐色の地山漸移層。Ⅵ層は地山の黄色ローム層である。Ⅳa1'の2層からⅥ層は無遺物層である。総体に層序は尾根の部分では単純でうすく、沢では厚く複雑である。

調査区南部のグリッドH－3付近では、Ⅲ層下部に水分をあまり含まないレンズ状の茶褐色土がみられる。これは住居跡H－13・14に関連するものとも考えられる。

グリッドH－4からI－4にかけて、長さ約8mの細長い溝状の落ちこみが検出された。（図版）地山漸移層上に確認されたもので、幅約20cm、深さ約1mである。埋土はⅣa1'－13層で、径数cm～20cmほどの地山上に多数みられるものと同様の軽石を混入している。遺物は出土していない。断面の形状は開口部から下へ徐々に狭くなっており、砂状の火山灰層に達している。この溝を境に西と東では地山漸移層、ローム層上面に段差があること、形状などから推察すると、人為的な遺構とはみとめられない。小規模な地殻の変動による地割れと考えられる。

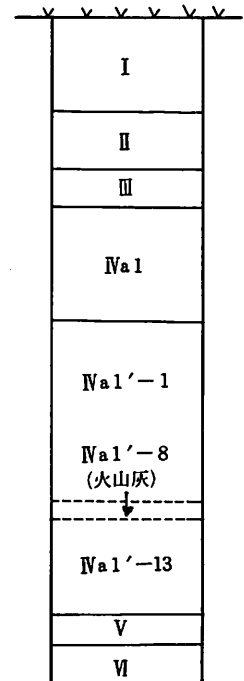


図2－5 基本層序

参考文献 登別町役場『登別町史』昭和42年

Ⅲ．遺構と遺構出土の遺物

今回の調査では、住居跡・石囲い炉・土壇・Tピット・焼土など各種の遺構が計63ヵ所発見された。これらの遺構の分布をみると、数例を除いて調査区中央の東から西へのびる尾根の南と北に大きく分かれている。

住居跡と推定される遺構は、北側に6ヵ所、南側に9ヵ所ある。この15ヵ所の住居跡は、調査区内の比較的傾斜の緩やかな部分に立地しているが、中央の尾根上にあるH-15は約30度の急斜面にあり、他のものと立地条件が異なっている。さらに、この尾根の先端部に重複して検出されたH-13とH-14は尾根の南よりにあるが、他の住居跡とは離れている。土壇・Tピット・焼土の分布にも、住居跡と同様の傾向がみられる。遺構がこのような分布を示す理由として、南側のグループと北側のものとの間の構築時期の差異が考えられる。しかし各遺構の掘りこみ面は、数例を除いて不明瞭であるがⅣa1'層上部にあると判断され、遺構にともなう遺物、さらに遺構の形状などにも、両グループの間に顕著な差異は認められなかった。

H-11をのぞく他の住居跡では、炉跡あるいは、火を使用したと考えられる焼土が検出されている。石囲い炉は、炉石の抜き跡によって確認したものを含めて9ヵ所の住居跡にある。石を使用していない炉跡をもつものは6ヵ所、炉跡に類似する焼土が検出されているものは3ヵ所である。このように炉の構造が異なる住居跡相互で、出土遺物に相違があるものか否か、検討を試みたが、明確な傾向は認められなかった。住居跡から出土した土器は、Ⅲ群b-3類に属する北筒式・ノダツⅡ式・煉瓦台式およびⅣ群a類に属する余市式などである。これらの各型式の土器の出土状態あるいは、型式毎の土器の出土の比率についても、住居跡間に大きな相異はみられない。石器は、Ⅰ群B-1類、Ⅰ群B-2類に分類される茎の幅が広いやり先が多く出土しており、つまみ付ナイフは少ない。また、磨面が4面以上ある砥石が6ヵ所の住居跡から出土している。

H-13と14、H-7と11はそれぞれ重複して検出されたものであるが、両者とも石囲い炉をもつ住居跡が、石を用いない炉をもつ住居跡を切って構築されている。しかし、この2例のみでは、炉の構造が新旧の関係を意味しているものとは考えがたい。

住居内にあるものと同様の石囲い炉で、遺構外に検出されたものが3ヵ所ある。このうち、S-1と3は壁・柱穴などが検出されなかったため、単独の石囲い炉としたが、検出された層位から推察して、住居の床面に設けられた可能性が強い。S-2のみが住居の外に作られた石囲い炉と考えられるが、この1例のみであり、さらに検討が必要である。

土壇は36ヵ所検出されている。中央の尾根の南側にもいくつかみられるが、大部分がこの尾根の下から調査区北西部にかけてのゆるやかな斜面に分布している。これらの土壇のなかには、墓壇として掘りこまれたものが、相当数あるものと考えられる。人骨やベンガラなどは検出されていないが、形状、埋土の状態あるいは、遺物の出土状態などから推定すると、P-7・8・

14・33などは墓塚の可能性があろう。これ以外にも、形状のみを考えると、墓塚として掘られたとみてよいものがいくつかあるが、埋土が自然堆積によるものか、人為的なものであるかの判断が困難である。出土遺物も皆無か、あるいは出土していても、接合できない土器片のみであるために、どのような目的でつくられたか推察できないものが多い。

土壌としたもののなかには、P-2・9・21のように、柱穴状のピットが検出され、炉跡に類似する焼土が検出されるなど住居跡としての性格をもつものがある。しかし、これらのピット・焼土などは、他の住居跡に比べて、不明瞭なものが多い。

Tピットは溝状のものが2つある。Tピットは短軸方向に列をなして分布することが知られている。しかし、TP-1と2は調査区の南北で約60mの距離をおいて検出されており、この間には確認されていない。したがって、調査区内において、この両Tピットが列をなしているとはみられない。TP-2はIVa1'層中のオレンジ色の火山灰除去後に検出されたもので、この火山灰が降下する以前に掘りこまれたものであることは、ほぼ確実である。この火山灰の起源は不明であり、またこの遺構中から遺物がまったく出土していないために、作られた時期はわからないが、他の遺構より古いものであることは間違いないものと考えられる。TP-1は、この付近の火山灰の分布が顕著でないために、掘りこみ面は明瞭ではないが、IVa1'層下部と考えられる。TP-2と同じ時期につくられた可能性があろう。

焼土は7ヵ所検出された。このうち、F-1と6では土器をとまっており、それぞれ、ほぼ完形に復元された。F-1の土器はⅢ群b-3類の北筒式に属するもので、F-6のものは、Ⅳ群a類の手稲式に相当するものである。それぞれ、焼土に関連して使用された土器であろう。

F-7はF-6の近くに同レベルに検出された焼土で、これと同時期のものと思われる。これ以外の5ヵ所の焼土は、いずれも検出した層位から推察して、F-1と同時期と考えられる。

IVa1'層上部でまとまって出土した9本の石斧は、出土状態から推測すると、袋か、かごのようなものに入っていたものと考えられる。

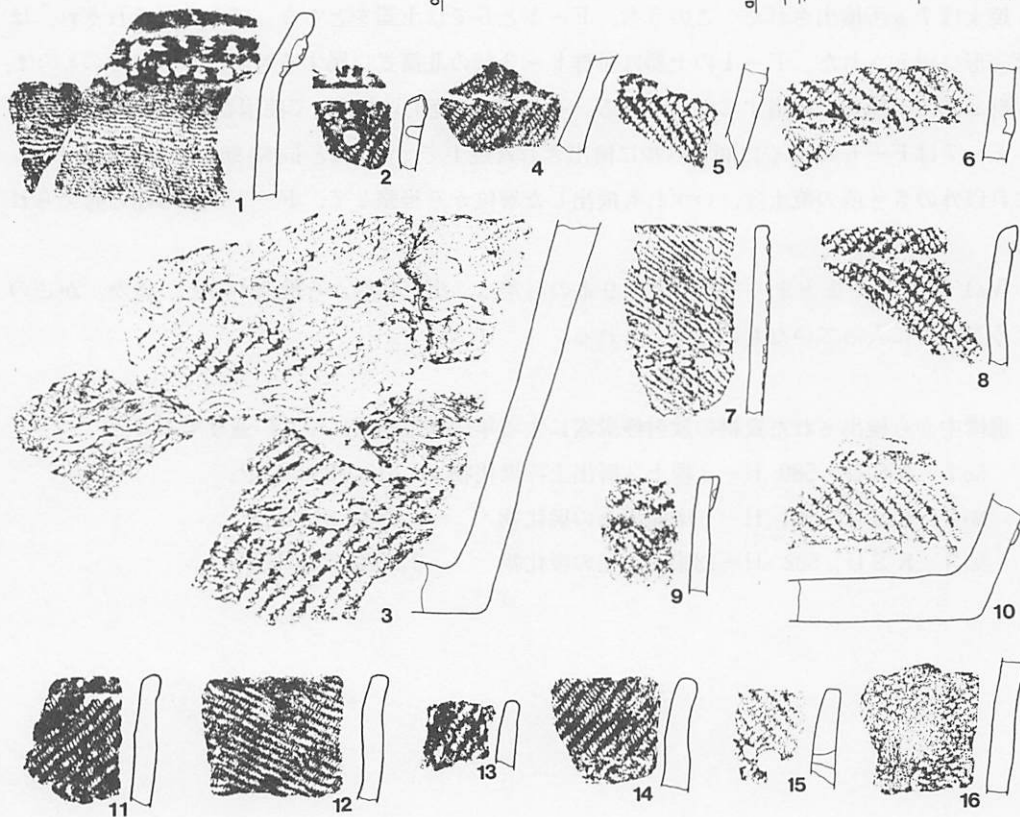
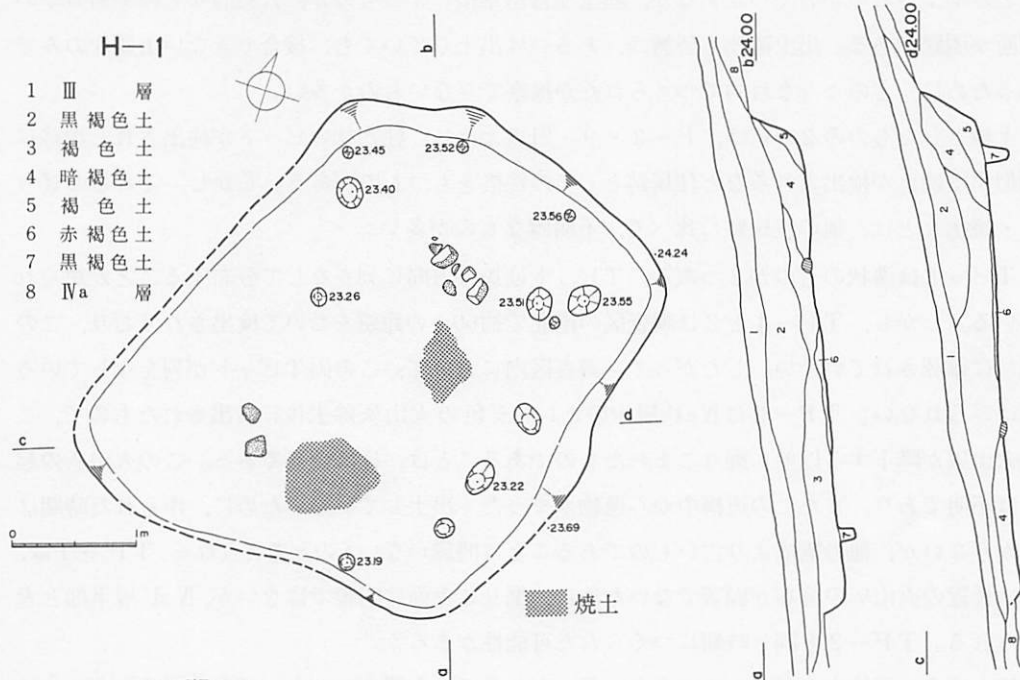
遺構中から検出された資料の放射性炭素による年代測定結果はつぎの通りである。

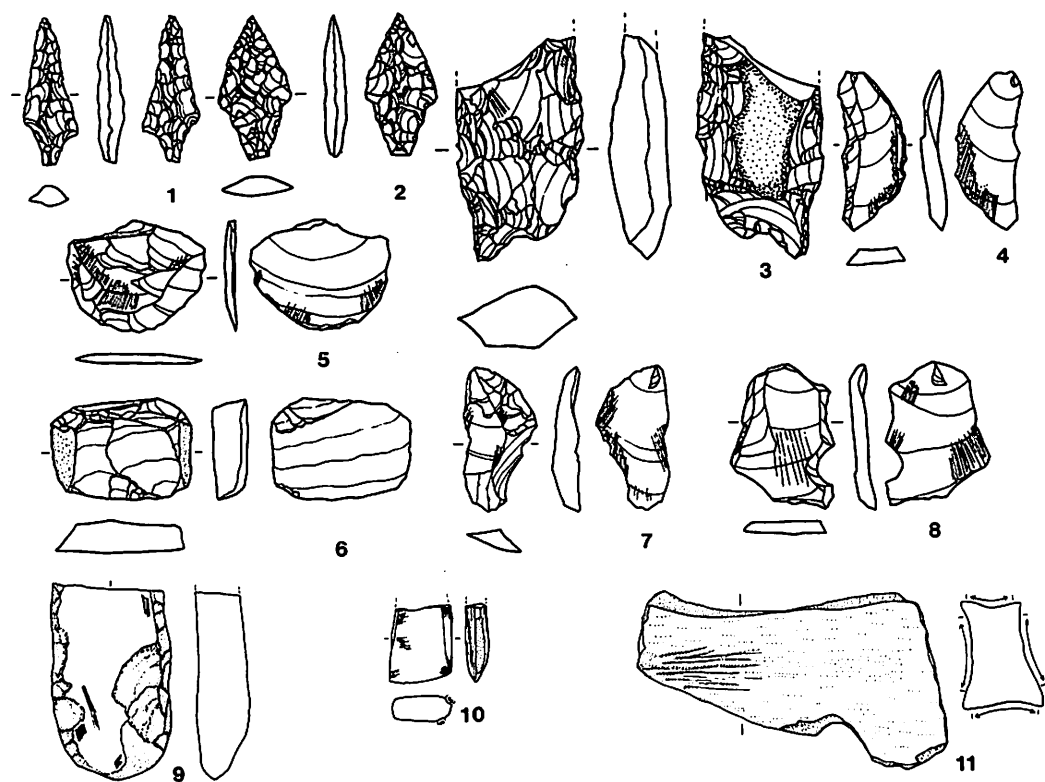
No.1	K S U. 580	H-3埋土3層出土の炭化物	3,810±230 B. P.
No.2	K S U. 581	H-6床面出土の炭化物	3,850±310 B. P.
No.3	K S U. 582	H-13床面出土の炭化物	2,950±520 B. P.

1. 住居跡

H-1

- 1 Ⅲ 層
- 2 黒褐色土
- 3 褐色土
- 4 暗褐色土
- 5 褐色土
- 6 赤褐色土
- 7 黒褐色土
- 8 IVa 層





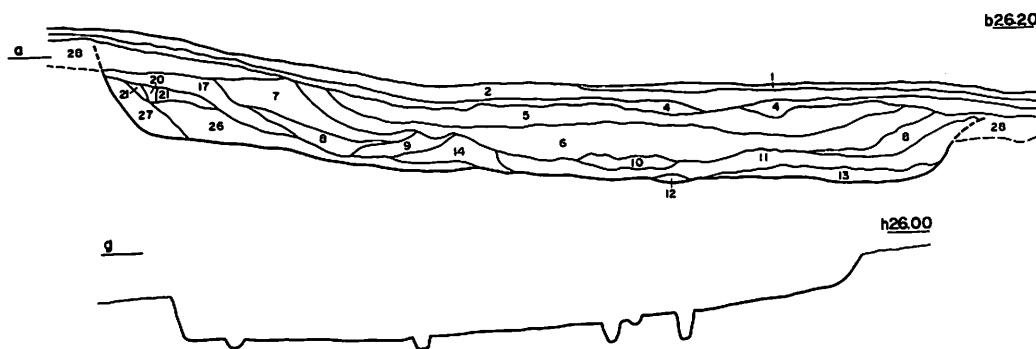
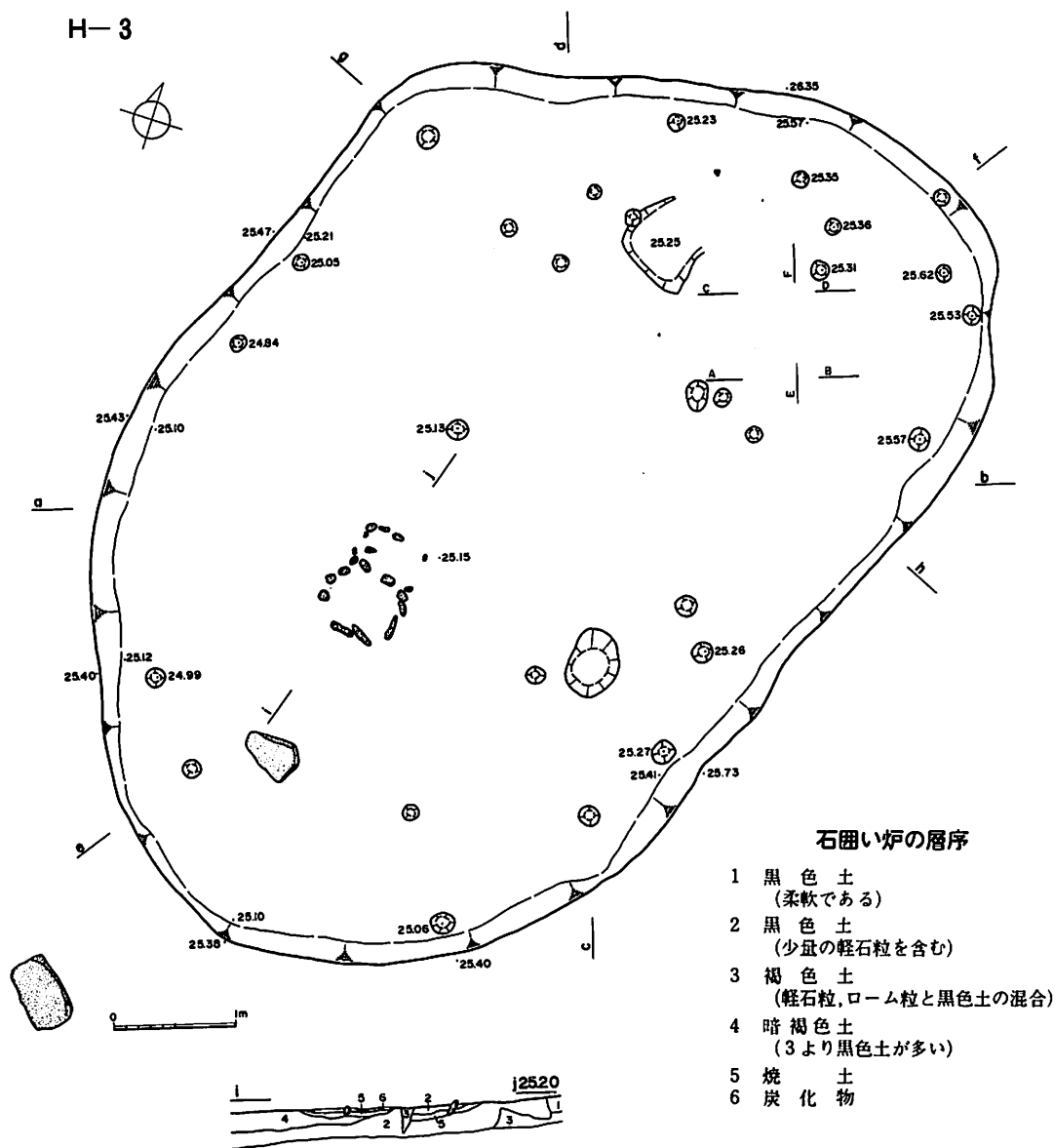
調査区北部の尾根から、中央の尾根へかけての土層を観察するために掘り下げたトレンチのセクションによって確認された。西半部はすでにⅣ層中位まで掘りこんでいたため、5mグリッドに沿ったベルト部以外、壁の上半は検出できなかった。掘りこみ面はセクションの観察によるとⅣa'層上部である。

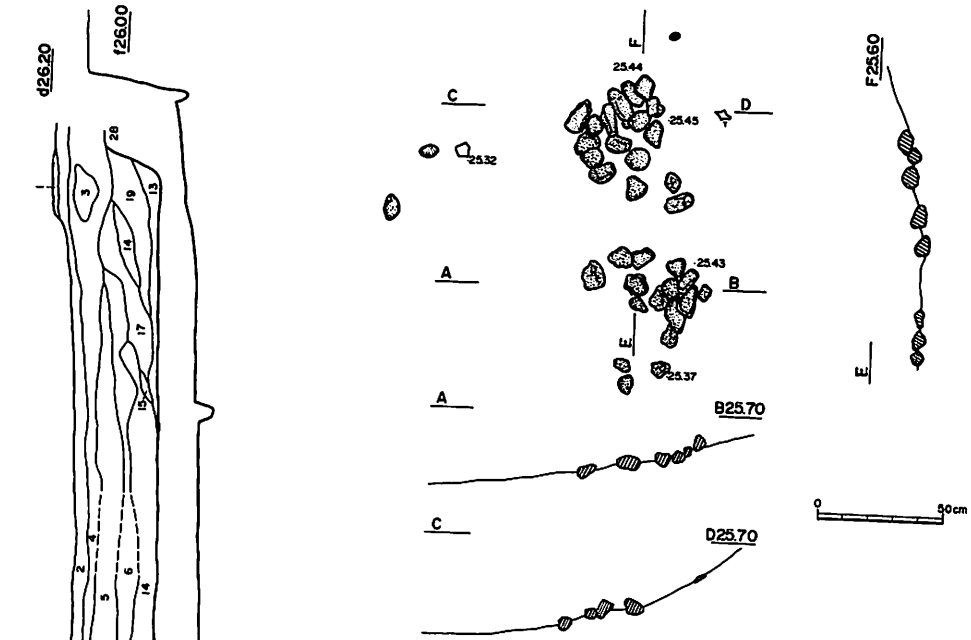
平面形はほぼ長方形であるが、南西方向では歪んでいる。床面は平坦であるが、斜面に沿って南西方向に傾いている。北半部ではローム層中まで掘りこまれているが、南半部はⅣa'層中に床面がつくられている。このため、南・西壁を検出することは困難であった。床面には大小11個のピットが検出された。このうち4個は南東壁ぎわに並んでおり柱穴と考えられる。小型のピットは南の壁ぎわにある。これは支柱の可能性があろう。石囲い炉は検出されなかったが、床面の中央、および南側に焼土がある。

本住居跡の床面からは、Ⅲ群b-3類・Ⅳ群a類の土器片、および石鏃・スクレイパー・砥石などが出土した。また図示していないが台石が1点出土している。埋土中からは、この他にⅣ群b類の土器片・やり先・剝片などが出土している。10は擦り切り手法によって作られた石斧で、右側縁に擦り切り痕を残している。

Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

H-3



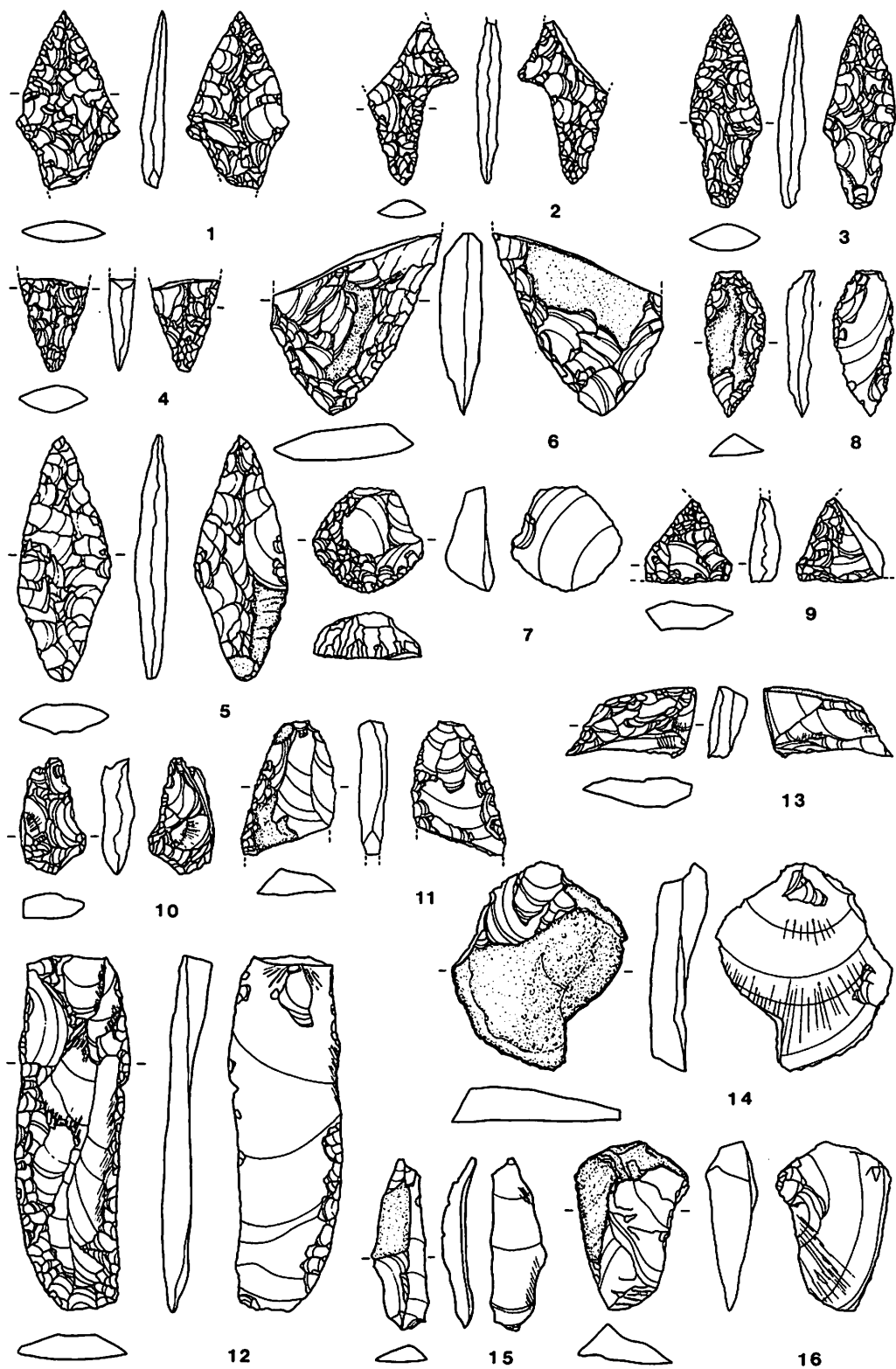


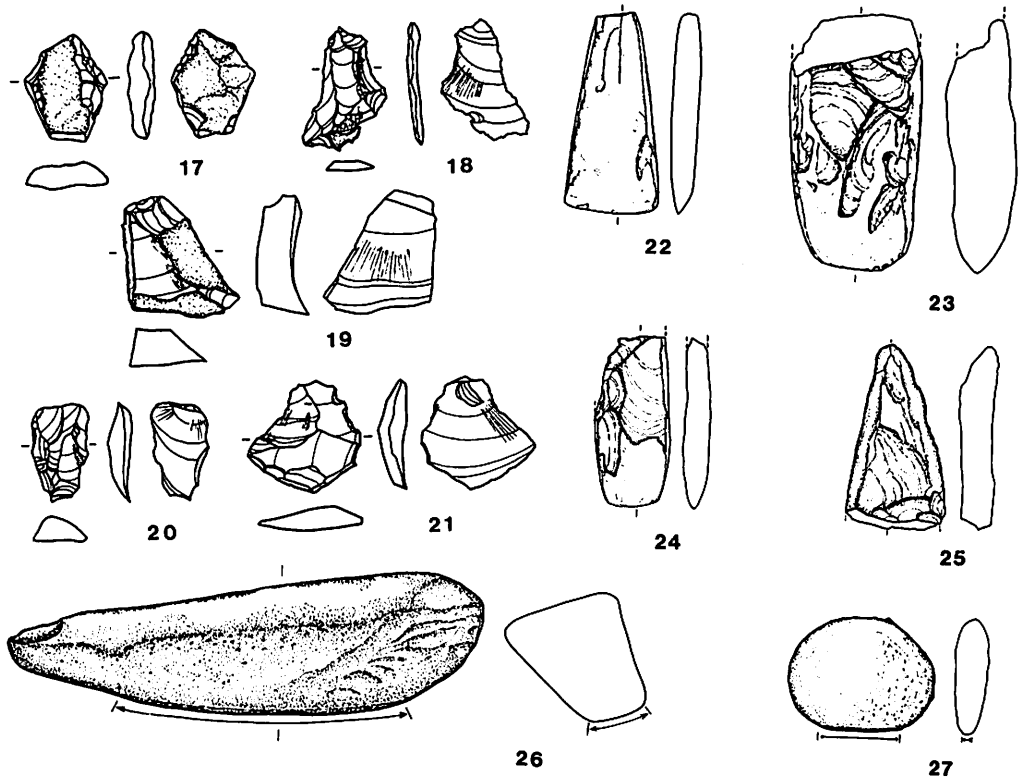
住居の層序

- | | | | | | |
|----|------------------------|----|-----------------------|----|---------|
| 1 | Ⅱ 層 | 14 | 黄褐色土
(黄色軽石粒を多量に含む) | 20 | 褐色土 |
| 2 | Ⅲ 層 | 15 | 灰ブロック | 21 | 黄褐色土 |
| 3 | 軽石ブロック | 16 | 暗褐色土 | 22 | 暗褐色土 |
| 4 | Ⅳa 1 層 | 17 | 暗褐色土
(軽石粒を少量含む) | 23 | 黄褐色土 |
| 5 | 黄褐色土
(黄色軽石を多量に含む) | 18 | 黄褐色土
(暗褐色土+黄褐色軽石) | 24 | 黒色土 |
| 6 | 黒色土 | 19 | 暗黄褐色土 | 25 | 暗褐色土 |
| 7 | 黄褐色土
(軽石粒を含む) | | | 26 | 黒褐色土 |
| 8 | 黄褐色土
(軽石粒を多量に含む) | | | 27 | 暗褐色土 |
| 9 | 黄褐色土
(大形黄色軽石を多量に含む) | | | 28 | Ⅳa 1' 層 |
| 10 | 焼土 | | | | |
| 11 | 暗褐色土
(軽石粒を含む) | | | | |
| 12 | 焼土 | | | | |
| 13 | 黒褐色土
(軽石粒を少量含む) | | | | |



Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物





調査区南東の斜面にある。Ⅲ層上面で浅い皿状の窪みが検出されたため、トレンチ調査を行ったところⅣa1'層上部から掘り込まれた遺構であることが確認された。周囲では、H-4・8・10・18が、この住居跡を囲む位置に検出されている。埋土中には、暗褐色土層の間に、軽石混りの黄褐色土が2層堆積しており、周辺の住居構築の際の排土が流れ込んだものかと考えたが、確認できなかった。

平面形は長円形である。床は斜面の下部にあたる西側ではローム層まで掘り込まれておらず、全体に斜面にそって傾斜している。壁はほぼ垂直に立ち上り、内側には柱穴状の小ピットがめぐっている。

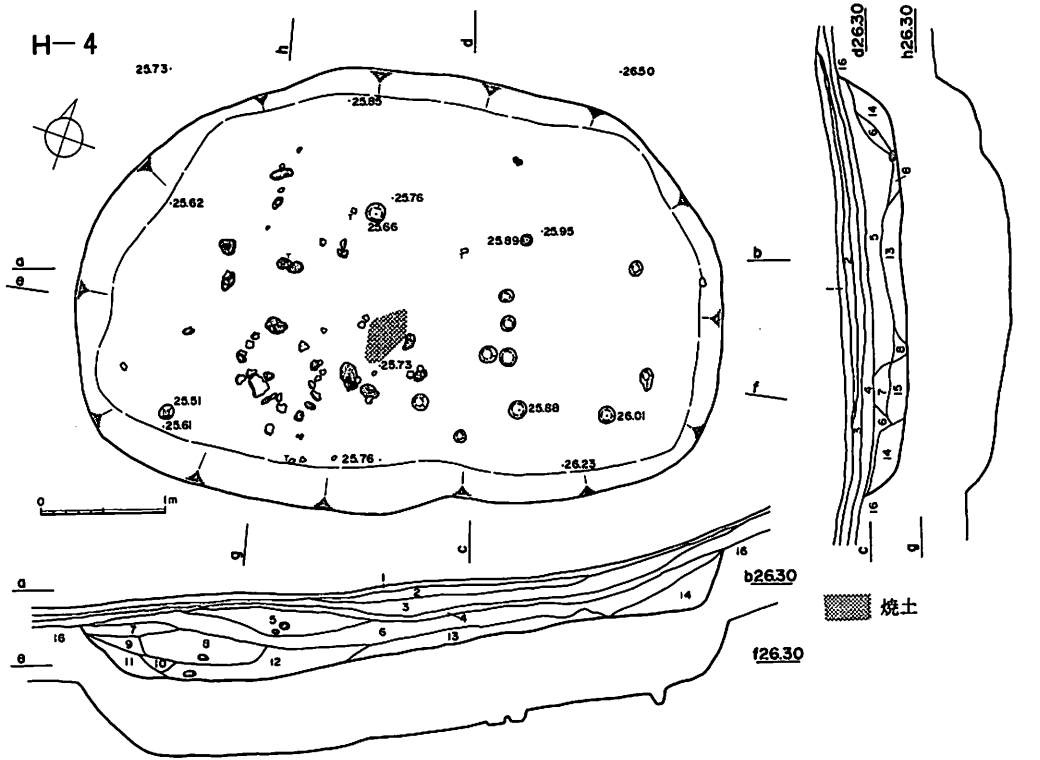
炉跡は長軸方向南西寄りの部分で検出された。この炉は石で囲まれており2つの部分に区画されている。焼土のレベルから推察すると、ほぼ同時に使用されていたものと思われるが、北東側のものが、先につくられた可能性がある。

炉の南西側の床には板状礫があり、住居跡の外側では炉と板状礫の延長上に台石が裏返しになって検出された。しかしこの台石が住居跡と関係するものかどうか不明である。

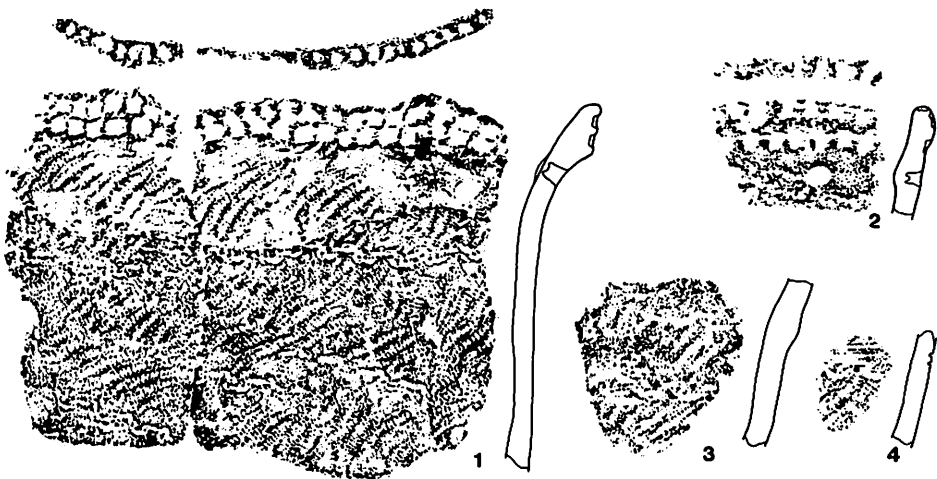
遺物は、床面および埋土から、Ⅲ群b-1類の土器が出土している。

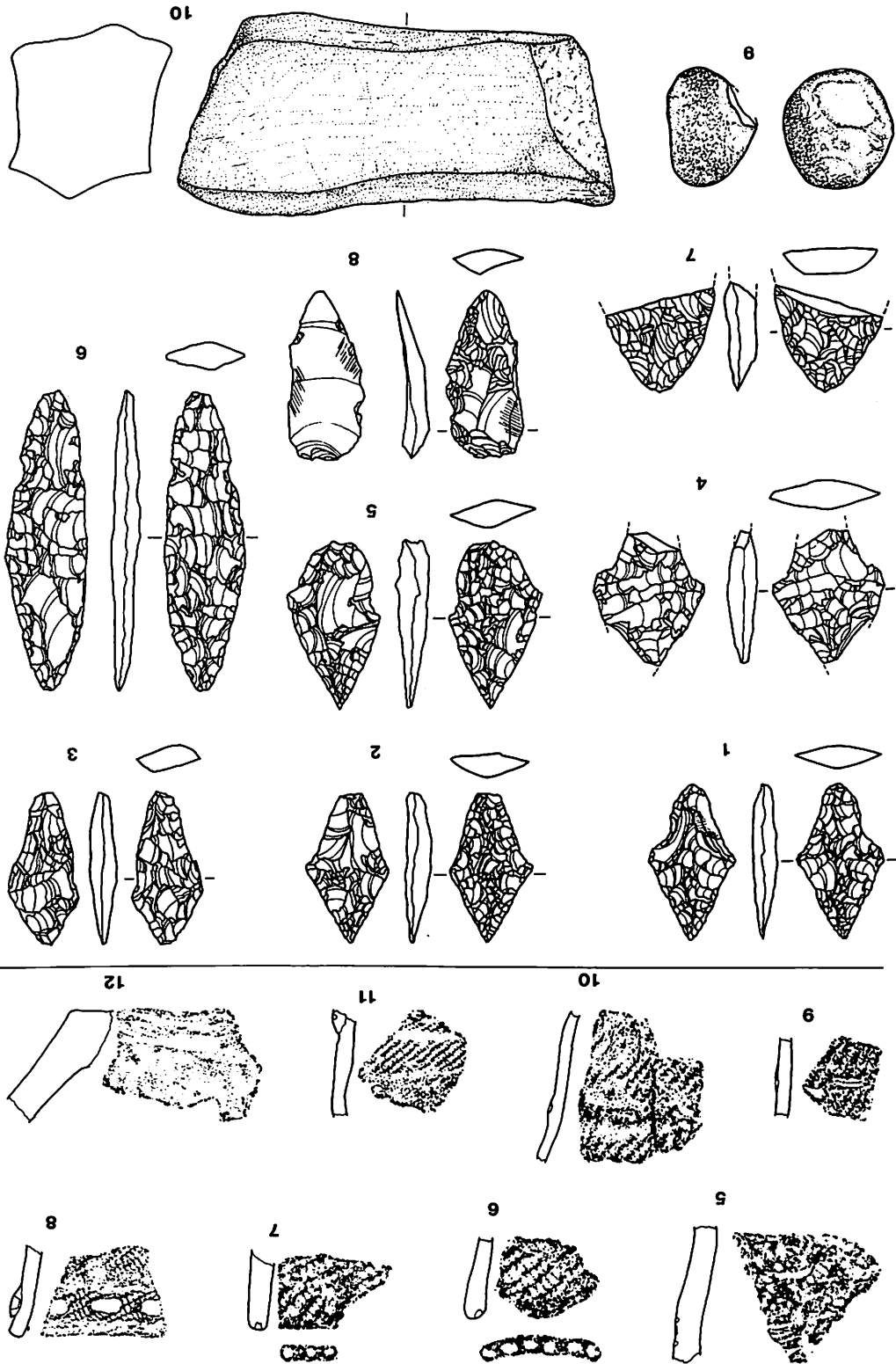
なお、東側壁ぎわの埋土中から、こぶし大の礫がまとまって出土し、また中央部分の床面から約15cm上の埋土中では焼土が検出された。このことから、埋没途中の住居跡の窪みを何らかの目的で利用したことがうかがえる。

Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物



- | | | | |
|-----------------------|--------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 1 火山灰+黒色土 | 7 灰褐色土
(6+微少の黒色土) | 11 暗茶褐色土
(微量の火山灰を含む) | 15 黄色土ブロック
(1~2cm大の軽石) |
| 2 火山灰(赤銅色) | 8 暗茶褐色土
(6+火山灰) | 12 暗茶褐色土
(10より火山灰が少ない) | 16 IVa1' 層 |
| 3 III 層 | 9 暗茶褐色土
(8より火山灰が少ない) | 13 暗茶褐色土
(黄色土塊を含む) | |
| 4 IVa1 層 | 10 暗茶褐色土
(6より火山灰が少ない) | 14 暗灰褐色土
(壁の剥落土) | |
| 5 茶褐色土
(多量の軽石を含む) | | | |
| 6 暗茶褐色土
(IVa1+黒色土) | | | |





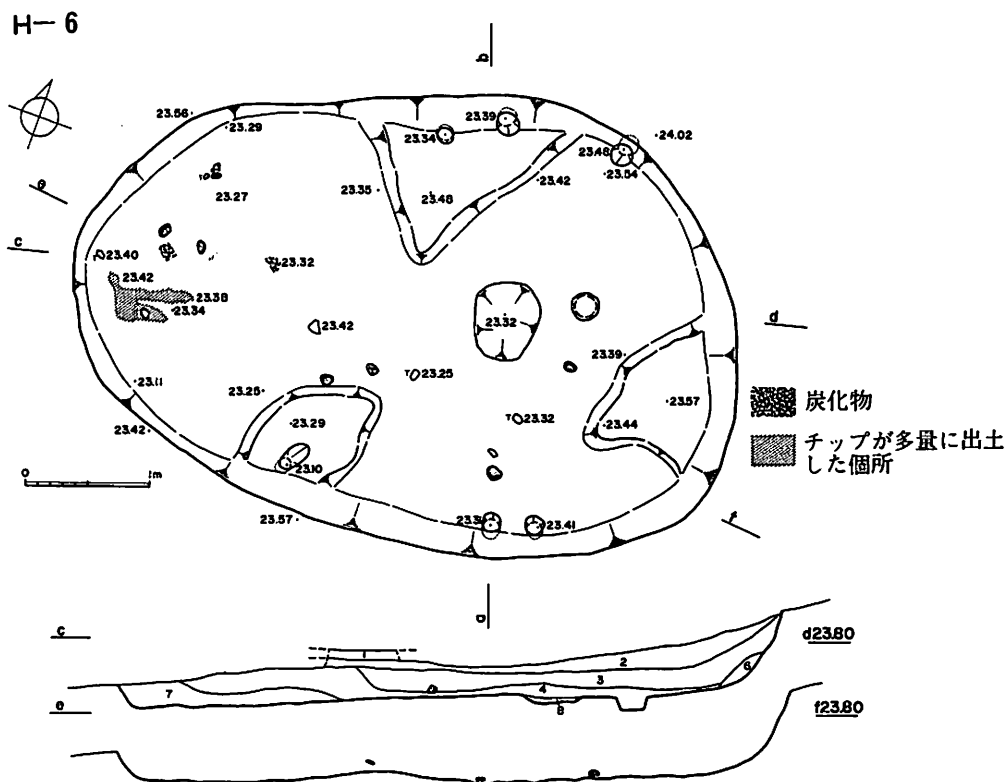
Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

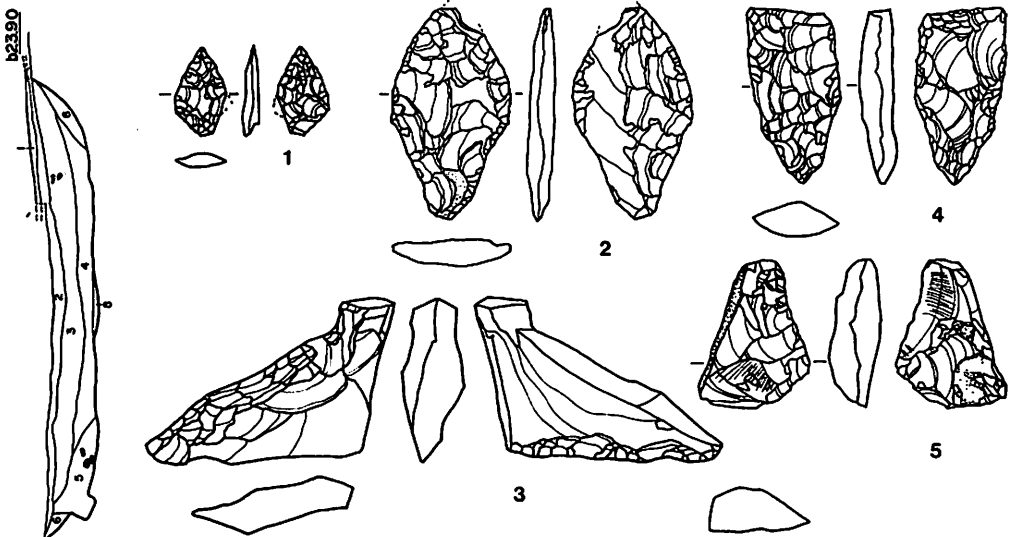
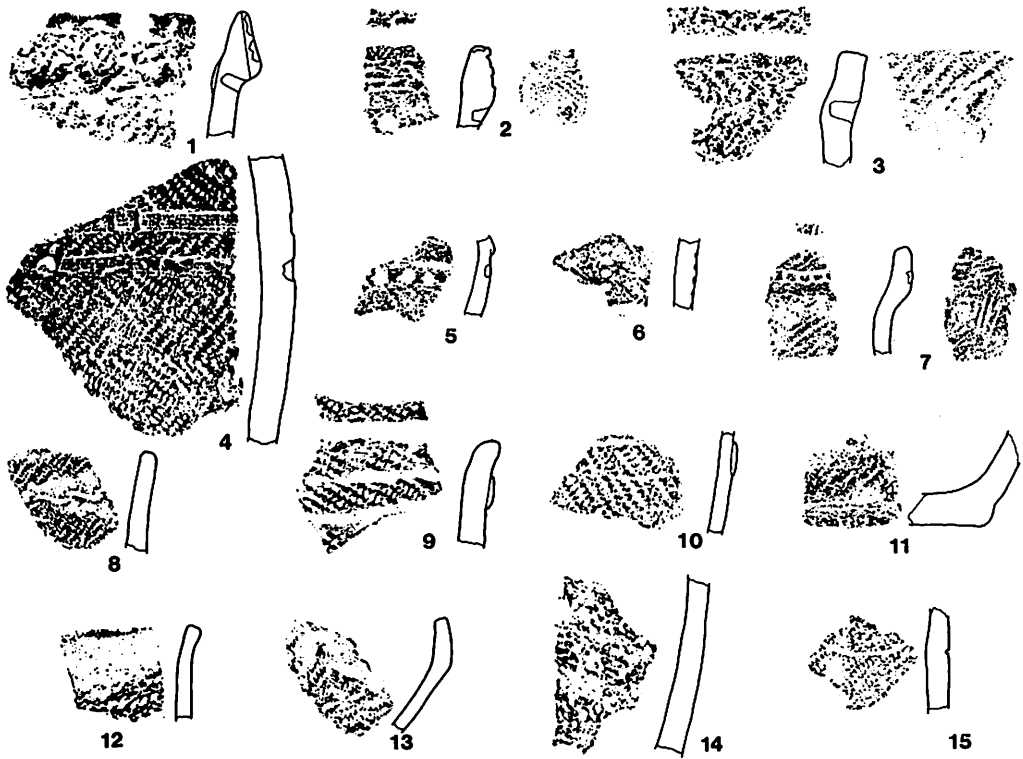
発掘区南部の傾斜地に立地している。北に隣接してH-3がある。

この住居跡はH-3を調査するために掘りこんだトレンチによって確認された。掘りこみ面は、植物の根などの攪乱のために明確ではないが、IVa1'層中にあると思われる。埋土の層序は自然堆積であり、遺構の西側は、斜面からの土砂の流入のためか、薄い層が多く堆積している。

長軸方向が、ほぼ東西をさす長円形プランである。床面は東から西へ傾斜しているが、遺物が埋土の8・12・13層中から多く出土したことから、これの下面が生活面であったと考えられる。遺構のほぼ中央に検出された焼土も、同じレベルにある。この焼土は薄く広がっており、掘りこみはみられなかった。壁は全体に緩やかに立ち上がっている。しかし東側の斜面上部では明瞭だが、H-3に近い北西の壁は不明瞭であった。北東の壁の一部はP-5を切っている。柱穴と思われる小さなピットは計13個確認された。遺構の西側は、床面が地山に掘りこまれていなかったこともあり、検出が困難であった。配列には規則性がみられない。

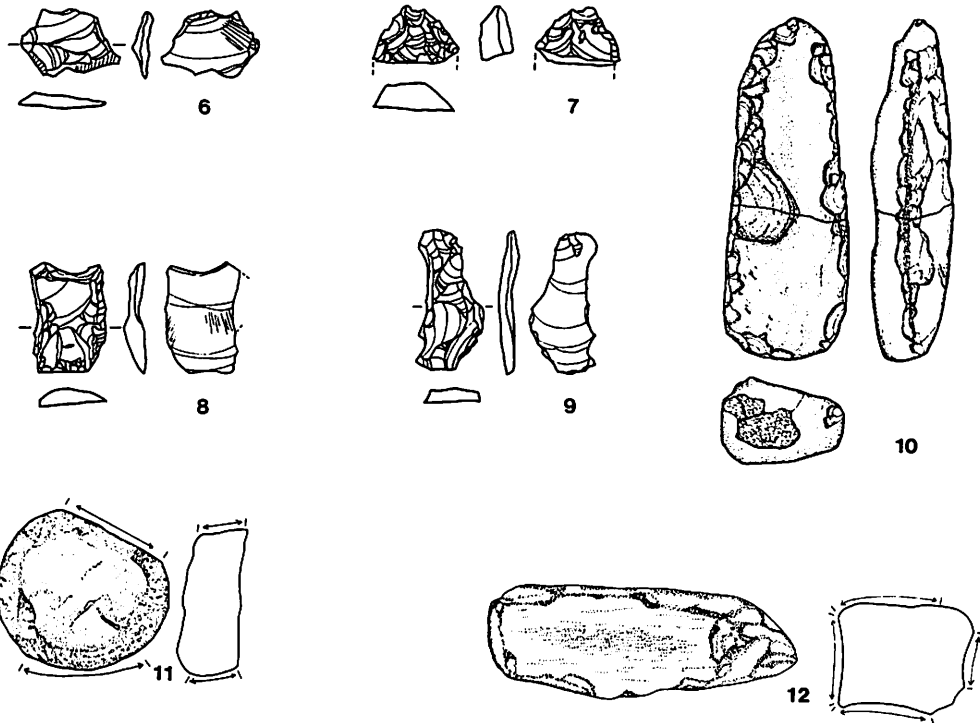
遺物は、焼土の西側に多く出土している。1・2などのⅢ群b-3類に属する明らかに北筒式とわかる土器片が、焼土の南西方向で同じレベルに出土した。埋土からは8~11などの煉瓦台式と思われる資料が出土している。やり先はI B-1に属するものが5点出土している。茎の幅が広いものが多い。9のたたき石と10の砥石は、焼土の北西で出土している。





- | | | |
|-----------------------|------------------------|-----------------|
| 1 黒色土 | 5 暗茶褐色土 | 8 褐色土
(焼土混入) |
| 2 IVa1 層 | 6 暗黄色土
(壁の剝落土) | |
| 3 暗茶褐色土 | 7 暗茶褐色土
(5よりかたくしまる) | |
| 4 暗茶褐色土
(多量の軽石を含む) | | |

Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物



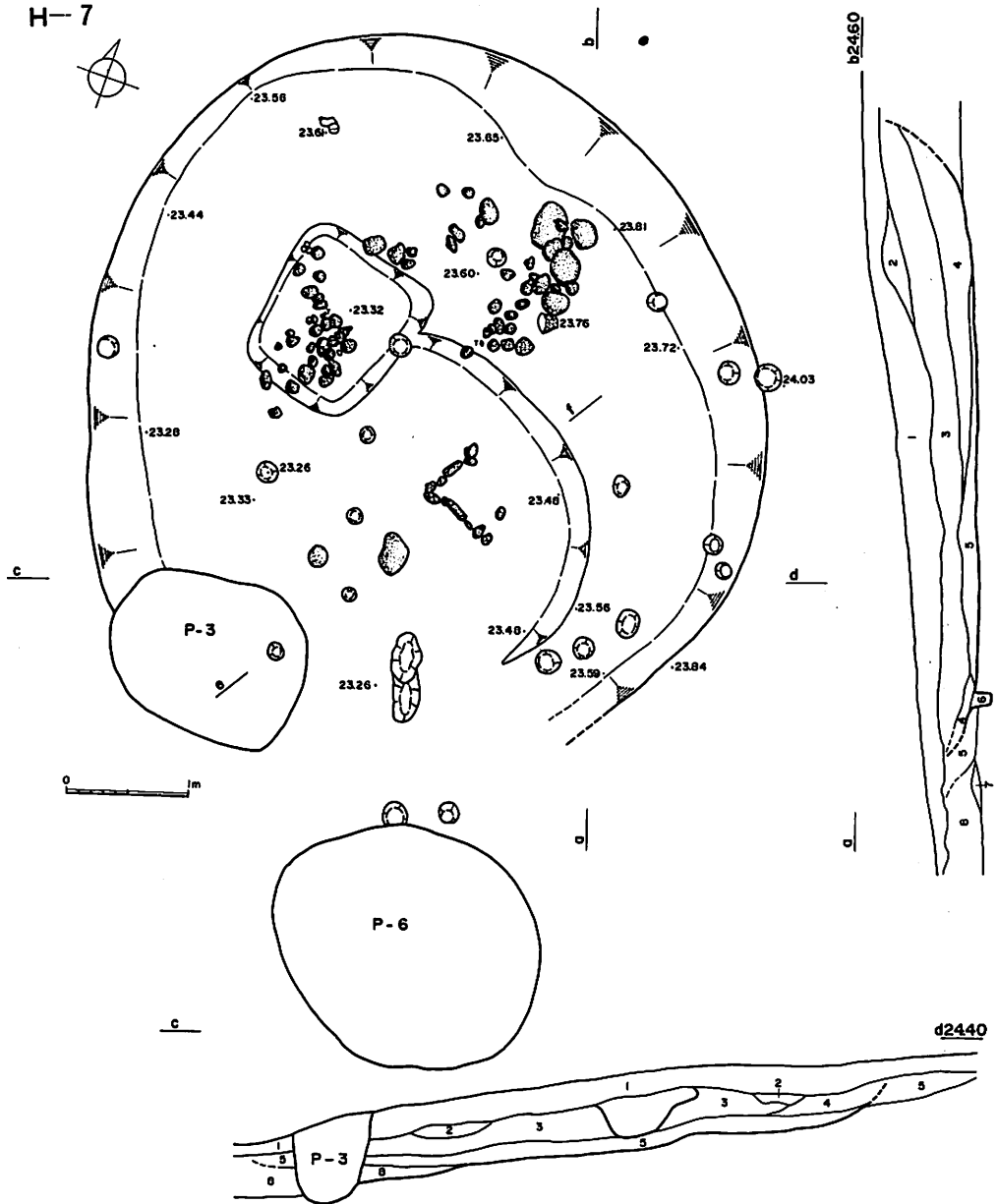
調査区南端のゆるやかな斜面にある。Ⅳa1'層上部にわずかの窪みがみられたため、住居跡があることを想定し、東西方向のトレンチ調査によって確認した。平面形は楕円、床面はローム層中につくられている。西壁は、Ⅳa1'層中にあるために不明瞭であるが、サブトレンチによって確認した。中央東よりに炉跡がある。床面を浅く掘りこんだもので、焼土がうすく堆積している。

壁は斜めに立ち上がっており、この部分に柱穴と考えられるピットが6個検出された。この柱穴は断面をみると住居の中央に向って傾斜している。炉跡の東側に検出されたピットでは断面が垂直である。

約2,000点の遺物が出土しているが、床面にあったものはⅢ群b-3類の土器片3点と黒曜石フレイク・チップ123点である。このフレイク・チップは西壁付近に出土したもので、完成した石器も含まれていることから推察すると、本住居跡内で石器製作が行なわれていたものと考えられる。

埋土中から出土した遺物には、Ⅲ群b-3類・Ⅳ群a類に相当する土器片と鏃・やり先・スクレイパー・石斧・たたき石・砥石などの各種の石器がある。

壁ぎわにみられる柱穴、あるいは石で囲われていない炉跡など、本住居跡は他のものと異なる点が多い。



住居の層序

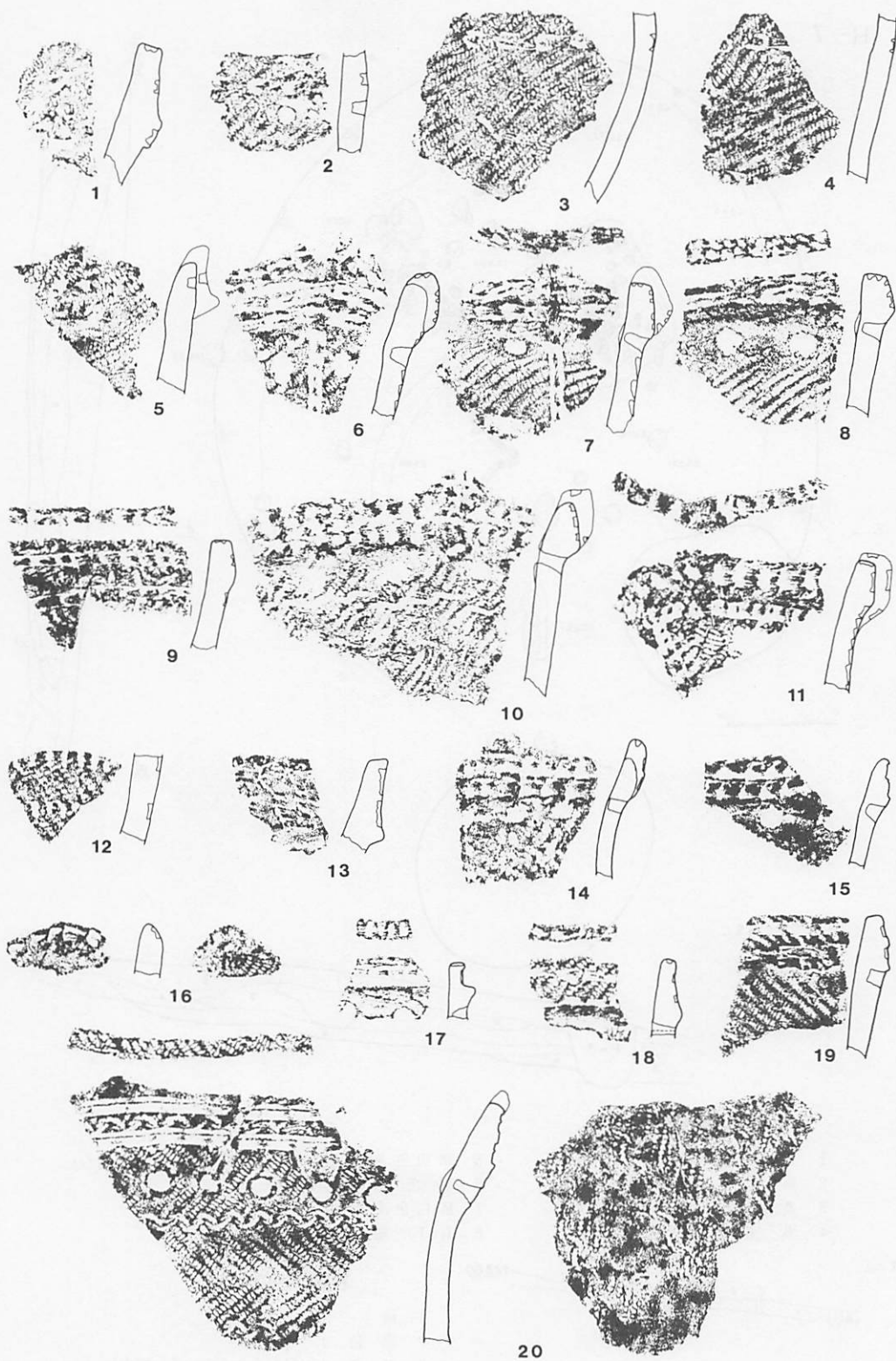
- | | | | |
|---|-----------------|---|--------------------------|
| 1 | Ⅳa1' 層 (上部) | 5 | 暗褐色土 (黒色土にロームブロックと軽石を含む) |
| 2 | 黒色土 (粒子が細かい) | 6 | 黒色土 (炭化物を含む) |
| 3 | 茶褐色土 (軽石の混入が多い) | 7 | 灰白色土 (火山灰と軽石) |
| 4 | 黒色土 (軽石粒を含む) | 8 | Ⅳa1' 層 (下部) |

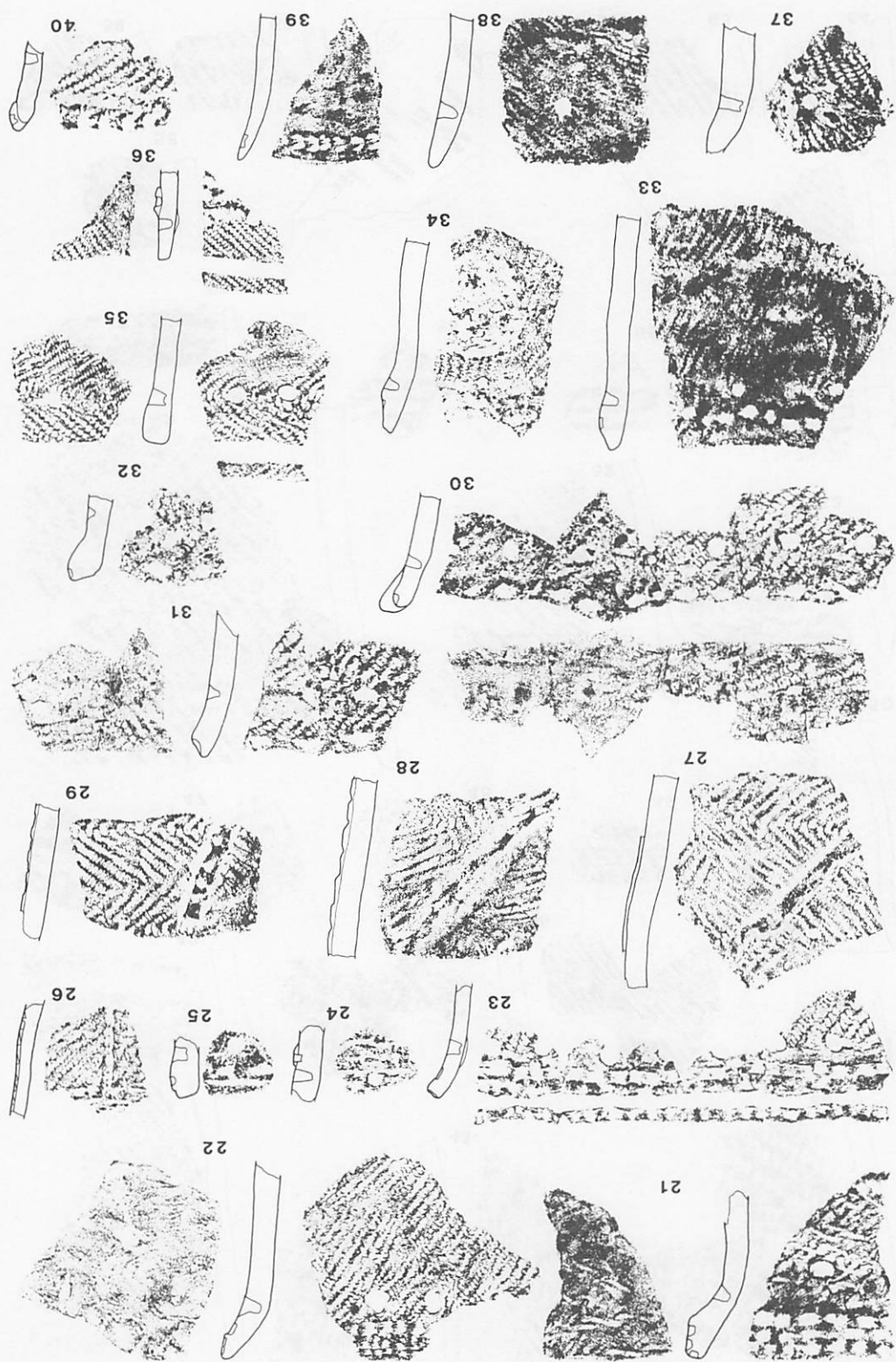


石囲い炉の層序

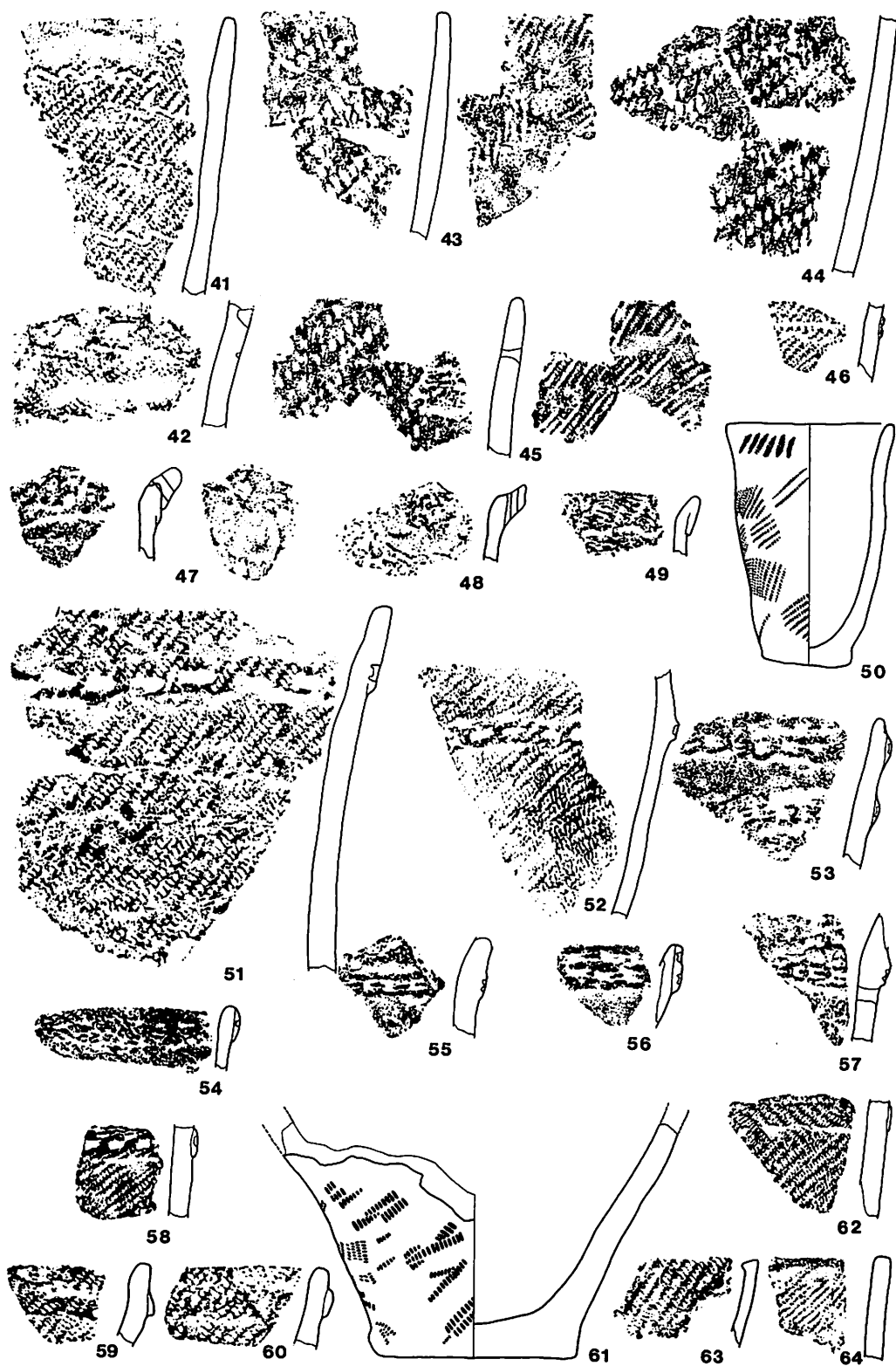
- | | |
|---|--------------------|
| 1 | 焼土 |
| 2 | 黒色土 |
| 3 | 黄色土 (軽石を含んでいる, 地山) |

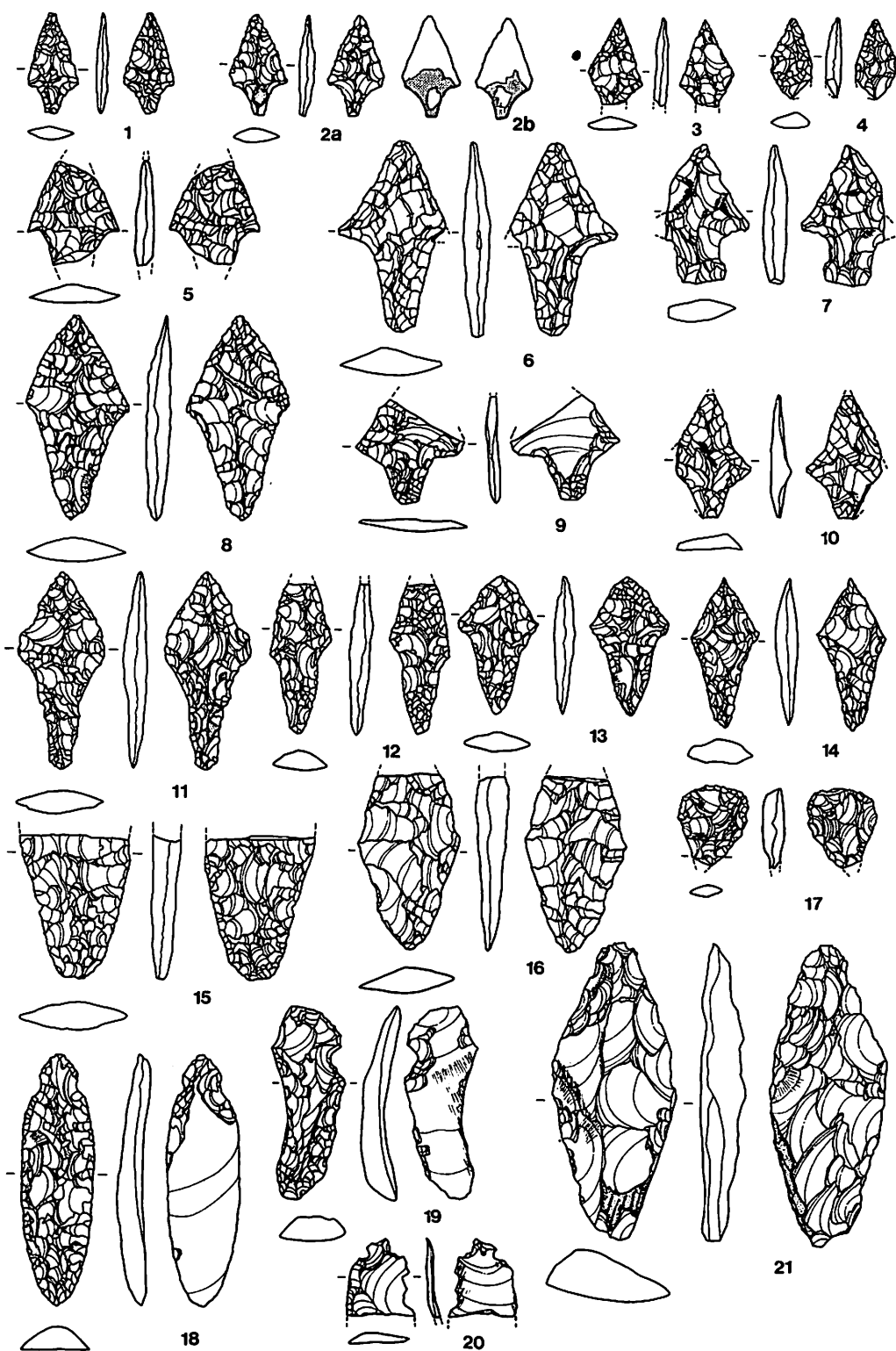
Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物



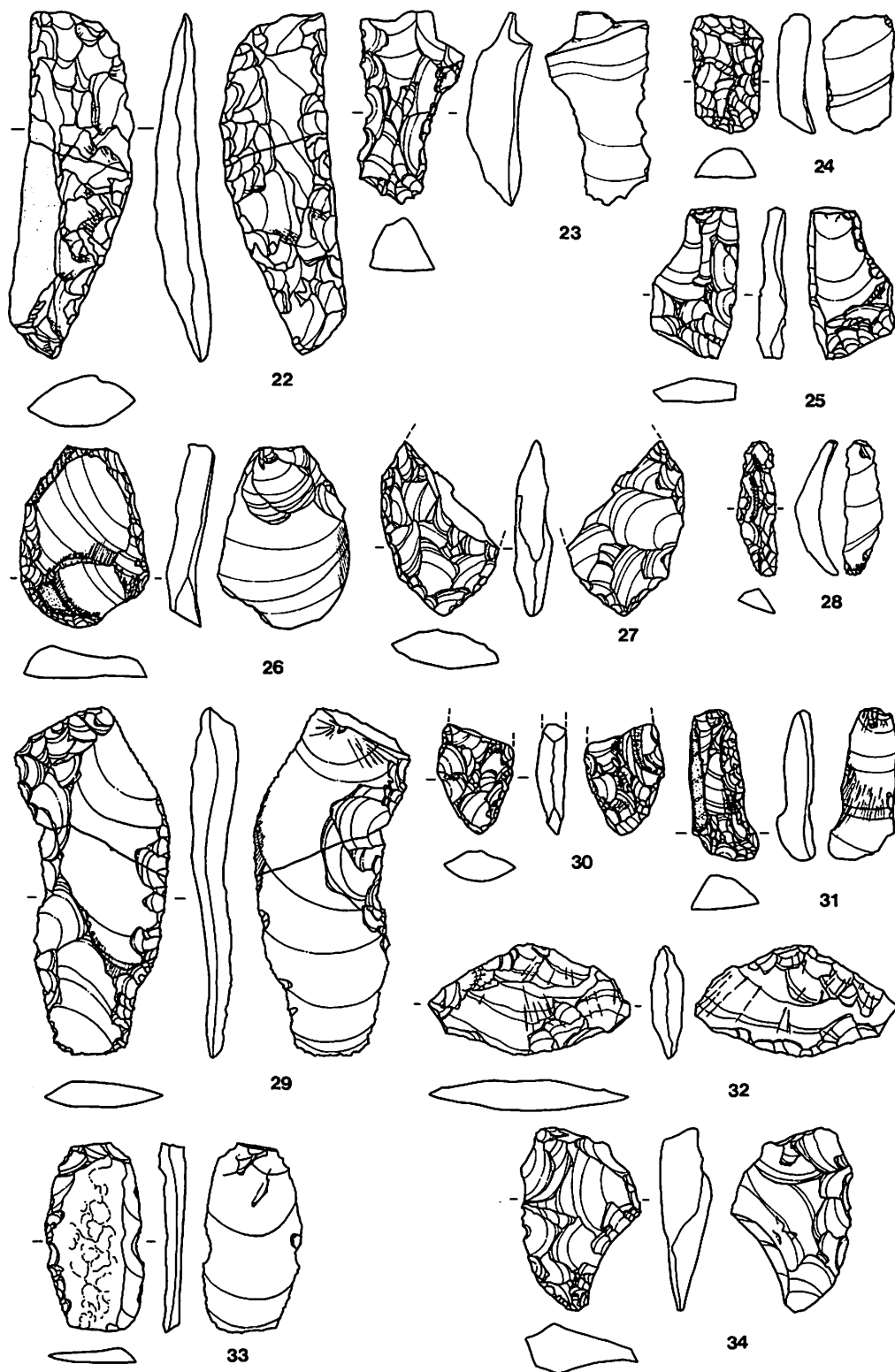


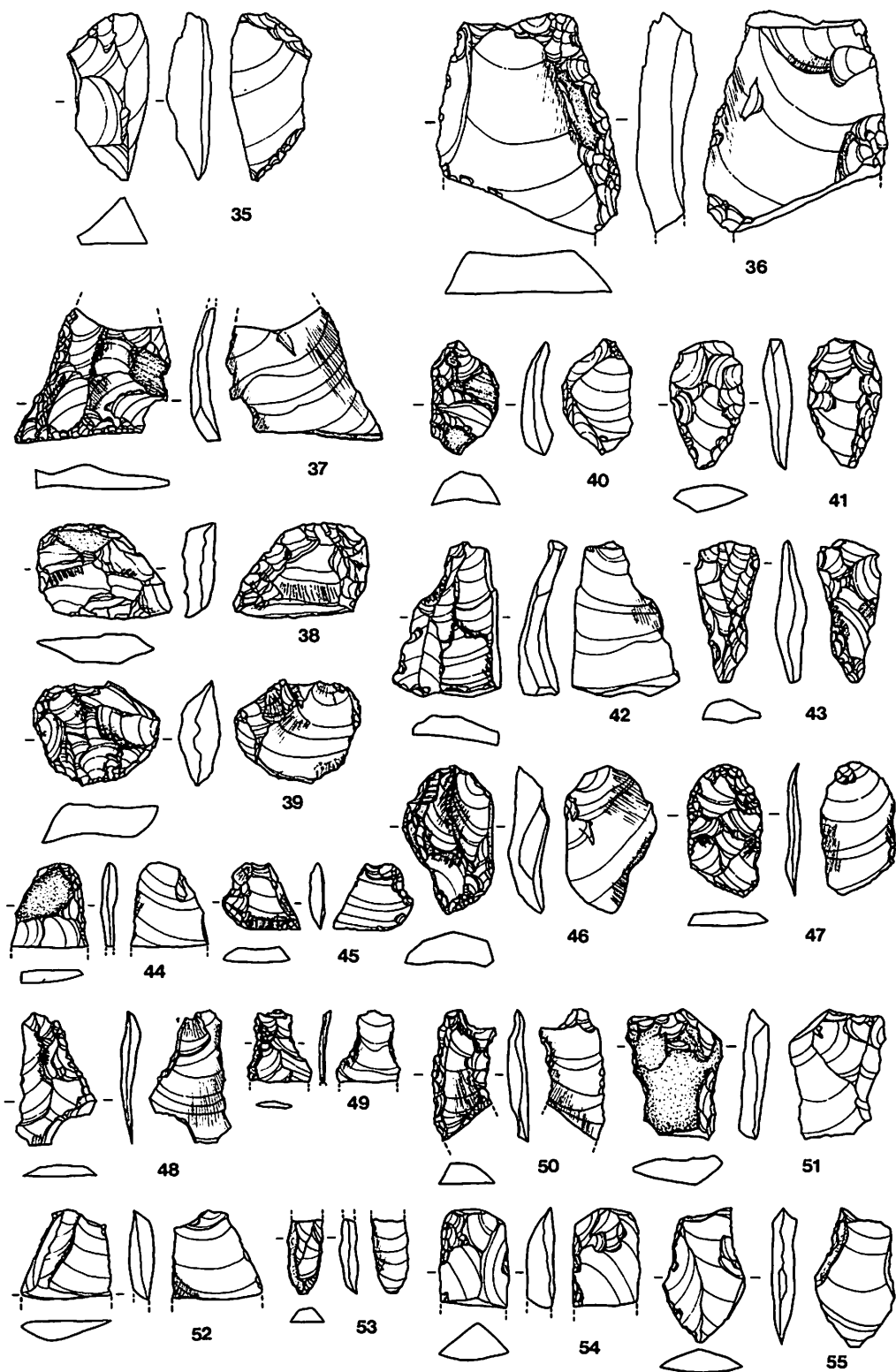
Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物



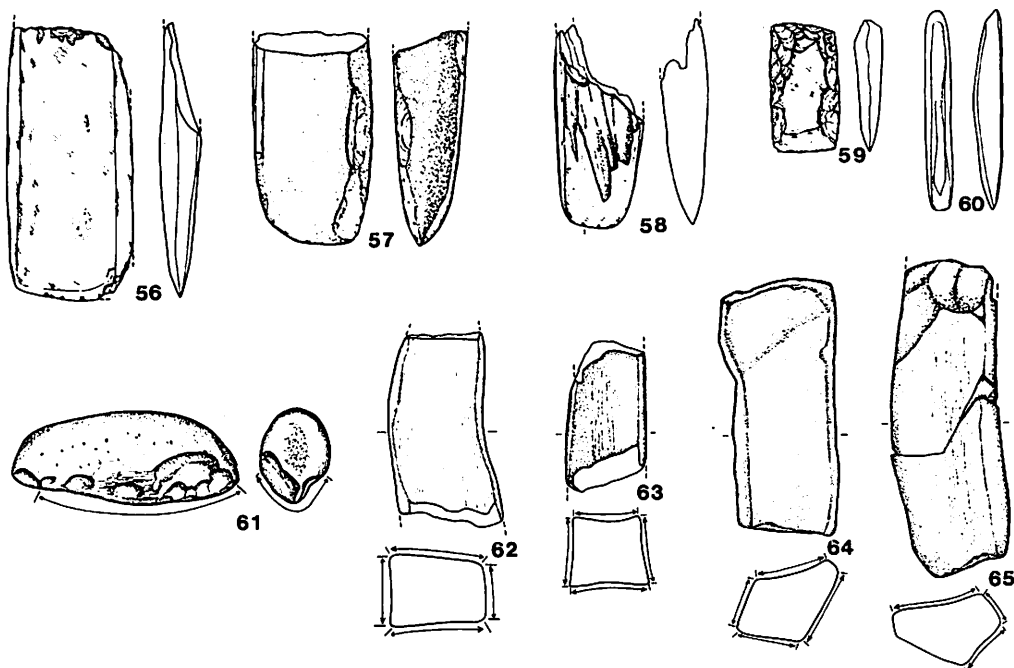


Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物





Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物



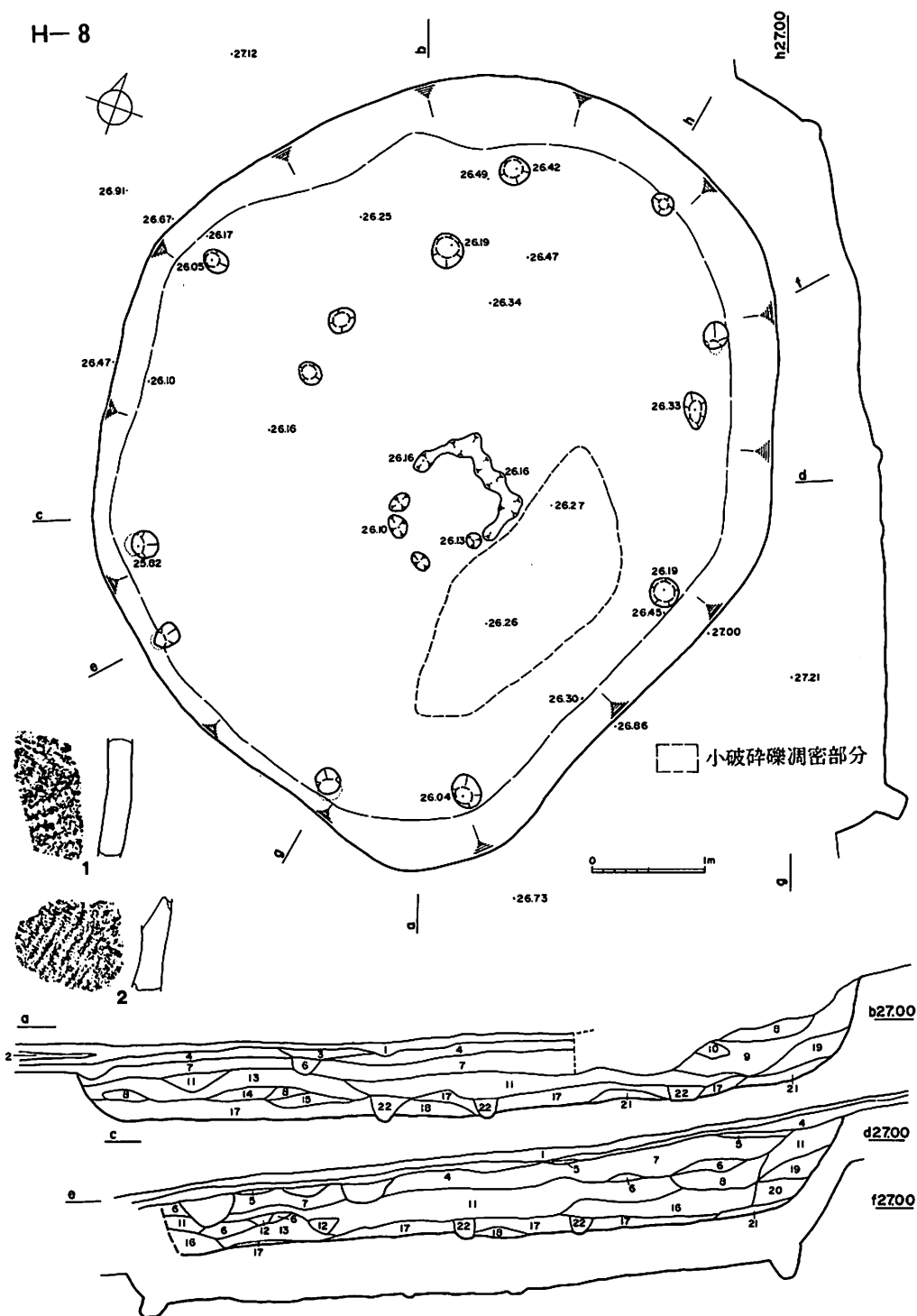
発掘区の南部にあり、東側からのゆるやかな傾斜部に立地している。

当初H-11の一部と考えて調査を行ったが、セクションベルトc-dの観察により、別個の遺構であることが分った。南側の壁付近ではP-3に切られている。掘り込み面は不明瞭だがIVa'層の上にあると考えられる。埋土の層序は自然堆積であるが、処々に攪乱を受けている。

南側の壁が確認できなかったため、全体の規模は不明だが、円形または長円形プランであろうと思われる。床面には、東と西とを分けるように弧を描くベンチ状の段があり、東側が高くなっている。西側の低い部分には、ベンチ状の段に取り巻かれるような状態で、石囲い炉がつくられている。さらに床面の北西側には軽石を多量に検出した四角形プランのピットがある。壁はすべて、ゆるやかに傾斜しているが、とくに南から西の立ち上がりは不明瞭である。

石囲い炉は、安山岩や砂岩の礫をコの字形に並べたものと思われる。内部の焼土はH-3などの炉と比較すると少ない。柱穴状のピットは計21ヵ所検出されたが、規則性はみられない。

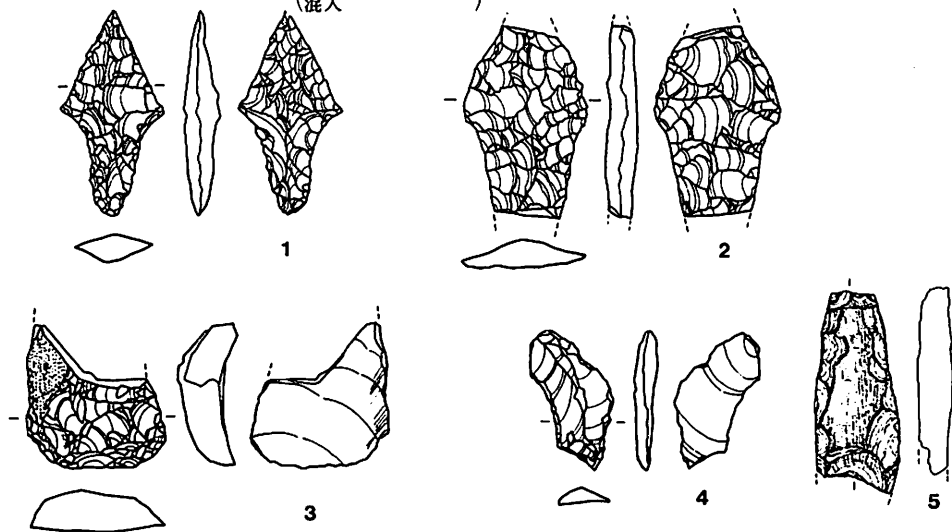
遺物の出土量は本遺跡の遺構中でもっとも多い。攪乱が多いため、埋土の層序によるグルーピングはできなかった。土器には、Ⅲ群b-3類の北筒式(1~49)が多いが、煉瓦台式(50~58)、Ⅳ群a類の余市式(59~64)も出土している。石器はピッチの付着した石鏃(2)・つまみ付ナイフ(18・19)・4点の砥石(62~65)などが出土している。



- | | | | | | | | |
|---|------------|---|-------------|---|---------------------|---|----------------|
| 1 | Ⅲ 層 | 3 | 暗赤褐色土 (焼土?) | 5 | 1~2 cm大の軽石がブロック状に入る | 7 | 暗茶褐色土 (Ⅳa1) 少量 |
| 2 | 赤褐色土 (火山灰) | 4 | Ⅳa1 層 | 6 | 黄灰色粘質土 (ブロック状) | | |

Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

- | | | | |
|-----------------------------|--|---|-----------------------------------|
| 8 暗茶灰色土
(少量の火山灰混入) | 13 暗黄茶色土
(0.5~2cm大の軽石を
多量に含む、やや堅緻) | 17 暗褐色土
(微少の軽石を多く含
み、全体に炭化物を
混入。汚れている) | 20 暗褐色土
(19より軽石が少なく)
粘質 |
| 9 暗茶褐色土
(7より軽石が多い) | 14 暗茶灰色土
(黄色粘質土がブロッ
ク状に混入) | 18 暗黄茶色土
(大きい軽石が多く、
かたい) | 21 暗茶黄色土
(汚れた土で、黄色土)
を多く含む) |
| 10 暗茶褐色土
(微少の軽石を多く含む) | 15 暗茶灰色土
(軽石が13より少なく
11より多い) | 19 暗褐色土
(やや粘質で、21が少
量まじる) | 22 黒茶灰色土
(砂粒、かたくしまる) |
| 11 暗茶灰色土
(13より軽石が少ない) | 16 暗茶灰色土
(かたく微小の黄色土)
混入) | | |
| 12 暗茶褐色土
(7よりやや黒味を帯びている) | | | |



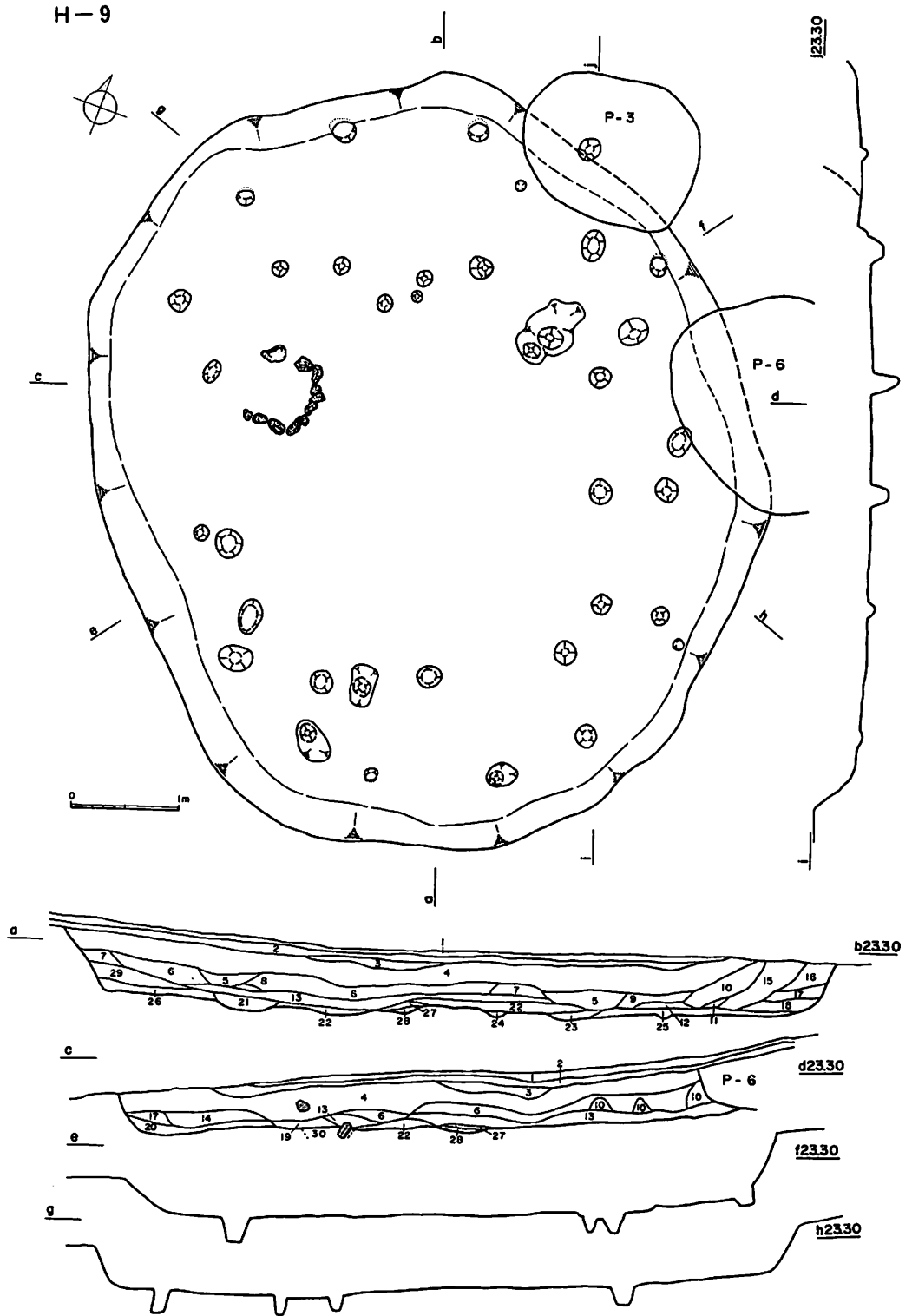
調査区南部の沢の上部、西に下向するゆるやかな斜面上に位置する。第Ⅲ層上面で皿状の窪みが認められたため、その中央に直交するセクションラインを設定し、南東地区より掘り下げを行った。約80 cmの深さで黒褐色土・黄色粘質土・炭化物・軽石が混在した非常に汚れた土が確認された。一部分を約10cmほど掘り下げたところ、径0.5~1 cm前後に砕かれた河原石が集中した堅い面が検出され、この面を住居跡の床と判断した。

埋土の上、中層はⅣa1'層に軽石が混入したものである。下層は上記の汚れた土で、床面上に5~10cm堆積している。床面は東側では地山まで掘りこんでいるが、西側ではⅣa1'層中にある。西にわずかに傾斜しているが、平坦で堅緻である。西壁以外は垂直に近い傾きで立ち上がっており、平面形は丸味をもつ六角形状である。

壁ぎわに沿って7個のピットがめぐっている。西壁の2個は1.2 m、他は約1.3~1.7 mの間隔がある。径は約20cm、深さは約11~25cmで内側に傾いている。

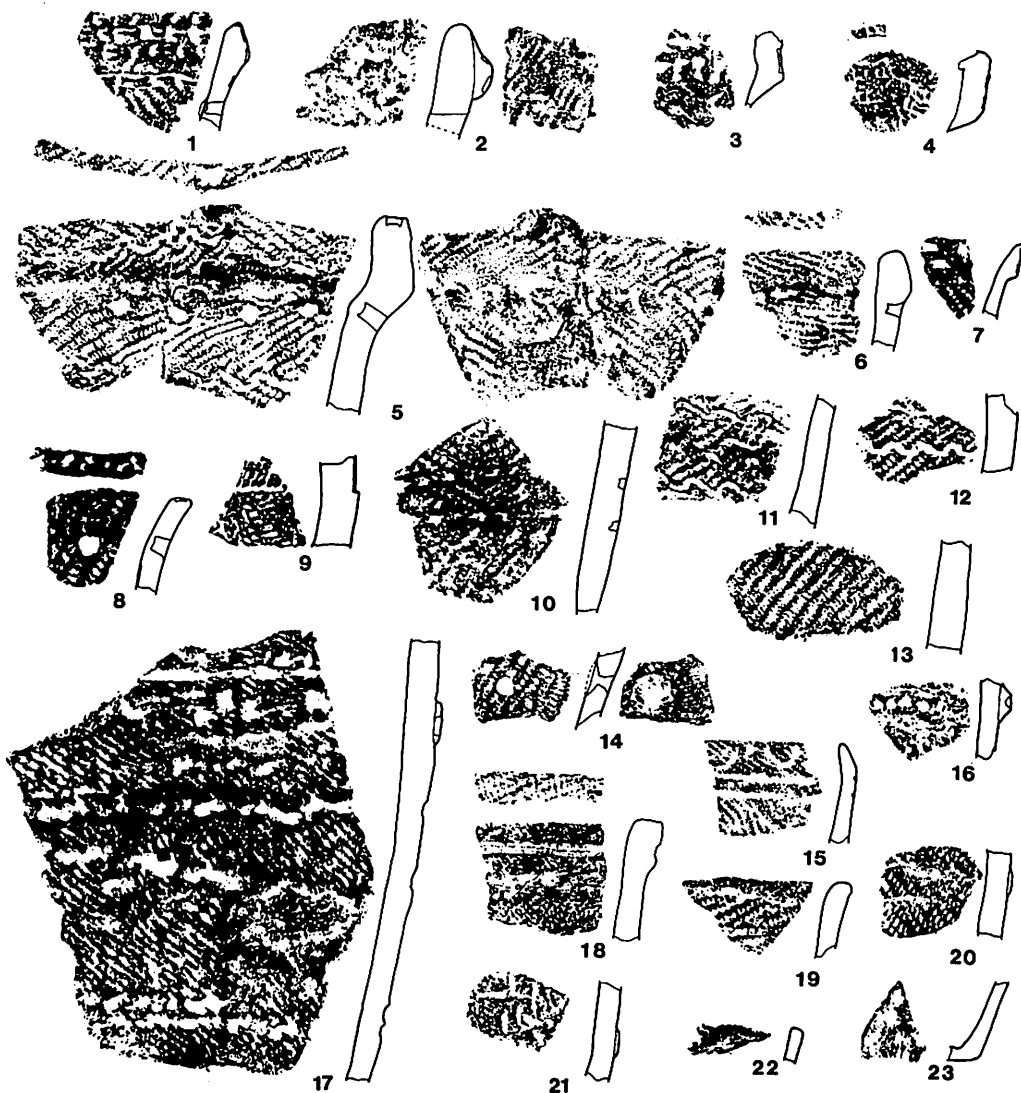
床面上には上記の破碎石が散在しているが、とくに南東部に集中している。また北東壁付近は軽石が床面に埋まり堅くしまっている。中央部南よりには床面に深さ数cmの、凹凸の甚だしい窪みが溝状にめぐっている。セクション図の第22層に相当するもので、埋土は砂粒状の堅い黒茶灰色土である。埋土中よりわずかの炭化物が検出されたただけであるが、形状からみて、石囲い炉の痕跡と考えられる。

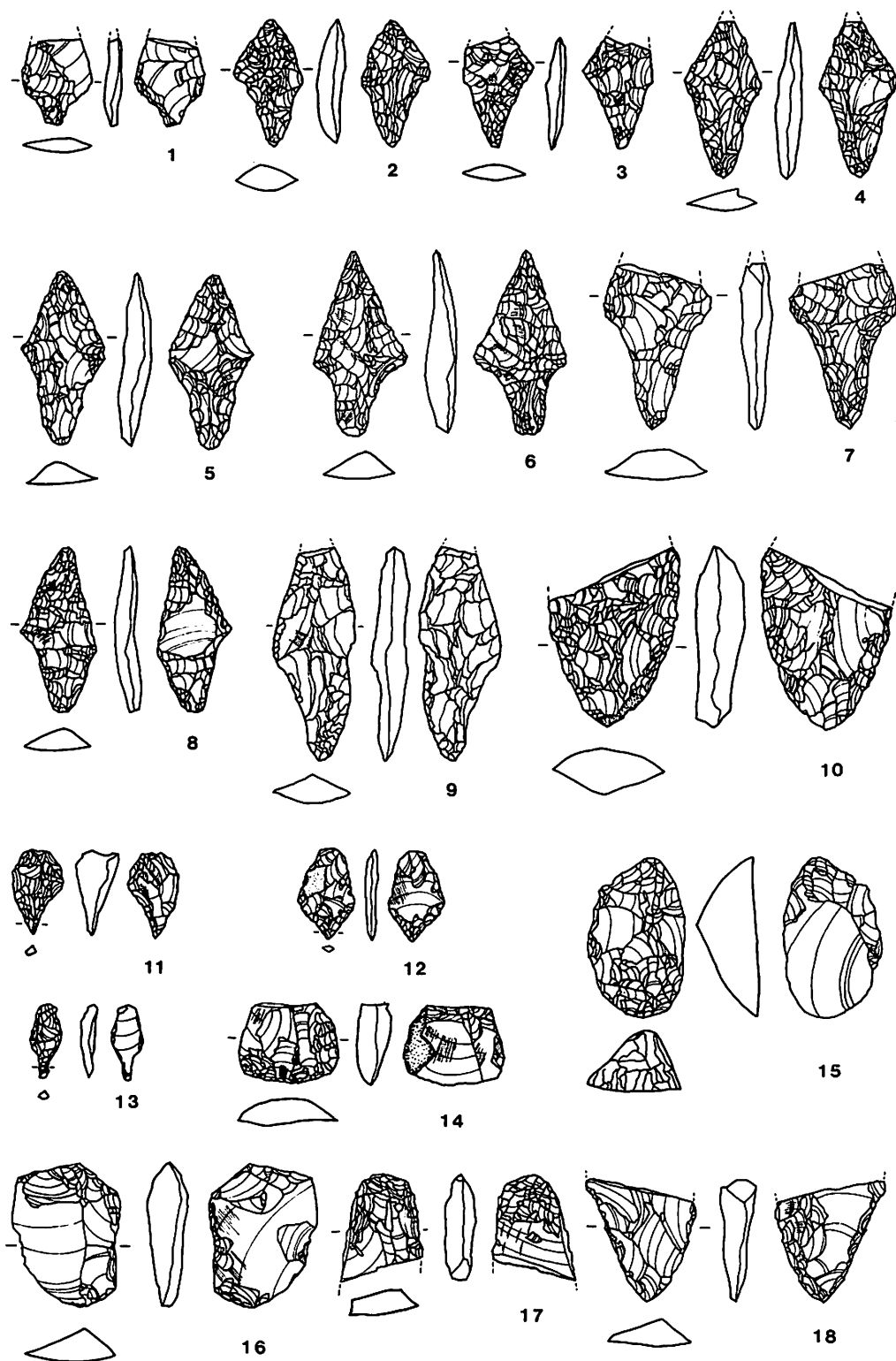
遺物は埋土の上、中層に土器片、石器などがわずかに出土しているのみである。



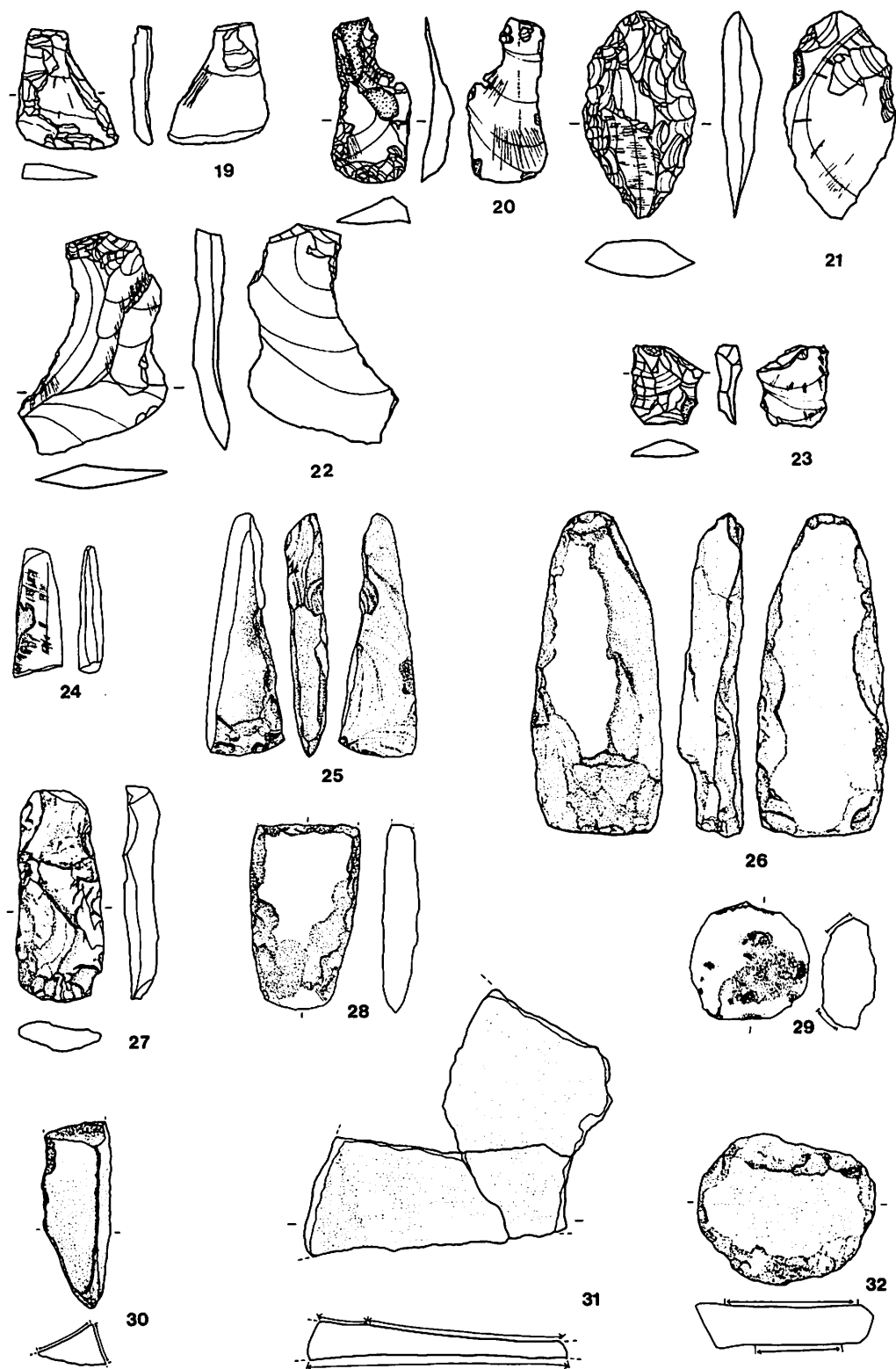
Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

- | | | | |
|------------------------|--|--|----------------------------|
| 1 Ⅲ 層 | 10 暗黄灰色土
(6+多量の軽石・堅礫) | 16 淡茶灰色土
(15より軽石が少ない) | 25 暗黄褐色土
(暗茶灰色土+微小の黄色土) |
| 2 Ⅳa1 層 | 11 暗茶灰色土
(ボソボソしている) | 17 黒褐色土
(微粒で粘質) | 26 黄褐色土
(やや粘質) |
| 3 軽石堆積
(ブロック状) | 12 暗茶灰色土
(やわらかく9より軽
石が少ない) | 18 黒褐色粘質土 | 27 黒茶色土
(汚れている) |
| 4 暗茶褐色土 | 13 黄灰色土
(やわらかく汚れてい
る。軽石を多量に含
み、炭化物散在) | 19 黒茶色土 | 28 赤褐色土
(焼土) |
| 5 暗黒茶色土
(微小の軽石混入) | 14 暗茶灰色土
(やわらかく、6より
軽石が多い) | 20 暗茶灰色土
(やわらかく、17を混入) | 29 暗茶灰色土
(2~3cm大の軽石混入) |
| 6 暗茶褐色土
(微小の黄色土混入) | 15 淡茶灰色土
(かたく微小の軽石を含む) | 21 褐灰色粘質土 | 30 黒褐色土
(炭化物を含む) |
| 7 暗赤褐色土
(6+火山灰) | | 22 暗灰褐色土
(粘質、やわらかい、炭
化物、ベンガラ、軽石
散在) | |
| 8 暗黄色土
(ブロック状) | | 23 灰褐色粘質土 | |
| 9 暗茶灰色土
(6+多量の微小軽石) | | 24 黄褐色粘質土 | |





Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物



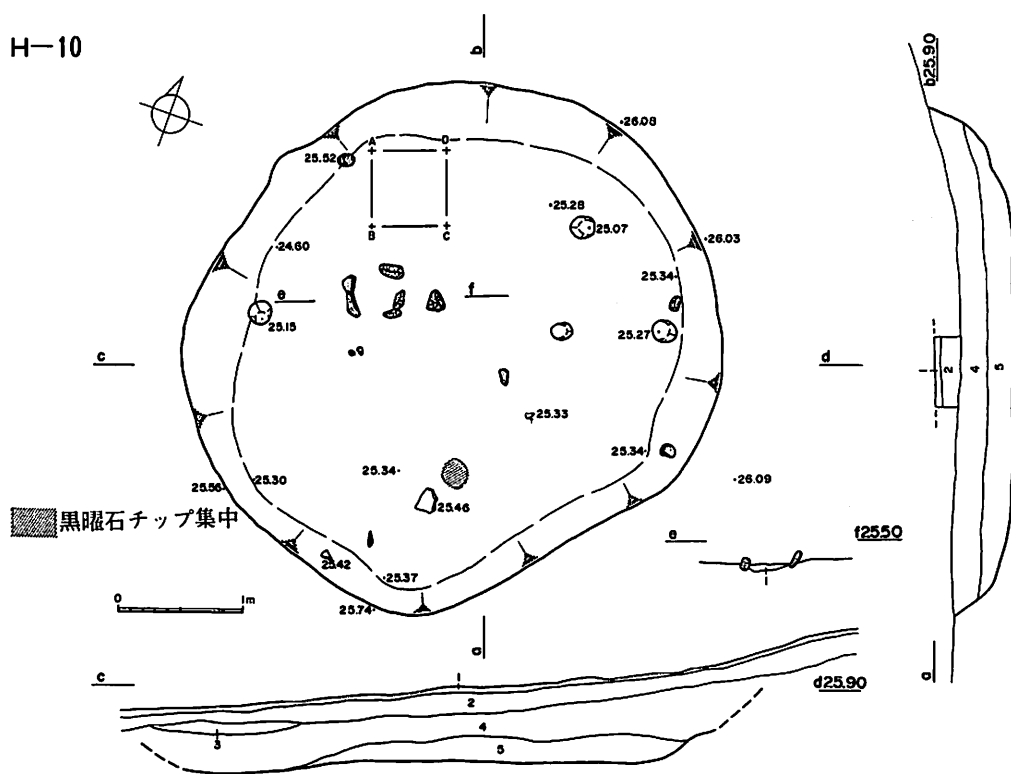
調査区南端のわずかに西に下向する斜面上に位置する。第Ⅲ層上面で窪みがみられたため、遺構確認調査を行ったが、その輪郭を明確にすることができなかった。このため窪みの中央に、直交するセクションラインを設定し、トレンチ発掘により東・北・南壁の立ち上がりを確認した。

埋土上層はⅣa'層より軽石がわずかに多く、中層では多量に入っている。下層は黄色粘質土・焼土・灰・炭化物・軽石が混在している。床面は東側では地山まで掘りこんでいるが、西側ではⅣa'層中にあり、西側にやや傾斜している。壁は西辺を除きやや急に立ち上がっている。

床面上に検出されたピットは、西側を開口するコの字形に並ぶものと、壁際に沿ってめぐるものがある。平面形は円形で、断面は円錐形である。前者は直立し、深さは20～28cmである。後者は内側に傾いており、深さは10～20cmで全体的に小さい。埋土はともにやわらかな黒色土である。石囲い炉は中央部西側に位置し、浅い掘りこみをもつ。円礫・軽石を使用しており、抜き取り跡がないところから、本来西側に開口するコの字形であったと考えられる。さらに床面中央部には2ヵ所の焼土が認められた。この焼土は床面に掘りこんだ浅い窪みに堆積している。

遺物は埋土の中・下層から多く出土している。東壁付近では、床面に張りついた状態で石鏝が出土しており、さらに床面より数cm上で貼付帯土、および器面上に短刻線を横位に施した深鉢の胴部片が出土している。

H-10



Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

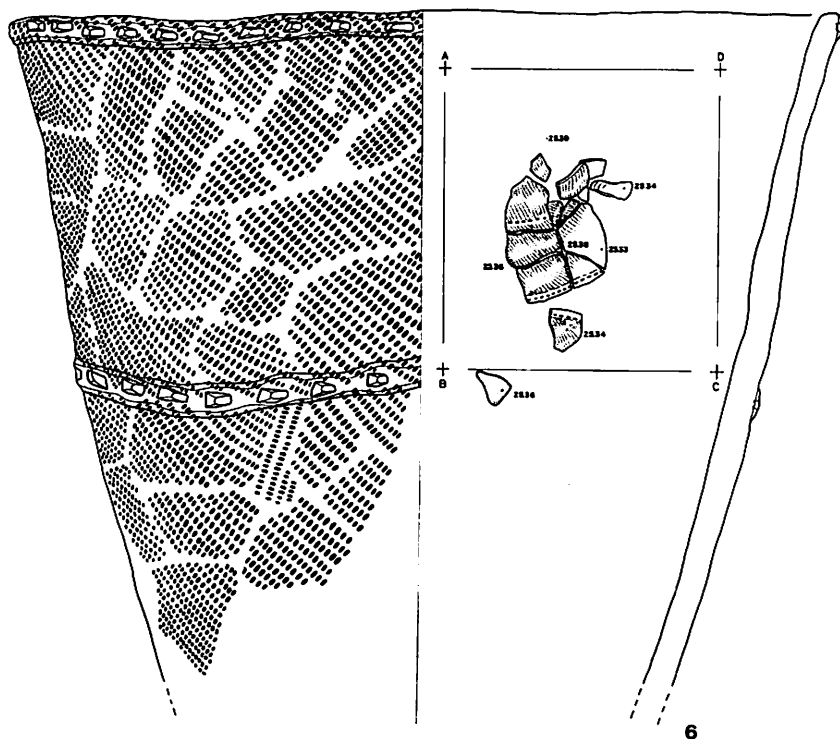
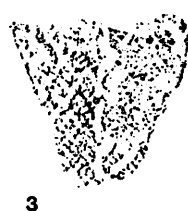
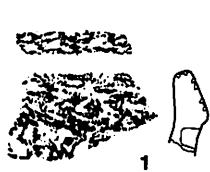
1 Ⅲ 層

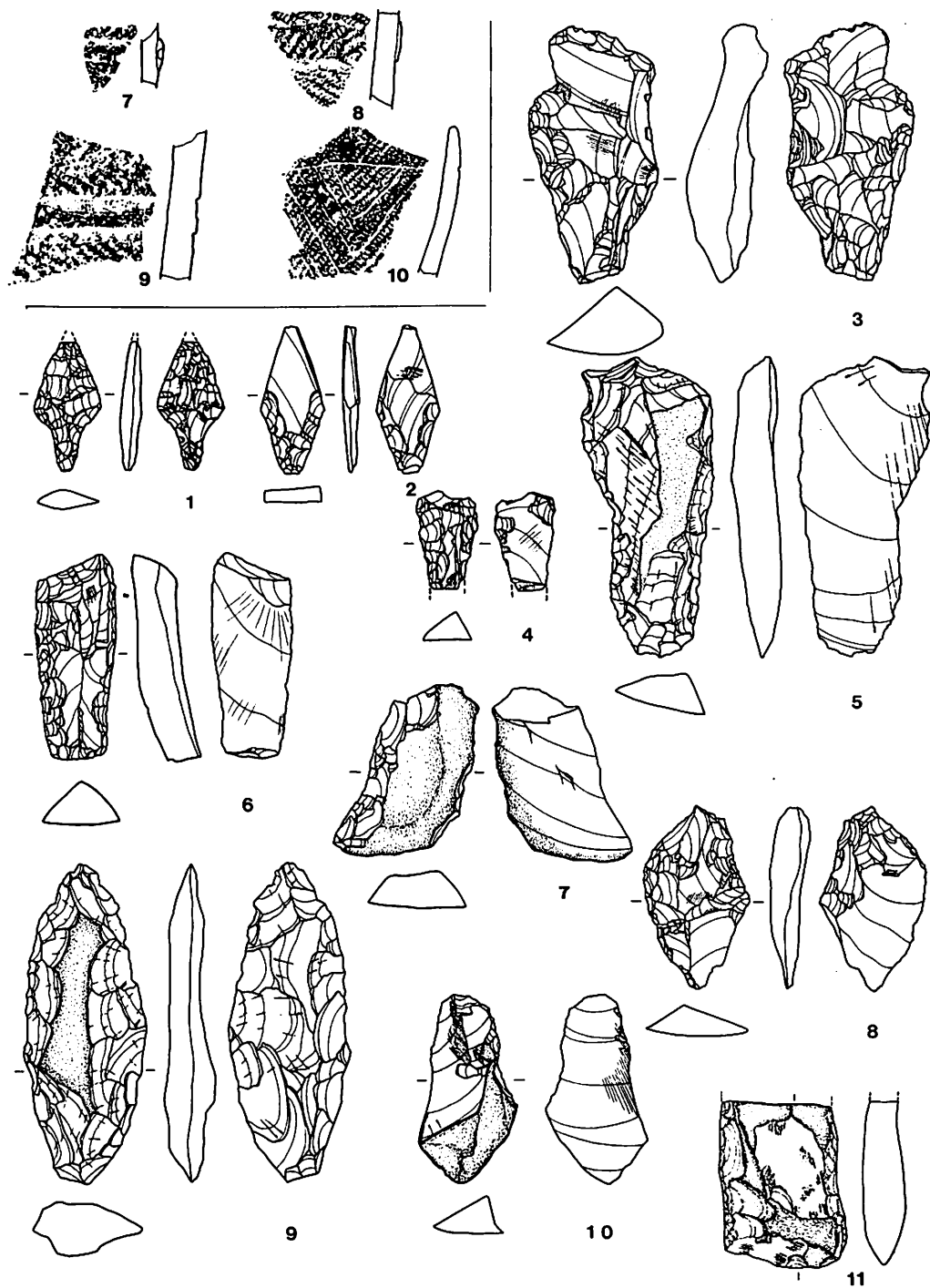
2 Na1 層

3 黒色土
(軽石を多量に含む)

4 黒茶褐色土
(軽石を多く含む)

5 暗茶褐色土
(軽石を多く含む)





Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

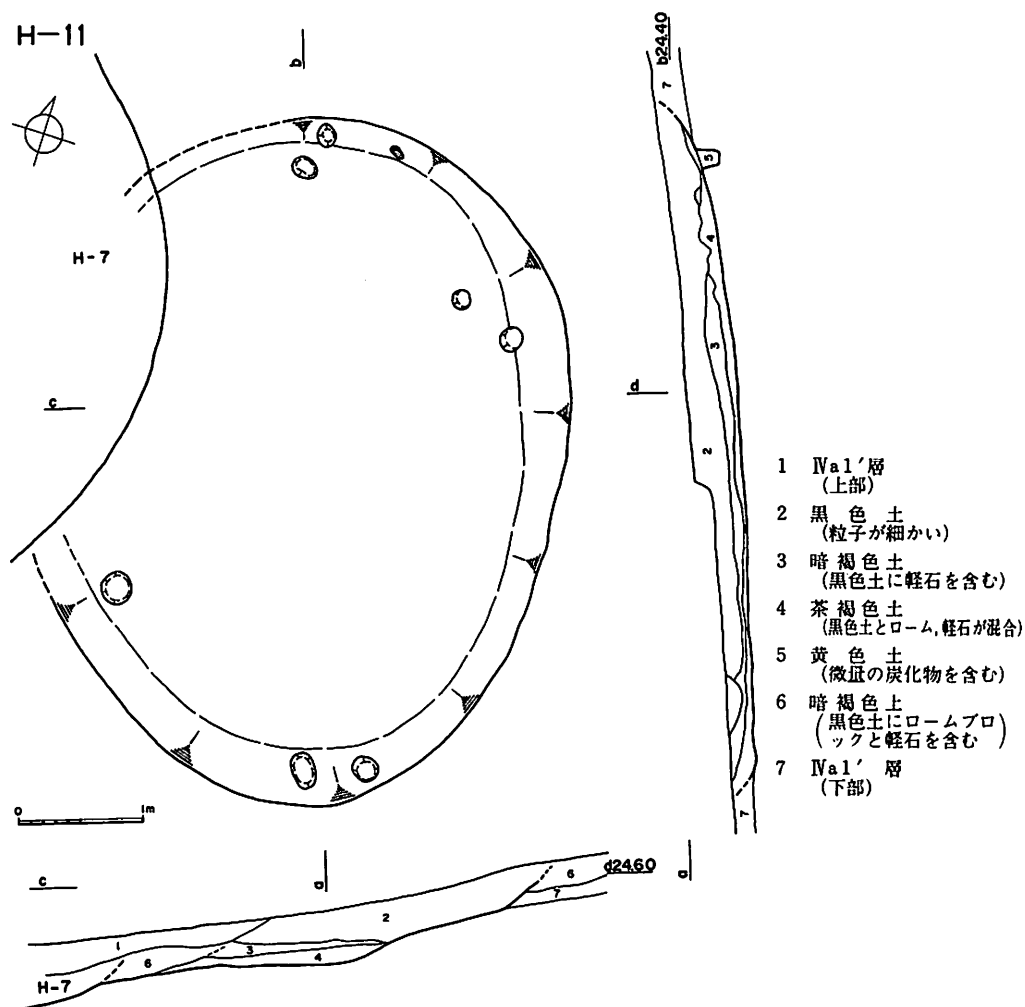
南側の沢の上部にH-8と並んで検出された。確認はトレンチ調査によって行った。掘りこみ面はⅣa1'層上部と考えられる。北半部の山側は壁の下部から床がローム層中に達しているために明瞭に検出されたが、南側の斜面下部では床が黒色土中にあり、しかも埋土が周囲の土壌と似ているために、検出は極めて困難であった。

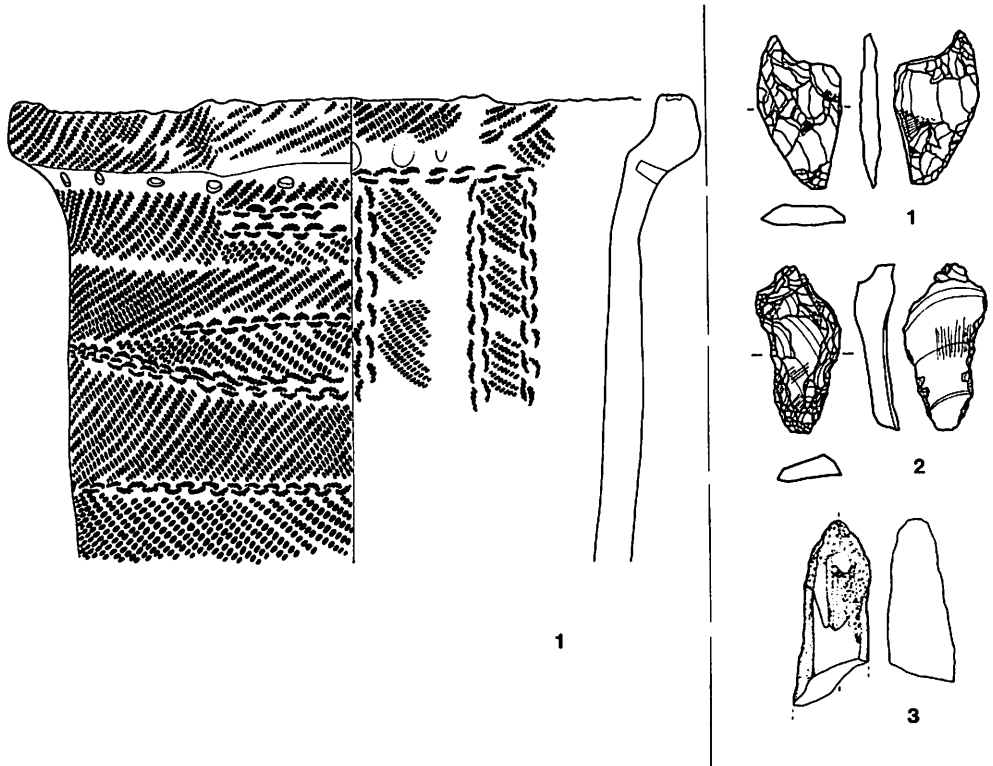
形状はほぼ円形。床はほぼ水平につくられており、壁は傾斜している。

炉跡は中央西よりに検出された。5個の石が残っており、このうちの3個は軽石が使用されている。内部は炭化物を少量混入した焼土が、わずか5cmほど堆積しているにすぎない。

床面には計4個の柱穴状のピットが検出された。このうち床面の西壁ぎわと北東にあるものは20cm前後の深さがあるが、他の2個はわずか7cmほどである。南半部では床が黒色土中にあるため、ピットの確認はできなかった。

遺物は剥片を含めると約300点出土しているが、このうち、床面に出土したものは、Ⅳ群a類の一括土器、石核1点、加工痕のみられる剥片2点、および集中して検出された黒曜石フレークである。この他の遺物は、埋土中に出土したものである。





調査区の南部の傾斜がゆるやかな地点に構築されている。東側にH-3・4の住居跡があり、本遺構の西壁はH-7によって切られている。当初はH-7と区別が明確ではなかったが、セクションベルトc-dの観察や、掘りこみ面がⅣa1'層下部に認められることなどから、別の遺構と判明した。埋土の層序は自然堆積である。

長軸が6m近い長円形プランの住居跡である。床面は平坦で、壁は全体的にゆるやかに傾斜しているが、とくに東と南の壁の立ち上がりは崩壊のためか不明瞭であった。

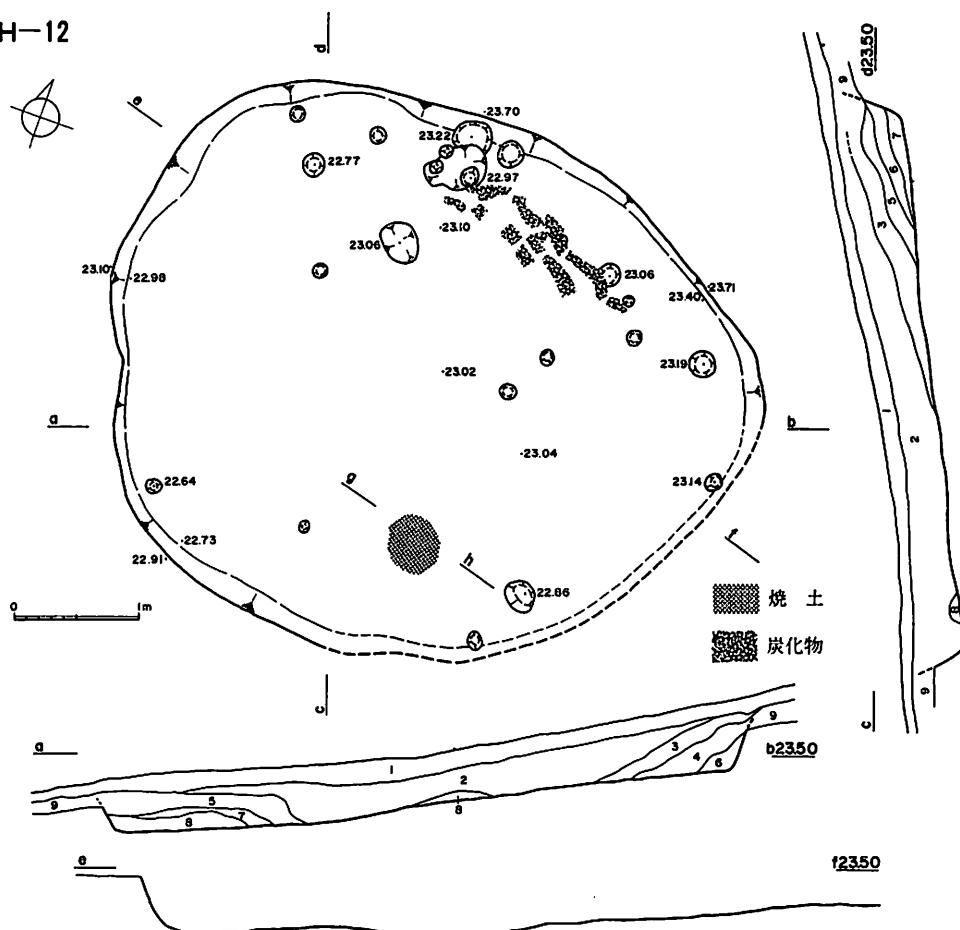
柱穴と考えられるピットは計7個確認された。間隔は一定ではないが、壁際にのみ検出されている。浅いものが多いが、セクションa-bに表われているように約20cmの深さのものもある。

切り合っているH-7の遺物出土量に比べて、本遺構の遺物量は少ない。土器片はⅢ群b-3類に属するものが11点出土しているが、これは同一個体のもので復元された(1)。Ⅲ群b-3類の北筒式土器である。

石器はスクレイパーが2点と、石斧の基部が1点出土している。

Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

H-12

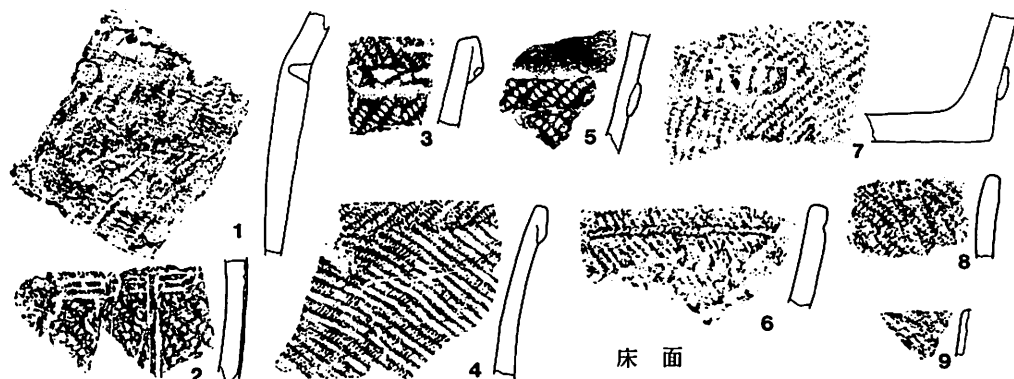


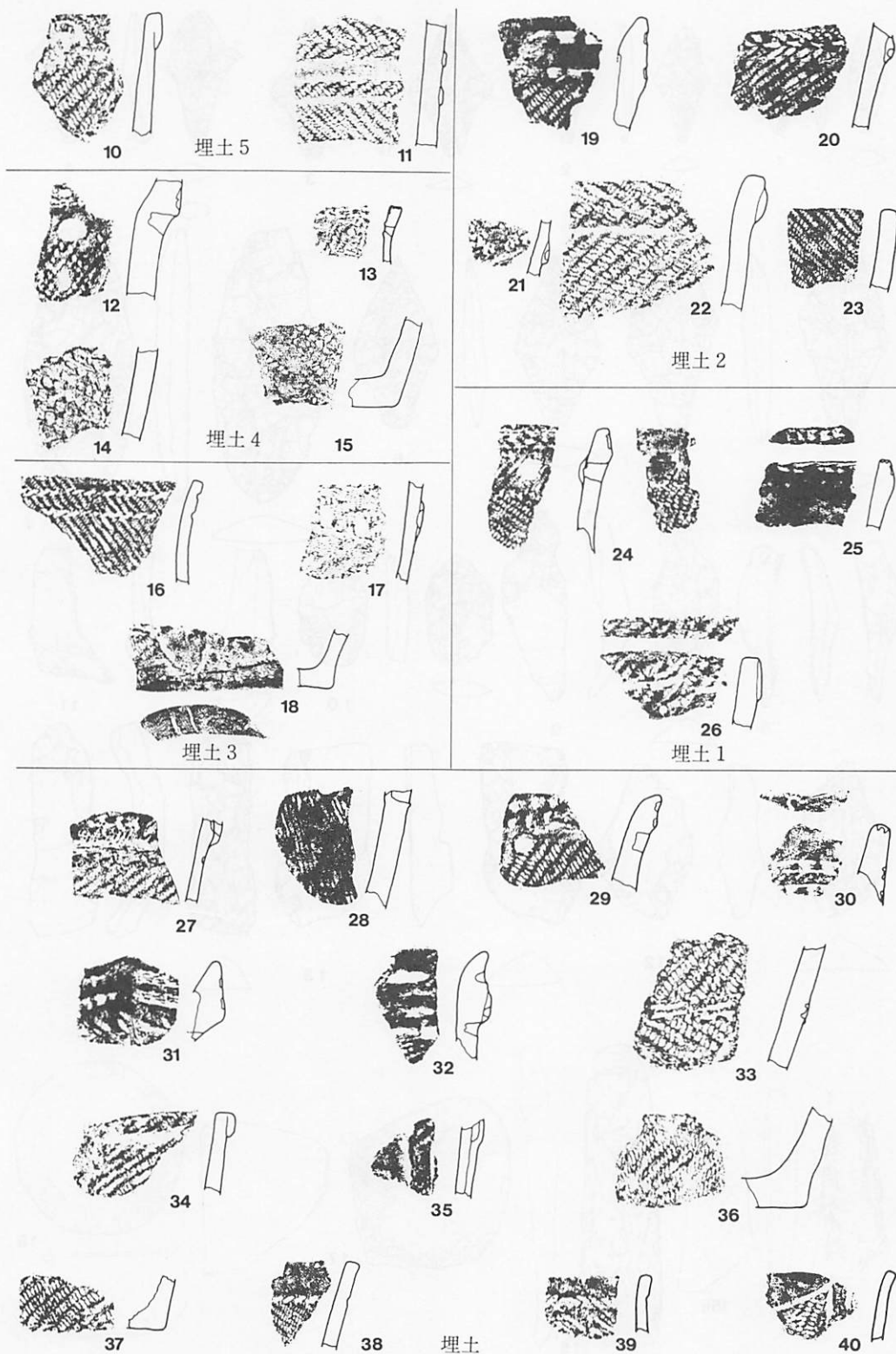
住居の層序

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1 Ⅲ 層 | 6 褐色土
(やや赤味を帯びる) |
| 2 黒褐色土 | 7 暗黄褐色土 |
| 3 暗褐色土 | 8 褐色土
(炭化物を含む) |
| 4 褐色土
(1cm大の軽石を含む) | 9 暗褐色土 |
| 5 褐色土 | |

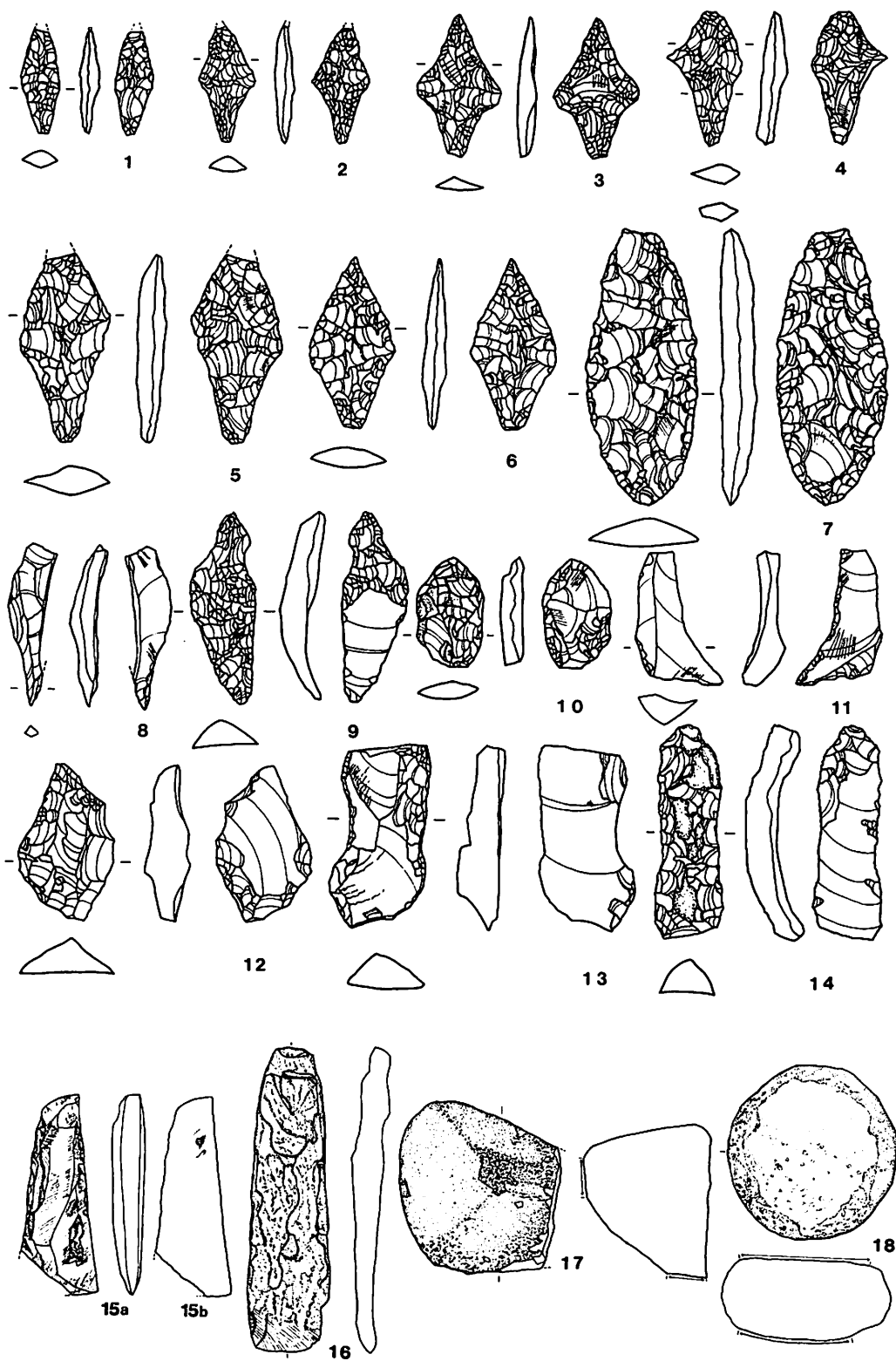
焼土の層序

- | |
|--------------------|
| 1 黒褐色土
(炭化物を含む) |
| 2 焼土 |
| 3 暗褐色土 |
| 4 黒褐色土
(炭化物を含む) |





Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

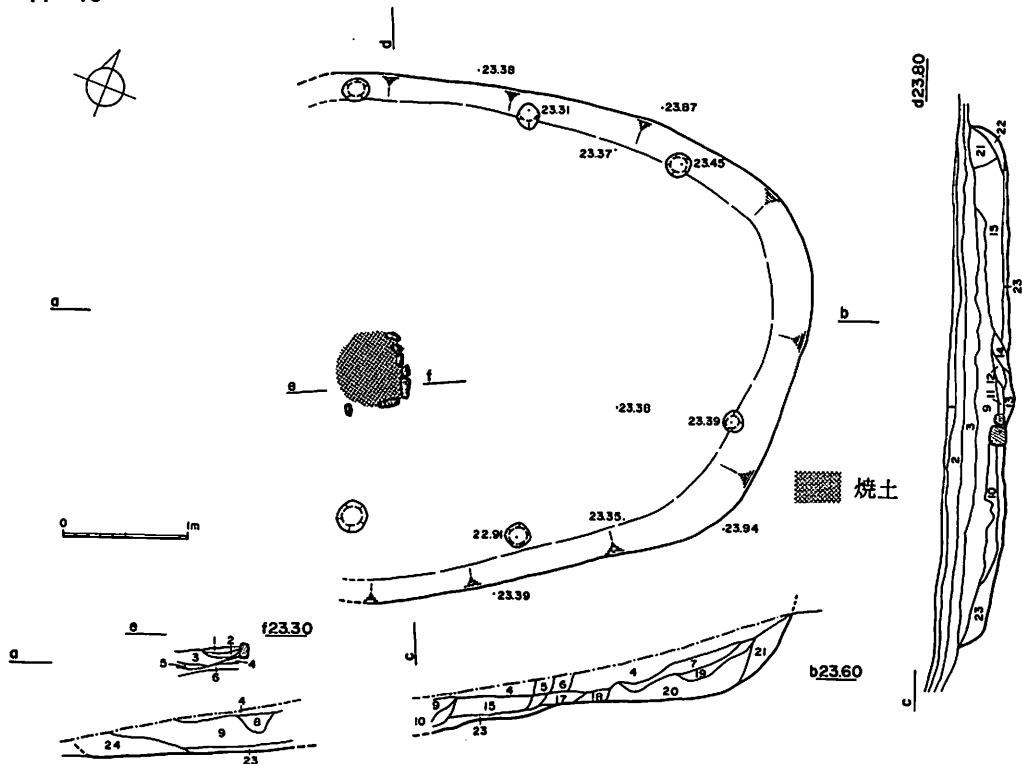


調査区北部の尾根の南側斜面に位置する。Ⅳ層中位まで掘りこんだ段階で、D-3-b 杭を中心にした黒褐色土の落ちこみとして検出された。5m グリッドに沿ったベルトをそのまま本住居跡のセクションベルトとして用いた。掘りこみ面はⅣa1'層中にあるため不明瞭であるが、セクションの観察から、Ⅳa1'層上半部と考えられる。このため南東部はベルト部以外壁の下部をわずかに確認することしかできなかった。

平面形は一端が大きくふくらむ楕円形である。床面は平坦だが、斜面に沿って南東方向にやや傾いている。北東部は地山ローム層まで掘りこまれているが、南半部ではⅣa1'層中に床面が作られている。床面のピットは径10cmほどの小型のものと径20cmほどのやや大型のもの、および浅い皿状のものがある。その配列には規則性はみられないが、北側の壁ぎわに集中している。石囲い炉は検出されなかったが、床面南側に焼土が検出された。また北東壁ぎわの埋土最下部で炭化材が検出された。断面の観察によると角材の炭化したものである。しかし、本住居跡に直接関連するものかどうかは判断しがたい。

床面よりⅢ群b-3類・Ⅳ群a類の土器片が出土している。量的には前者の方が多い。石器はやり先・スクレイパー・石斧・たたき石・すり石が出土している。このほかに埋土より、Ⅳ群b類の土器片・つまみ付きナイフ・石錐が出土している。

H-13



Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

住居の層序

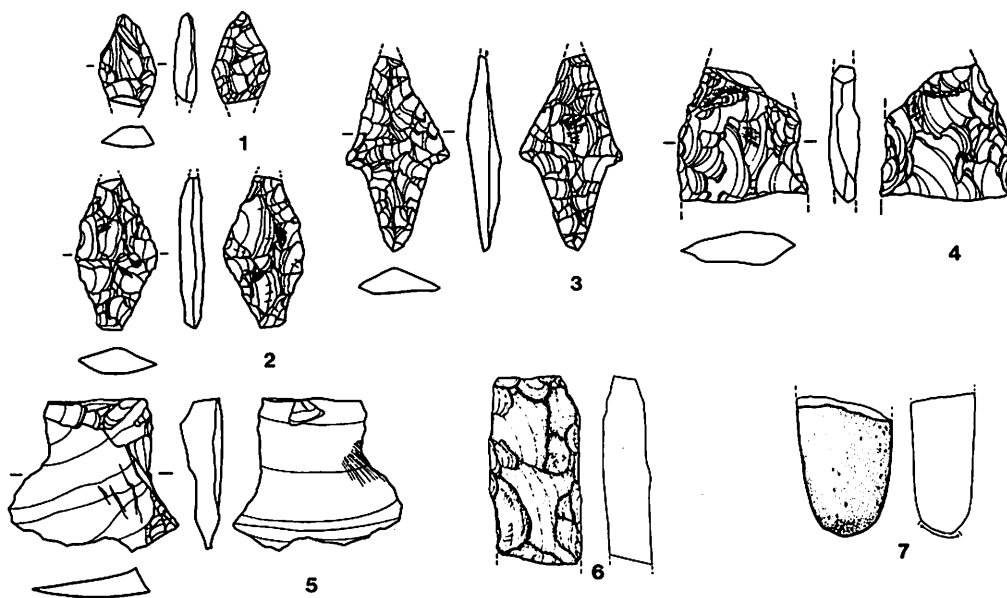
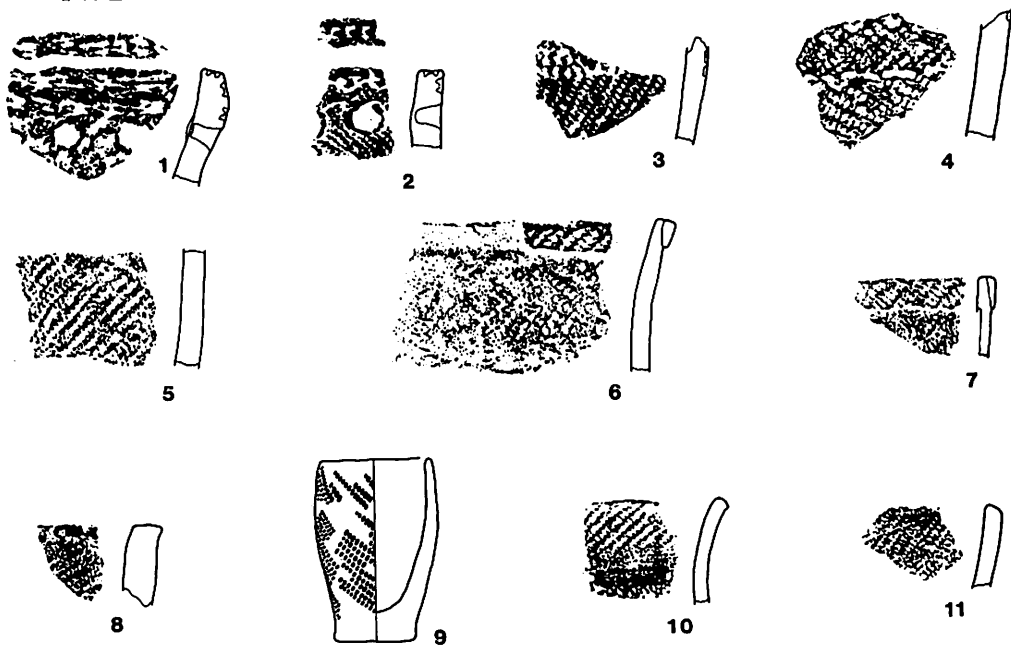
- 1 暗灰色土
- 2 黒色土
- 3 明黒色土
- 4 黒色土
(少量のパミスブロック)
(ク粒を含む)
- 5 褐色土
- 6 暗黒褐色土
- 7 黒茶色土
- 8 暗褐色土

- 9 暗褐色土
(3+パミスブロック)
- 10 暗褐色土
- 11 暗黄褐色土
- 12 明黄褐色土
- 13 焼土
- 14 黄褐色土
- 15 明褐色土
- 16 赤褐色土

- 17 暗茶褐色土
- 18 暗茶褐色土
- 19 明褐色土
- 20 黄褐色土
- 21 灰褐色土
- 22 暗灰褐色土
- 23 褐色土
- 24 暗黒色土

石囲い炉の層序

- 1 黄褐色土
(ロームまじり)
- 2 炭化物
- 3 暗褐色土
- 4 焼土
- 5 明褐色土
(焼土を含む)
- 6 明黄褐色土
(少量の焼土を含む)



中央の尾根の南西裾部の斜面にある。IVa1'層中に窪みがみとめられたため、住居跡であることを想定し、トレンチ調査を行って確認した。当初は一軒の住居跡と考えていたが、壁が二重にめぐり、さらに石囲い炉の北側で、これより10cmほど下層に焼土の堆積が検出されたため、2軒の住居が重複していることが判明した。

H-13は石囲い炉をもつもので、H-14より後につくられている。形状は楕円形とみられるが斜面の上側では、地山ローム層中に達しているのに対し、下側ではIVa1'層中にあるために壁を検出することはできなかった。しかし、セクション部分では西壁の立ち上がりが見とめられた。床も西半部は明瞭ではないが、斜面に沿ってゆるやかに傾斜している。

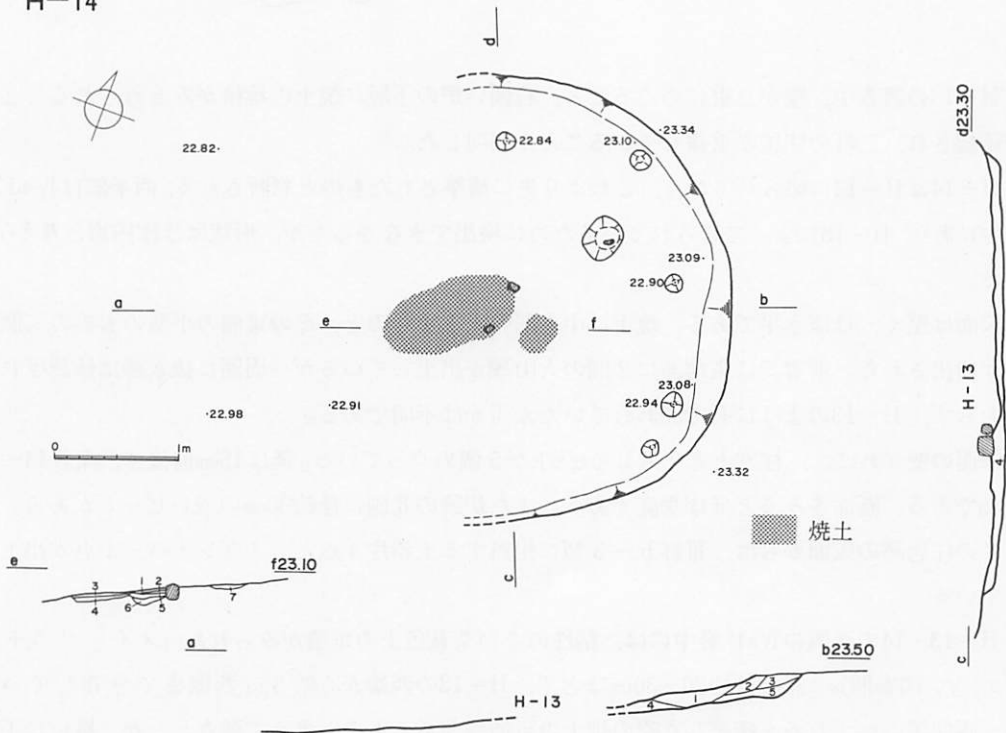
柱穴と考えられるピットは壁ぎわに5個めぐっており、炉の南側にも1個検出された。いずれも円形で垂直である。

炉跡はほぼ中央とみられる部分にあるが、東辺と南辺以外には炉石が検出されなかった。北・西辺では抜き跡もみとめられないが、焼土はほぼ方形に堆積している。

床面からはⅢ群b-3類に相当する小型の深鉢と台石が出土した。また埋土上部からはⅣ群a類に相当する土器片が数点出土している。

本住居跡はH-14が廃棄された後、その窪みを利用して構築されたものと判断される。

H-14



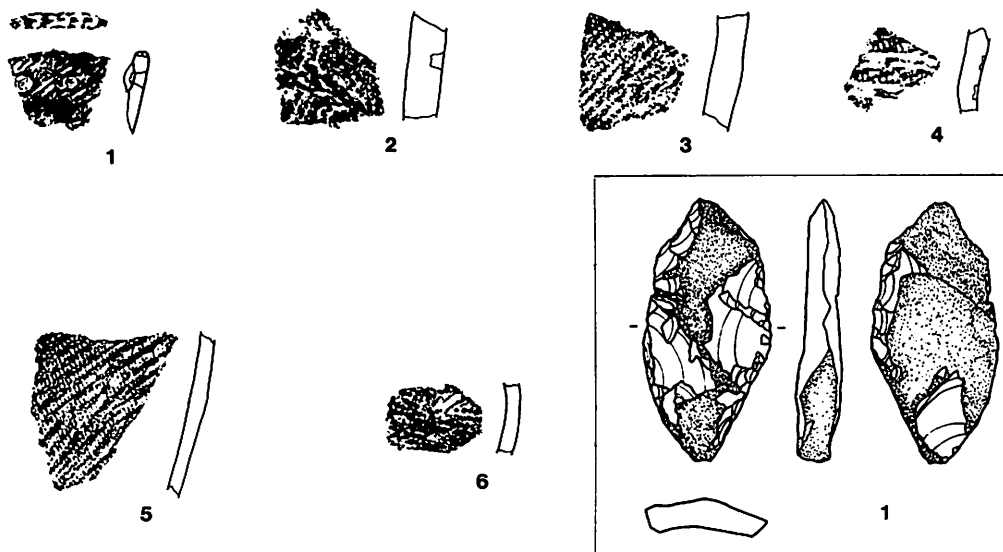
Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

住居の層序

- | | |
|---------|-------------------|
| 1 淡茶灰色土 | 5 暗茶灰色土
(軽石多い) |
| 2 暗茶褐色土 | |
| 3 暗茶灰色土 | |
| 4 暗黒色土 | |

焼土の層序

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 焼土+褐色土 | 5 焼 土 |
| 2 褐色土+少量の焼土 | 6 褐色土+焼土ブロック |
| 3 炭 化 物 | 7 焼 土 |
| 4 褐色土+焼土+炭化物 | |



H-13の調査中、壁が二重にめぐること、石囲い炉の下層に焼土の堆積がみとめられることが確認され、二軒の住居が重複していることが判明した。

H-14はH-13に切られており、これより先に構築されたものと判断される。西半部はIV a1'層中にあり、H-13によって切られているために検出できなかったが、形状はほぼ円形と考えられる。

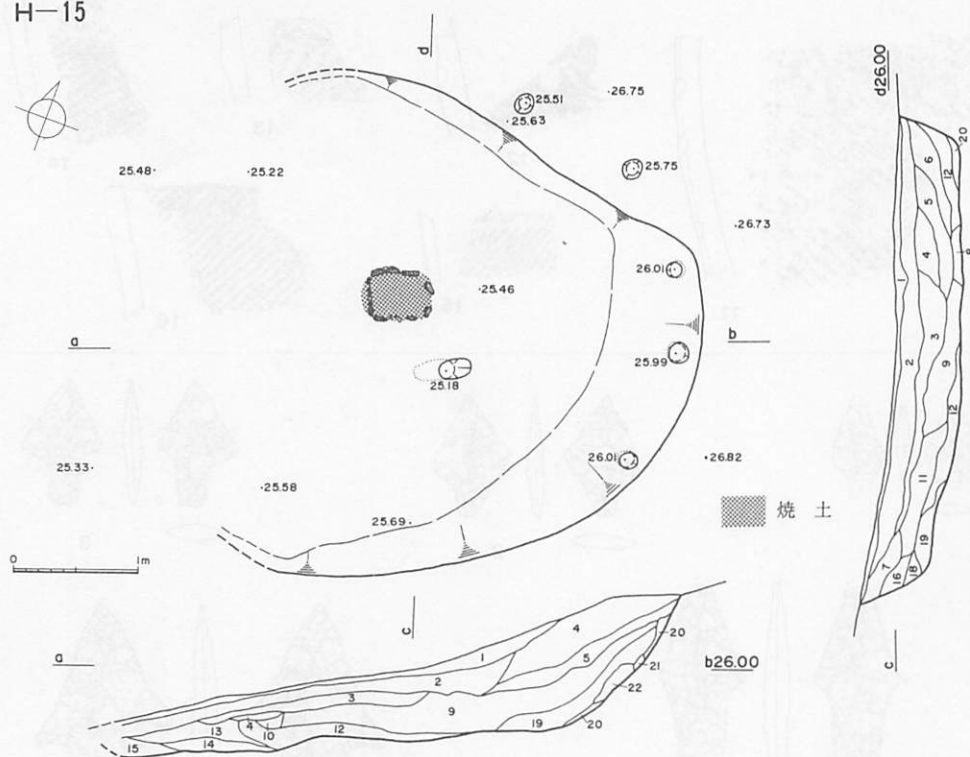
床面は堅く、ほぼ水平である。焼土は中央部の大きなものと、その東側の小型のものの二個所が検出された。前者では東端部に2個の火山礫が出土しているが、周囲に抜き跡は確認されておらず、H-13のように石で囲われていたか否かは不明である。

床面の壁ぎわには、柱穴と考えられるピットが5個めぐっている。径は15cm前後で、深さ14～19cmである。断面をみるとほぼ垂直である。また炉跡の北側に径約30cmの浅いピットがある。

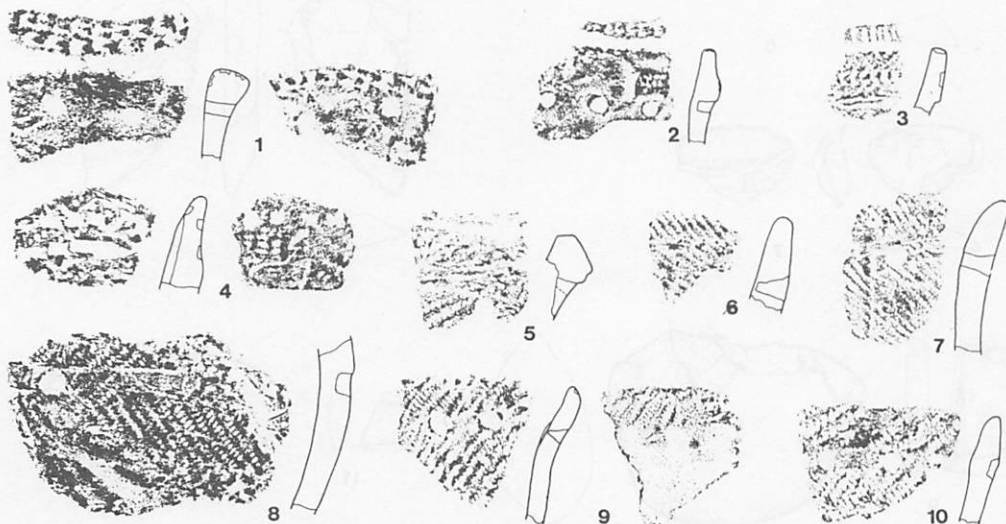
この住居跡の床面からは、Ⅲ群b-3類に相当する土器片4点と、スクレイパー1点が出土している。

H-13・14の西側のIV a1'層中には、粘性のない茶褐色土の堆積がみられた(メインベルトセクション図参照)。深さは約20～30cmほどで、H-13の西端から約5m西側まで分布している。両住居のいずれかを構築した際の排土の可能性のあるものと考えて調査したが、層位に不明瞭な部分が多く、結論を得ることはできなかった。

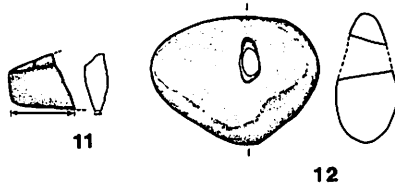
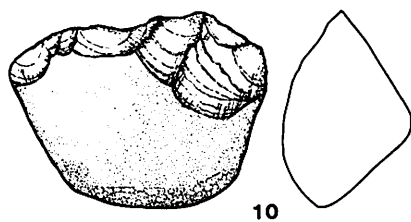
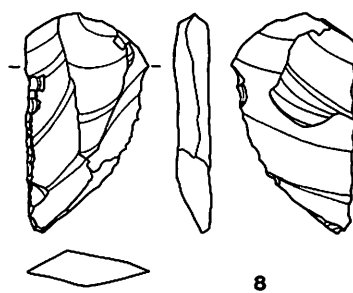
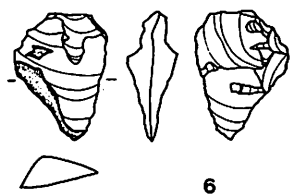
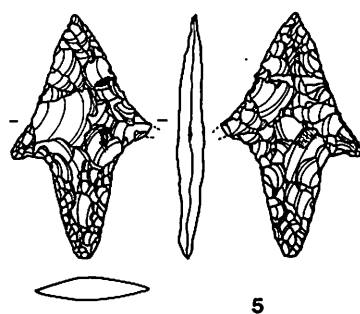
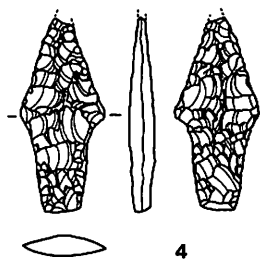
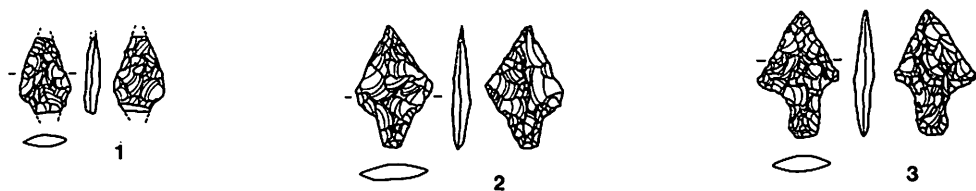
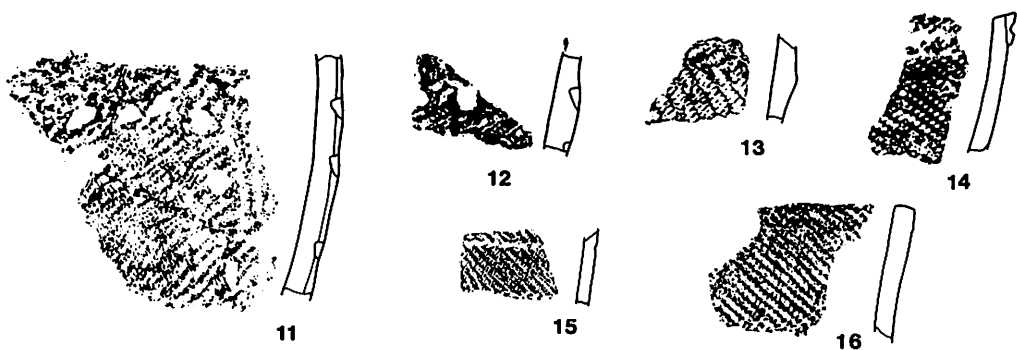
H-15



- | | | | |
|------------------------|----------------------|----------|------------|
| 1 灰黒色土
(火山灰+黒色土) | 6 暗黄褐色土 | 13 褐灰色土 | 20 壁の崩落土 |
| 2 黒色土 | 7 黒色土 | 14 暗黒灰色土 | 21 ロームブロック |
| 3 暗褐色土
(黒色土+少量のパミス) | 8 黄褐色土
(炭化物を多く含む) | 15 黒茶色土 | 22 淡黒茶色土 |
| 4 黒褐色土 | 9 黄褐色土 | 16 暗褐色土 | |
| 5 褐色土
(パミスを含む) | 10 黒色土ブロック | 17 明黄褐色土 | |
| | 11 褐色土 | 18 淡黒色土 | |
| | 12 暗灰褐色土 | 19 茶褐色土 | |



Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物



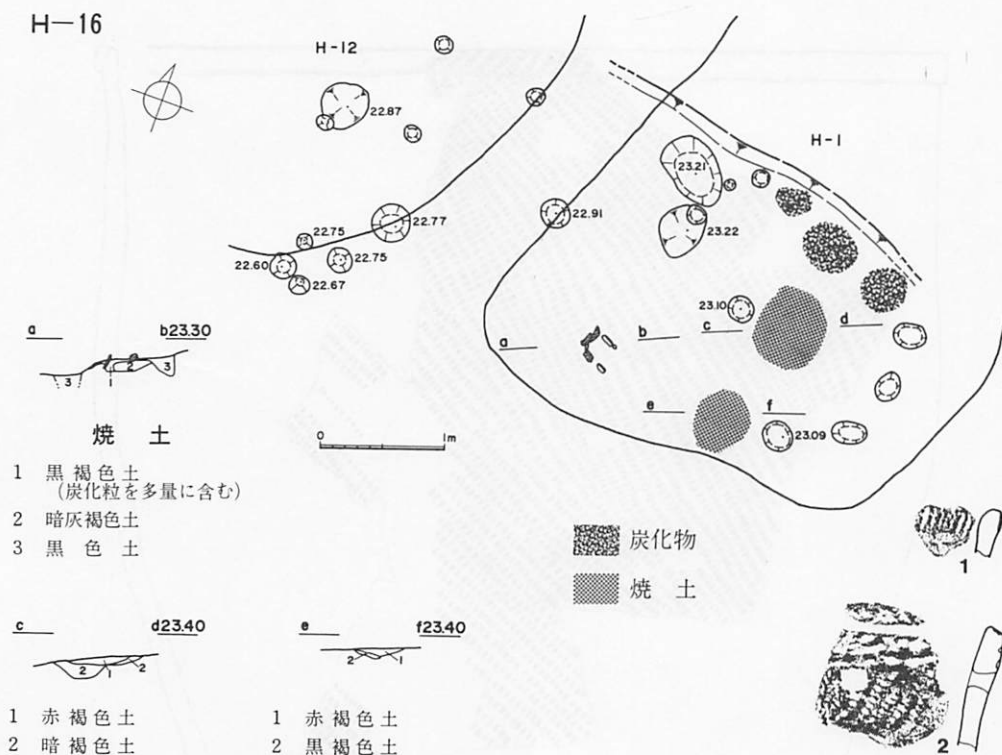
調査区中央の尾根の北側にある。他の住居が比較的平坦な部分に構築されているのに対し、この住居跡は急斜面に立地している。

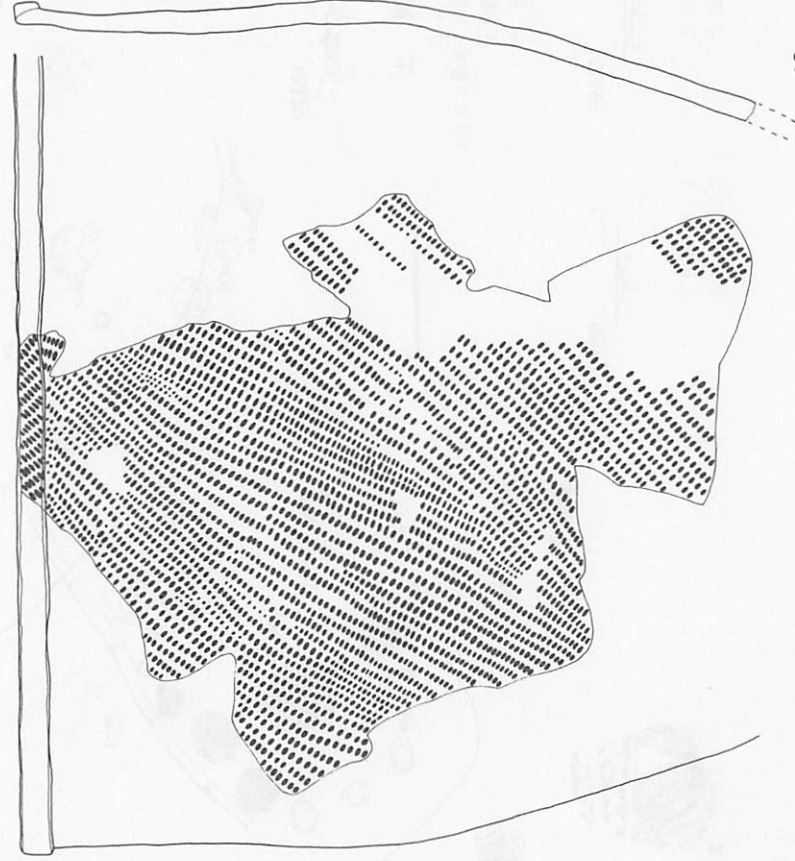
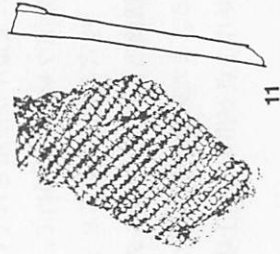
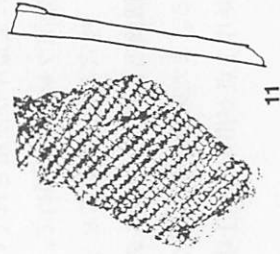
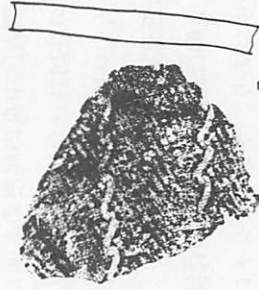
火山灰除去後の黒色土上に大きな窪みがみられたために、住居跡の検出を予想し、トレンチ調査を行なって確認した。

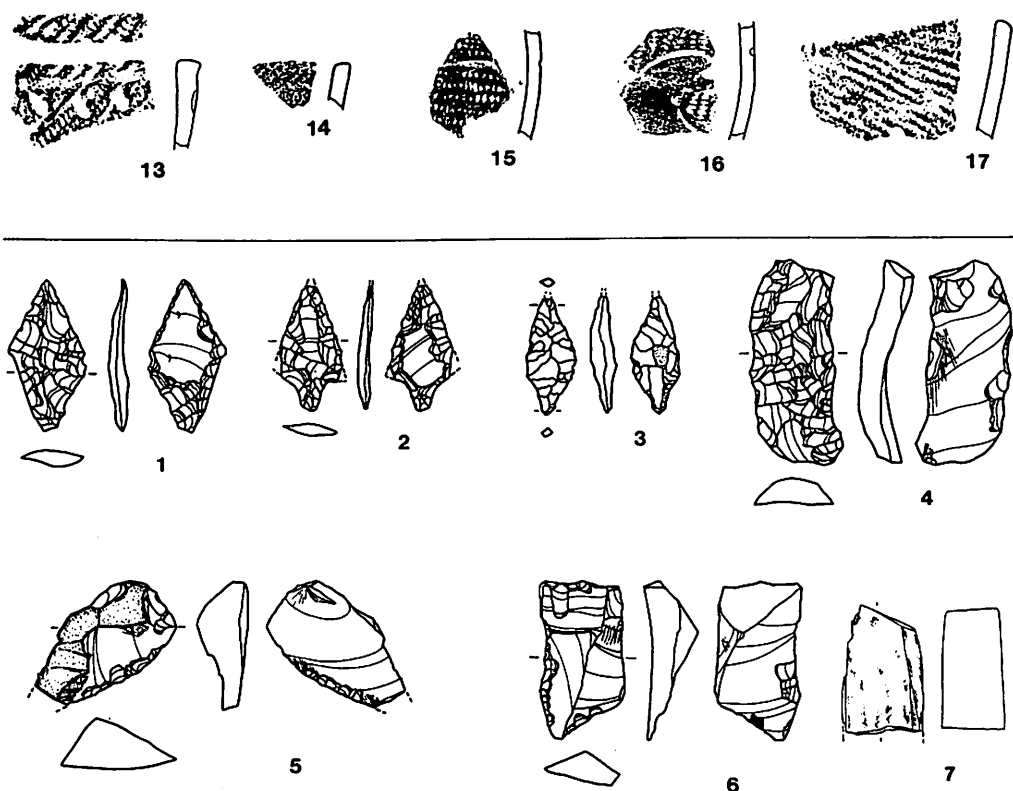
東側は地山ローム層中に深く掘りこまれているために、明瞭に検出されたが、西半部はⅣa'層中にあり、サブトレンチによって壁を検出した。壁は南と西では垂直に近いが、東西側ではゆるやかに傾斜している。とくに東壁は斜面の上部にあたり、床面から約50cmの高さがある。床はほぼ水平である。

床のほぼ中央に石囲い炉跡が発見された。50cm×40cmの長方形で、4個所には炉石のかわりに土器片が使用されている。炉内には木炭と焼土が検出された。この炉は保存のため、周囲を発泡ウレタンで固めて、検出した状態で取り上げを行った。

柱穴と考えられるピットは、東側の壁の上部に3個、これに並ぶものが北東側の壁の外に2個検出された。断面をみると壁の3個は、住居内に向って傾斜しており外側の2個は垂直である。また床面の炉の近くに検出された柱穴は、斜面上部に向って傾斜している。床面からは石斧片1点が出土。埋土中には、Ⅲ群b-3類・Ⅳ群a類に相当する土器片が混在していた。







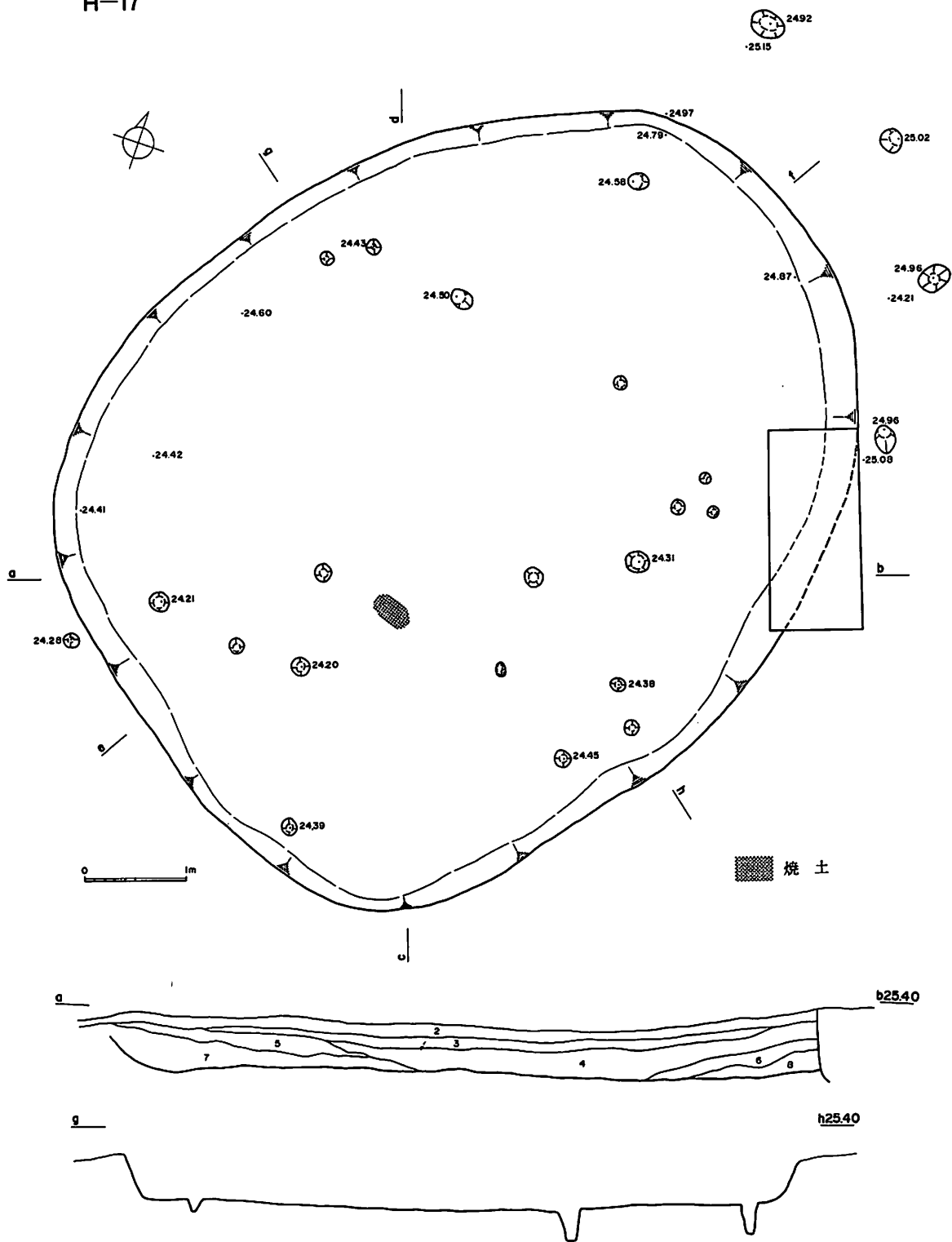
調査区北部の尾根の南側斜面に位置し、H-1・H-12に切られている。H-1の床面を調査中土層の乱れがみとめられた。このためH-1の調査終了後、セクションラインに沿ってトレンチを約10cm掘り下げたところ、土器囲い炉とこれに続く、ローム層を掘りこんで作られた床面を検出した。

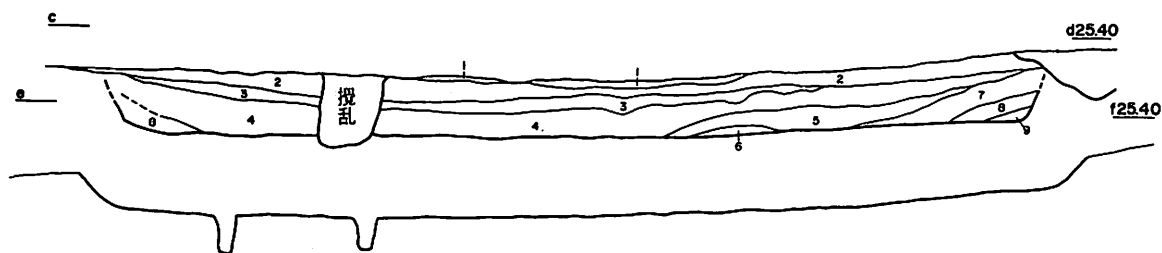
土器囲い炉以北は、ローム層を掘りこんで床面が作られており、北東部の壁下部を一部検出できたが、これ以外は、H-1・H-12によって破壊されて検出できなかった。また、炉以南はⅣa1'層に床面が作られていたと考えられるが、すでにⅣa1'層の大半を掘り下げていたために、壁は検出できず、床面も明確にできなかった。ピットは北半部に20数個ある。炉を中心に弧状に並ぶものと、その外側に不規則に並ぶものがある。炉跡はⅣ群a類の土器片を用いて作られている。したがって本住居跡はⅣ群a類以降の時期に使用されていたと考えられる。ほかに、炉跡の東側の床面に焼土が二ヵ所検出された。また北壁ぎわには炭化物が集中して検出された。

床面よりⅢ群b-3類の土器片、および図示していないが、剥片の縁辺部だけに調整を施したスクレイパーが出土している。ほかにH-1、H-12の床面下よりⅣ群a類・b類の土器片・石鏃・やり先・剥片などが出土した。

Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

H-17

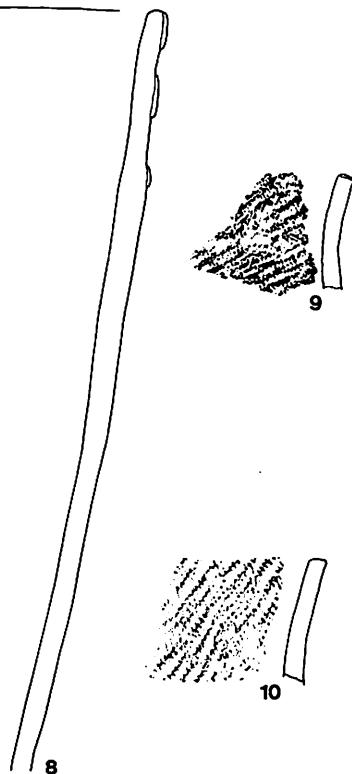
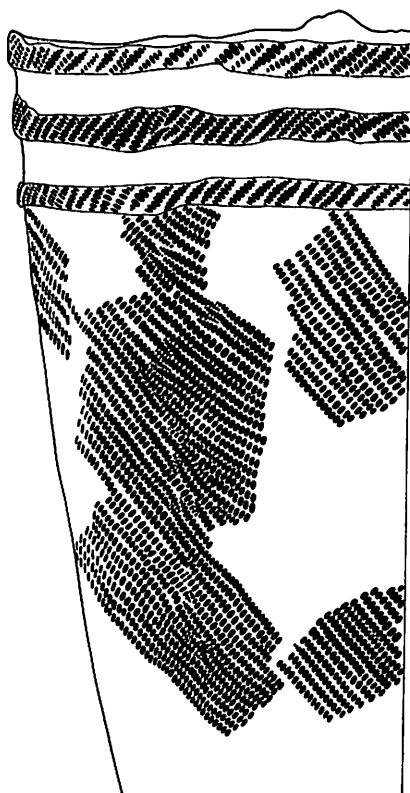
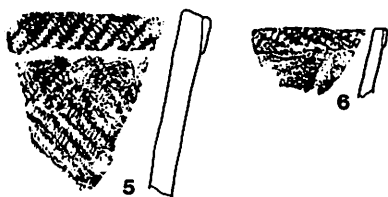




- 1 赤褐色土
- 2 Ⅲ層
- 3 暗褐色土
- 4 暗褐色土
- 5 褐色土

- 6 褐色土
(1cm大の軽石を多く含む)
- 7 暗茶褐色土
- 8 褐色土
(炭化物を含む)
- 9 暗黄色土

床面



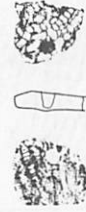
Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

埋土 6



11

埋土 5



12



13



14



15

埋土 4



16



17

埋土



27



28



29



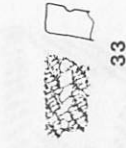
30



31



32



33



34



35



36



37



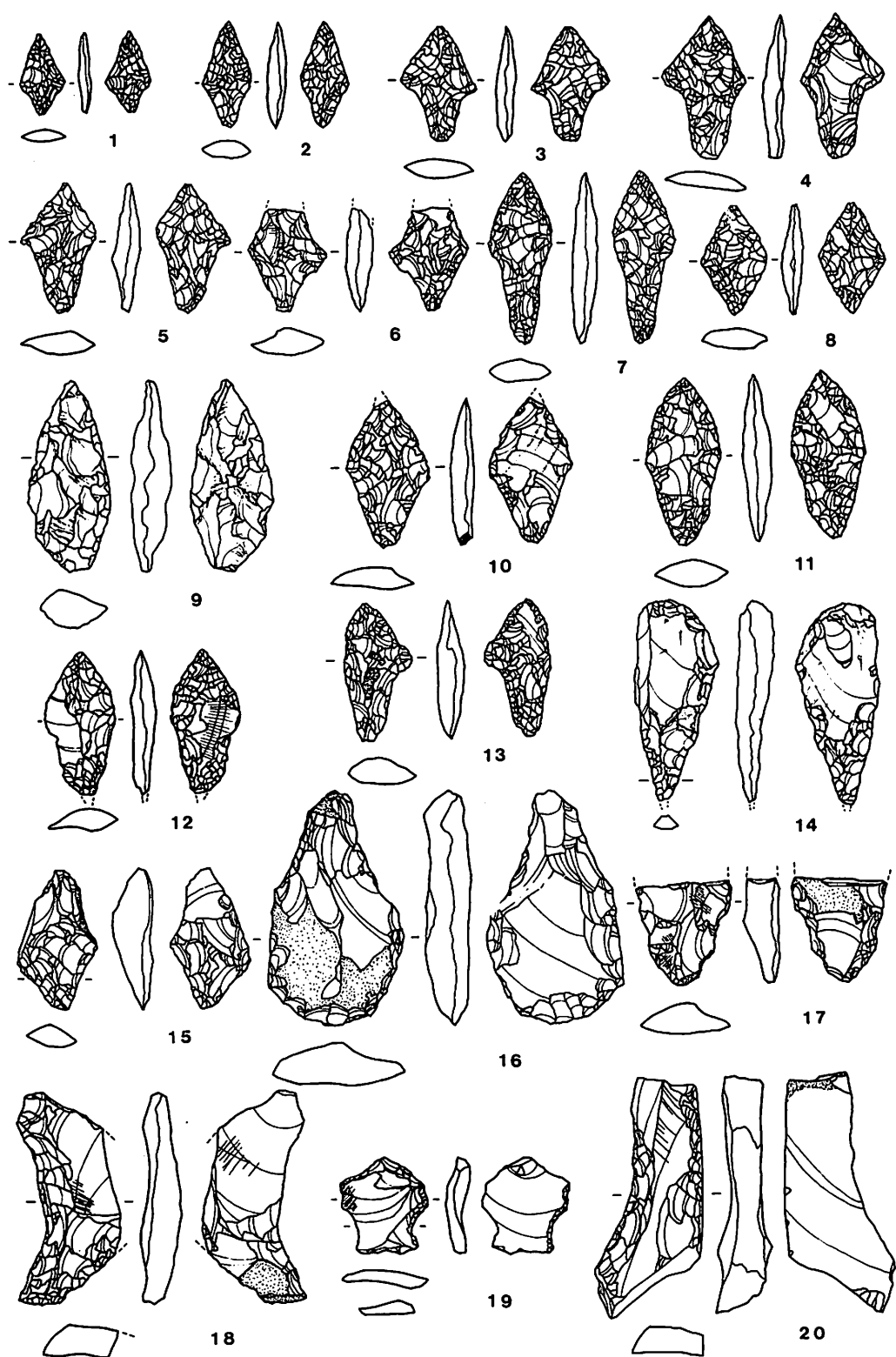
38



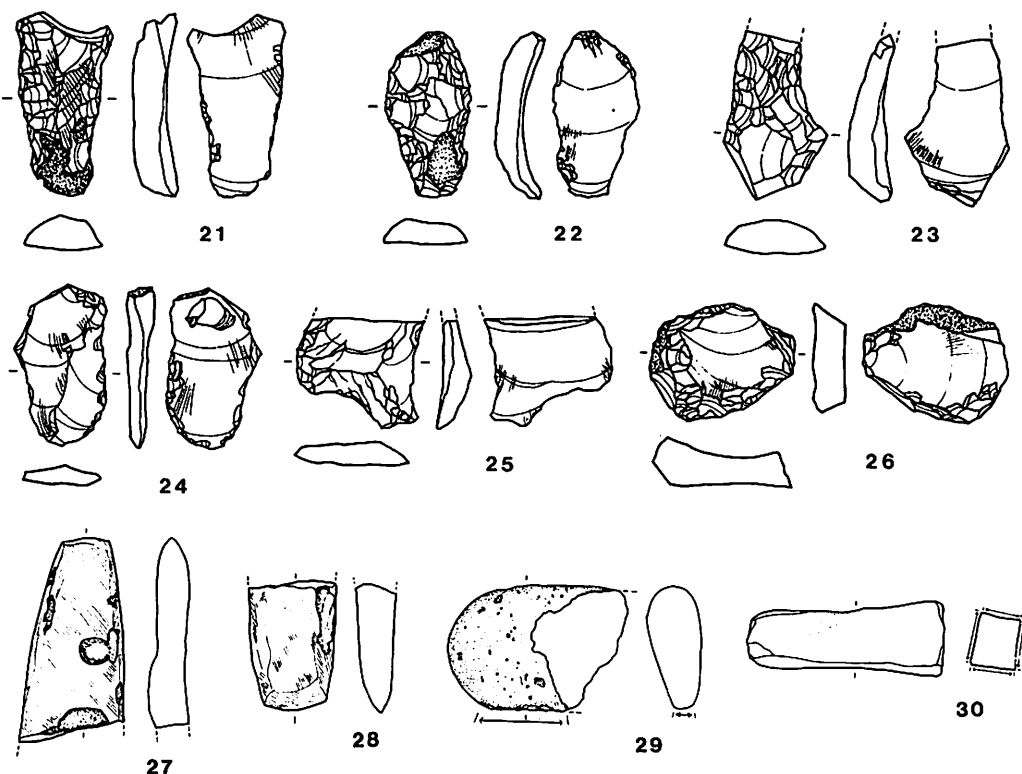
39



40



Ⅲ．遺構と遺構出土の遺物



調査区北端の尾根上の平坦部で、トレンチ調査によって検出された。Ⅳa1'層中につくられており、ローム層中に達していないために非常に不明瞭であったが、埋土に比べて、壁・床は粘性が強い黒色土であった。床面に検出されたピットは、埋土がやわらかい灰黒褐色土で、比較的明瞭であった。断面の形状からみて柱穴と考えられるが、配列は不規則である。

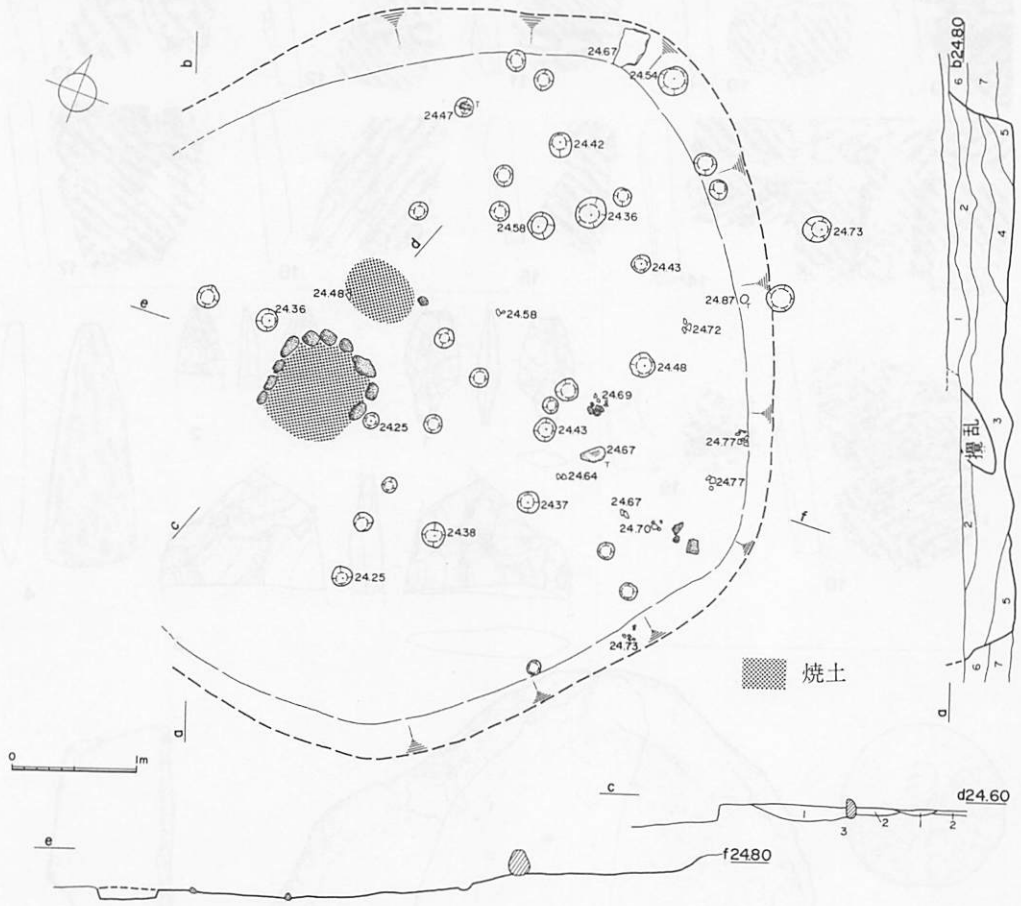
床面の中央南よりには、わずかの焼土が検出された。ほかの住居跡の例をみると、石囲い炉跡とも考えられるが、石は検出されず、抜き跡も確認されなかった。

本住居跡の北東外側では、Ⅳa1'層中にオレンジ色の火山灰があり、この上面から4個のピットが検出された。これは本住居跡をめぐる柱穴とも考えられるが、他の部分では火山灰の分布がなく、検出できなかった。

床面は南北方向にわずかに傾斜している。壁の立ち上がりは、20cmほどしか確認できなかったが、この住居の規模から推定すると、本来かなりの深さがあったものと考えられる。

この住居跡からは1,300点を超える遺物が出土しているが、床面出土のものはこのうち、約500点である。床面の北よりにはⅣ群a類の一括土器が出土している。

H-18



住居跡の層序

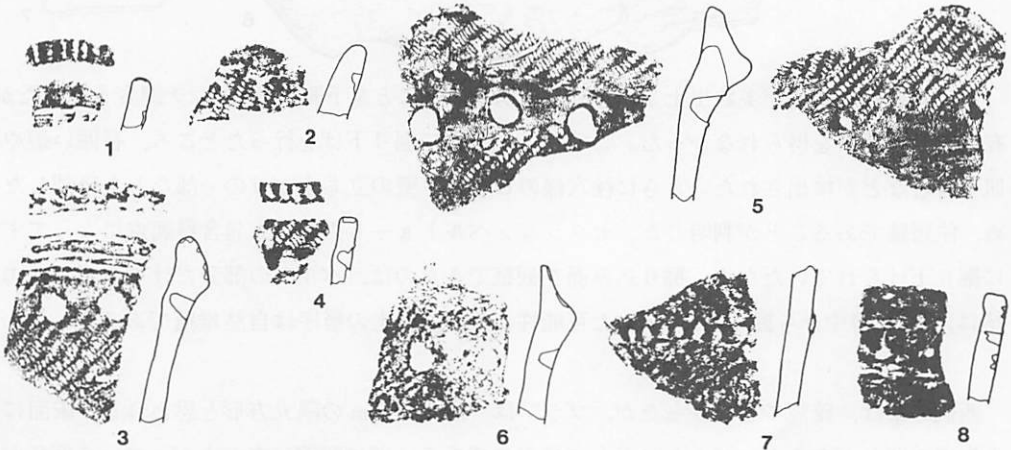
- 1 黒色土 (第Ⅲ層)
- 2 暗褐色土 (軽石を多く含む)

- 3 黒褐色土 (わずかに軽石を含む)
- 4 褐色土 (ローム粒と軽石を含む)

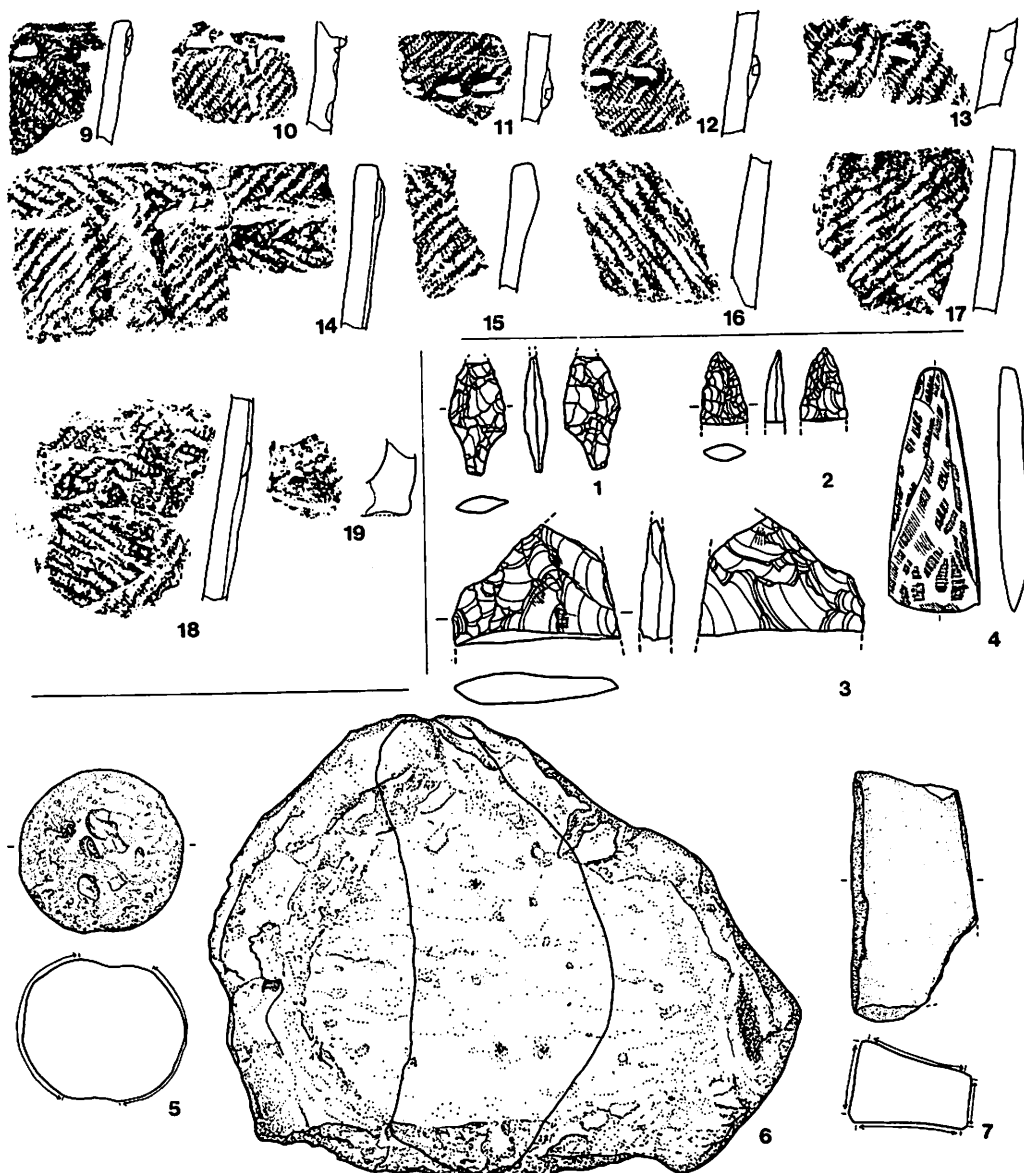
- 5 茶褐色土 (ロームブロックと砂を含む)
- 6 黒色土 (Ⅳa1層)
- 7 黄褐色土 (Ⅳa1'層)

石囲い炉跡の層序

- 1 焼土
- 2 黒色土
- 3 褐色土



Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物



包含層調査で遺物が多数出土したため、遺構があることを予測してトレンチ調査を行ったが、有力な手がかりを得られなかった。このため平面的に掘り下げを行ったところ、石囲い炉や石皿・台石などが検出された。さらに柱穴様のピット、壁の立ち上がりの一部などを確認したため、住居跡であることが判明した。セクションベルト a-b の西側も包含層調査によってすでに掘り下げられていたため、掘り込み面を観察できたのは、ベルトの部分だけである。この遺構は、Ⅳa1' 層中から掘り込まれていた可能性が強い。埋土の層序は自然堆積である。

西側の壁は、確認できなかったが、プランは一辺 4～5 m の隅丸方形と思われる。床面には小規模な凹凸があるが、ぜんたいとしては平坦である。壁は明瞭に立ち上がっている個所が少

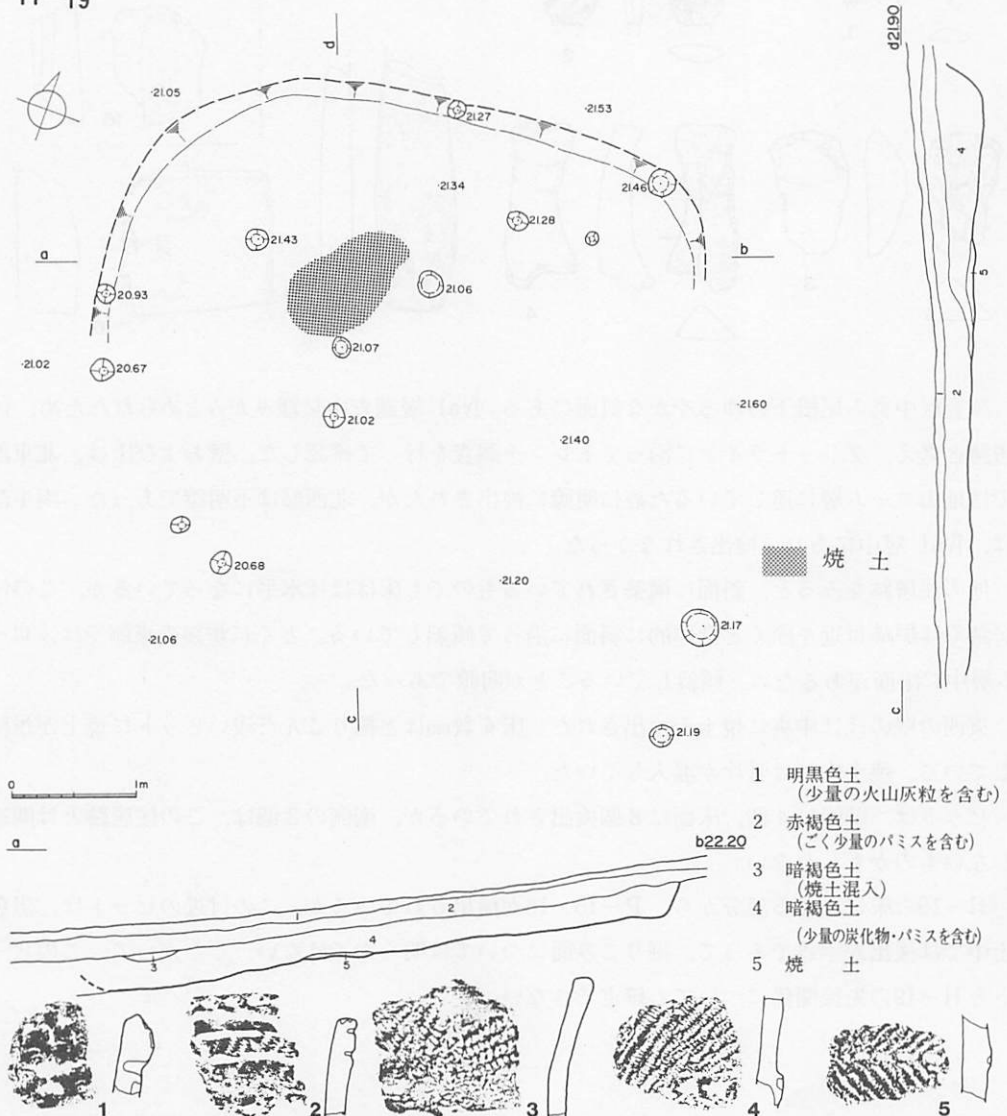
ないが、セクションベルト a-b では約 40 cm の高さであることがわかる。北側の隅の壁ぎわで検出された板状の台石は、壁の傾斜を示すかのように傾いた状態で出土した。

遺構のほぼ中央西よりに、コの字形に軽石や安山岩の礫を配置した石囲い炉がある。炭化物を多量に含んでいたが、焼土の量は、むしろ石囲い炉北側にある焼土の堆積の方が多い。

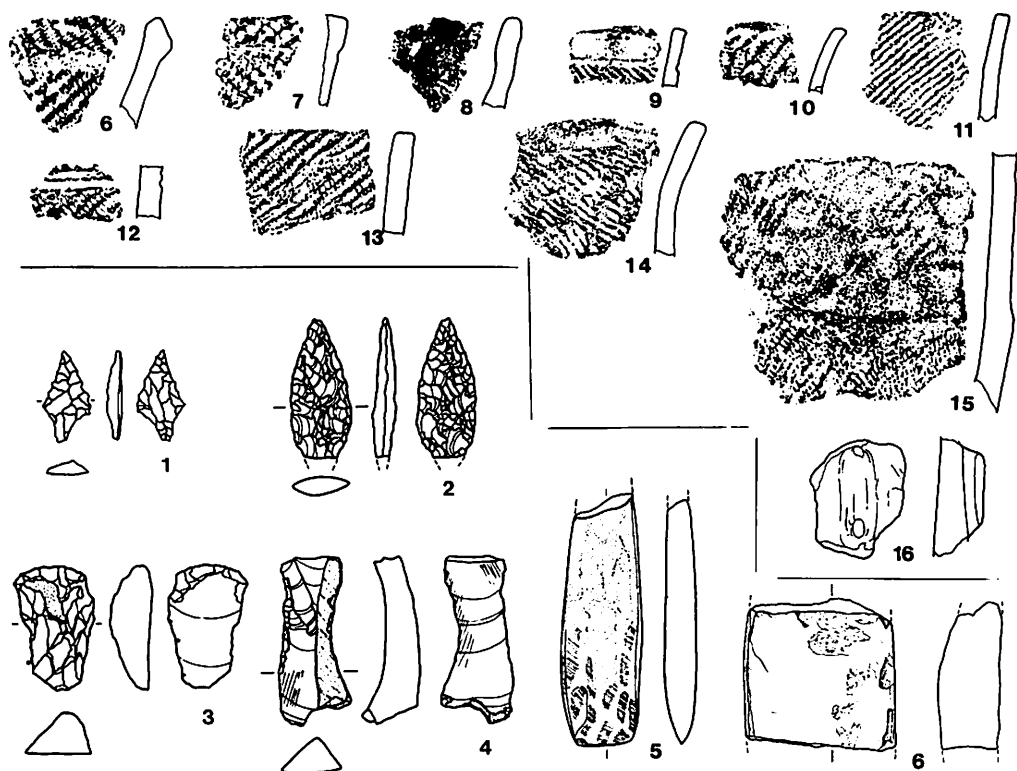
柱穴およびそれに類するピットは計 34 か所ある。ぜんたいに配列の規則性は見られない。

出土土器は、Ⅲ群 b-3 類・Ⅳ群 a 類が多い。貼付帯の横断面が三角形をなす資料が、石囲い炉の西の床面から一括出土している。同じく床面から北筒式の土器も出土している。

H-19



Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物



調査区中央の尾根下のゆるやかな斜面にある。Ⅳa1'層調査中に窪みがみとめられたため、住居跡と考え、グリットラインに沿ってトレンチ調査を行って確認した。壁および床は、北東部では地山ローム層に達しているために明瞭に検出されたが、北西部は不明瞭であった。南半部は、Ⅳa1'層中にあり、検出されなかった。

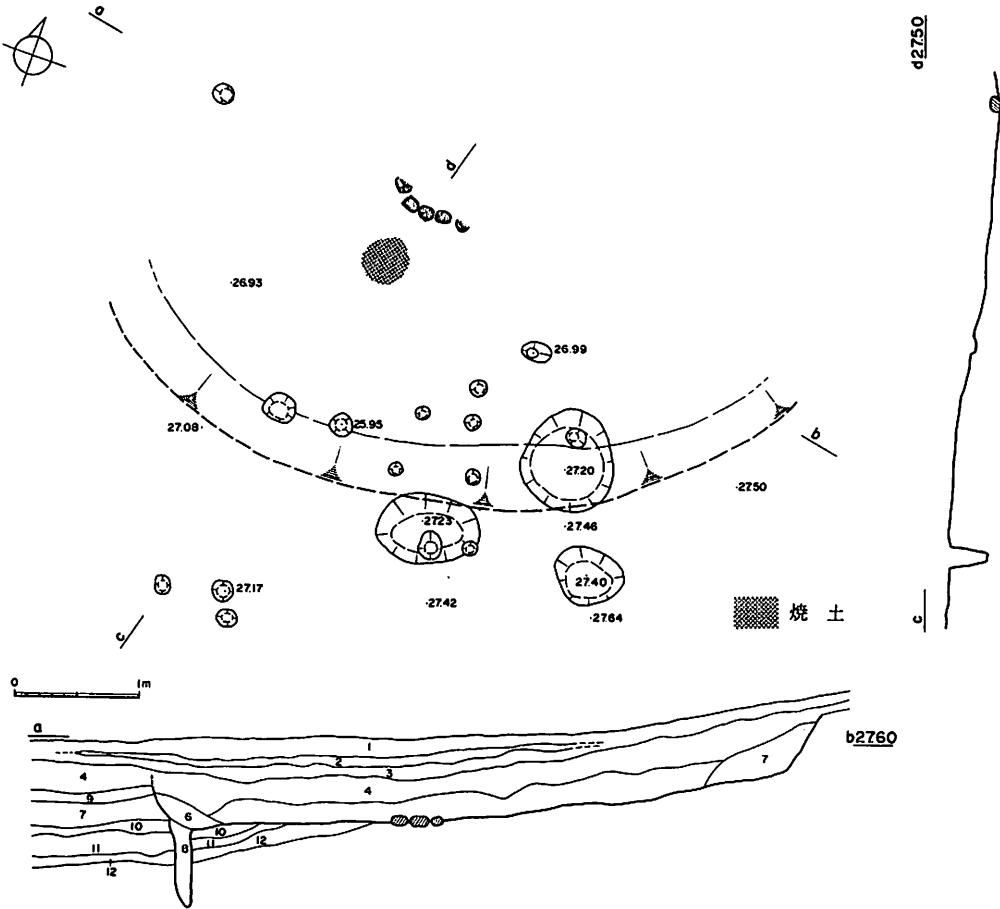
他の住居跡をみると、斜面に構築されているものでも床はほぼ水平になっているが、この住居跡では炉跡付近を除くと全体的に斜面に沿って傾斜している。とくに炉跡の東側では、ローム層中に床面があるため、傾斜していることが明瞭であった。

東西の壁のほぼ中央に焼土が検出された。床を数cmほど掘りこんだ浅いピットに焼土が堆積している。焼土内には骨片が混入していた。

ピットは、壁際に4個、床面に8個検出されているが、南側の3個は、この住居跡とは関連しないものかもしれない。

H-19の床にあたる部分から、P-15・16が検出されているが、この付近のピットは、黒色土中では検出が困難であって、掘りこみ面については明らかではない。したがって、このピットとH-19の先後関係についても確定できない。

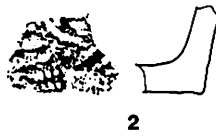
H-20



- | | | | |
|---------------------------|-------------------------|--------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色腐植土
(灰色火山灰を含む) | 4 黒褐色腐植土
(軽石をわずかに含む) | 7 黒褐色腐植土
(軽石粒が上層より多い) | 10 暗黒褐色土 |
| 2 赤色火山灰 | 5 暗褐色土
(軽石粒を含む) | 8 黒褐色土
(ボロボロしている) | 11 黄色火山灰 |
| 3 黒色腐植土
(灰色火山灰をわずかに含む) | 6 壁の崩落土 | 9 黒褐色腐植土 | 3 暗褐色土
(軽石粒をわずかに含む) |



1



2



3



4



5



6

Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

調査区北端東側のゆるやかな斜面にある。Ⅳa1'層下部で確認された。円形あるいは楕円形の住居跡と考えられるが、北東半部は調査区外にあるため、検出されたのは南東側のみである。この遺構のセクションはほかの住居跡と比較すると、非常に明瞭であった。床面は東の山側で高く西側では低くなっており、ほぼ平坦ではあるが、ぜんたいに傾斜している。

中央西よりに石囲い炉の一部が発見されている。他の住居跡にみられるような方形の炉跡と考えられるが、検出されたのは南東辺のみで、大部分が調査区外にある。また、この炉跡の南東側に焼土がわずかに検出された。壁は斜めに立ち上がっており、西壁の断面には下部に柱穴がみえている。

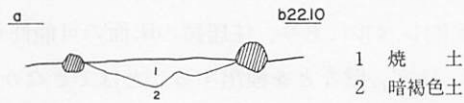
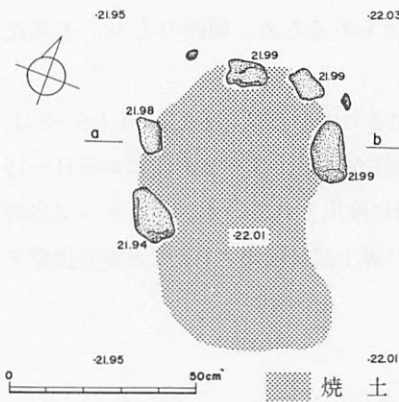
埋土は軽石を含む暗褐色土で壁ぎわには壁の崩落土と考えられる堆積がある。2・3・4層は遺構外から連続しており、周囲から流れこんだものであろう。柱穴内の埋土は黒褐色土で、下部では粒状になっている。この柱穴断面には掘り方はみえず、先を削った木を打ちこんだものらしい。住居の外にわずかに傾いており、先端は地山ローム層に達している。

H-20はこのように断面では明瞭に確認されたが、平面では検出は非常に困難で、Ⅳ層下部になってその輪郭を確認できた。とくに斜面下側では壁・床は判断できなかった。南壁付近には大小のピットが検出された。

この住居跡の北東には、沢が調査区外にのびている。H-20が検出された付近は、この沢の開口部にあたり、調査区北側の尾根と交差している。沢は調査区外で広がっており、平坦部があることから推察すると、遺跡はこの方向へ続いていると考えられる。

2. 石囲い炉

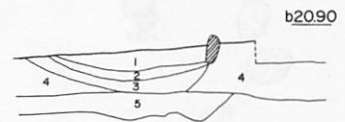
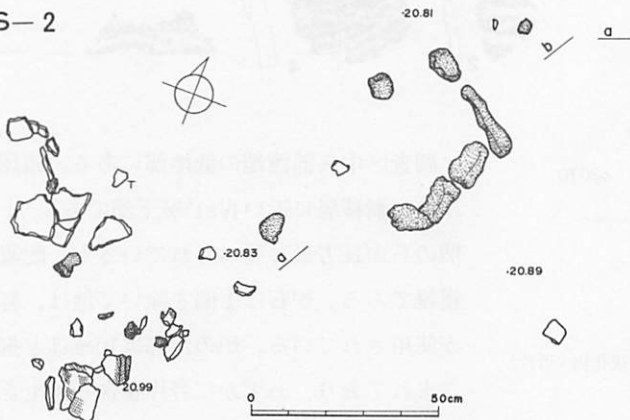
S-1



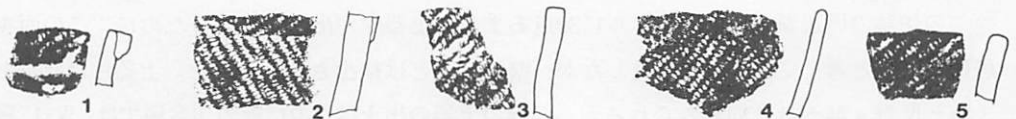
調査区北部の尾根の南西斜面に位置する。Ⅳa1'層を中位まで掘りこんだ段階で検出した。長径10~20cmほどの礫・軽石を用いて、南方の低地へ開く馬蹄形状に作られている。本炉跡にともなうと考えられる遺物は出土していないが、周辺からはⅢ群b-3類・Ⅳ群a類の土器片が出土している。

住居内に設けられたものと考えて、炉跡を中心として放射状に数本のトレンチを掘り進めたが、壁を検出することはできず、ピットも発見されなかった。しかし、本遺跡ではⅣa1'層の下部に生活面は検出されておらず、この層、およびそれ以下につくられている他の炉跡は住居跡にともなうものであることから、本炉跡も住居跡にともなう可能性があろう。

S-2



- 1 黒色土+炭化物
- 2 焼土
- 3 黒色土
(焼土粒・パミス混)
- 4 黒色土
- 5 黒褐色土



調査区中央の尾根下の低地部にある。包含層調査中にⅣa1'層上部に確認された。

北辺に2個、東辺に3個の石が配置されているが、これ以外には西辺の1個のみである。おそらく長方形をなすものと考えられるが、炉石の抜き跡は確認されなかった。炉石は南東端の1個のみが軽石で他は安山岩が使用されている。

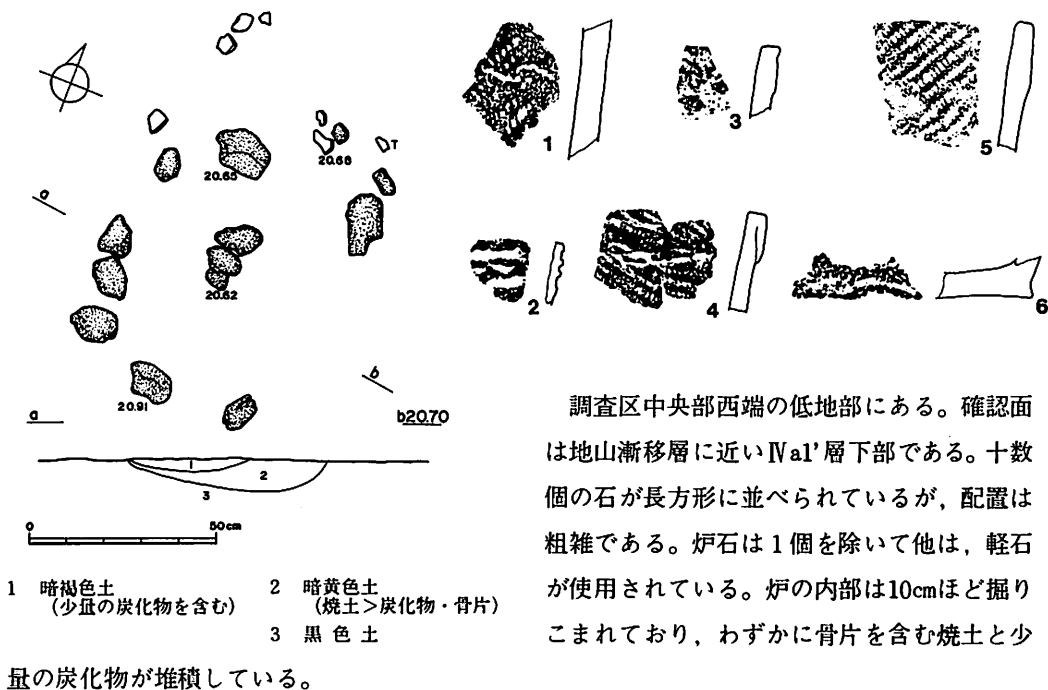
Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

内部は皿状に掘りこまれており、埋土は3層に分かれる。炭化物は第1層に多く、焼土は第2層である。第3層にも焼土が混入している。

この炉跡の南西側にはⅣ群a類とb類に相当する土器片が集中して出土した。炉石とこの土器片はほぼ同レベルにあり、住居跡の床面の可能性が考えられるため、周囲のトレンチ調査を行ったが、柱穴、壁などを検出することはできなかった。

調査区内では住居にともなわない石囲い炉が3箇所検出されている。しかしS-1とS-3は、検出された層位から判断すると、住居内に設けられた可能性が強い。S-2の北にあるH-19では掘りこみ面がⅣa'層上部にあり、炉跡は、この層の下部に検出されている。したがって当時の生活面はⅣa'層上部にあったと考えられ、S-2がⅣa'層上部に検出されたことから推察すると、住居外につくられた炉と考えるのが妥当であろう。

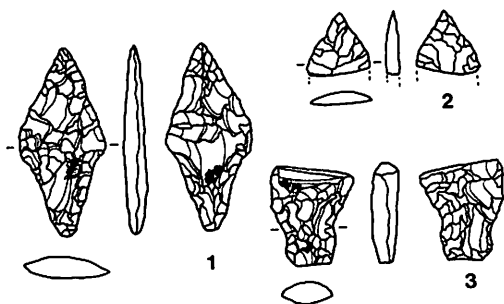
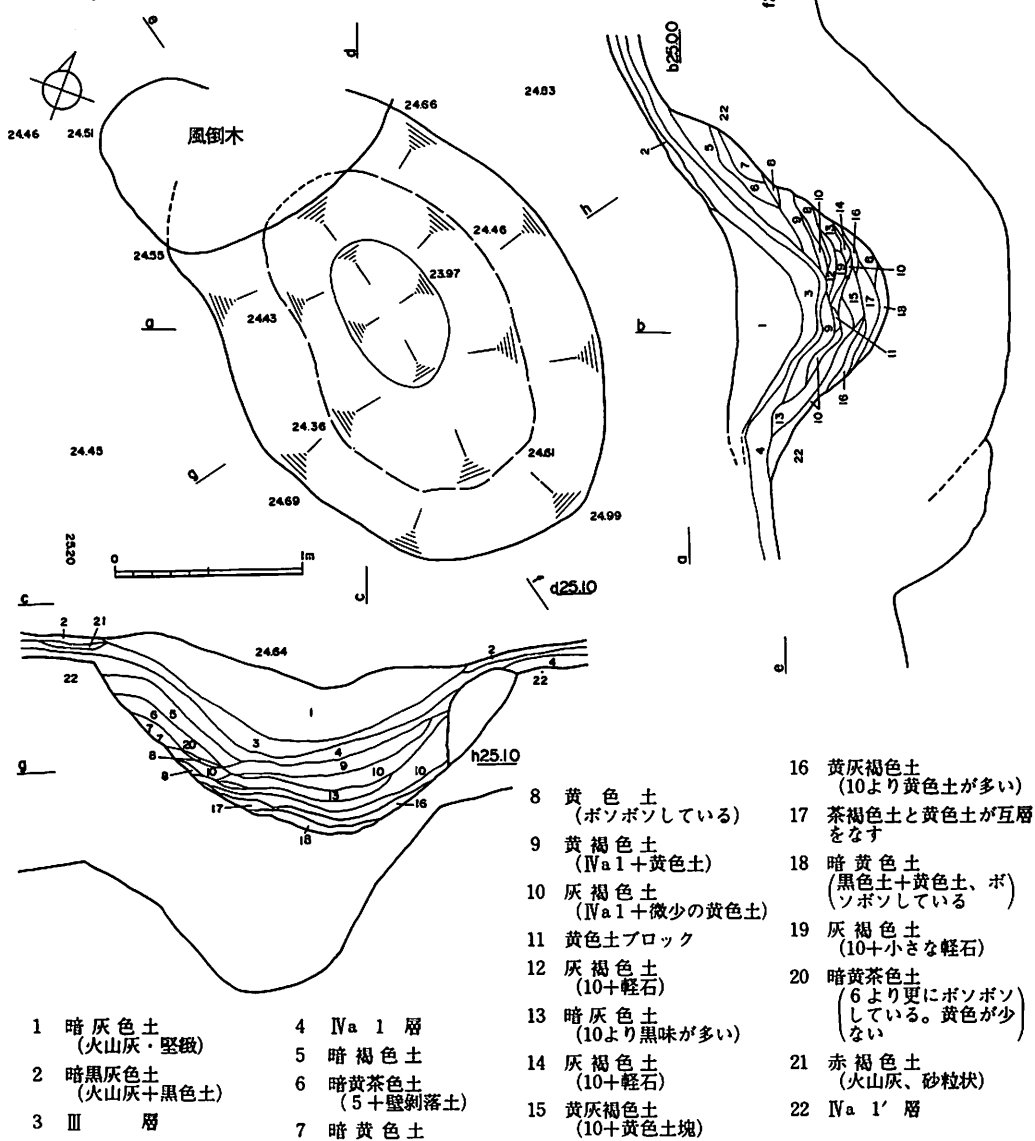
S-3



この炉跡の周辺からは、同レベルに30点あまりの土器片が出土しているために、この面を住居跡の床面と考えて、周辺を調査したが、壁柱穴などは検出されなかった。土器片はⅢ群b-3類とⅣ群a群がほぼ同数みられるが、同様の土器の出土はこの付近の包含層では、Ⅳa'層上部に多いことから石囲い炉の周辺の土器を検出した面は、住居の床面である可能性が強い。他の住居跡の多くが、Ⅳa'層上部から掘りこまれていることから推察しても、この炉跡も、住居内に設けられたと考えるのが妥当であろう。

3. 土 壤

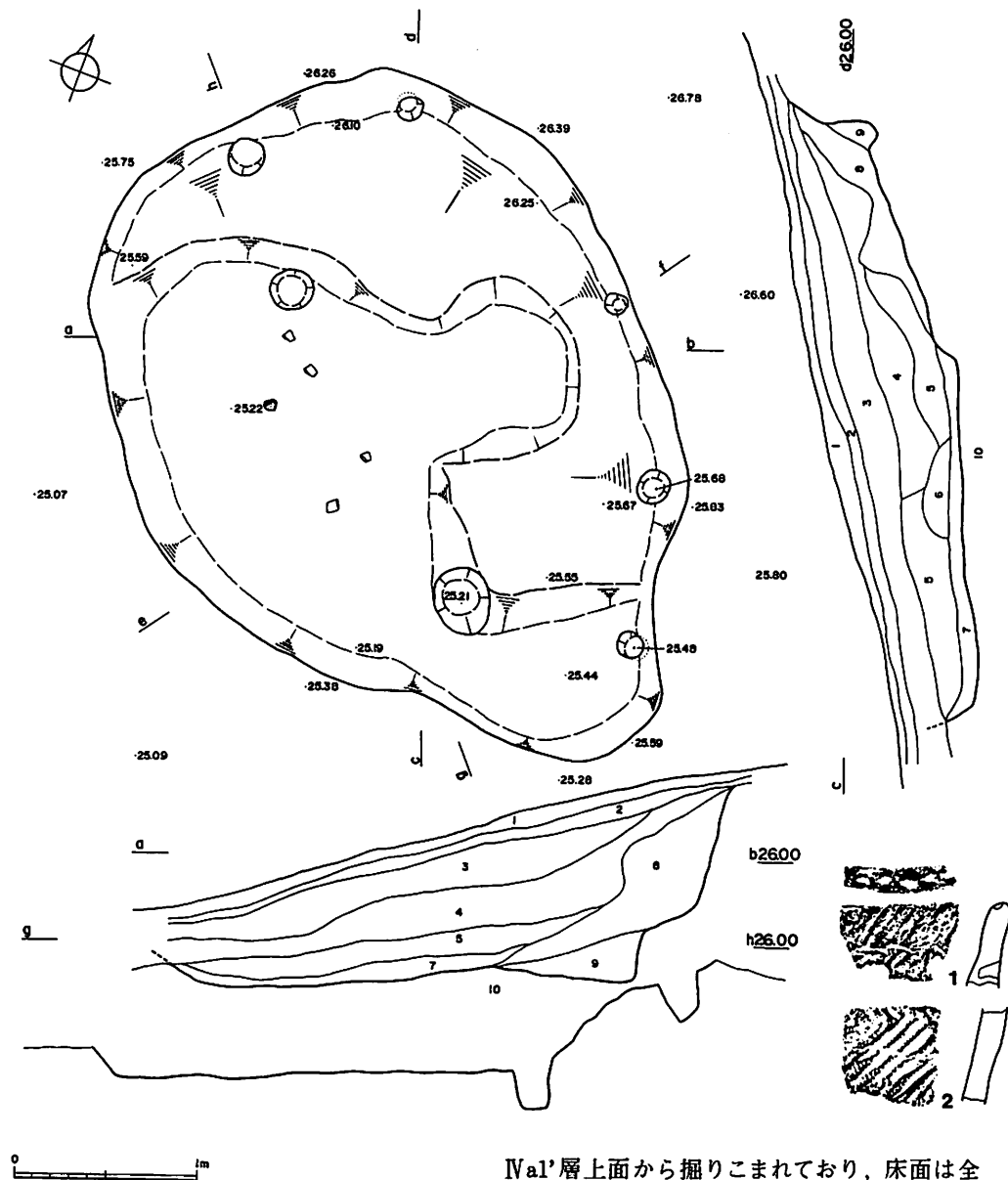
P- 1



第Ⅱ層除去の面で径約1mの窪みがみられた。第Ⅲ層との間に堅い暗灰色の火山灰が厚く堆積していた。掘りこみ面はⅣa'層上面で、地山を深く掘りこんでいる。出土遺物はⅣa'層直下の石鏃・石鏃の破損品、埋土中層につまみ付きナイフの破損品の3点のみであるが、いずれも流れこみによるものと思われる。

Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

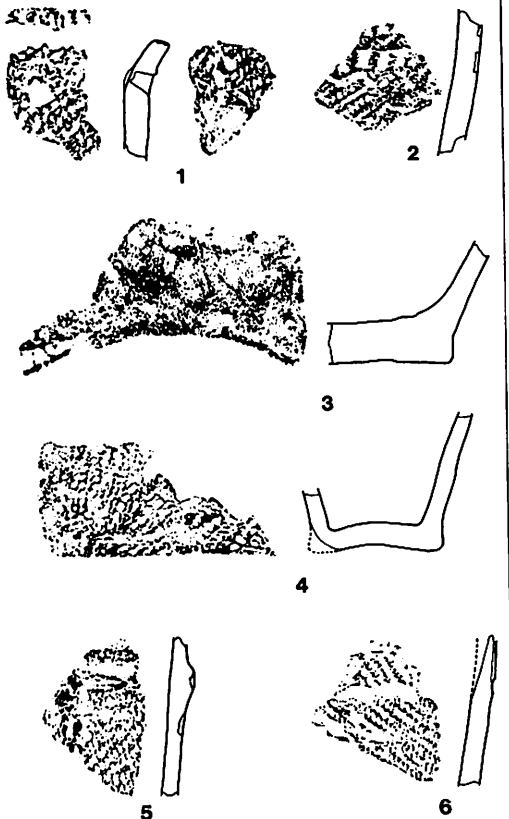
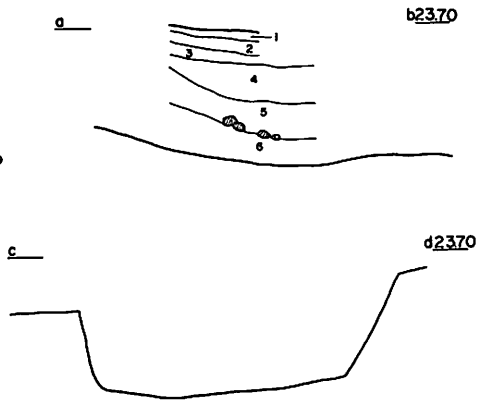
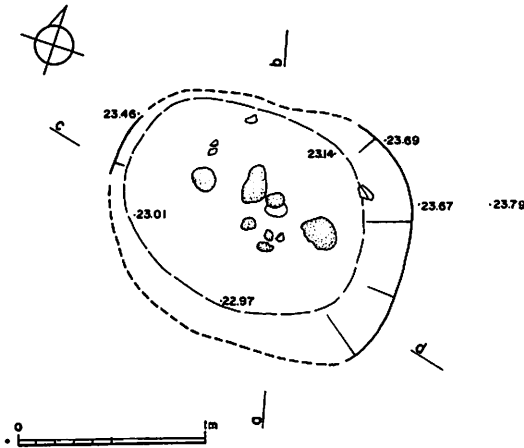
P-2



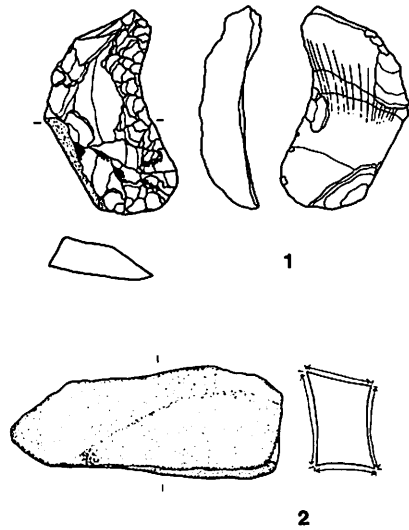
- | | |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 1 Ⅲ 層 | 7 暗黄灰色土
(黄色土+軽石) |
| 2 Ⅳa1 層 | 8 黒色土
(粘質) |
| 3 暗茶褐色土
(少量の軽石を含む) | 9 暗茶灰色土
(多量の軽石、ボンボ
ソシ粒子が粗い) |
| 4 暗茶褐色土
(多量の軽石を含む) | 10 地 山 |
| 5 暗黄灰色土
(多量の軽石を含み砂粒) | |
| 6 暗黄灰色土 | |

Ⅳa1'層上面から掘りこまれており、床面は全体的に平坦である。北・東壁はゆるやかに、北東壁はほぼ垂直に立ち上がっている。床面に2個、山側の壁には、浅く、内側に傾く5個のピットが検出された。遺物は床面上より、口縁下方に刺突をめぐらし、口唇部に押し引きのある土器片が出土している。床面およびピットの状況から判断すると住居跡の可能性もある。

P-3



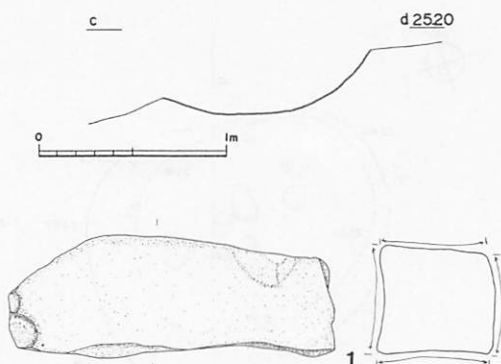
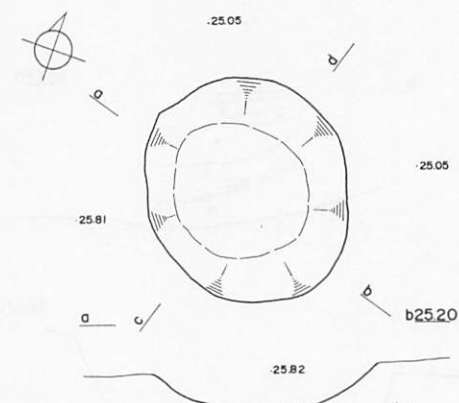
- | | |
|-----------------------|----------------------------------|
| 1 第Ⅲ層 | 4 暗灰褐色土
(0.5~2mmの軽石を
多く含む) |
| 2 第Ⅳa1層 | 5 暗灰褐色土
(少量の軽石を含む) |
| 3 茶褐色土
(わずかに軽石を含む) | 6 暗茶灰色土
(粘質) |



H-9の調査過程で検出された。掘りこみ面はⅣa1'層上面で、埋土はⅣa1'層・黄色土・軽石が混在し、とくに5層は大小の軽石・炭化物が多量に含まれている。床面には凹凸があり、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。遺物は5層と床面上に多く、軽石・炭化物も検出されている。

H-7, H-9より新しく、埋土の堆積状況より判断すると土墳墓と考えられる。

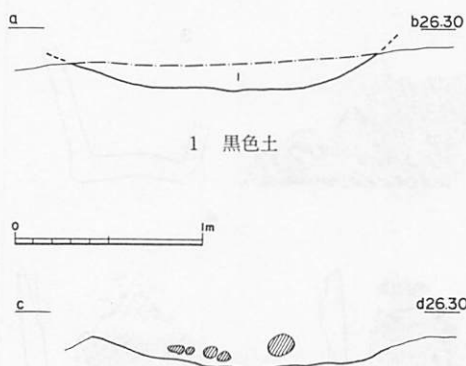
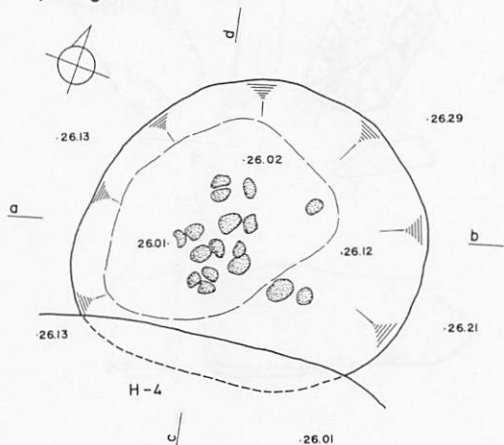
P-4



あり、上部は流失した可能性がつよい。

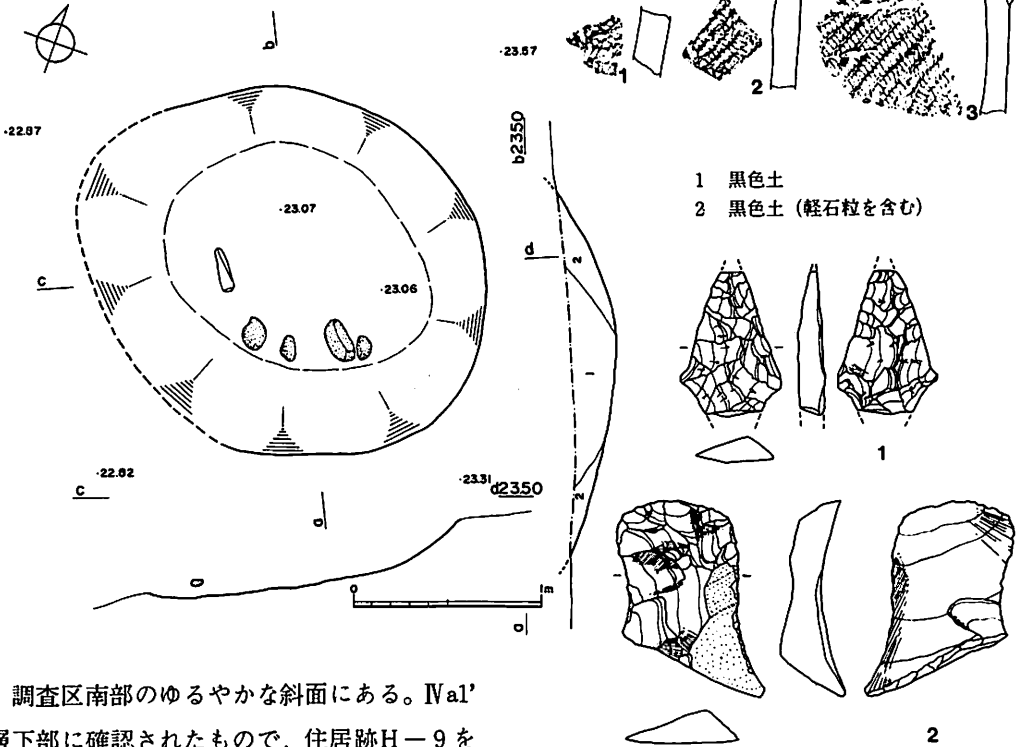
中央の尾根南側の斜面にある。ローム層上で確認されたもので、埋土は黒色土である。円形の浅い皿状ピットで、坑底はほぼ水平になっている。坑底からⅣ群 a 類に相当する同一個体の土器片が出土している。埋土中からは砥石が一点出土した。このピットは急斜面に

P-5



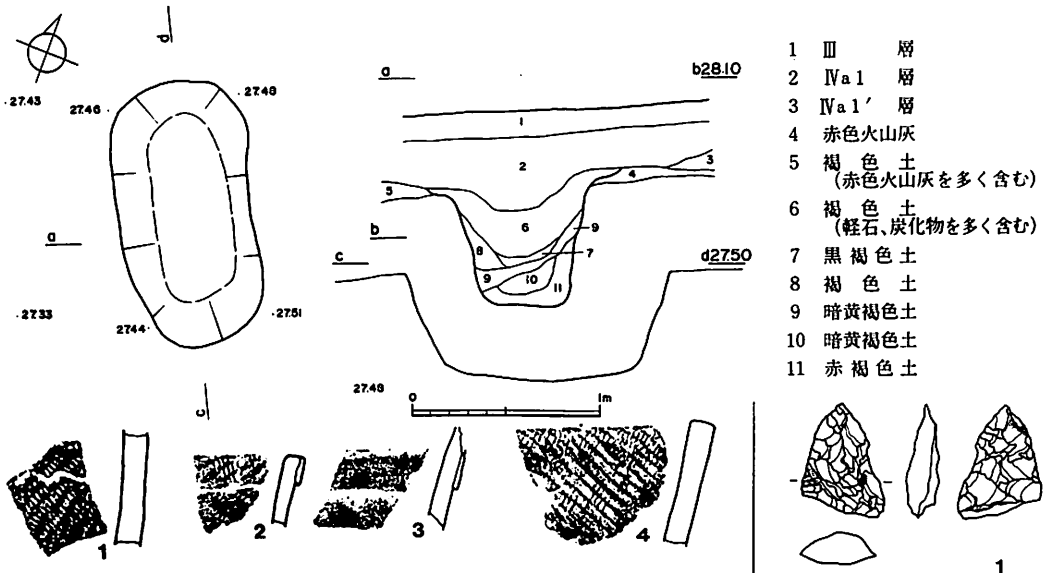
調査区南東部のゆるやかな斜面にある。Ⅳa1'層下部で確認され、坑底もこの層の中にある。形状はほぼ円形、浅い皿状のピットである。埋土は黒色土である。埋土中の坑底近くには、径10cmほどの軽石が10数個出土したが、土器片・石器などはない。このピットは住居跡H-4によって切られている。

P-6



調査区南部のゆるやかな斜面にある。Ⅳa1' 層下部に確認されたもので、住居跡H-9を切って掘りこまれている。坡底および埋土最層下部から、こぶし大の礫とⅢ群b-3類に相当する土器片が出土している。石器は、やり先・スクレイパーが出土している。

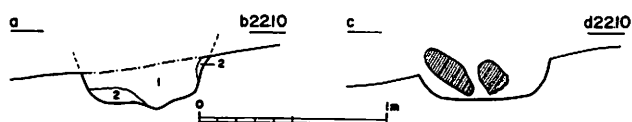
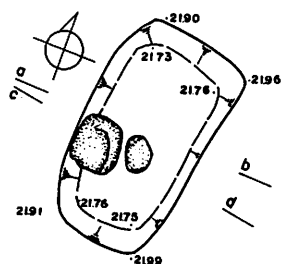
P-7



Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

調査区北端の尾根上平坦部にある。Ⅳa1'層中の赤色火山灰層上から、地山ローム層中に深く掘りこまれている。形状は隅丸長方形に近いもので、深さは約60cm、床は中央がやや低くなっているが、ほぼ水平である。7層から11層の褐色を帯びた黒色土は人為的に埋め戻されたものと考えられ、形状からみても墓墳と推定されるが、人骨・ベンガラなどは検出されていない。

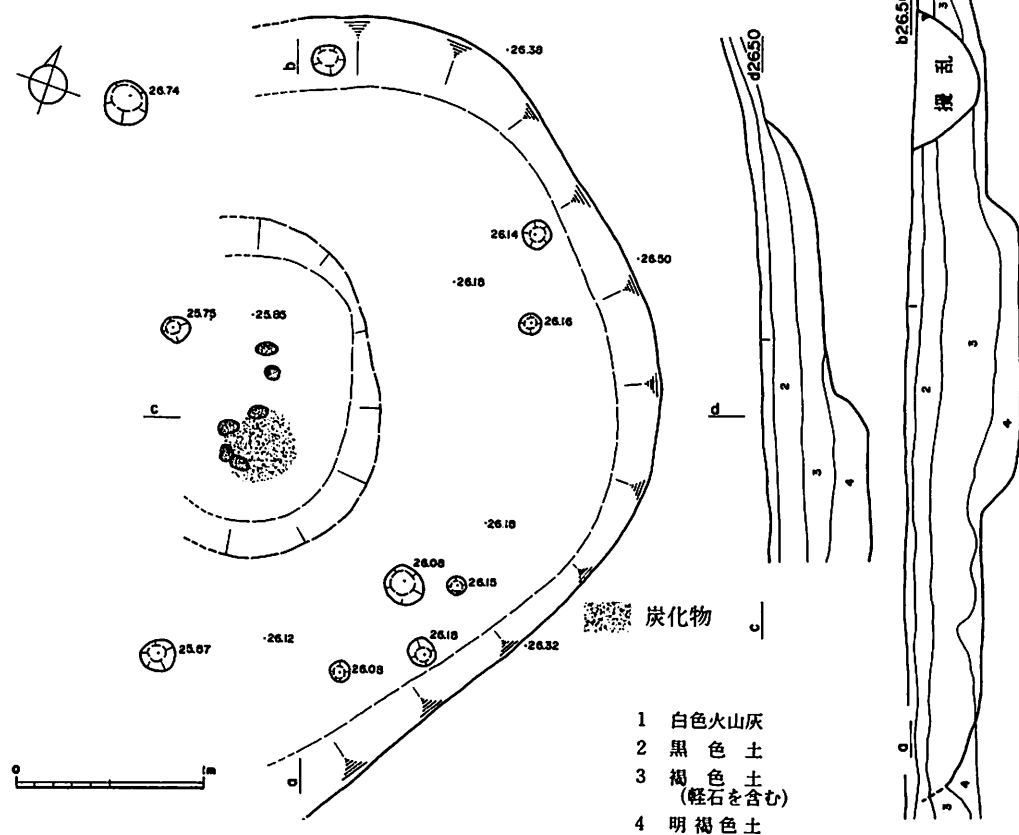
P-8

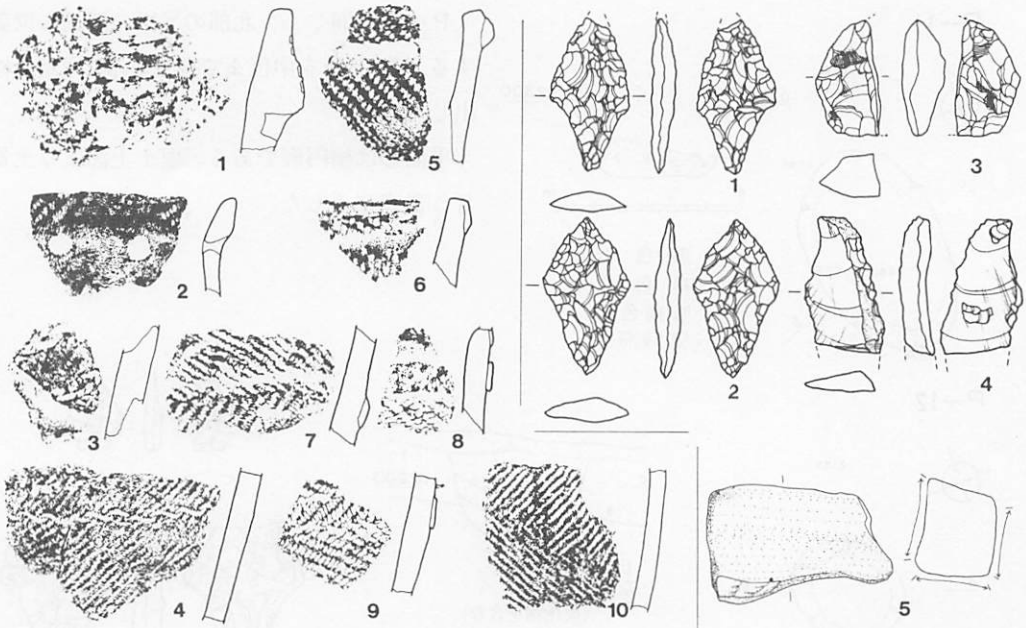


1 黒色土 (わずかにローム土混入) 2 黒色土 (多量にローム土混入)

中央の尾根裾部の緩斜面に検出された。確認面は地山漸移層である。形状は隅丸長方形で、長軸主向はN-5°-Eである。床はローム層に達しており、ほぼ水平。壁は斜めに立ち上っているが、上部は垂直に近かったものと思われる。石が2個出土しているが1個はすり石である。形状からみて墓墳の可能性があろう。

P-9



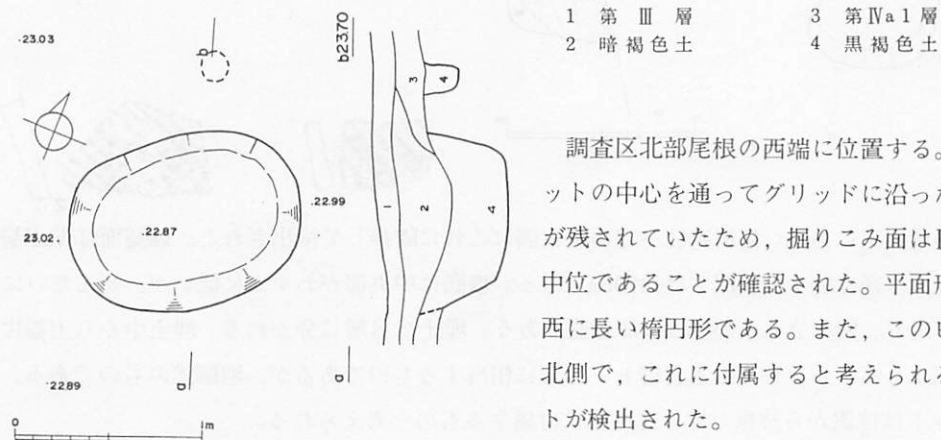


調査区北端の尾根上のゆるやかな斜面にある。確認面はⅣa1'層下部であるが、グリッドラインに沿ったベルトのセクション観察によって、Ⅳa1'層上部から掘りこまれていることが判明した。径約4mの皿状のピットであるが、南半部は検出することができなかった。床面のほぼ中央に長径約1.8mの浅いピットがある。このピット中の東よりには炭化物を含む焼土があり、周辺から6個の礫が出土した。また上段の床面に7個、壁に1個の柱穴状ピットがある。

本遺構の礫をとまう焼土、柱穴状のピット、あるいは規模などから推察すると、住居跡の可能性もあろう。

床面および床面近くから、Ⅲ群b-3類・Ⅳ群a類に相当する土器片が出土している。やり先・砥石などの石器も出土している。

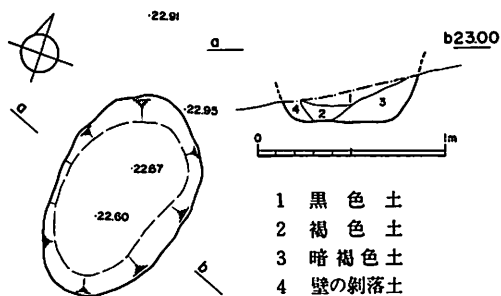
P-10



調査区北部尾根の西端に位置する。このピットの中を通過してグリッドに沿ったベルトが残されていたため、掘りこみ面はⅣa1'層中位であることが確認された。平面形は、東西に長い楕円形である。また、このピットの北側で、これに付属すると考えられる小ピットが検出された。

Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

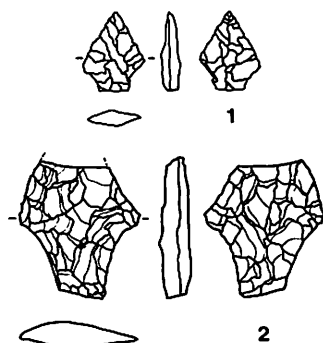
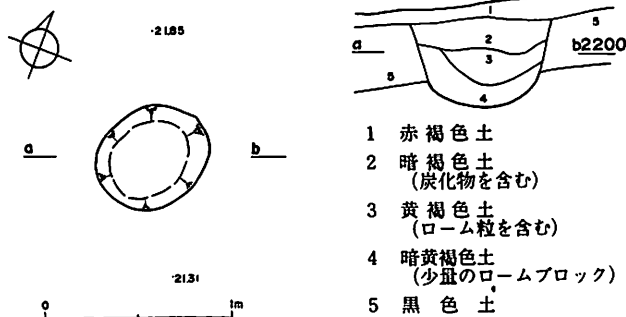
P-11



P-10と同じく、北部の尾根の西端に位置する。Ⅳa1'層を中位まで掘りこんだ段階で検出した。

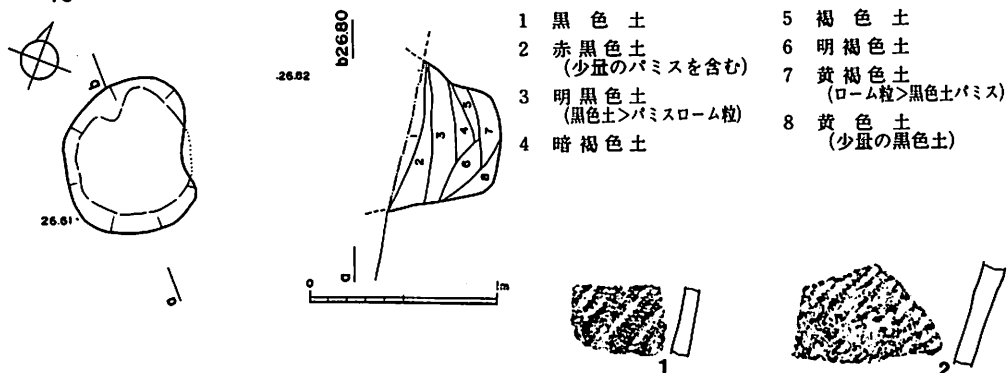
平面形は楕円形である。埋土上部より土器片が数点出土した。

P-12

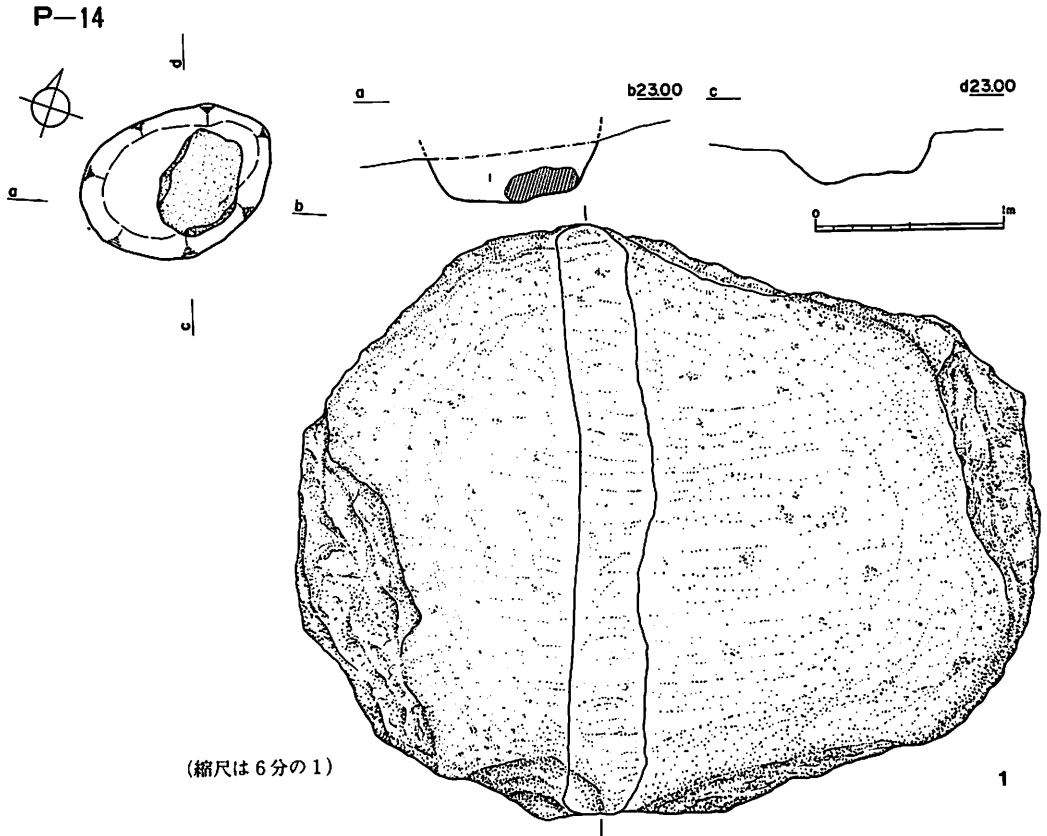


調査区南西隅の平坦部にある。掘りこみ面はⅣa1'層上面で、地山ローム層に達している。径約70cm、深さ50cmの円形のピットだが、セクションベルト以外の部分では、地山漸移層上面でしか確認できなかった。坡底からⅢ群b-3類の土器片と、石鏃・やり先などが出土している。

P-13

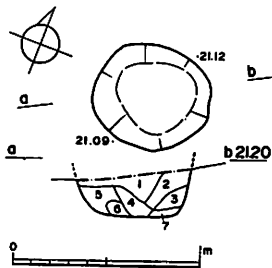


中央の尾根上にある。住居跡H-15の南東側にこれに隣接して検出された。確認面はⅣa1'層下部である。径は約1m、深さは約70cmである。坡底は中央部がわずかに低い、ぜんたいには平坦に近く、壁の立ち上がりはほぼ垂直である。埋土は8層に分かれる。埋土中から土器片が2点出土している。いずれもⅢ群b-3類に相当するものであるが、別個体のものである。このピットは位置から推察して、H-15に付属するものと考えられる。



H-16の床面を調査中に検出した。このため上部の形状、H-16との先後関係は明らかにできなかった。埋土は軽石をまばらに含む暗褐色土で、下部に黄褐色土がわずかに混入している。平面形はやや歪んだ楕円形である。墳底にはわずかな凹凸がある。土壌内東側の底面から石皿が裏返しにされた状態で検出された。本遺跡で石皿が出土した土壌はこの一例だけである。この石皿は約60×45cmの大きなもので、今回出土した石皿の中で最も大きいものである。板状の礫を用いて、一面なめらかに、中央部がやや窪むように丁寧に擦っている。周辺を一部打ち欠いた跡があるほかは、裏面ともに整形痕はみられない。他に遺物は出土していないが、土壌の形状、石皿の出土状況からみて墓域と考えられる。

P-15

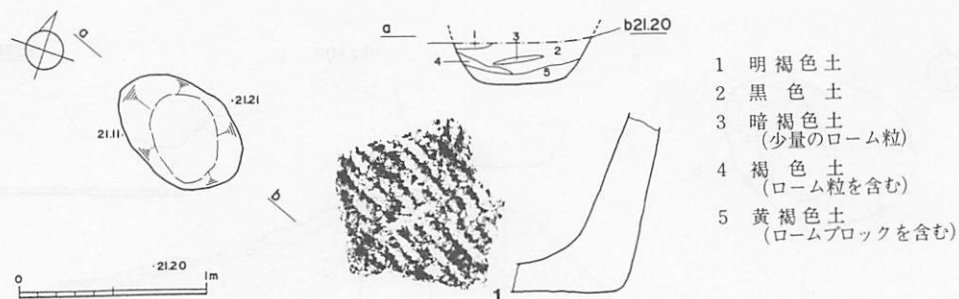


- | | | |
|-------------------------------|--------------------------|---------------------|
| 1 明褐色土
(ローム粒>黒色土) | 4 褐色土
(ロームブロックを含む) | 7 明黒色土
(少量のローム粒) |
| 2 黒色土 | 5 暗褐色土
(黒色土>ローム粒) | |
| 3 暗茶褐色土
(ローム粒・ロームブロック>黒色土) | 6 茶褐色土
(ロームブロック、ローム粒) | |

中央部尾根下のゆるやかな斜面にある。P-16と並んで、地山漸移層上に確認された。この位置は住居跡H-19の床面にあたるが、先後関係については明確にできなかった。

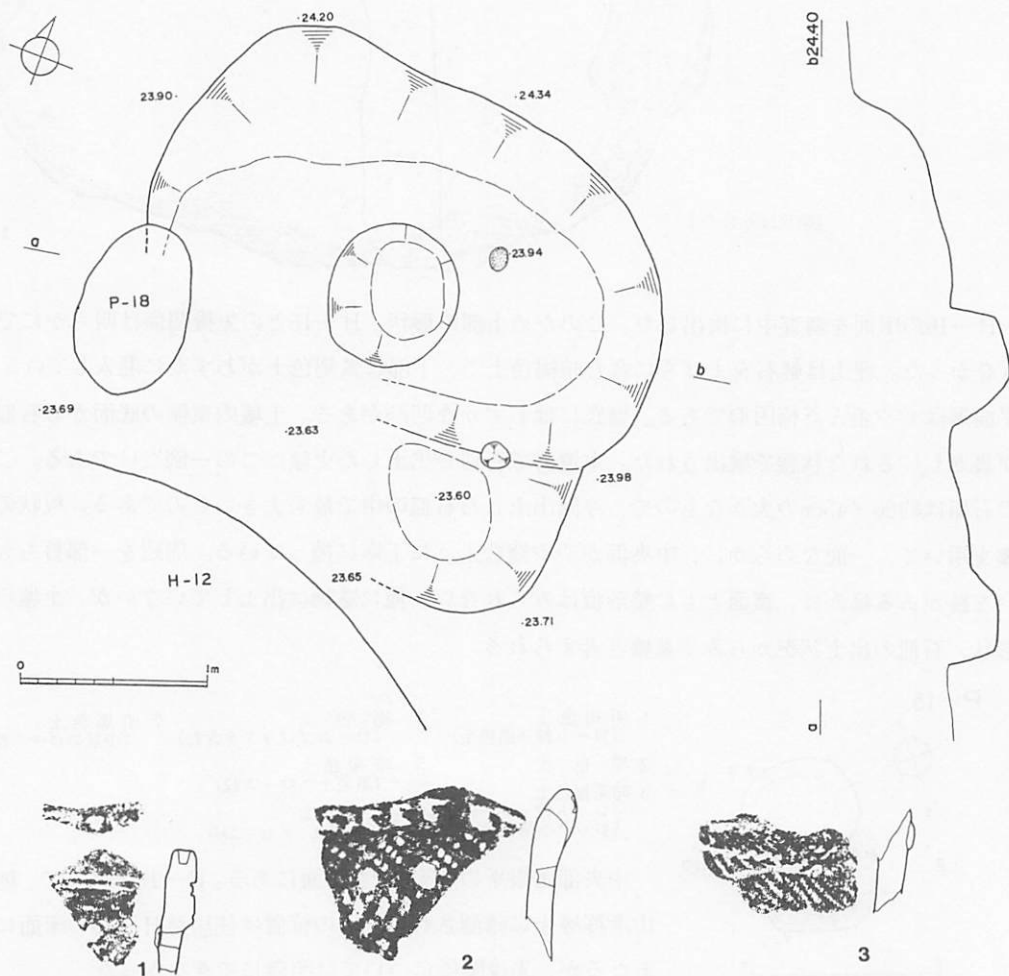
Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

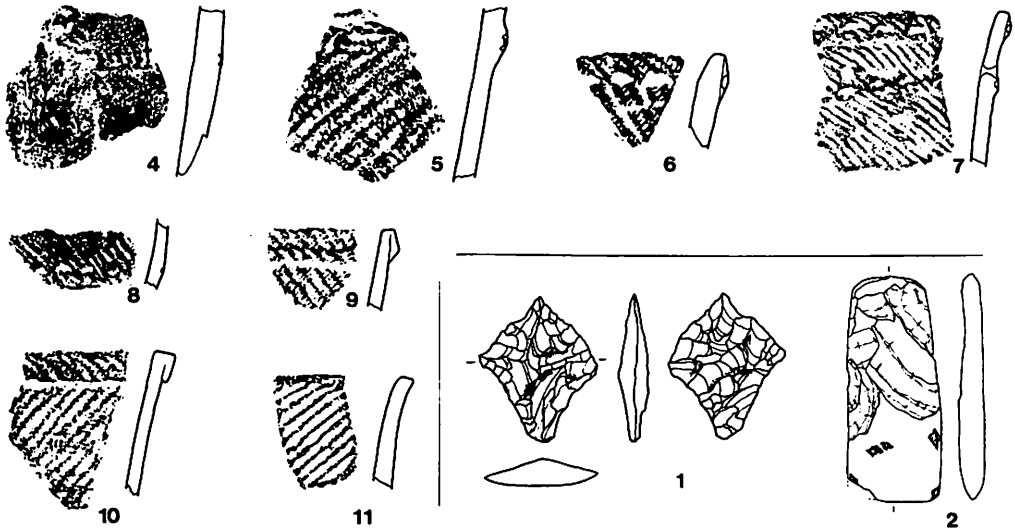
P-16



P-15の南東約1mにあつて、規模・形状ともにこれと類似している。しかしP-15では遺物の出土が皆無であつたのに対し、このピットでは壙底から、土器片8点が出土している。いずれもⅢ群b-3類に相当するもので、接合はできないが同一個体の破片である。

P-17





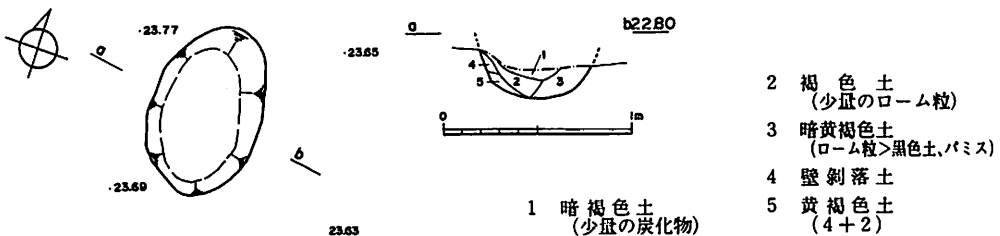
調査区北部の地山漸移層上で確認された。埋土は黒褐色土である。斜面を地山ロームまで掘り下げて構築されている。南側には一段低い部分があるが、南西部はⅣa1'層にあって、確認できなかった。上段の中央には、径約60cmのピットがある。上段の皿状の部分とは別個の遺構と考えて調査したが、埋土が連続しているために、同一遺構と判断した。

床面は斜面に沿って傾斜しており、炉跡も検出されていないことから推察すると、住居跡とはみとめられない。しかし今回の調査では他に、これに類する遺構は発見されておらず、どのような性格の遺構か判断は困難である。

埋土中から、Ⅲ群b-3類、Ⅳ群a類に相当する土器片が多数出土しているが、復元できるものはなく、多数の個体の破片が混在している。また石器類も各種出土している。

本遺構は、P-18によって切られている。

P-18

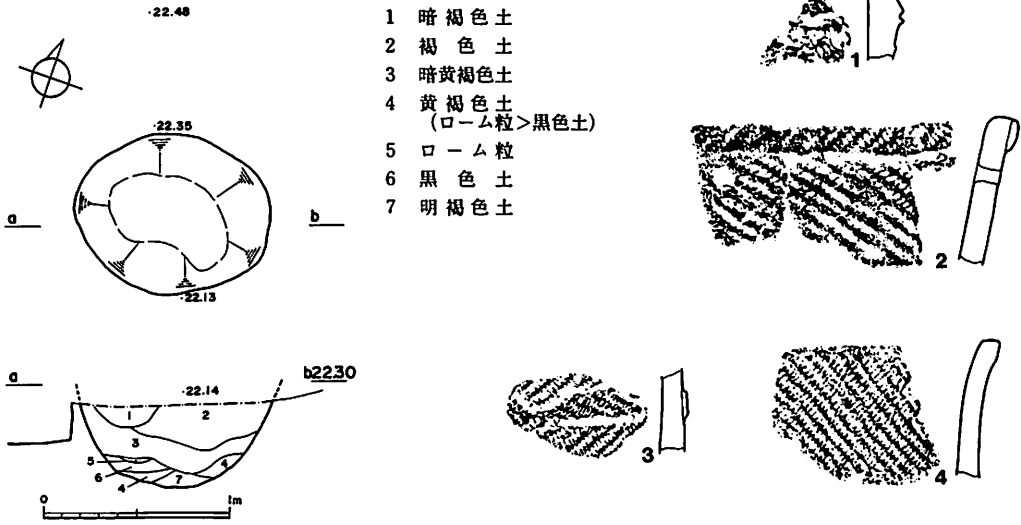


調査区北部の斜面に検出された。確認面はⅣa1'層中である。形状は楕円、断面形は皿状である。埋土上部は暗褐色土で炭化物を混入している。壕内から遺物は出土していない。

このピットは、P-17の西端部を切って掘りこまれている。

Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

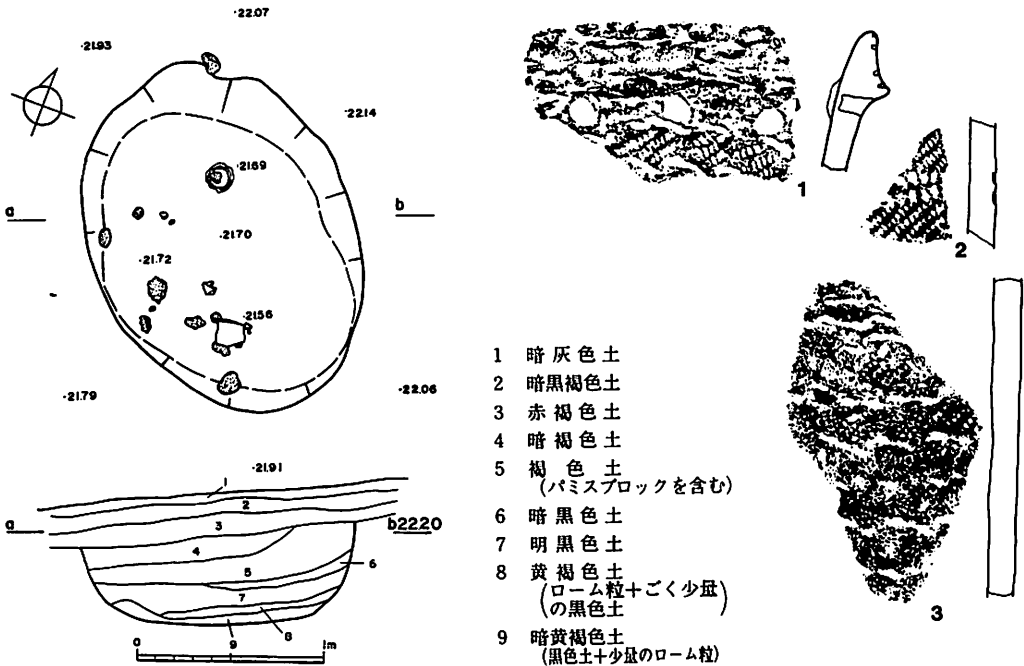
P-19

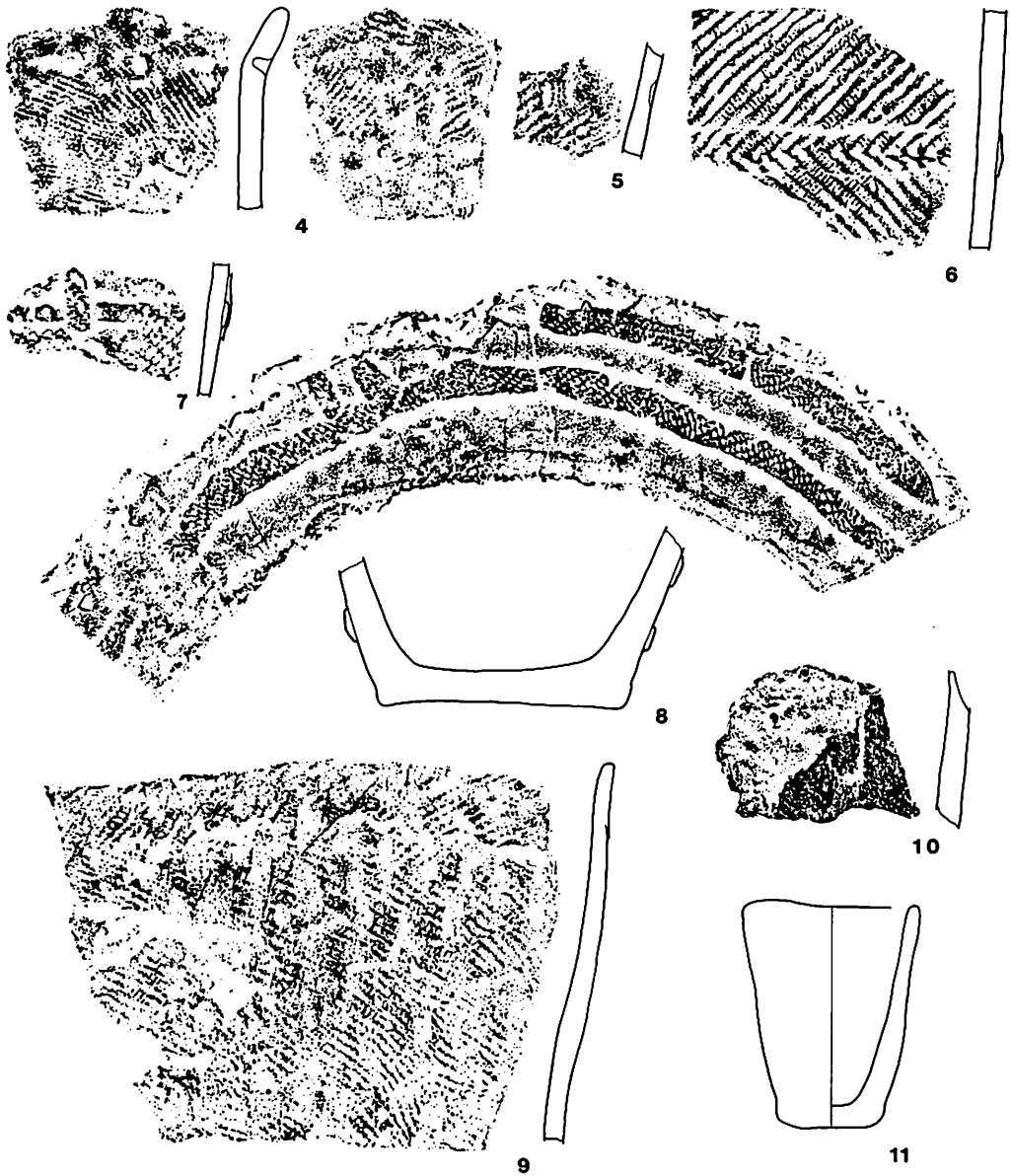


調査区中央北よりの斜面にある。Ⅳa1'層中で確認されたが、下半部はローム層中まで掘りこまれている。断面形は椀状である。埋土中からⅢ群b-3類とⅣ群a類に相当する土器片が出土しているが、復元できるものはない。

埋土の状態からは、自然推積か、人為的に埋め戻されたものかは判断しがたい。

P-20





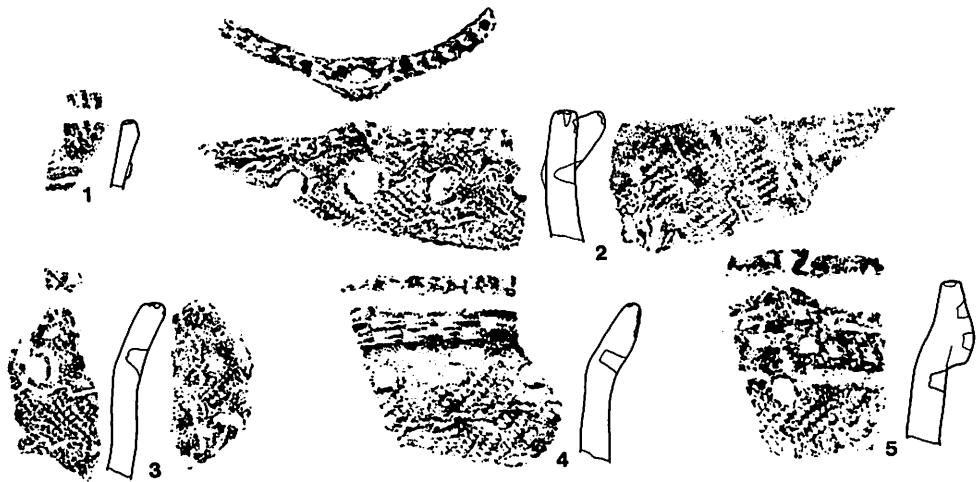
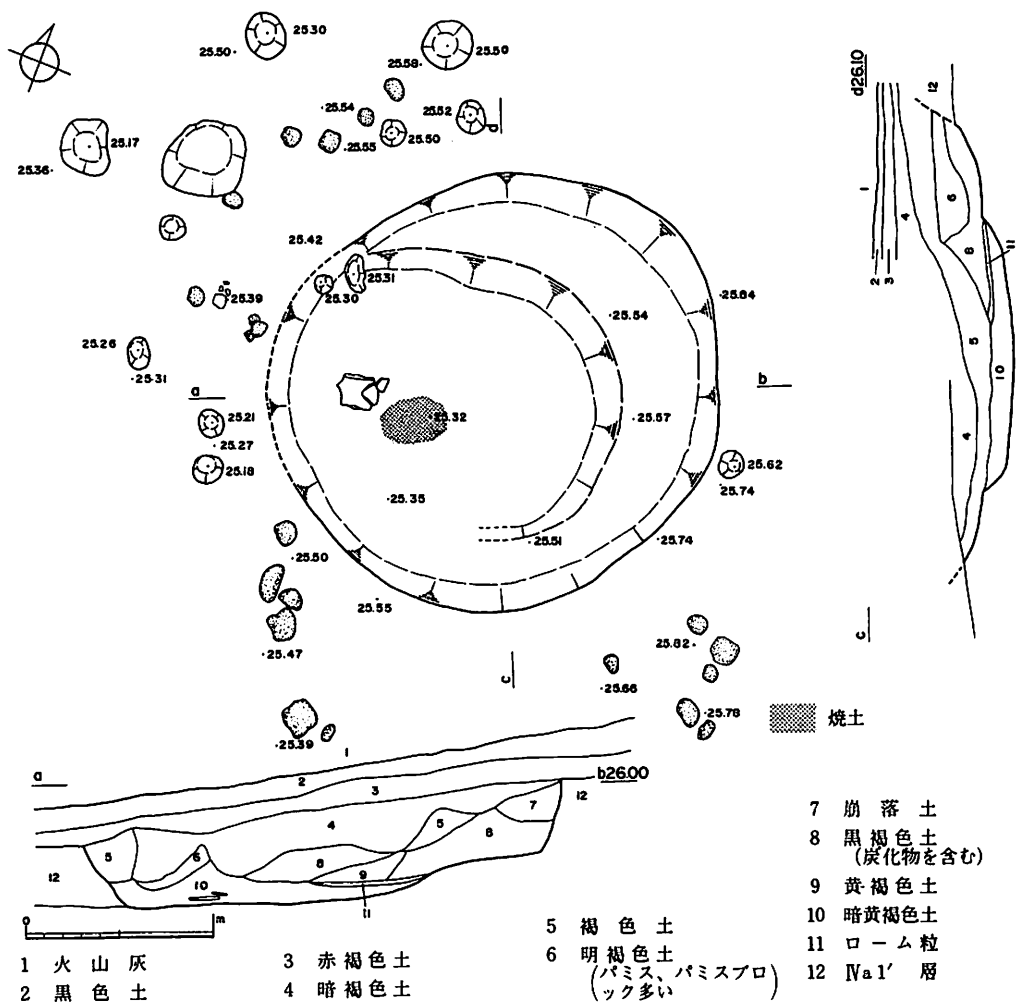
調査区北部の尾根の南西斜面にある。包含層調査中にⅣa1'層下部で確認されたが、グリッドに沿うベルトのセクションの観察によって、Ⅳa1'層上部から掘りこまれていることが判明した。

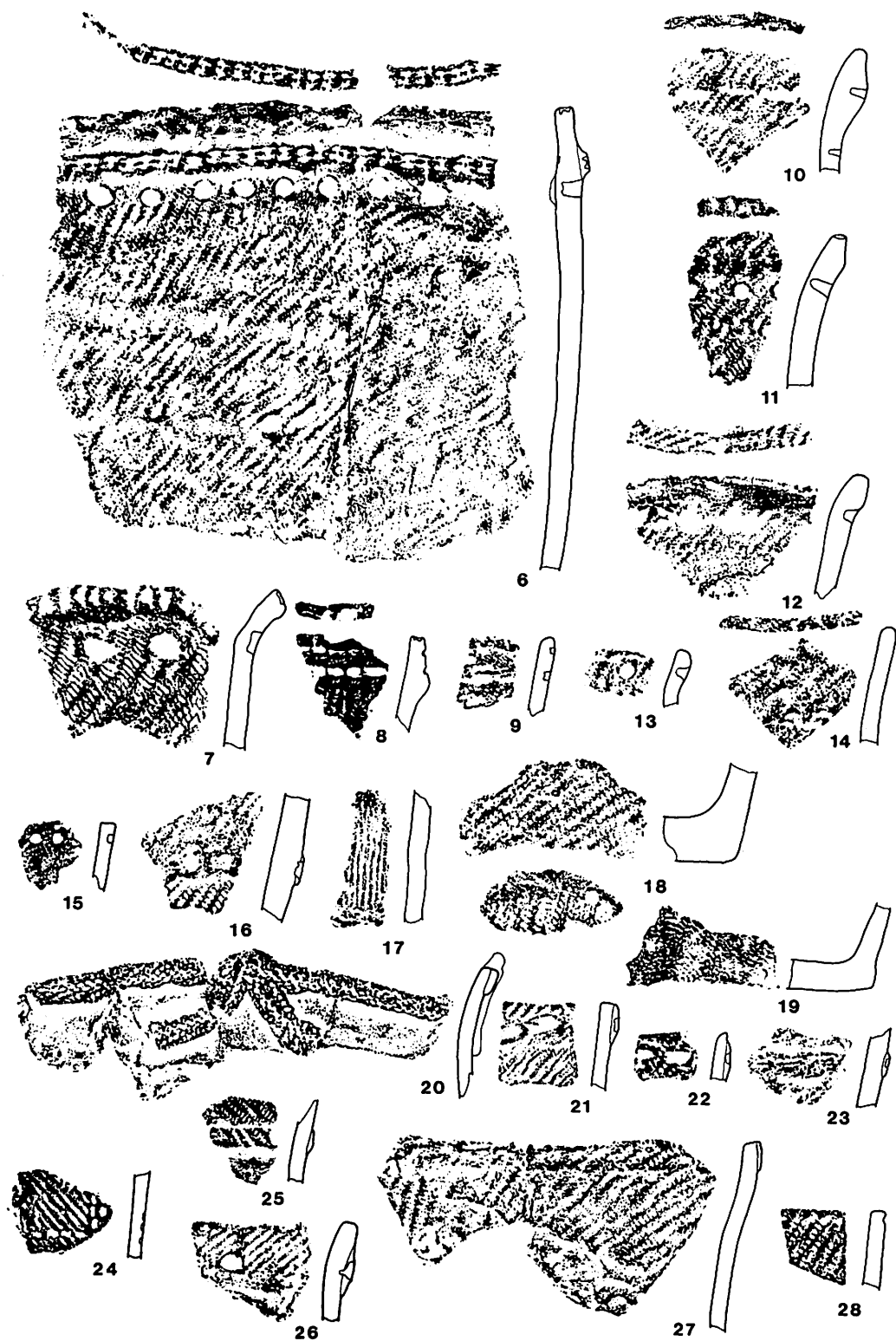
平面形は楕円、坡底はほぼ水平で、深さはセクションをみると50cmである。

埋土は6層に分層できる。床面あるいは床面に近い部分からⅣ群a類に相当する土器と、砥石が出土した。土器は復元できるものは少ないが、出土状況からみて、このピット内に置かれたものと考えられる。埋土中からは、Ⅲ群b-3類、Ⅳ群a類に相当する土器片と、石鏃・スクレイパーなどの石器が出土している。このなかには本遺構内に置かれたものも含まれていると思われるが、流れこんだものとの区別はできない。

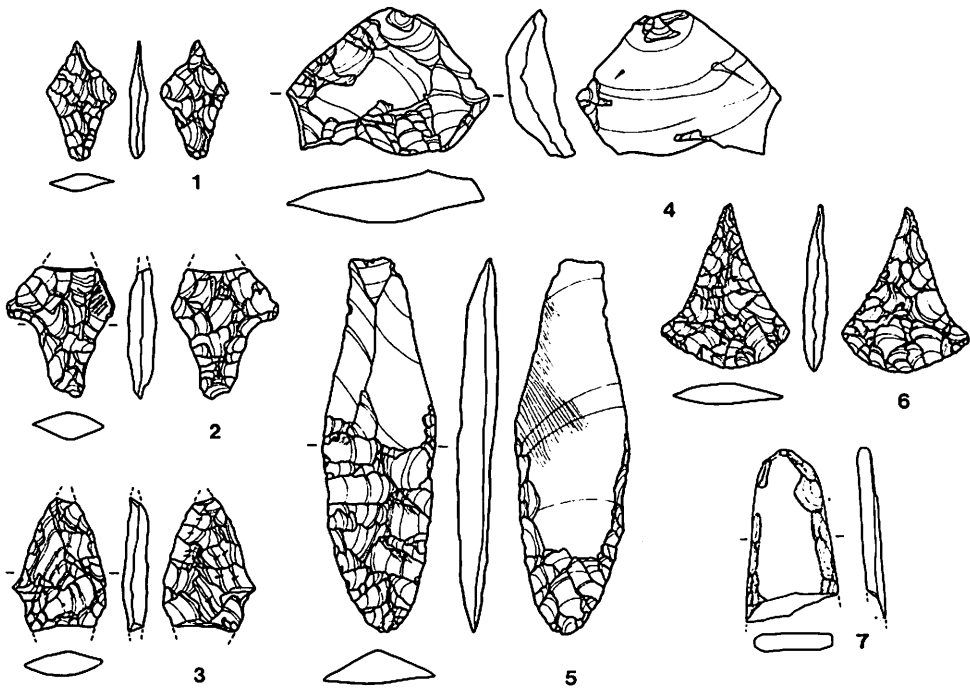
Ⅳ. 遺構と遺構出土の遺物

P-21





Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

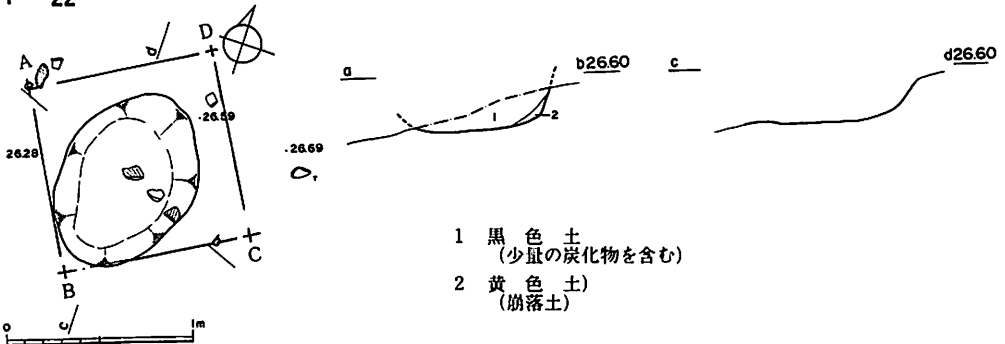


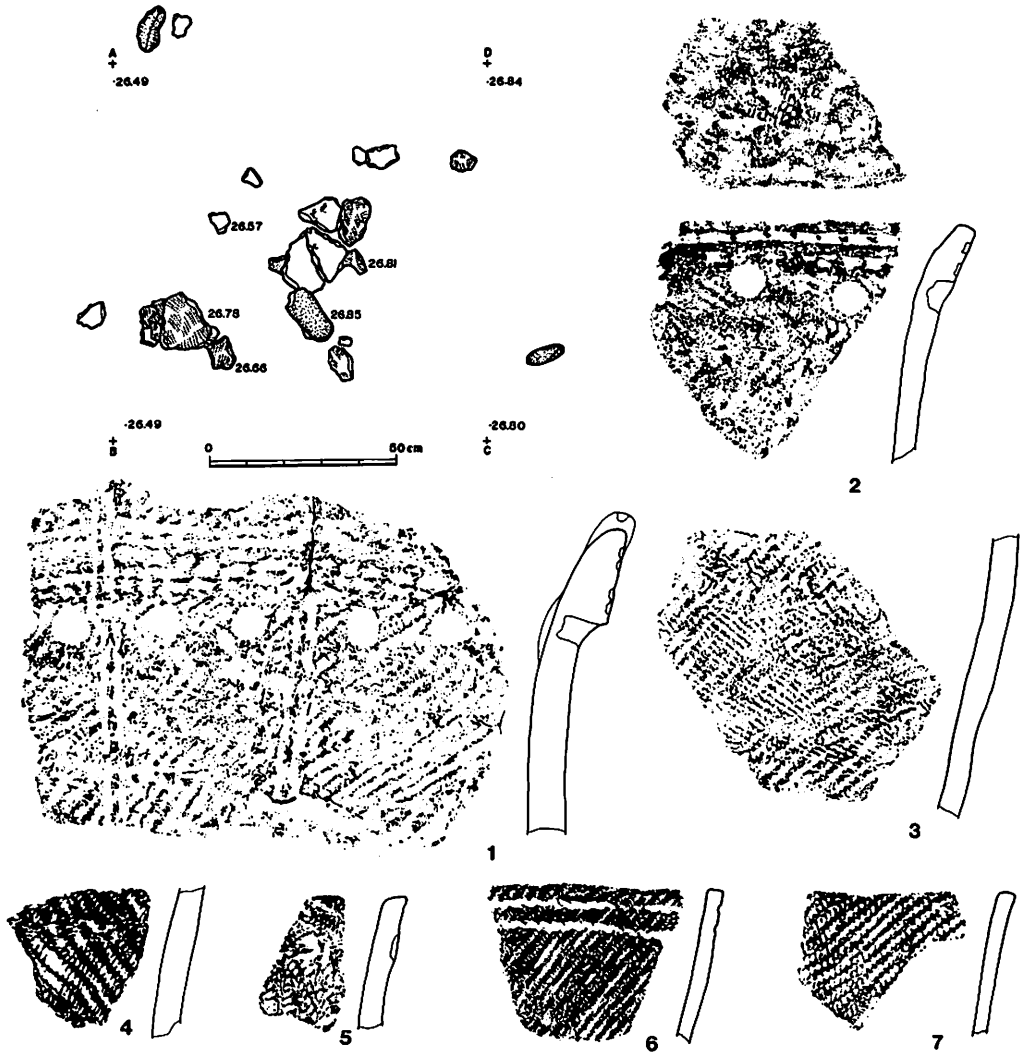
調査区北端の尾根上にある。地山漸移層上で確認されたが、グリッド4ラインでのセクション観察によって、Ⅳa1'層上部から50cmほど掘りこまれていることが判明した。

形状は円形で、床面には北から東へかけてテラス状の段がある。埋土は複雑で、黒色土に様々な混入がみられる。焼土が床の中央西よりに検出されている。これは床を浅く掘りこんだピット中に堆積している。またこの遺構の周囲には、多数の柱穴状のピットが検出された。床面からⅢ群b-3類に相当する土器片と、やり先・スクレイパーなどが出土している。埋土中からも多量の土器片と各種の石器類が出土した。

このピットは形状と炉跡状の焼土があることから考えると住居跡に含めるのが妥当かもしれない。しかし規模は今回発掘された他の住居跡に比べて小さく、床面には柱穴が検出されていない。本遺構が住居跡であるならば、他の住居とは異なった目的で構築された可能性があらう。

P-22





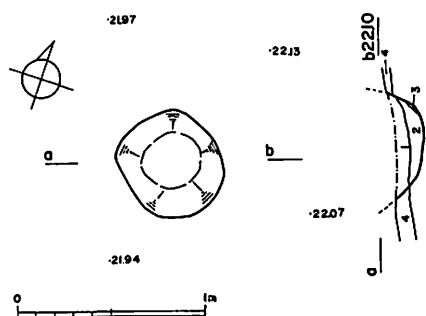
調査区北東部のゆるやかな斜面にある。Ⅳa1'層中で土器片が集中して出土したために、周囲を調査したが、この層では検出できず、地山漸移層上になって、確認することができた。

遺物の出土状態から推察すると、Ⅳa1'層中から掘りこまれ、40cm以上の深さがあったものと考えられる。墳底は地山ローム層に達しており、ほぼ水平につくられている。

Ⅲ群 b-3 類に相当する土器片が10点出土しているが、数個体の破片が混在している。

Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

P-23

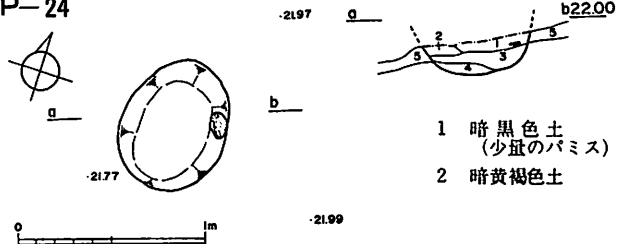


- 1 暗褐色土 (少量のパミス)
- 2 暗黄褐色土 (少量のローム粒)
- 3 崩落土
- 4 IVa1' 層 (ローム>黒色土)

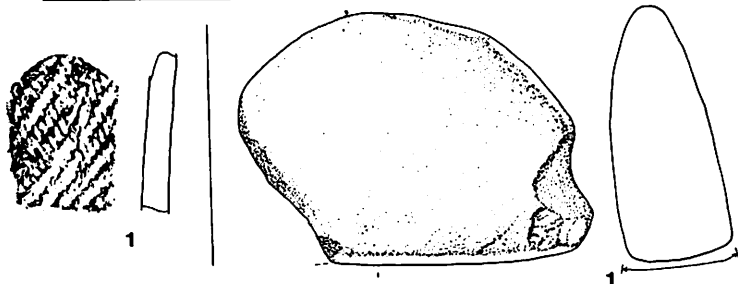


このピットはP-24、P-25と東西に列をなしている。いずれも確認面は、IVa1'層中であるが、地山ローム層まで掘りこまれている。埋土中からⅢ群b-3類に相当する土器片が1点出土している。

P-24



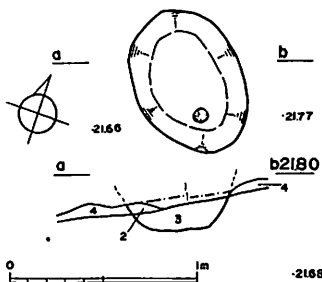
- 1 暗黒色土 (少量のパミス)
- 2 暗黄褐色土
- 3 暗褐色土 (黒色土>ローム粒)
- 4 黒色土
- 5 IVa1' 層 (ローム>黒色土)



P-23と同様に、IVa1'層中から地山ローム層にまで掘りこまれている。埋土は黒色土にロームを混入したものである。墳底はP-23よりやや広い。

壁ぎわの埋土中から、すり石が1点と土器片が2点出土している。土器片は胴部の破片であるが、Ⅲ群b-3類に相当するものと考えられる。

P-25

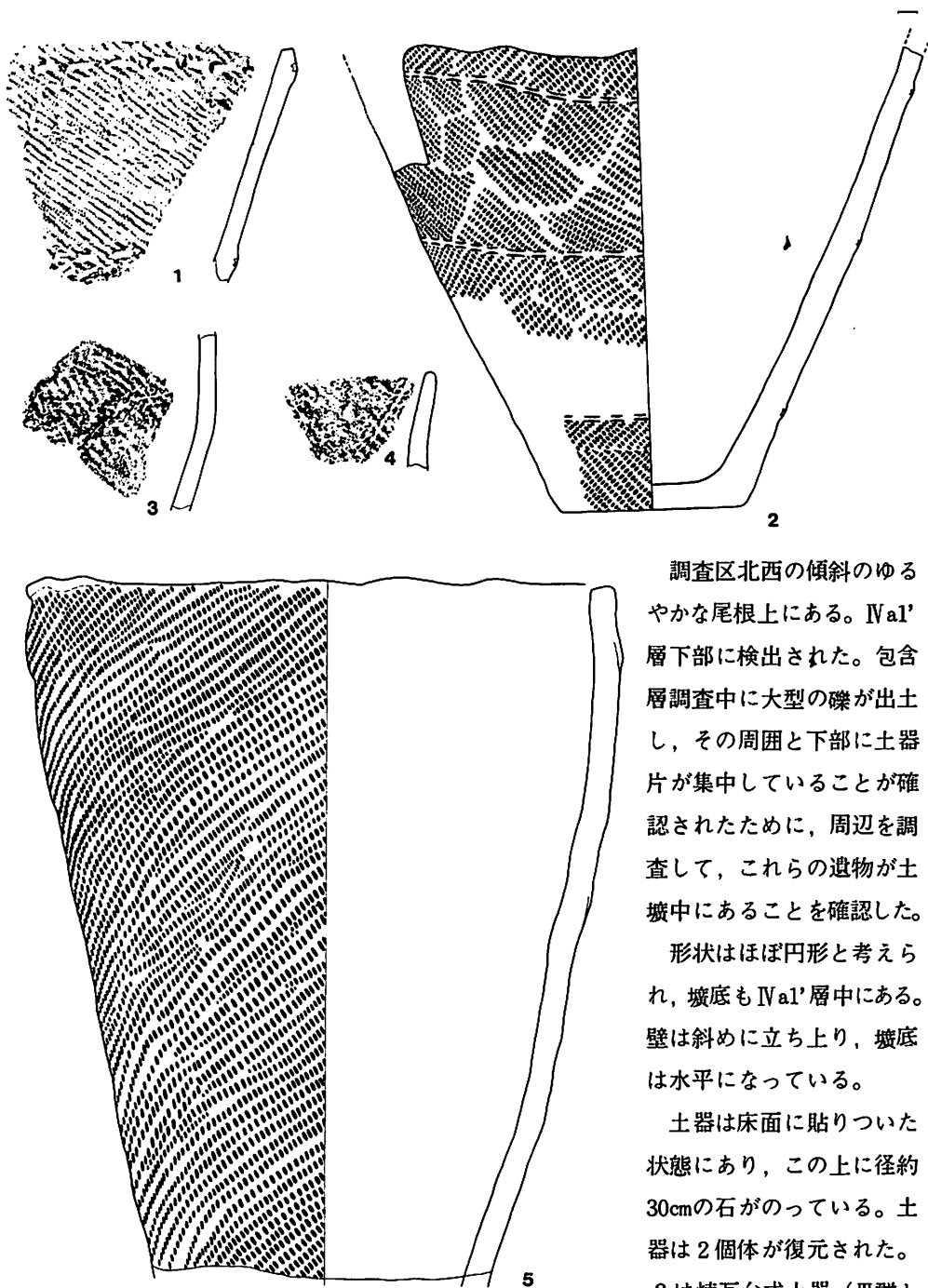


- 1 暗褐色土
- 2 暗黄褐色土 (少量のローム粒)
- 3 黄褐色土 (黒色土+ローム粒)
- 4 IVa1' 層 (ローム>黒色土)



形状・埋土の状態はP-24に類似しているが、墳底は水平に近くなっている。埋土中からⅢ群b-3類、Ⅳ群a類・b類の土器片が出土しているが、復元できるものはなく、いくつかの個体の破片が混在している。

以上のP-23～25は埋土のセクションが、自然堆積の状態を示している。



調査区北西の傾斜のゆるやかな尾根上にある。Ⅳa1'層下部に検出された。包含層調査中に大型の礫が出土し、その周囲と下部に土器片が集中していることが確認されたために、周辺を調査して、これらの遺物が土壌中にあることを確認した。

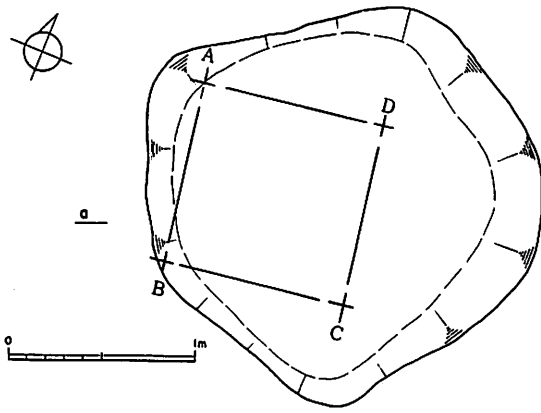
形状はほぼ円形と考えられ、坡底もⅣa1'層中にある。壁は斜めに立ち上り、坡底は水平になっている。

土器は床面に貼りついた状態にあり、この上に径約30cmの石がのっている。土器は2個体が復元された。

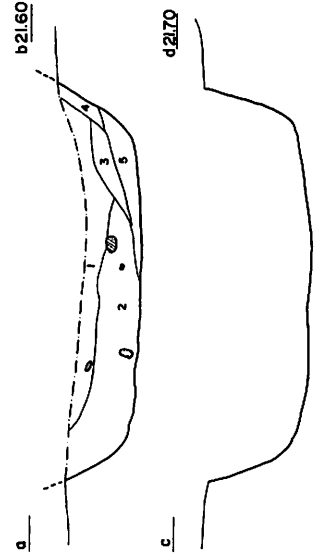
2は煉瓦台式土器（Ⅲ群b

—3類）で、1は接合できないが、これの口縁部破片である。5は貼付帯をもつ余市式土器（Ⅳ群a類）である。3と4はⅢ群b—3類に相当するもので、上述の2個とは別個体の破片である。人骨・ベンガラなどは出土していないが、遺物の出土状態から推察すると土壌墓と考えられる。

P-28

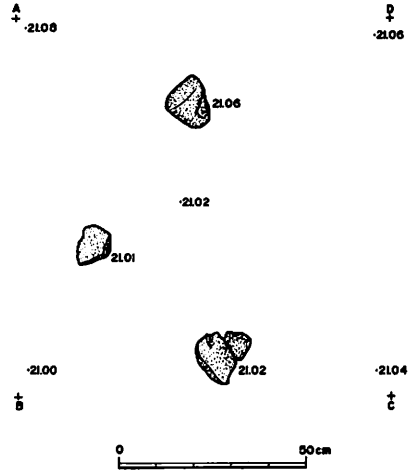
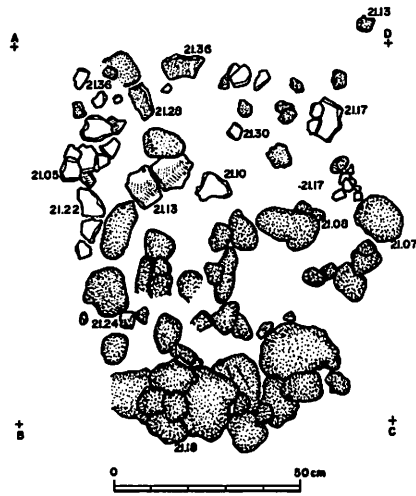


b



- 1 暗褐色土
(少量のパミス,炭化物を含む)
- 2 褐色土(黒色土+軽石)
- 3 暗黄褐色土

- 4 黄褐色土
(黒色土+ロームブロック)
- 5 黒色土

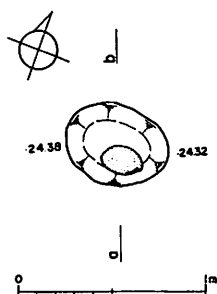


Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

Ⅳa1'層中から掘りこまれているが、埋土上部の暗褐色土中にパミス、炭化物を含んでいるために、明瞭に検出された。地山ローム層を深く掘りこんでつくられている。形状は五角形状の不整円形、深さは約50cmで、床はほぼ水平につくられており、壁の立ち上がりは垂直に近い。

西半部の埋土中からは多量の軽石に混じって、Ⅲ群b-3類・Ⅳ群a類に相当する土器片と、砥石片・たたき石などが出土している。床面からはⅢ群b-3類の土器片1点のみが出土した。土器は数個体の破片が混在しており、復原できるものはない。軽石のなかには、表面を丸く削ったものもみられた。

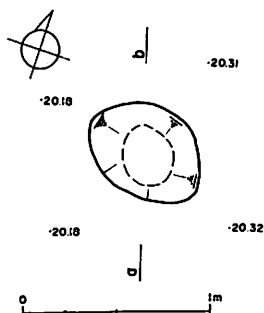
P-29



1 黒色土

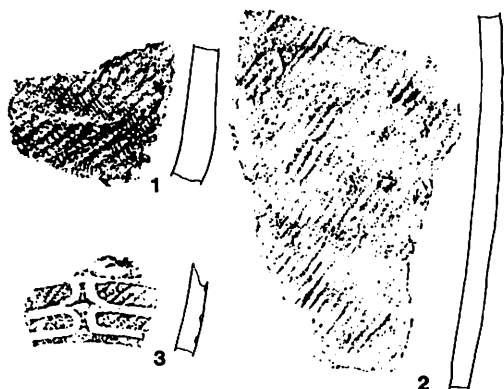
中央の尾根の北側にある。地山漸移層上に長径約30cmの石が出土したため、周囲を調査したところ、楕円形プランの小型の土坑が検出された。坑底は地山ローム層に達しており、ほぼ水平になっている。埋土は黒色土一層で分層できない。出土した石は埋土の上であり、この遺構は本来、さらに深かった可能性がある。

P-30

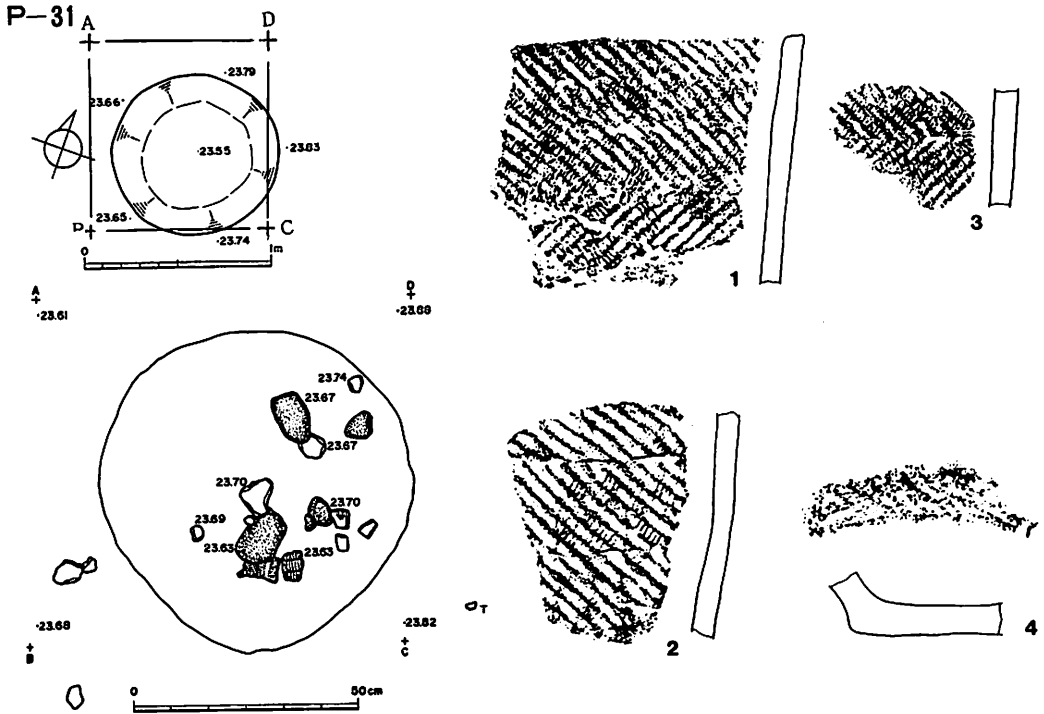


1 黒色土
(少量のローム粒)
2 暗褐色土

(黒色土>ローム粒)
3 暗黄色土
(ローム>黒色土)



調査区中央部西端の低地にある。黒色土除去後の地山漸移層上で確認された。小型の楕円形ピットである。埋土はおもに黒色土だが、ロームを混入している。埋土中から、Ⅲ群b-3類・Ⅳ群a類・b類の土器片が計11点出土しているが、接合できるものはなく、いくつかの個体の破片が混在している。

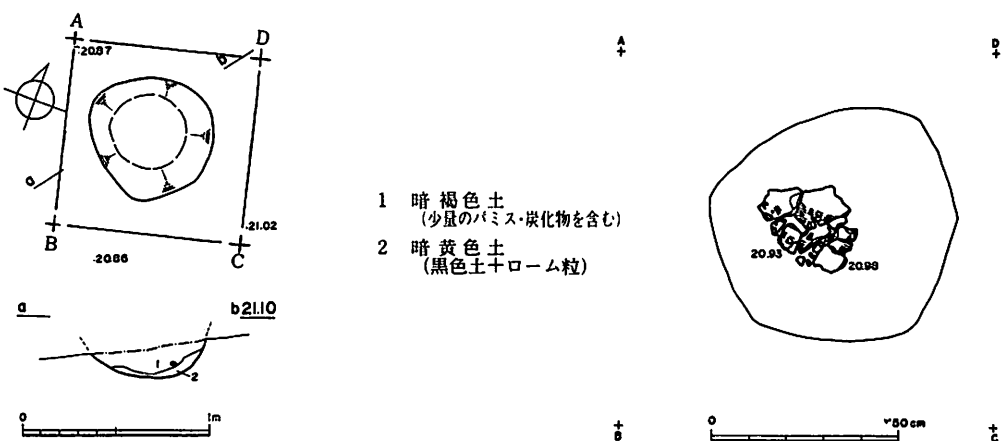


調査区北端のⅣa1'層下部で確認された。径約1mの円形で浅い皿状のピットである。

内部からは10cmほどの礫と、土器片が5点出土している。土器片はⅢ群b-3類とⅣ群a類に担当するものであるが、接合できるものはない。

これらの遺物は、埋土中からではあるが、床面に近い深さから出土しており、礫とともに、本遺構にともなうものと考えられる。埋土は黒褐色土である。このピットは規模に比べて、非常に浅く、坡底も地山に達していないが、本来、他の遺構と同様にⅣa1'層上部から掘りこまれていたと考えるのが妥当であろう。出土土器が破片のみであることから推察すると、上半部を流失している可能性がある。

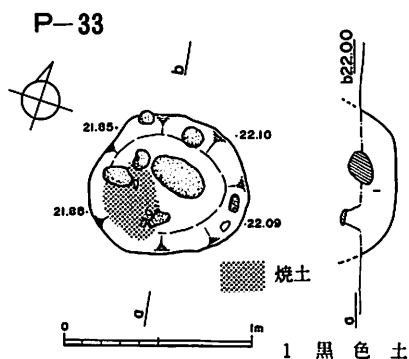
P-32



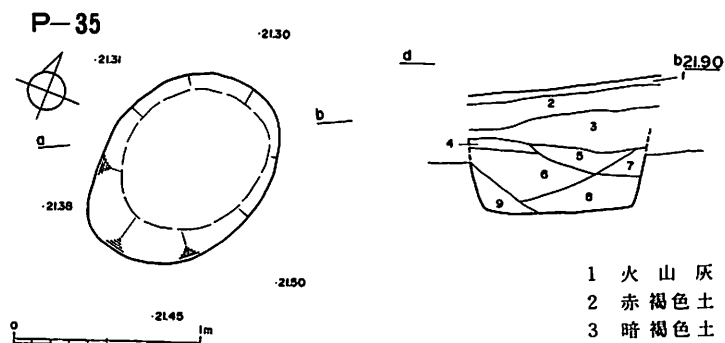
Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物



調査区中央西側の低地部にある。
IVa1' 層除去後の地山漸移層で確認されたが、P-28などの確認状態と比較すると本来掘りこみ面は、IVa1' 層にあったと考えられる。確認面の埋土上面に、Ⅲ群 b-3 類に相当する大型の土器片が出土した。竈底は地山ローム層中に達しており、埋土中には、わずかの炭化物を混入している。

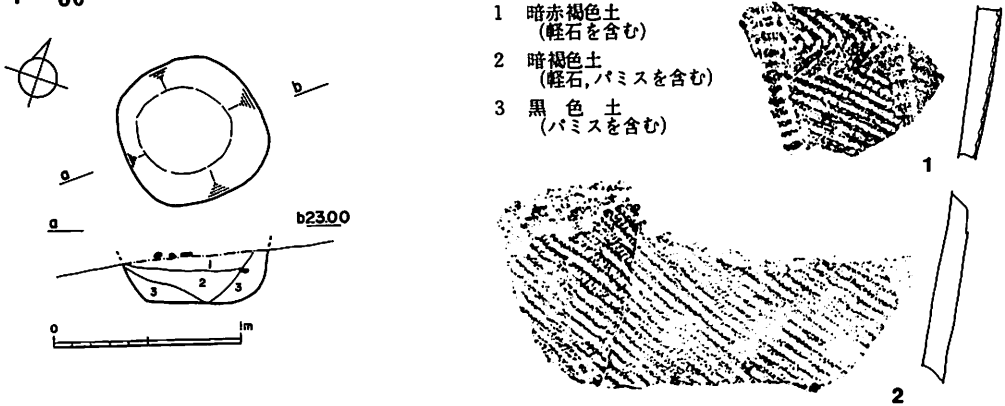


調査区北東隅のIVa1'層中で確認された。円形の浅いピット。埋土は黒色土で、南西側に焼土の堆積がある。埋土上部には8個の礫が検出された。Ⅲ群 b-3 類・Ⅳ群 a 類の土器片が出土しているが、いくつかの個体の破片が混入している。



調査区中央の尾根下にP-8と並んで検出された。平面形は楕円である。墳底はほぼ水平、壁の立ち上がりは垂直に近い。埋土は黒色土に、火山灰・ローム・炭化物などを混入したものである。

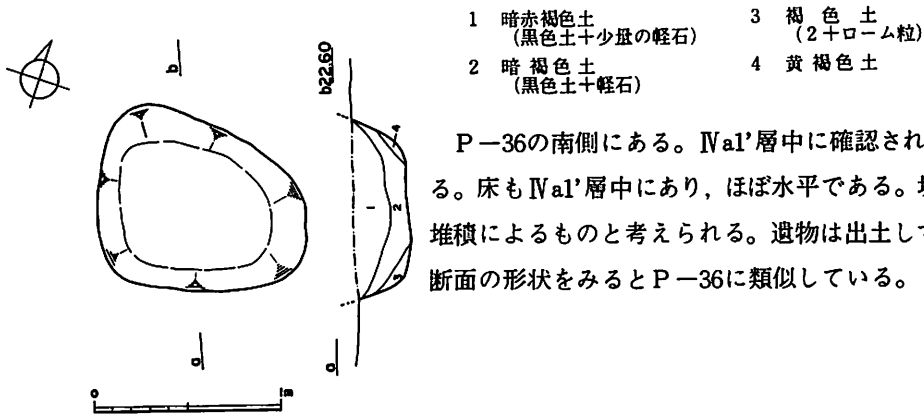
P-36



調査区北西隅の、ゆるやかな尾根の斜面にある。Ⅳa1'層中で確認された。形状はほぼ円形に近い。墳底はほぼ水平で、Ⅳa1'層中にある。

埋土は赤褐色土に軽石が混入したものである。埋土中から、Ⅲ群b-3類に相当する土器2点が出土している。接合はできないが同一個体の破片と考えられる。

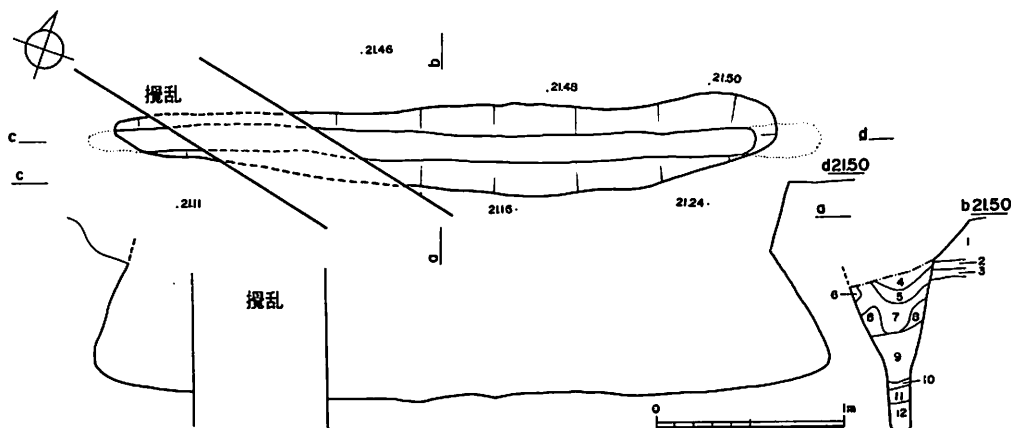
P-37



P-36の南側にある。Ⅳa1'層中に確認されたものである。床もⅣa1'層中にあり、ほぼ水平である。埋土は自然堆積によるものと考えられる。遺物は出土していない。断面の形状をみるとP-36に類似している。

4. T ピット

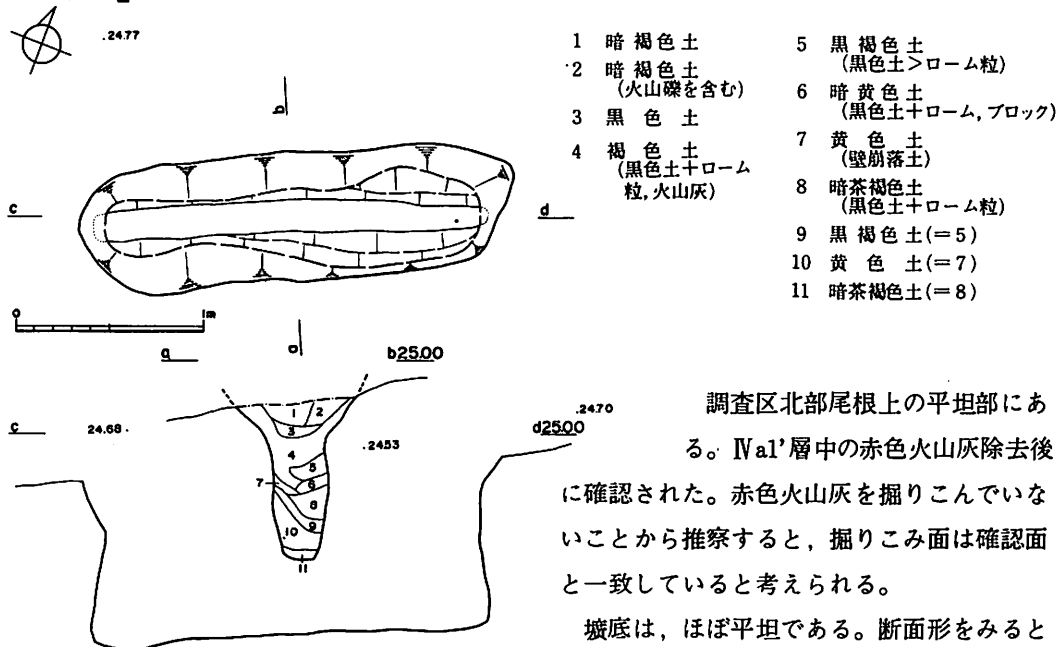
TP-1



- | | | | |
|--------------------|----------------------|----------------------|--------------------------|
| 1 IVa1' 層 | 4 暗褐色土 (IVa1' + 黒色土) | 7 褐色土 (ごく少量のパミスを含む) | 10 褐色土 (パミスのブロックを含む) |
| 2 褐色土 | 5 黒色土 (少量のパミスを含む) | 8 暗黄色土 (パミスのブロックを含む) | 11 黄褐色土 (ローム + 黒色土) |
| 3 明褐色土 (ローム + 褐色土) | 6 黄色土 (壁崩落土) | 9 明黄色土 (ロームの崩落土) | 12 明黒色土 (黒色土 > パミス, ローム) |

IVa1'層除去後の地山漸移層上で確認された。長さ約4mの溝状のピットである。坑底は平坦である。壁は垂直に立ち上がり、上半部は開いている。長軸方向の壁は大きくオーバーハングしている。埋土中から遺物は出土していない。

TP-2



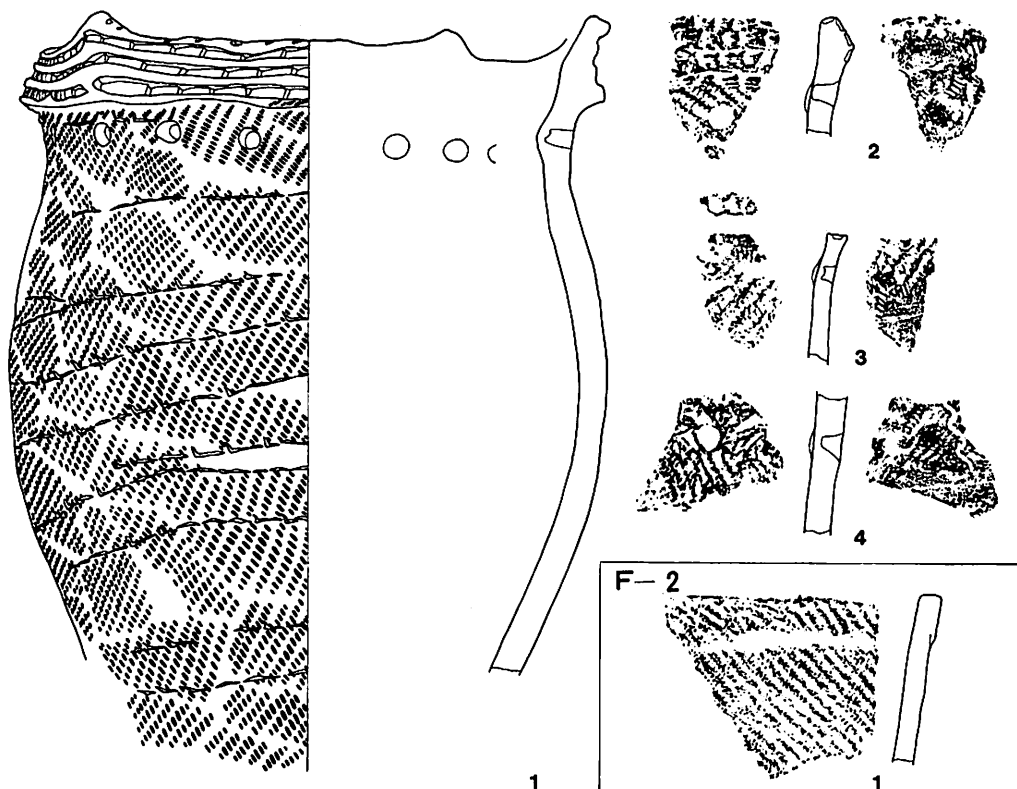
- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色土 | 5 黒褐色土 (黒色土 > ローム粒) |
| 2 暗褐色土 (火山礫を含む) | 6 暗黄色土 (黒色土 + ローム, ブロック) |
| 3 黒色土 | 7 黄色土 (壁崩落土) |
| 4 褐色土 (黒色土 + ローム粒, 火山灰) | 8 暗茶褐色土 (黒色土 + ローム粒) |
| | 9 黒褐色土 (= 5) |
| | 10 黄色土 (= 7) |
| | 11 暗茶褐色土 (= 8) |

調査区北部尾根上の平坦部にある。IVa1'層中の赤色火山灰除去後に確認された。赤色火山灰を掘りこんでいないことから推察すると、掘りこみ面は確認面と一致していると考えられる。

坑底は、ほぼ平坦である。断面形をみると中間でやや膨らみ、上部では開いている。また長軸方向ではわずかにオーバーハングしている。遺物は出土していない。

5. 焼 土

F-1



焼土は7か所検出された。いずれもⅣa1'層中で確認されたものである。形状は様々であるが、いずれも小規模なものである。厚さは数cm程度のものが多く、内部にはわずかの炭化物を含んでいる。

F-1は調査区南端のH-9の南西側に検出されたものである。この焼土の西側には隣接して、一括土器が出土しており、底部を欠損しているが、ほぼ復原された(1)。この土器はⅢ群b-3類の北筒式に相当するものである。口縁には4か所の山形突起部がある。口縁部断面は三角形で、三列の押し引き文が巡っており、この下に円形刺突文が配されている。頸部はくびれ、胴部はふくらんでいる。口縁部を除く器面全体に綾くり文に似た文様があるが、どのような原体によるものか解明できなかった。このほかにも北筒式土器の破片が数点出土しているが、これらの土器はF-1に近接し、しかもほぼ同レベルにあることから、この焼土に関連して使用されたものと考えられる。

F-2は調査区北端のP-7に隣接して検出された焼土である。Ⅳ群a類に相当する余市式土器の口縁部破片が出土している。

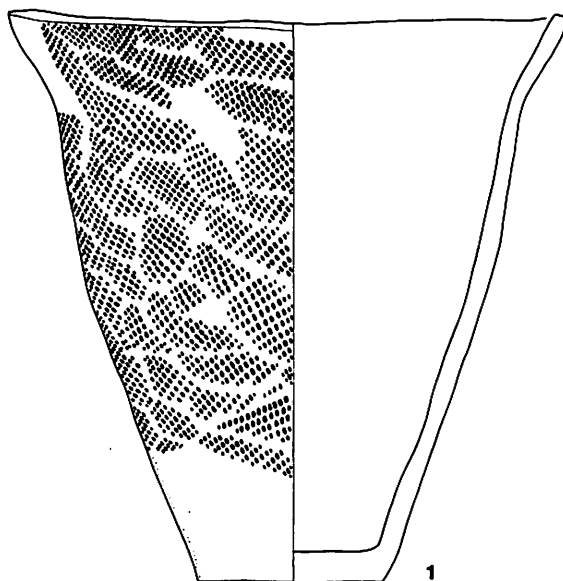
F-6は中央の尾根下のゆるやかな斜面上にある。長径50cmほどの楕円形にうすく焼土が堆

Ⅲ. 遺構と遺構出土の遺物

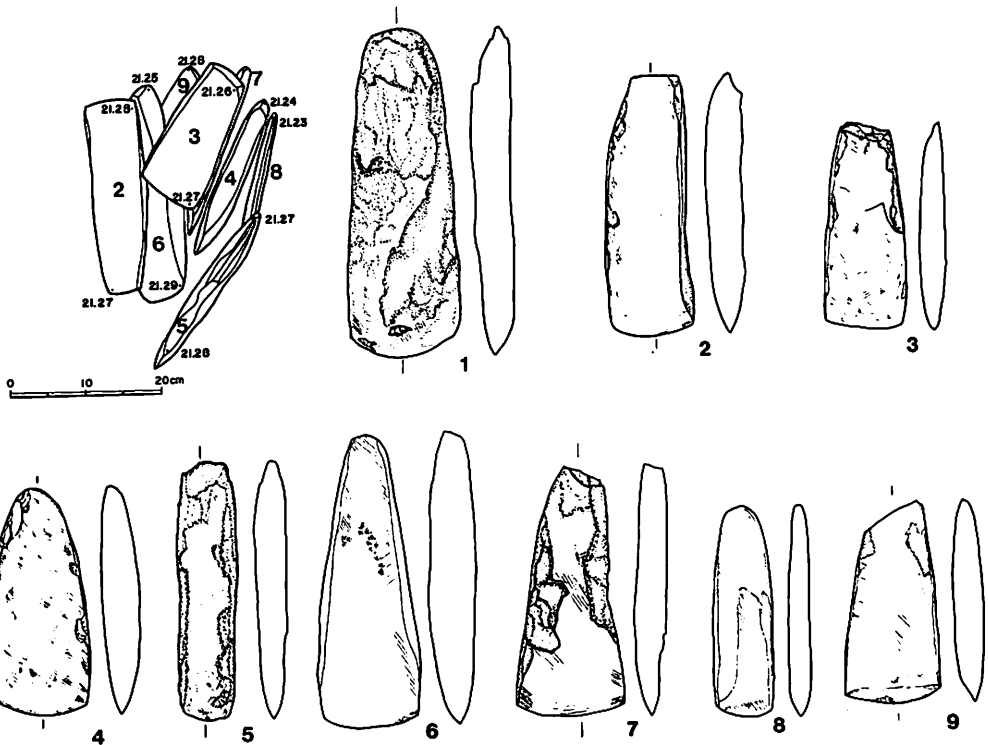
積したもので、この上にⅣ群b類に相当する手稻式土器が1個体出土した(1)。これは口縁部が外反する深鉢で、器面は縄文地のみであるが、下部は無文になっている。今回の調査ではⅣ群b類の破片がわずかに出土しているが、遺構にともなうものはこの一点のみである。検出層位をみるとF-7も、これと同じ時期の焼土と考えられる。このほかの焼土は検出された層位から推察して、F-1あるいはF-2と同時期のものと思われる。

これらの焼土は住居内に設けられた炉跡の可能性も考えられたため、周辺の調査を行ったが、いずれも確認されなかった。

F-6



6. 一括出土石斧



調査区中央部西よりの尾根下で検出された。出土層位はⅣa1'層上部である。9本の石斧がまとまって発見された。1は、最上部にあったものだが、下部にあった他の8本が出土する前にとり上げたため、正確な出土状態は不明である。

住居の床面あるいは土壌内に置かれていた可能性を考えて、周辺の調査を行ったが、まったく確認されなかった。したがって、これが検出された面が、地表であった時期に、ここに何らかの理由で置かれた可能性が強い。このことは各遺構の掘りこみ面がⅣa1'層上部とみなされていることと一致している。

これらの石斧の出土状態をみると、側面を上になっているものが4本あり、このうち刃部が南を向くものが1点、南西を向くものが3点ある。他の4点は平ら、あるいは斜めに出土しており、刃部は3点が南に、西端の1点のみが北を向いている。南北方向で17cm、東西では10.5cm、上下は約12cmほどの範囲に重なり合っている。全体的にみると、9本の石斧を束ねたもののように見える。

図の3・4・6・9は、全面磨製のもので、1と7は打ち欠きによる整形がみられるものである。5と8は石のみに分類される。2の1点のみが擦り切り手法による石斧で、両側縁に擦り切り痕と、その後に折りとった痕がある。今回の調査で包含層から出土した石斧の大部分は、刃部が破損しているが、この9本には破損がない。

IV 包含層出土の遺物

包含層から出土した遺物には、土器・石器・土製品・石製品がある。これらの遺物を分類基準にもとづき、おもなものを図示した。石器・土製品は石器等として一括する。

1. 土 器

Ⅲ群からⅣ群にいたる土器が計8万点余り出土している。このうちⅢ群b-3類とⅣ群a類が最も多く、約85%を占める。このほかの土器は出土量が非常に少なく、とくにⅢ群b-1類、2類は皆無である。

Ⅲ群a類：15～31は円筒上層式土器である。縄文原体による馬蹄形圧痕文、貼付帯の形状などからみて、円筒上層B式に比定されるものであろう。胎土・焼成とも良好なものが多い。

Ⅲ群b-3類：1・2・32～169・405・411の資料は北筒式に相当するものである。北筒式土器の中でも比較的新しい資料が多い。

32～39は古い頃に属する資料である。32～34は爪形の押しびき文が施されている。36・37は胴部に撚糸文が施されている。38は貼瘤がある資料である。39は半截竹管状器具による押しびきがあり、Ⅲ群b-1類の天神山式土器に似た文様を構成している。胎土・焼成とも良く、内面は磨かれている。

1・40～64の土器は北筒式土器の中頃のものであろう。口縁の断面は切り出しナイフ形で、1～3列の押しびき文が施されているものが多い。原体はへら状器具、あるいは半截竹管状器具であろう。

55～59は押しびき文が胴部にまでおよんでいる例である。器面、あるいは口縁部内面に単節斜行縄文や結束羽状縄文が施されている。

65～169の土器は北筒式の中でも新しいものと考えられる。口縁部にはうすい肥厚帯をもつもの、貼付帯がめぐるもの、肥厚帯・貼付帯とも認められないものなどがある。65～88の土器の押しびき文は、貼付帯あるいは肥厚帯上を突くように施文されている。原体は先端の裂けた半截竹管状器具であろう。89～110は肥厚帯、貼付帯はうすく文様は単節斜行縄文が多い。104・106・108・110・122～130は円形刺突文のほかに、短刻線が施文されている。とくに123・124・129は短刻線が円形刺突文の下、あるいは上下にある。煉瓦台式の影響であろうか。

135～157は小形、薄手で円形刺突文がある。158～161は厚手のもので、円形刺突文が上下に2列めぐっている。151は刺突文が3列、166は刺突文が部分的に施され、167～169は口唇上に刺突文がある。このほかの162・163・165～167などは、綾くり文・押しびき文などがあることから、北筒式に含めたが、円形刺突文はみられない。

3～7は最花式土器、あるいは大木9式土器に相当する。

170～203はノグップⅡ式に相当するものである。171～190・192は口縁部から胴部上半に縄

線文が施されている。170・191・193～203は貼付帯上、または貼付帯の上・下方に縄線文がある。194～197は縄端による刺突のある資料である。

8～12・204～269は煉瓦台式土器に相当するものである。204～225の土器は器面に直接、短刻線が施文されているが、226～238・242～269では貼付帯上に短刻線がある。270～272は沈線が施されているもので、天祐寺式に相当する資料と考えられる。

IV群 a 類

273～337は余市式土器に相当するものである。273～298・328～337の土器は貼付帯が平坦なものであるが、305～327・336の資料では貼付帯の断面が三角形である。この両者の貼付帯をあわせもつものが、299～302の土器である。

273は撚糸文が施される土器である。283～287は横にくわえて縦の貼付帯をもつ。282は口唇に突起があるものである。303・304は貼付文があり、この上に刺突がくわえられているものである。328～335・337はうすい貼付帯があるが、これと器面との境を分けずに縄文が施されているために、貼付帯は不明瞭になっている。

338～375は涌元式土器、あるいは入江式土器に相当する沈線文系統の土器である。338～341は粘土紐を弧状に貼付した資料である。文様中に磨消部のある土器が多い。

IV群 b 類

376～397は手稻式土器に相当するものである。平行沈線を孤状の沈線でつないだ文様の深鉢形土器が多い。382・384は口縁部がアサガオ形にひらく深鉢であろう。395・396は同一個体のものと思われる破片で、沈線・縄文がほかのものと比べて粗雑であるが、無文部はよく研磨されており、光沢がある。

IV群 c 類

398～400は三叉文・隆起帯・刺突文のある資料である。堂林式土器に比定される。

13・14・401～404・406～409・412～418は時期を確定し得ない資料である。401～409は突起部分に貫通孔を穿った、いわゆる吊り耳の部分である。409以外はたて耳である。30のように突起部に貫通孔があるものは、北筒式土器のなかにみられるが(19)、このほかは縄文時代後・晩期のものであろう。35は恵山式土器の胴部破片かもしれない。

411～418は底部のみの資料である。411は内部に突起のある底部で、胎土などからみると、北筒式土器と思われる。413は底面から1～2 cm上に焼成後、貫通孔があげられている。補修孔であろう。418には木葉痕が、414～417は網代の圧痕がある。

前述したように今回の出土土器は、Ⅲ群 b-3 類がもっとも多い。このうち北筒式土器は比較的新しいものが多く、古手のものは少ないようである。またノダツプⅡ式土器に属するものは少量で、しかも貼付帯のない資料では、最花式土器との判別が困難であった。貼付帯をもつ資料では、余市式土器の縄線文を有するものと区別しがたかった。ここではノダツプⅡ式土器に縄

Ⅳ．包含層出土の遺物

線文、煉瓦台式土器には短刻線、余市式土器では貼付帯があることを特徴と判断して、分類を行った。

参考文献 北海道第四紀研究会『西股』昭和49年
北海道文化財保護協会『柏木川』昭和46年

2. 石器等

本遺跡からは4,164点の石器が出土している（表Ⅵ-2）。ここでは石器の分類基準にもとづいて、完形またはそれに近いものを中心に代表的なものを図示した。出土層位はⅣa1層およびⅣa1'層上部であるが、層位によって石器群に差が見られないため一括した。

Ⅰ群A類（石鏃 1～73）：無茎のもの（1～23）、有茎のもの（24～63）、に大別される。無茎のものには、細身で柳葉形のもの（1）、三角形のもの（2～9）、木葉形のもの（18・23）、多角形のもの（10～17・19～22）がある。また三角形のものは、基部が平坦なもの（2～4）と、比較的深い挟りをもつもの（5～9）がある。7～9は表裏にアスファルトが付着している。10・11は先端部・基部の縁辺だけに細かな二次加工が施されている。有茎のものは、茎が短く細身のものが多い。58は右側縁に槌状剥離がみられる。64は横長の剥片を用いているが、ほかの多くが縦長の剥片を用いており、これは特異な例である。このほかに環頭状の小型のもの（67・68）、尖頭部を作りだしていないもの（69）などがある。72・73は未製品である。材質は大部分が黒曜石である。

Ⅰ群B類（やり先 75～108）：有茎のもの（75～101）、無茎のもの（105～106）に分けられる。106を除いていずれも入念な両面加工が施されている。有茎のものには、肩部を顕著に作りだしているもの（75～91）と、そうでないもの（92～101）がある。前者には肩部が左右対称でないものが多い。無茎のものには、柳葉形（105・107）、木葉形（102～104・106）のものがある。木葉形のは比較的大形のものが多い。103は尖頭部を、107は基部をそれぞれ欠損している。106は表裏に原石面や、剥離面が一部残っており、基部に二次加工が施されていない。100は尖頭部より左側縁に2条の槌状剥離がみられる。やり先として分類したものでは、量的に有茎のものが多い。この中には105・107のようにナイフとして分類しても、差しつかえないものがあるかもしれないが、形態上やり先として扱った。材質はほとんどが黒曜石である。

Ⅱ群A類（石錐、109～124）：剥片の一端（109～117・123・124）と両端（118～122）に錐部を作りだしたものがある。前者には一端に拇指状のつまみを持つものがある（113～116）。これらはいずれも片面加工である。117は断面三角形の棒状の剥片を用いている。110・111は入念な両面加工が施されている。123・124は尖頭部が側縁からゆるやかな弧を描いて作られ、他の部位より二次加工が入念であることから石錐とした。材質は、黒曜石もあるが頁岩製のものが多い。

Ⅲ群A類（つまみ付きナイフ125～142）：表裏からの二次加工によって、つまみが比較的明瞭に作られているもの（125～133）と、そうでないもの（134～140）がある。つまみが明瞭なものには二次加工が片面全体に施されるもの（125～128）と、縁辺部だけに施されるもの（129～133）とがある。大部分のものが剥片の打瘤側につまみを作っているが、129・130は反対側につくられている。128は両端につまみがある。132・133はつまみ部と身上半の裏面にも二次加工が施されている。133にはつまみの表裏にアスファルトが付着している。134～141もつまみ付きナイフに含めたが、つまみ部の加工が顕著でなく、かつ他の部分にも二次加工が施されないものが多い。142は刃部が急角度に加工されていることから、つまみ付きナイフとした。材質は黒曜石・頁岩・珪岩などである。

Ⅲ群B類（スクレイパー 143～208）：大別して搔器としてとらえられるものと、削器としてとらえられるものに分けられる。搔器は二等辺三角形をしたバチ型のもの（143～151）、円形および円形に近い拇指状のもの（152～158）、縦長のもの（159～164）がある。バチ型のものは141・144を除いて入念な両面加工が施されている。145・146には数条の樋状剝離がみられる。150は上部に錐部が作りだされている。151は欠損品だが同様のものだろう。円形および拇指状のものは、円礫を用いた石核から初期の段階に剝離した剥片を素材としている。片面加工のものが大部分で、背面に原石面を残しているものもある。刃部は垂直に近く入念に加工されている。縦長のものは、石刃様剥片を用いたものと、小型で幅広のものがある。163は両側縁に挟りが入っている。

削器としてとらえられるものには、柳葉形（166～174）、木葉形（175～180）のもの、尖頭部をもつもの（181・182）、柄をもつもの（186～191）、不定形のもの（192～208）がある。柳葉形・木葉形のものの大部分は、入念な両面加工が施されている。166～168・170などはナイフとして分類できるかもしれない。181・182は石核から初期の段階に剝離された剥片を素材として、片面全体、または縁辺部だけに二次加工を施したもので、背面に原石面を残しているものがある。この中には打瘤を取り除いているもの、あるいは打瘤側を完全に折り取っているものがある。後者はこの類の中で特異なものである。不定形のものには、小型の両面加工のもの（192～199）と大小の剥片を用いて、その縁辺部だけに二次加工を施しているもの（200～208）がある。後者は形状も様々で二次加工の施される部位も一定しない。材質は黒曜石・頁岩・めのう・珪岩などがある。

Ⅳ群A・B類（石核と剥片 209・210）：石核は80点出土している。一定した剝離技法をうかがえるものはない。剥片は大型の石刃様のもの、不定形の大小のものがみられる。材質は黒曜石・頁岩・珪岩などであるが、石核には黒曜石は少ない。

Ⅳ群A類（石斧、211～220）：敲打整形したもの（211, 212）、剝離整形したもの（213）、剝離整形した後、磨いたもの（214, 216～220）、擦り切り手法によるもの（215）がある。242は擦り切り手法によって原材をとった残部と思われる。材質は泥岩・緑色泥岩・頁岩などである。

Ⅳ群B類（石のみ 221～223）：221・222は細かい剝離で整形し全体を磨いている。刃部は

Ⅳ．包含層出土の遺物

とくに入念に磨かれている。223は全面がていねいに磨かれているが、刃部は欠損している。材質は泥岩などである。

V群A類（たたき石 224～227）：棒状の礫の一端（224・225）、偏平な礫の両端（226）をたたいたものが多い。224は側面を磨いて形を整えている。227は円礫の周辺に敲打痕がみられる。この種のものが6点ほど出土しているが、なかには全体に敲打痕のみられるものもある。材質は安山岩・かんらん岩などである。

V群B類（台石、228～230）：229は断面三角形の礫で、その一面が浅く皿状に窪んでおり、周辺に整形痕がある。230は大型の厚い板状の礫を長方形に整形して、一方の平坦面を使用している。材質は安山岩などがある。

Ⅵ群A類（すり石、231～235）：三角形の礫の稜を擦ったもの（231）が多い。232は偏平礫を短円形に打ち欠いている。234はいわゆる「北海道式石冠」と称されるものである。材質は安山岩・砂岩・片磨岩・泥岩などがある。

Ⅵ群B類（石皿 236・237）：236は軽石を用いており、皿状の窪みに擦痕がみられる。材質は軽石・安山岩などがある。

Ⅶ群A類（石鋸）：板状の礫の下弦を擦ったものの破片が数点出土している。細かな破片のため図示していないが、H-15出土のものと同様のものである。材質は砂岩。

石製品（244～261）：垂飾が多く出土した。大半がめのう・滑石を用いている。248は袂状耳飾の破損品を再利用したものと思われる。253は石炭製である。232は滑車形の円盤の中央に孔を穿ち、この孔を中心として両面に放射状の列点がある。244は軽石製でふちをよく磨いた皿状のものに、つまみ状の突起が作りだされている。千歳市美々1・4遺跡（北海道埋蔵文化財センター 昭和55年）で同種のものがⅣ群b類の土器にともなって出土しているが、このような顕著な突起はみられない。

土製品（258～261）：三角形土製品と称されるものである。土器の胴部破片を用いている。東北地方で円筒上層式土器にともなって出土する例が多い。

次に、これらの石器群について、他の遺跡出土のものと比較してみたい。

つまみ付きナイフについては、道南地方の縄文時代中期から後期初頭にかけの遺跡からの出土例が知られており、本遺跡からも多く出土している。また、剥片の一端近くの左右に挟りが作られ、この他に顕著な二次加工がみられないつまみ付きナイフがまとまって出土している。これと同様のものは、函館市煉瓦台遺跡（大場利夫他、昭和40年）、知内町湯ノ里1遺跡（知内町教育委員会、昭和54年）、鹿追町鹿追高校A遺跡（鹿追町教育委員会、昭和53年）、名寄市知東遺跡D地点（名寄市立図書館、昭和46年）、標茶町芽沼遺跡（標茶町教育委員会、昭和55年）など、ほぼ全道にわたって報告されている。このようなことから、これらは中期から後期初頭の土器に伴う特徴的な石器といえるだろう。

スクレイパーに関しては、円形、円形に近い拇指状の搔器が13点出土しているが、他の道南地方の遺跡の出土例と比べて多い。前述したように、このうちの何点かは、石核から初期の段

階で剥離された剥片を用いる特異なものである。これと同様のものは、標茶町芽沼遺跡で、北筒式土器にともなう多く出土している。

58・100・145・146には数条の槌状剥離がみられる。剥離を観察すると、いずれも整形途中のものではない。現在のところ、縄文時代早期に彫器がともなうことが知られるだけで、ほかでは本遺跡でも出土している北筒式土器にともなう可能性が指摘されているが^注、これらにしても両面加工の石器に槌状剥離を施したものではない。58・100・145については使用中にできた剥離の可能性もあり、彫器とするには無理があるように考えられる。

石斧についてみると、おもに北筒式土器にともなう擦り切り手法によって作られた石斧が、遺構内出土のものも含めて14点出土している。道南地方の遺跡での報告例は少ない。登別市千歳6遺跡（登別市教育委員会、昭和57年）、知内町湯ノ里1遺跡では1点も出土していない。

すり石に関しては、三角形の礫の稜を擦ったもの、扁平の礫の周辺をそのまま擦ったものが多く、いわゆる余市式土器にともなうとされる（高橋正勝、昭和47年）扁平な礫を短冊形に打ち欠いたものは少ない。登別市千歳6遺跡の出土資料では三角形の礫を用いたものばかりで、本遺跡と同様である。しかし他遺跡では短冊形に打ち欠いたものが多く、知内町湯ノ里1遺跡ではこの短冊形のものだけが多量に出土している。

石錘は1点も出土していないが、知内町湯ノ里1遺跡では多量に出土している。

以上、包含層出土の石器群のうち、幾例かについて簡単に他の遺跡と比較して検討してみたが、土器群と同様に、縄文時代中期から後期初頭にかけての石器群の様相を持つ。ただ、本遺跡と同様の土器群を出土する登別市千歳6遺跡、知内町湯ノ里1遺跡の石器群と比較すると、多少の相異がみられる。これは、本遺跡の土器群の中で、いま述べた2遺跡よりも北筒式土器の占める量が多いことから、石器群にも北筒式土器の影響が及んでいるものと考えられる。

注 標茶町芽沼遺跡（標茶町教育委員会、昭和54年）によれば、出土状況、製作技法から先土器時代の可能性の強いものの他に、両面加工の石刃様剥片を用いたものは、北筒式土器に判う石器群に属するとしている。また標茶町芽沼遺跡群Ⅱ（標茶町教育委員会、昭和55年）では、両面加工の素材を折り取ったものと、石刃様剥片を用いたものが2点出土したと報告されている。

参考文献

- | | |
|--------------|---|
| 大場利夫・蛭子千代志 | 「函館市郊外煉瓦台遺跡」北方文化研究報告第20輯 昭和40年 |
| 鹿追町教育委員会 | 「鹿追高校A遺跡」 昭和53年 |
| 知内町教育委員会 | 「知内川中流域の縄文時代遺跡」 昭和54年 |
| 標茶町教育委員会 | 「芽沼遺跡群」 昭和55年 |
| 〃 | 「芽沼遺跡Ⅱ」 昭和56年 |
| 高橋 正勝 | 「北海道における縄文時代中期の終末(1)(2)」 昭和47年
北海道人類科学研究会会誌 No 9, 10 |
| 名寄市立図書館 | 「名寄市知東遺跡D地点」 昭和46年 |
| 北海道埋蔵文化財センター | 「美沢川流域の遺跡群Ⅳ」 昭和55年 |
| 登別市教育委員会 | 「札内台地の縄文時代集落址」昭和57年 |

3. 遺物の分布について

第Ⅲ章でふれたように、検出された遺構は中央の尾根の南側と北側に分れている。

図5-1は包含層出土の遺物点数をグリッド別にあらわしたものである。これを見ると、遺物と遺構の分布は、ほぼ同様の傾向を示すことがわかる。出土した土器のうち大部分を占めるⅢ群b-3類およびⅣ群a類のそれぞれの分布傾向も、これとほぼ同じである。

石器も多くの種類が出土しているが、全体的に土器と同様に北と南に分れている。このことは、器種別にみても、同様のことが指摘できる。

このような遺物の分布傾向のなかで、例外的な分布を示しているのが、石のみと石錐である。いずれも、出土点数は少ないが、尾根の北側にのみ発見されている。また、同様に数は少ないが、三角形土製品、石製垂飾も調査区北端尾根上の狭い範囲から出土したものである。

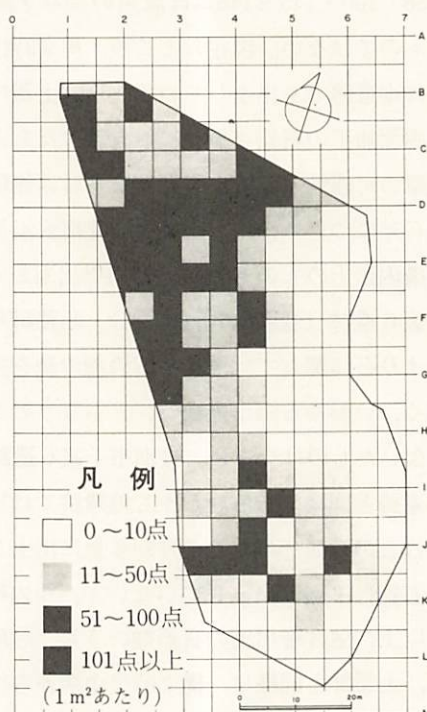


図4-1 遺物分布図

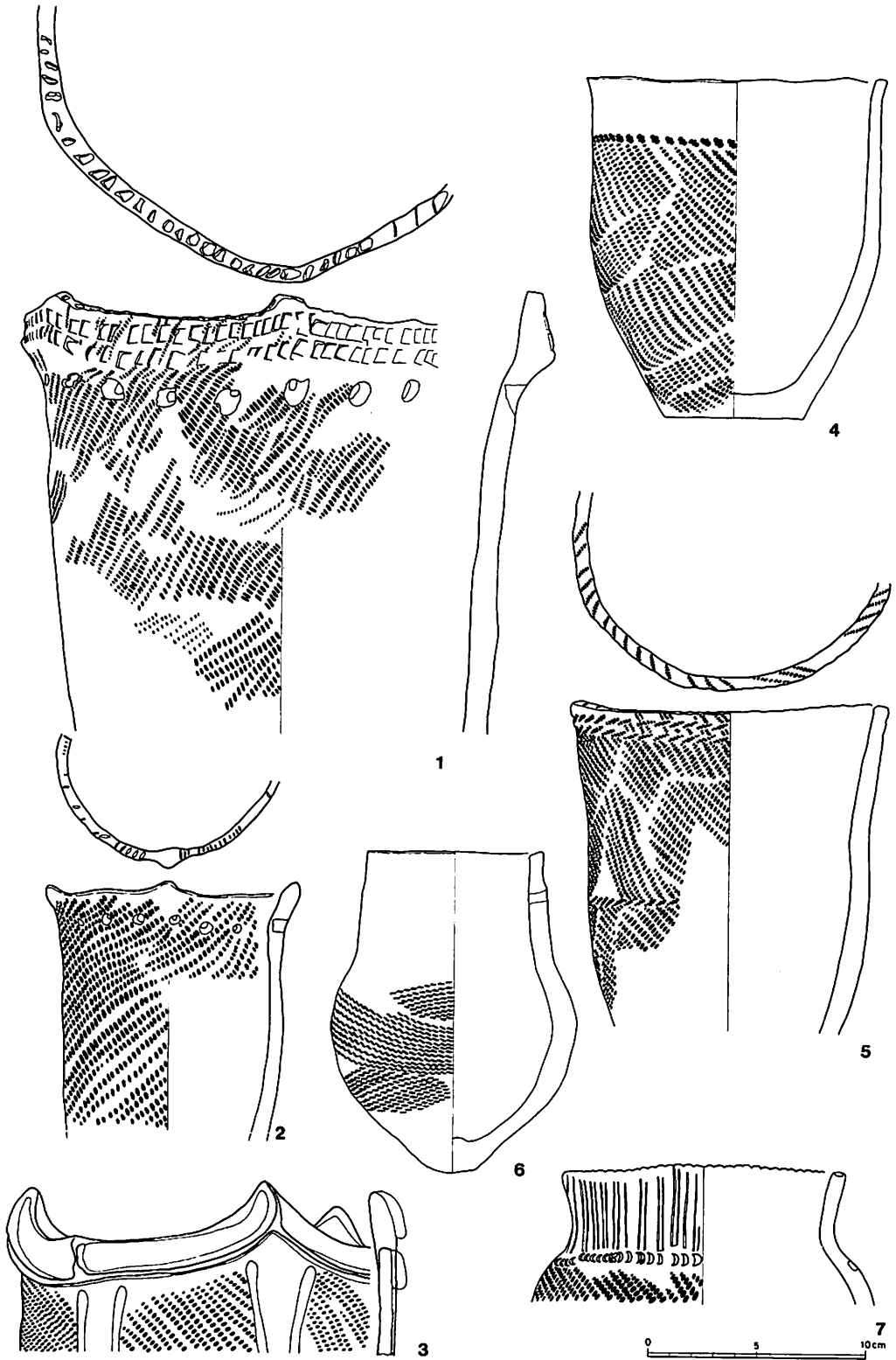


図4-2 包含層出土の土器 (1)

Ⅳ. 包含層出土の遺物

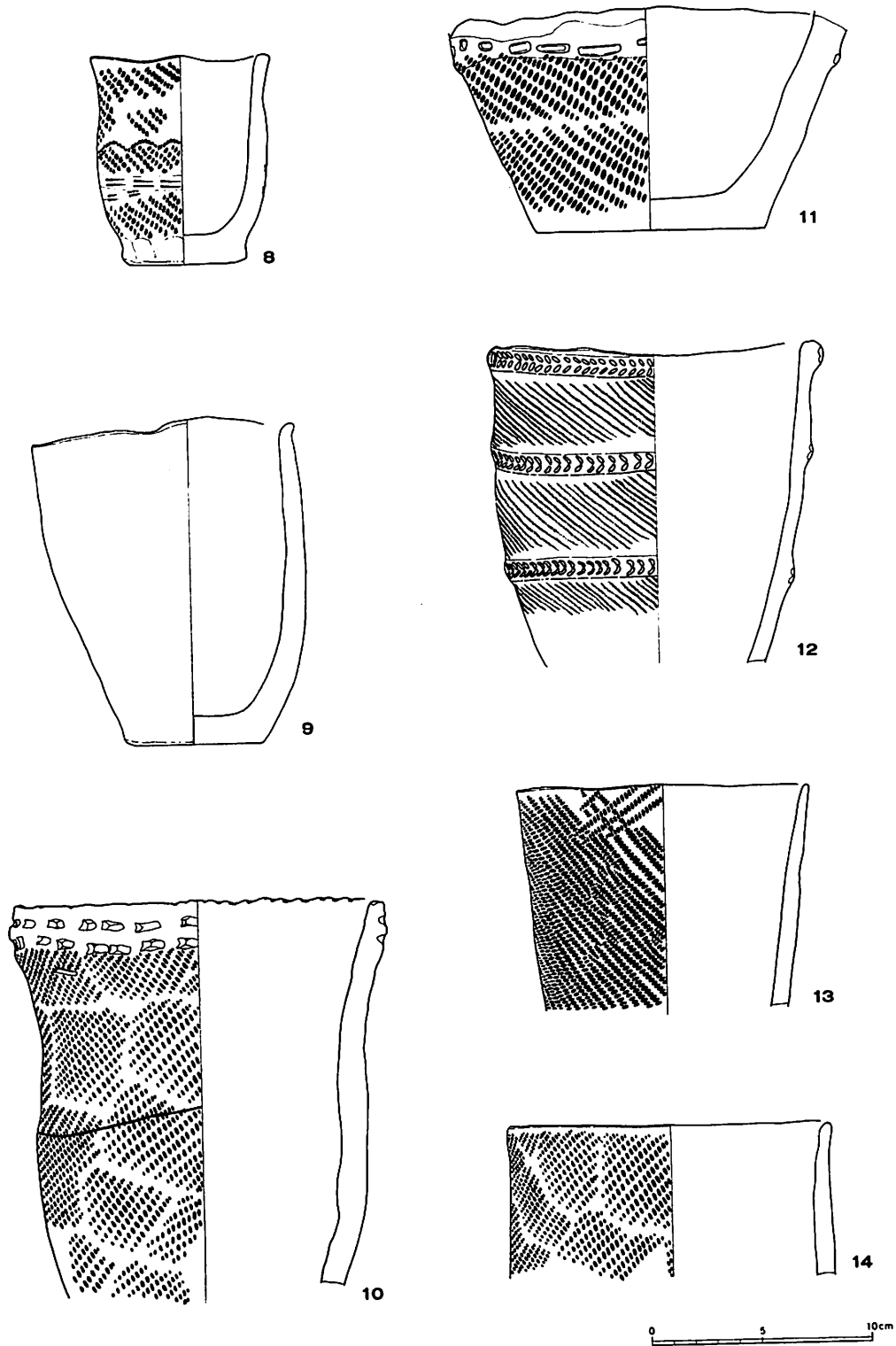


図 4-3 包含層出土の土器 (2)



図4-4 包含層出土の土器(3)

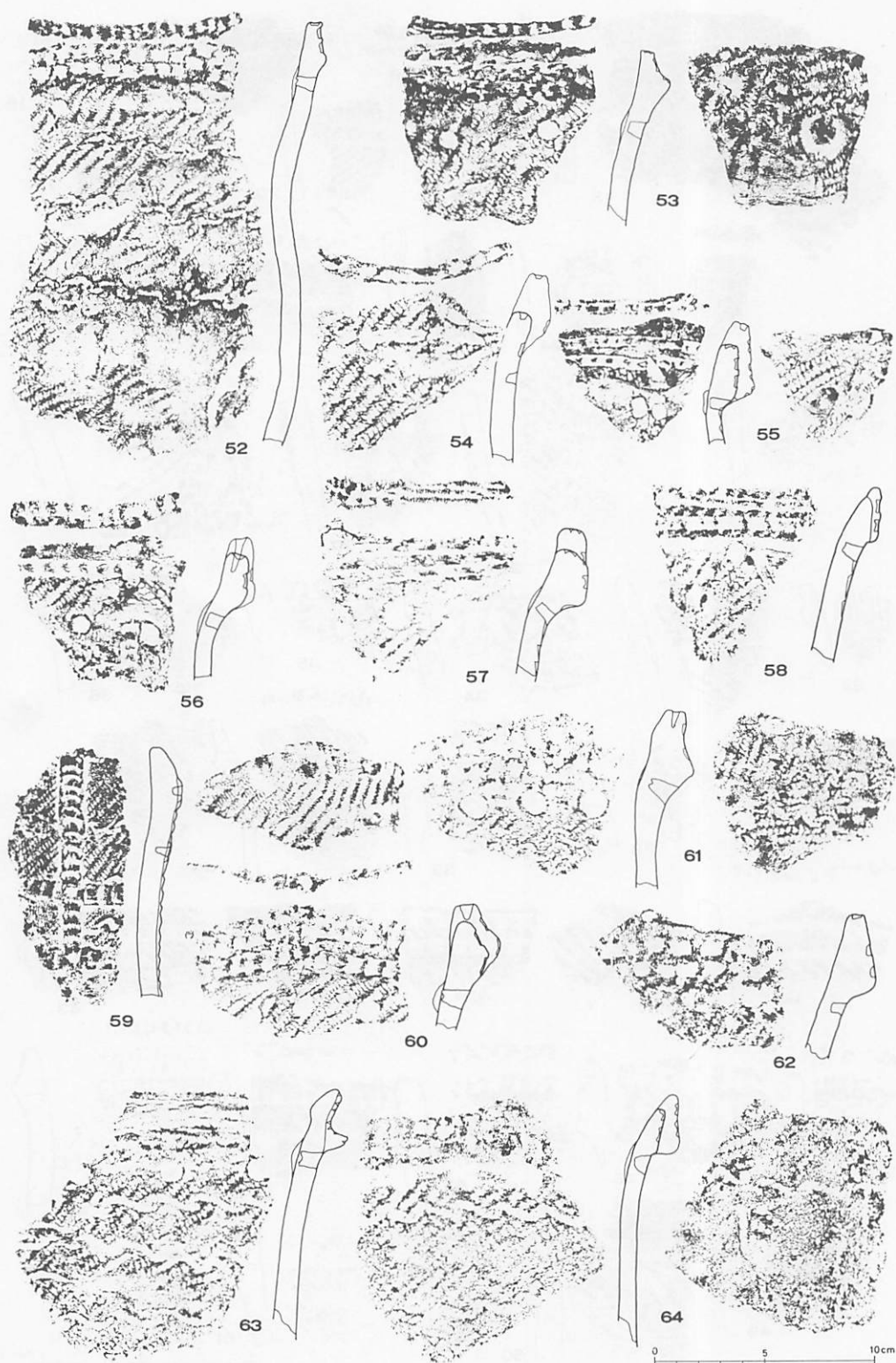


図4-5 包含層出土の土器(4)

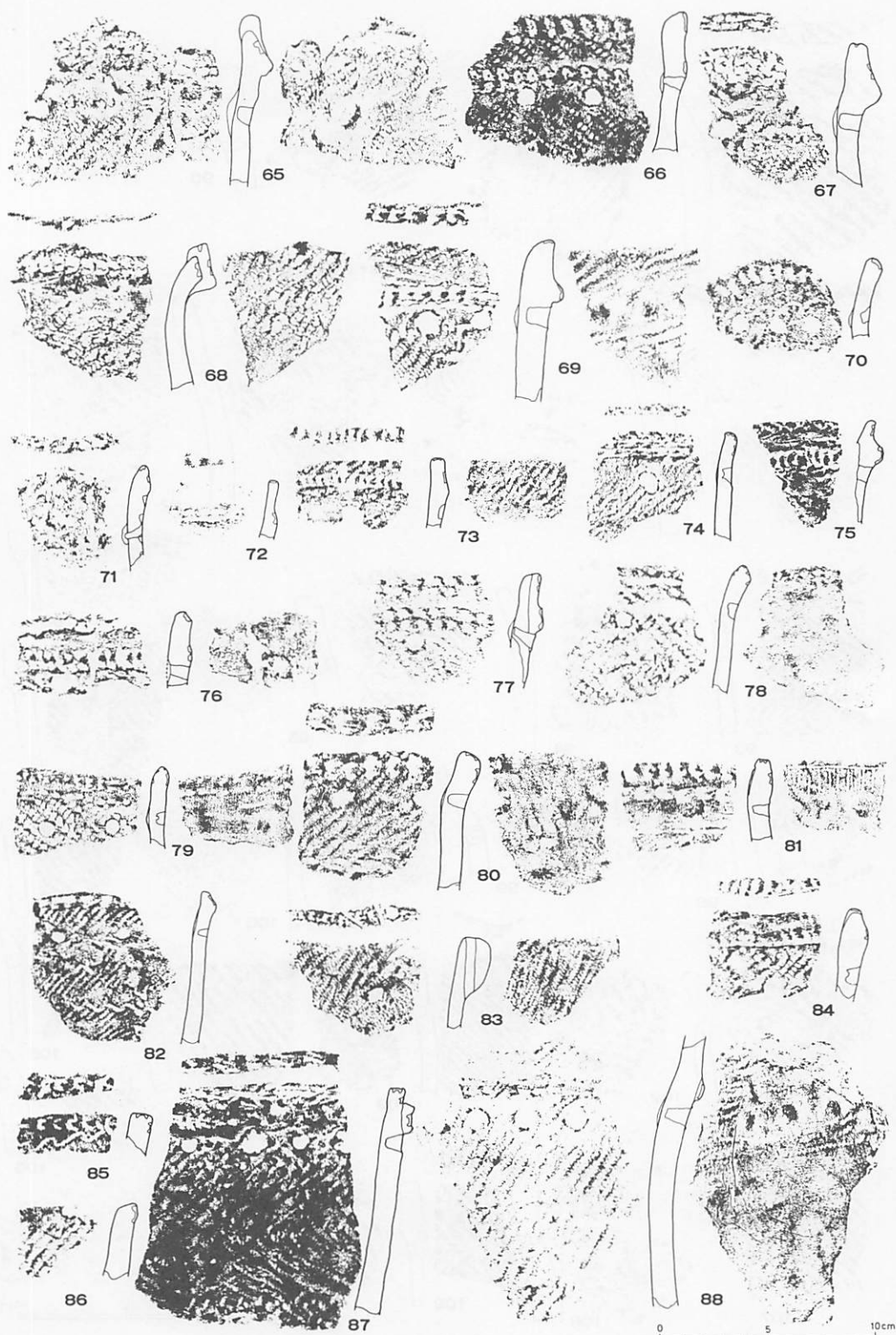


図4-6 包含層出土の土器(5)

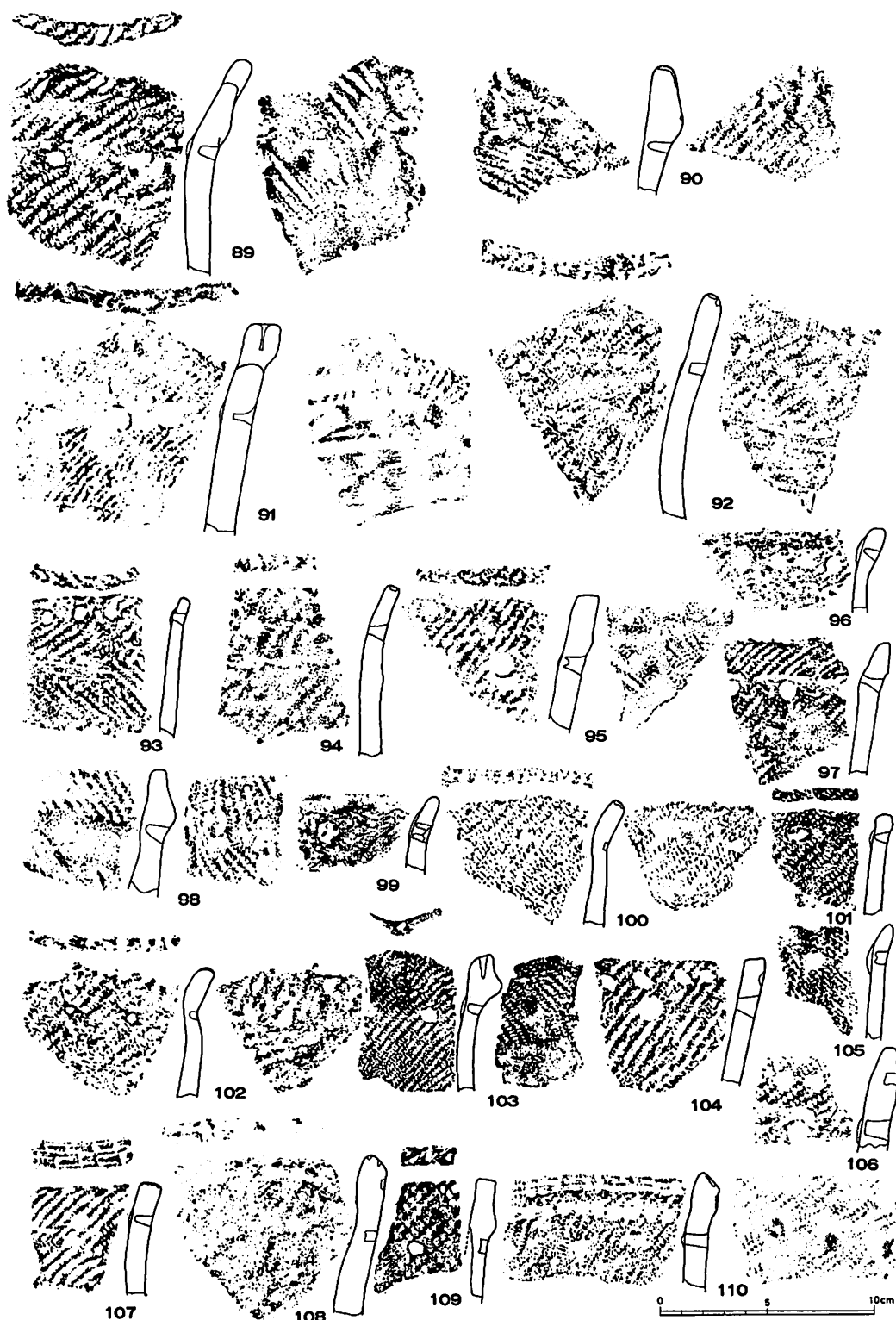


図4-7 包含層出土の土器(6)

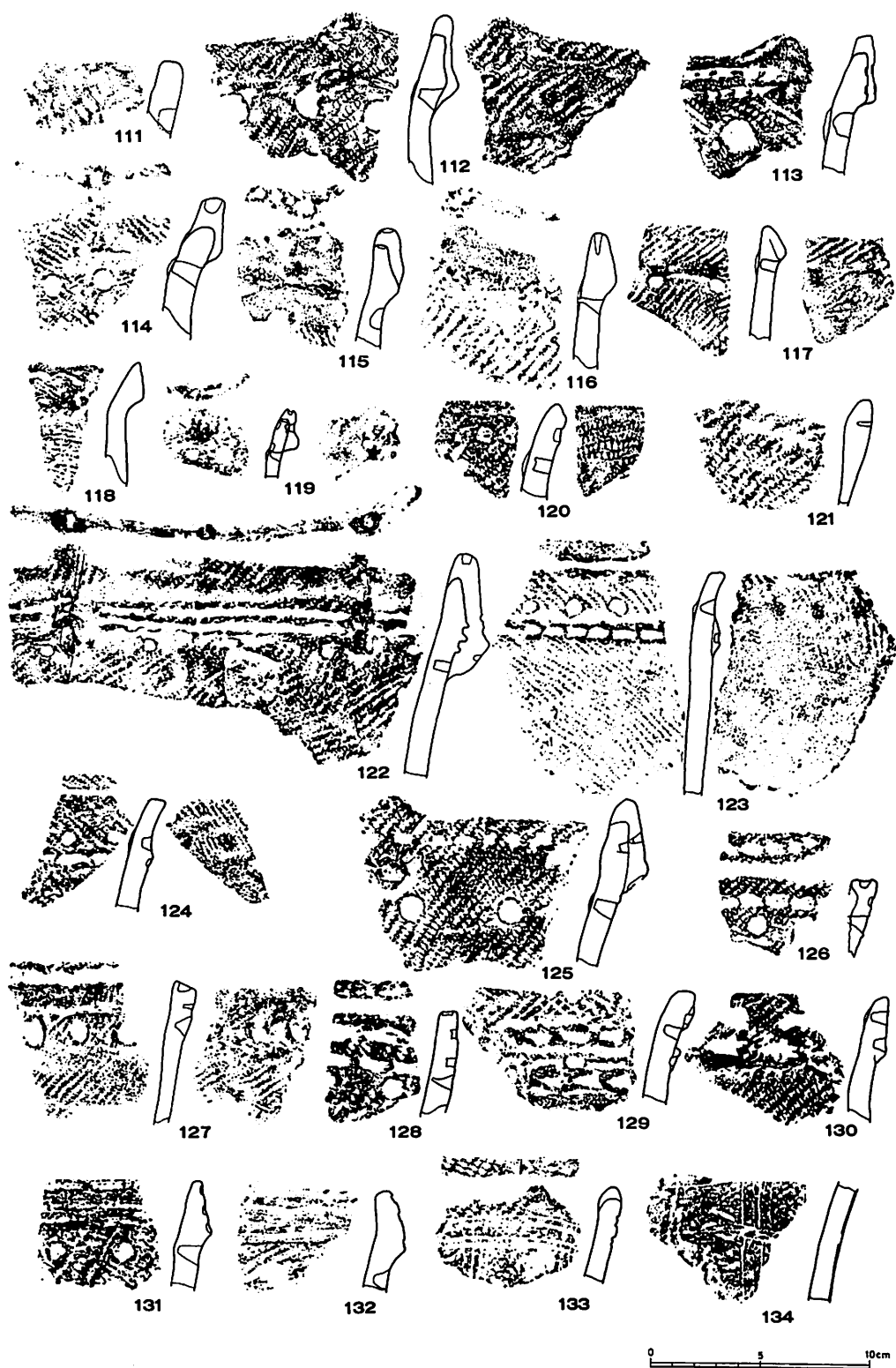


図4-8 包含層出土の土器(7)

IV. 包含層出土の遺物



図4-9 包含層出土の土器(8)

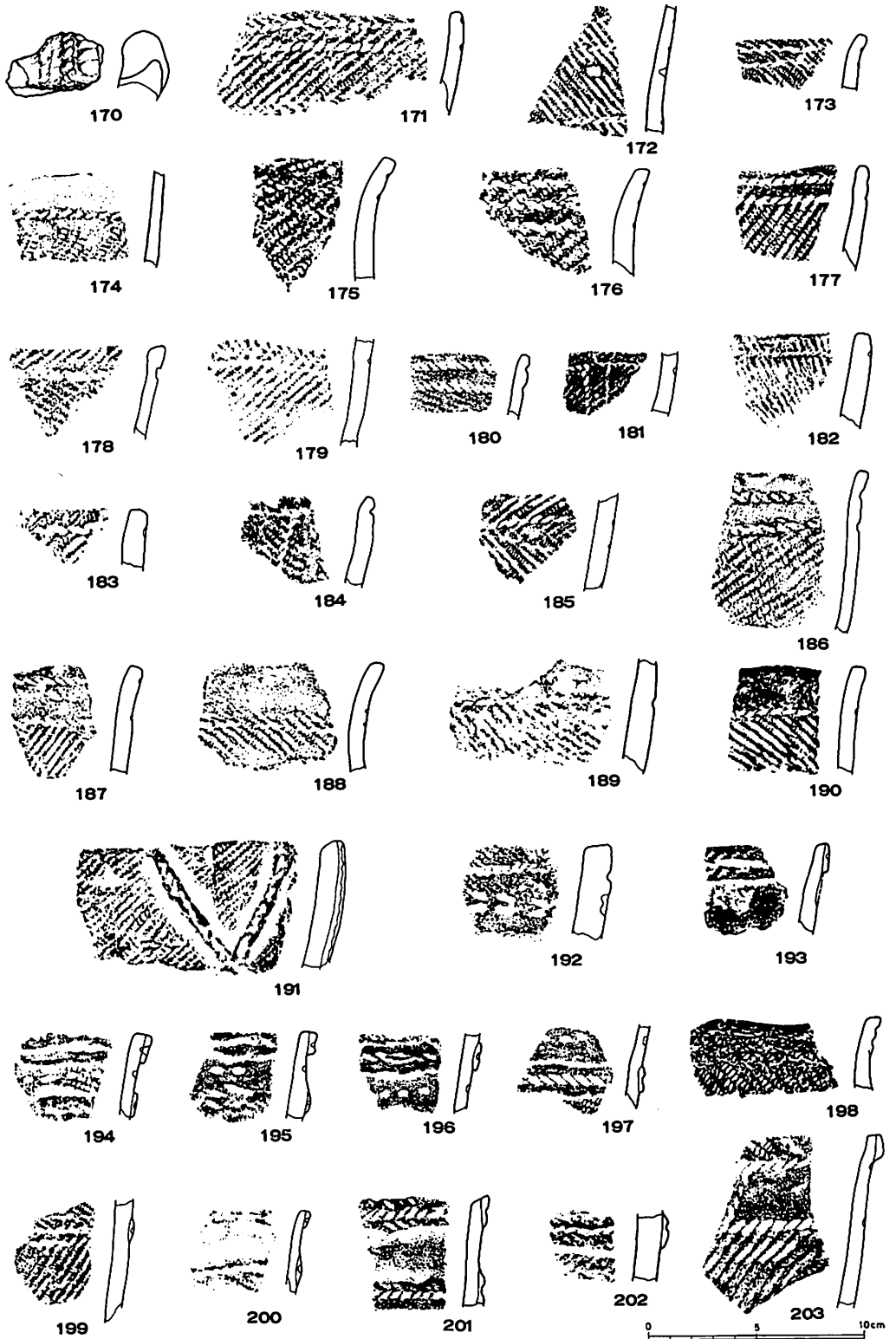


図4-10 包含層出土の土器(9)

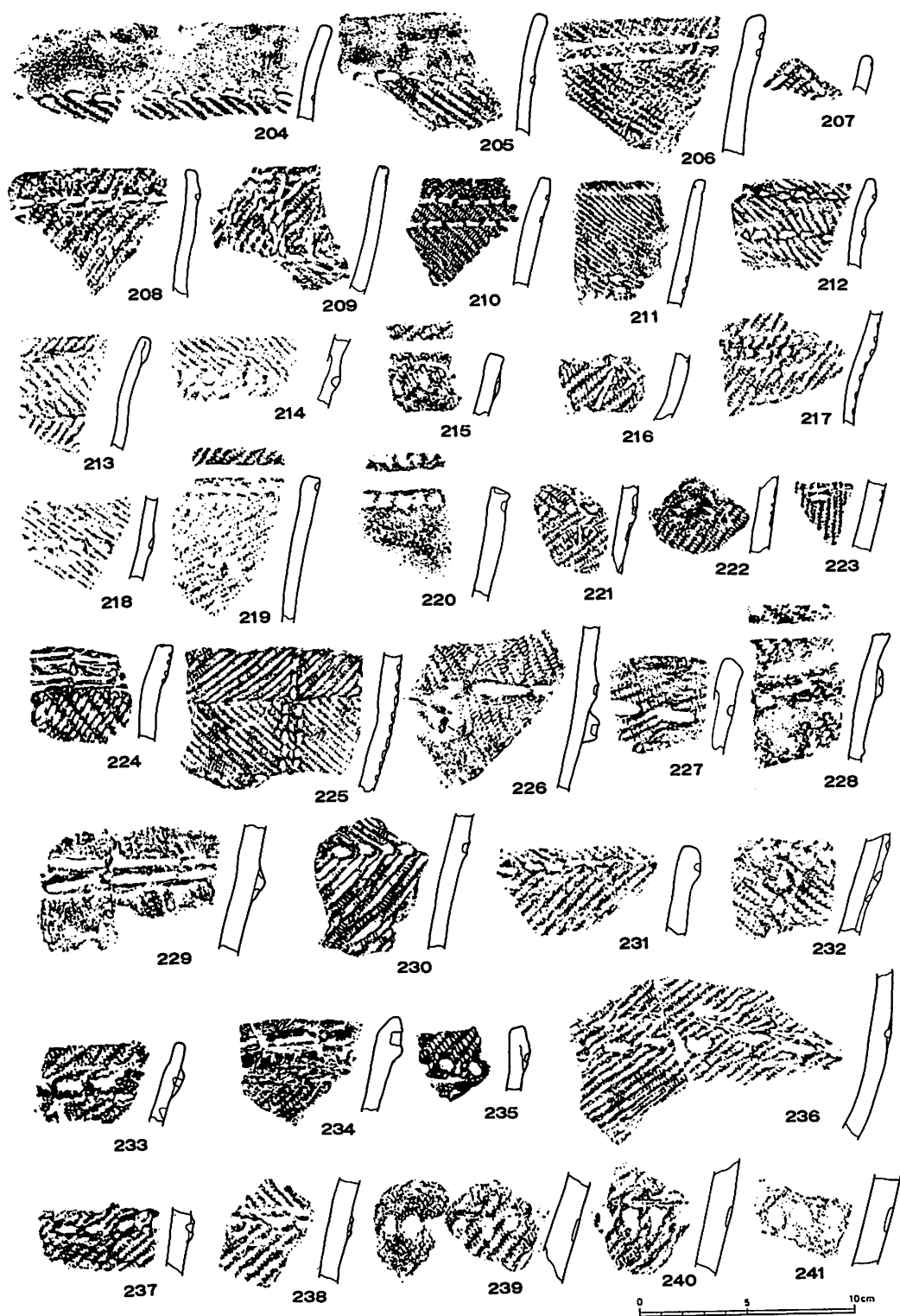


図4-11 包含層出土の土器 (10)



図4-12 包含層出土の土器 (11)

Ⅳ. 包含層出土の遺物

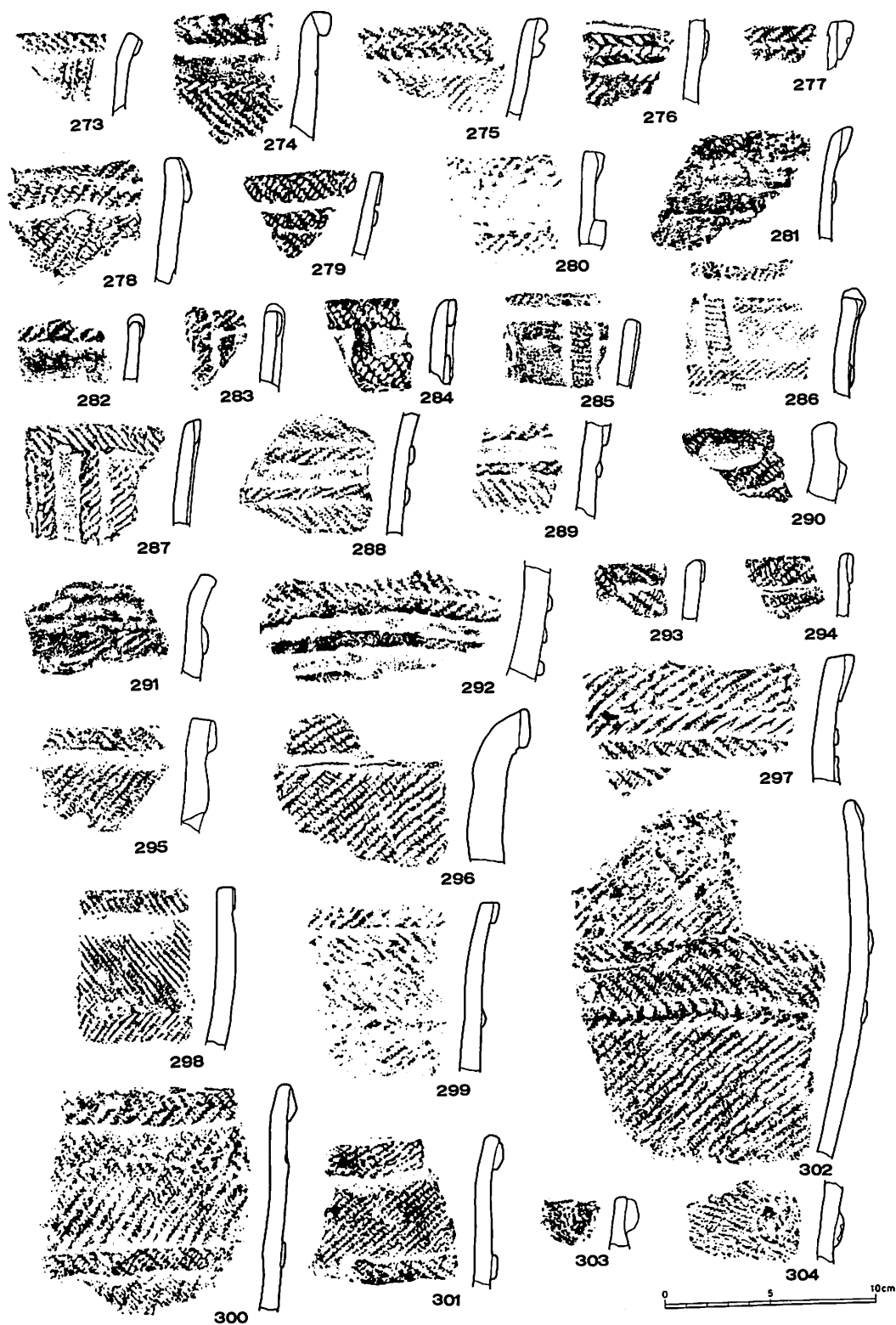


図4-13 包含層出土の土器 (12)

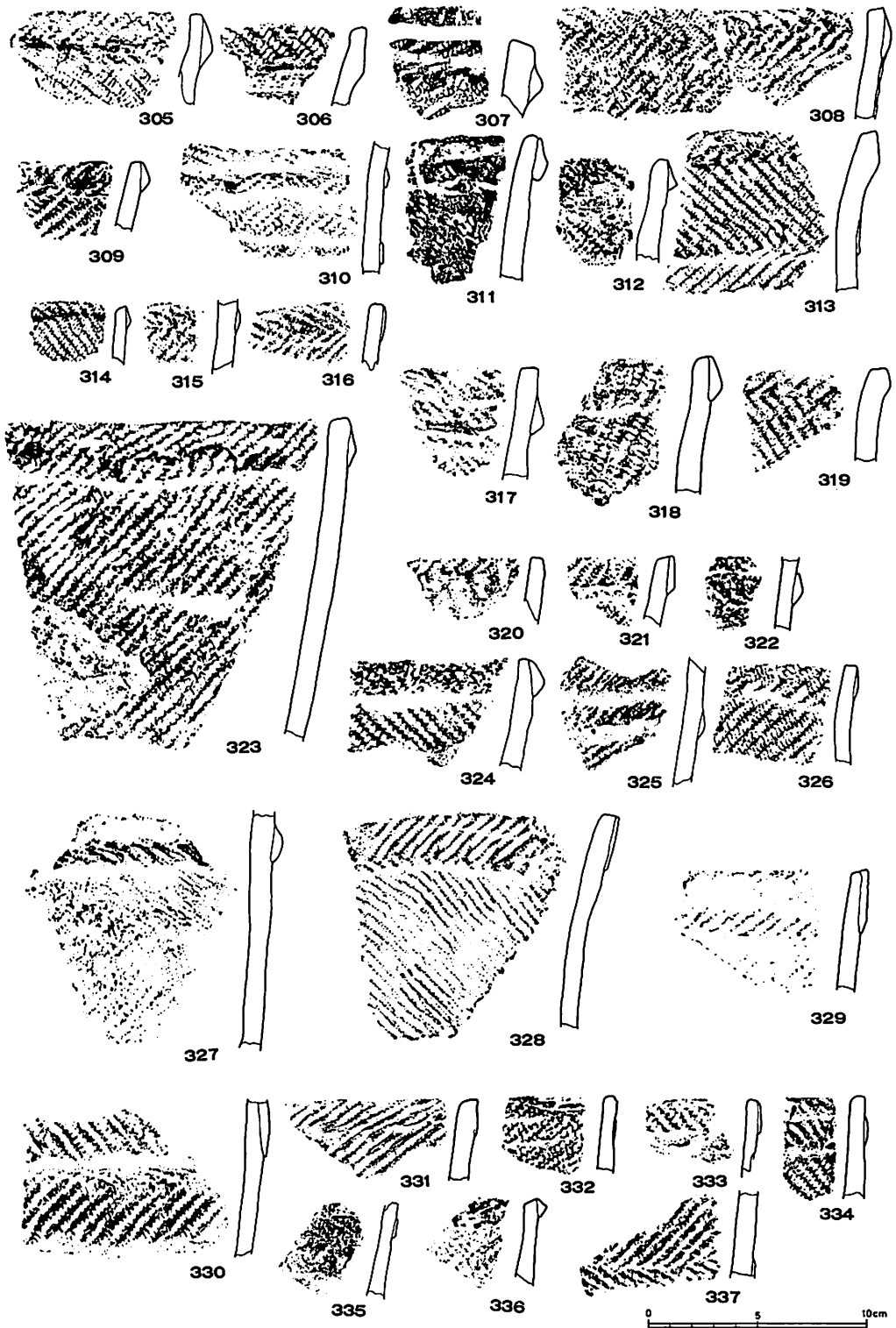


図 4-14 包含層出土の土器 (13)

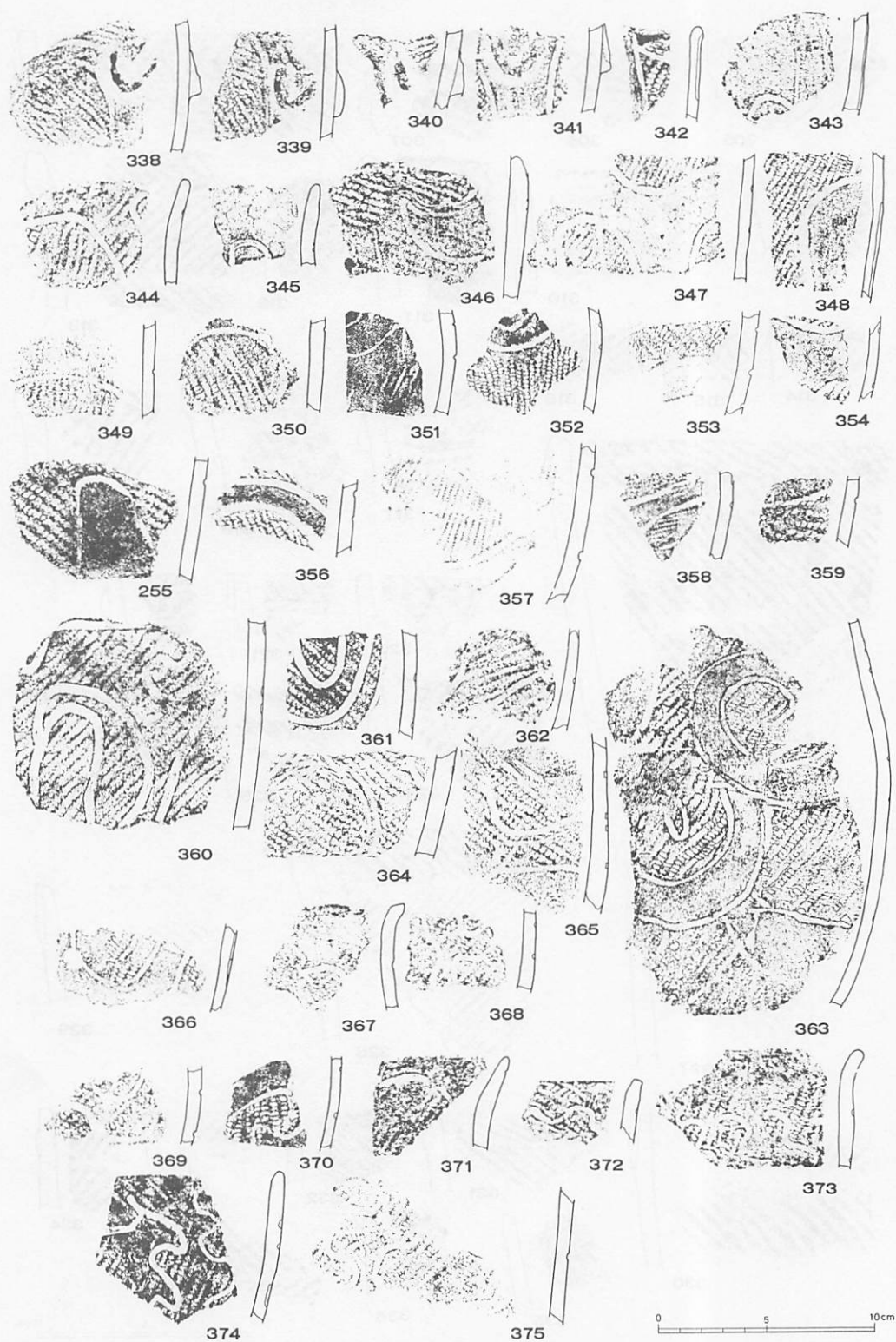


図4-15 包含層出土の土器 (14)

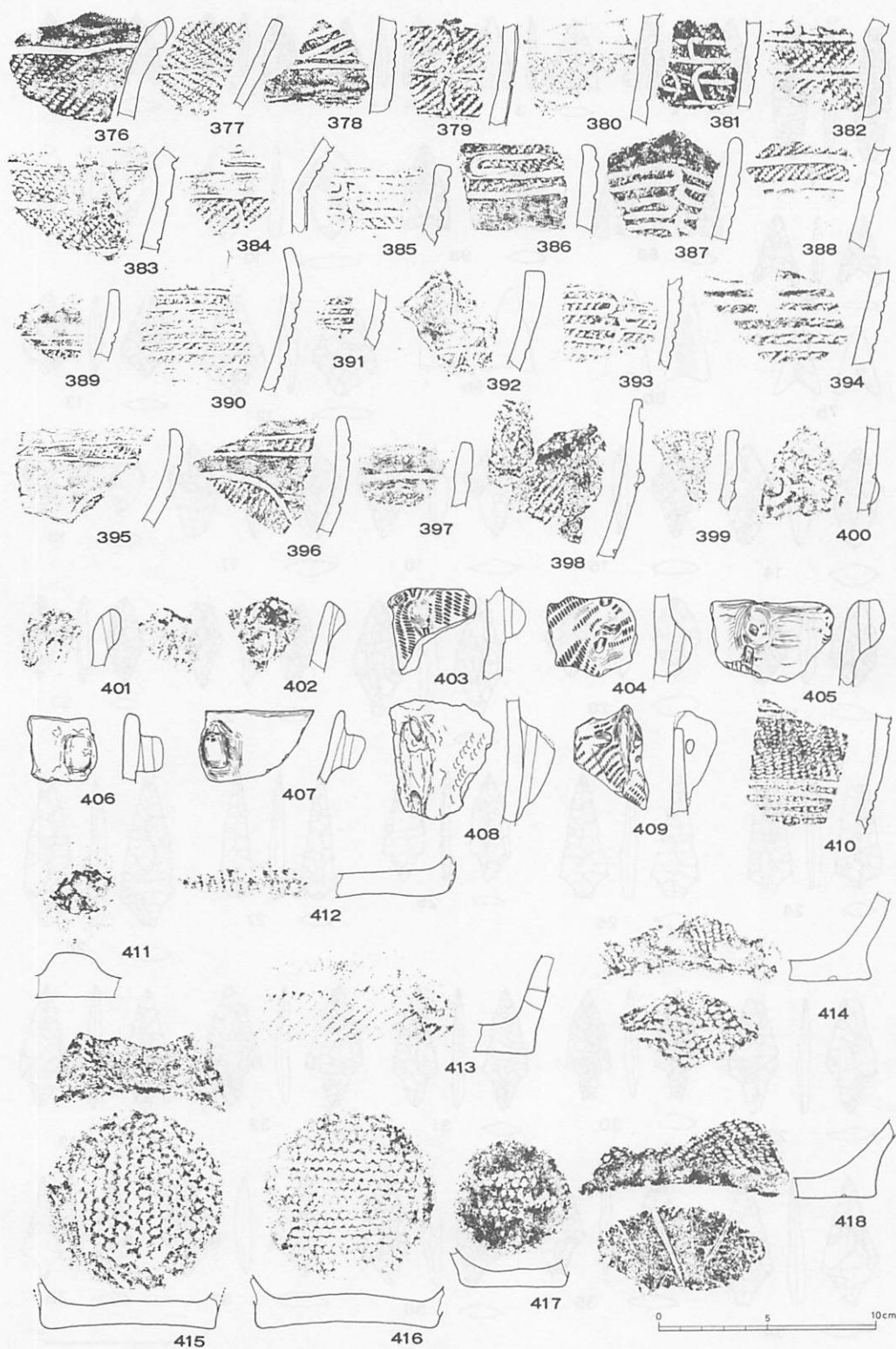


図 4-16 包含層出土の土器 (15)

IV. 包含層出土の遺物

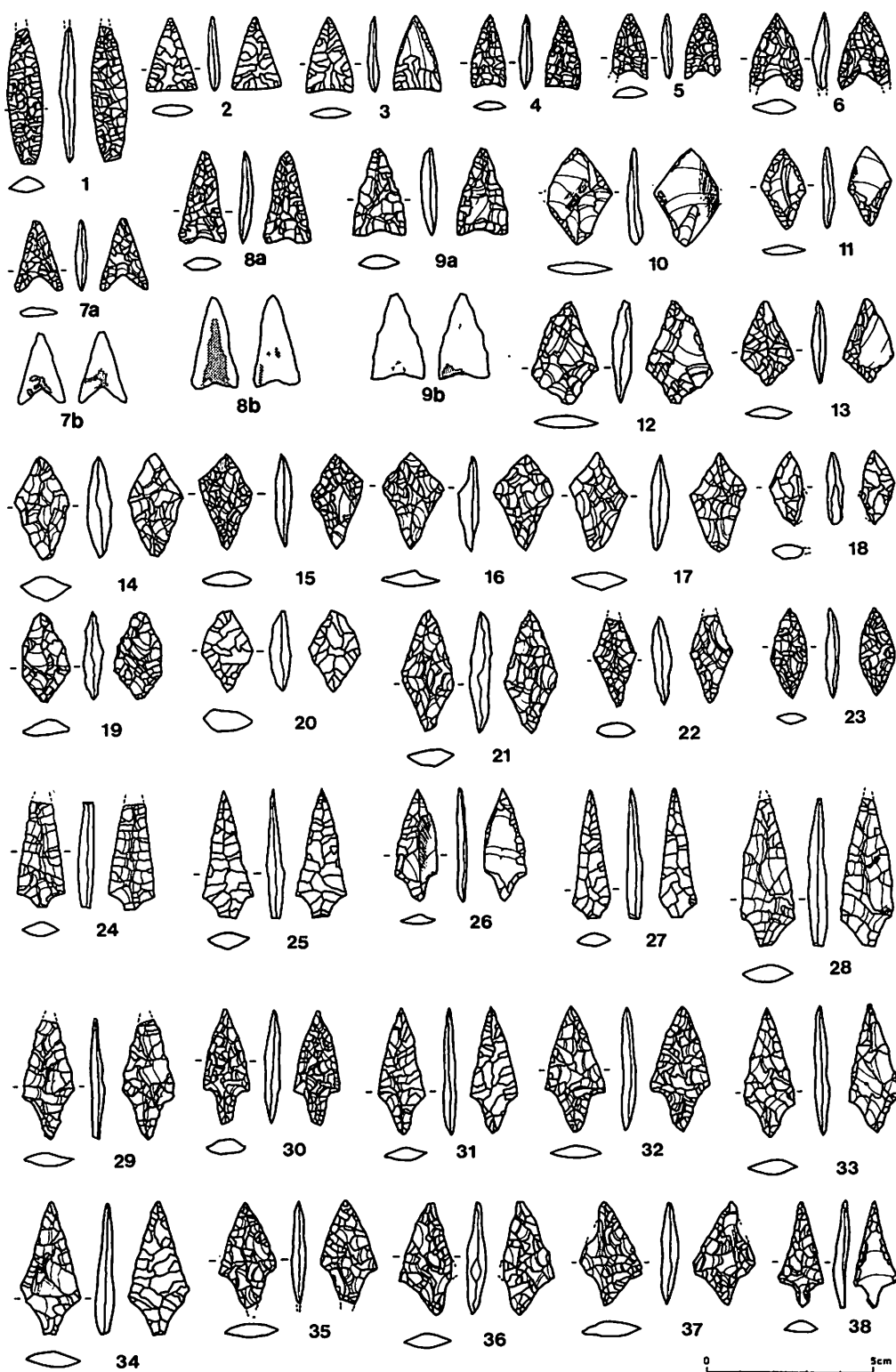


図4-17 包含層出土の石器 (1)

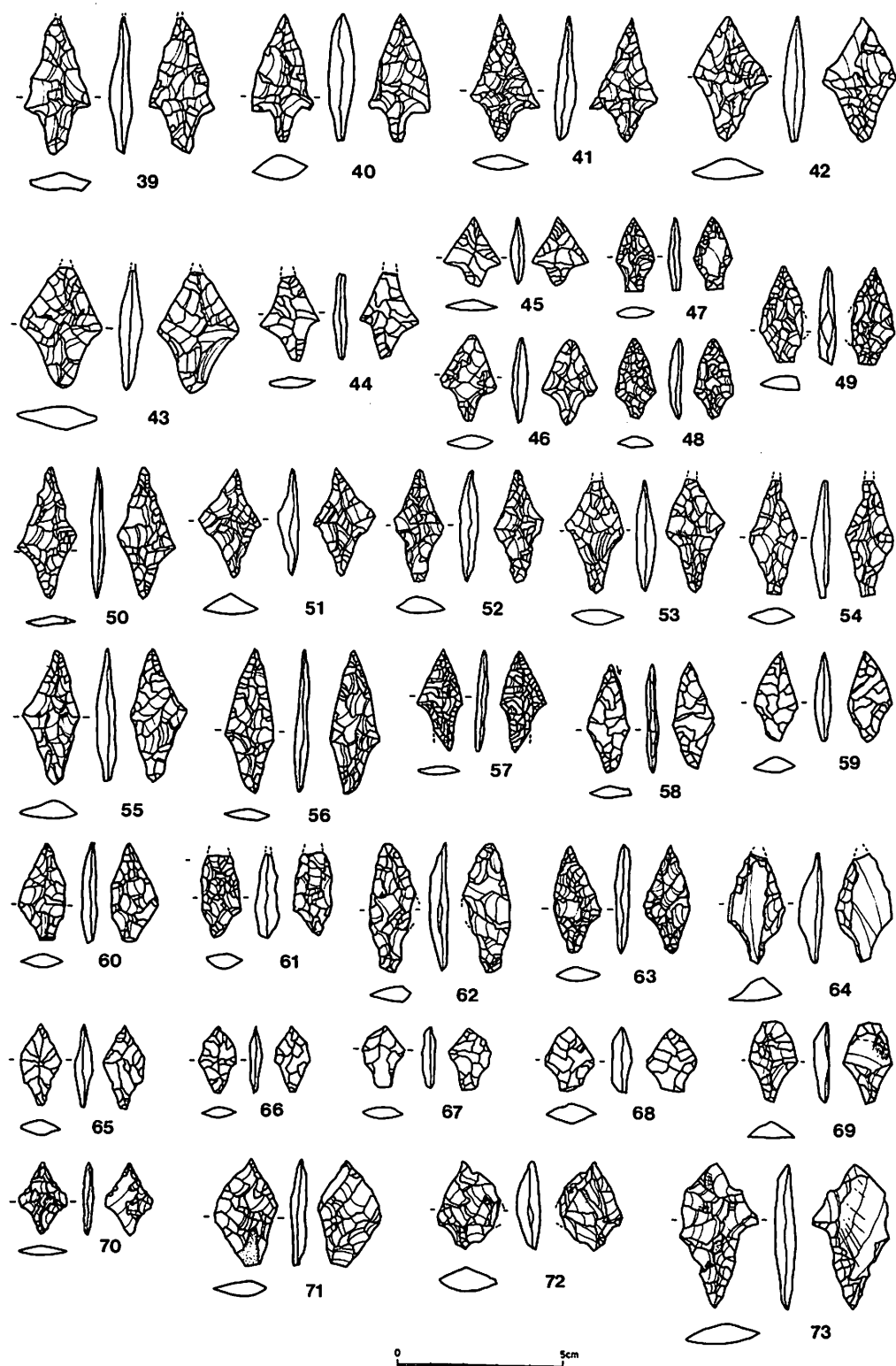


図 4-18 包含層出土の石器 (2)

IV. 包含層出土の遺物

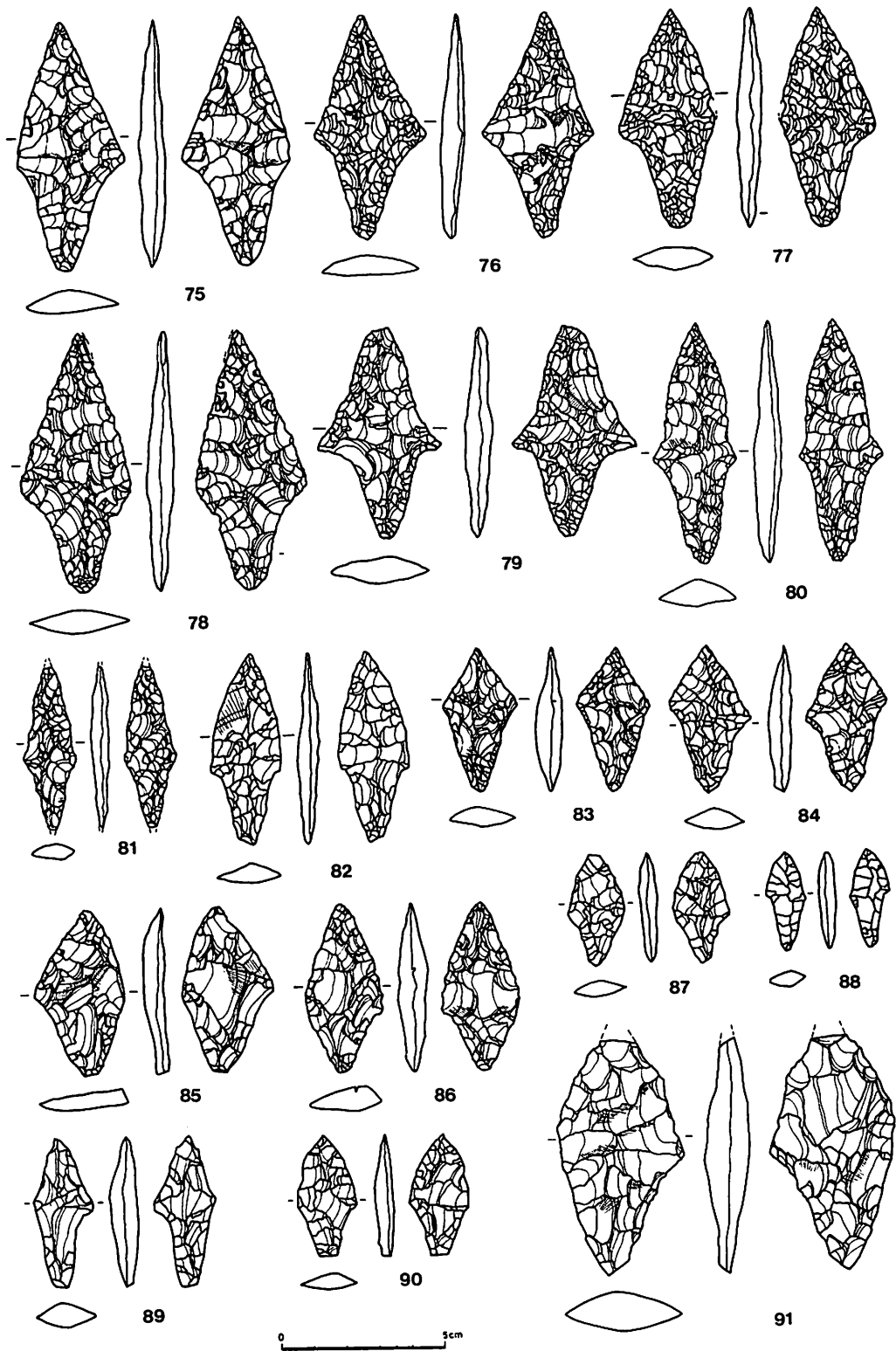


図4-19 包含層出土の石器 (3)

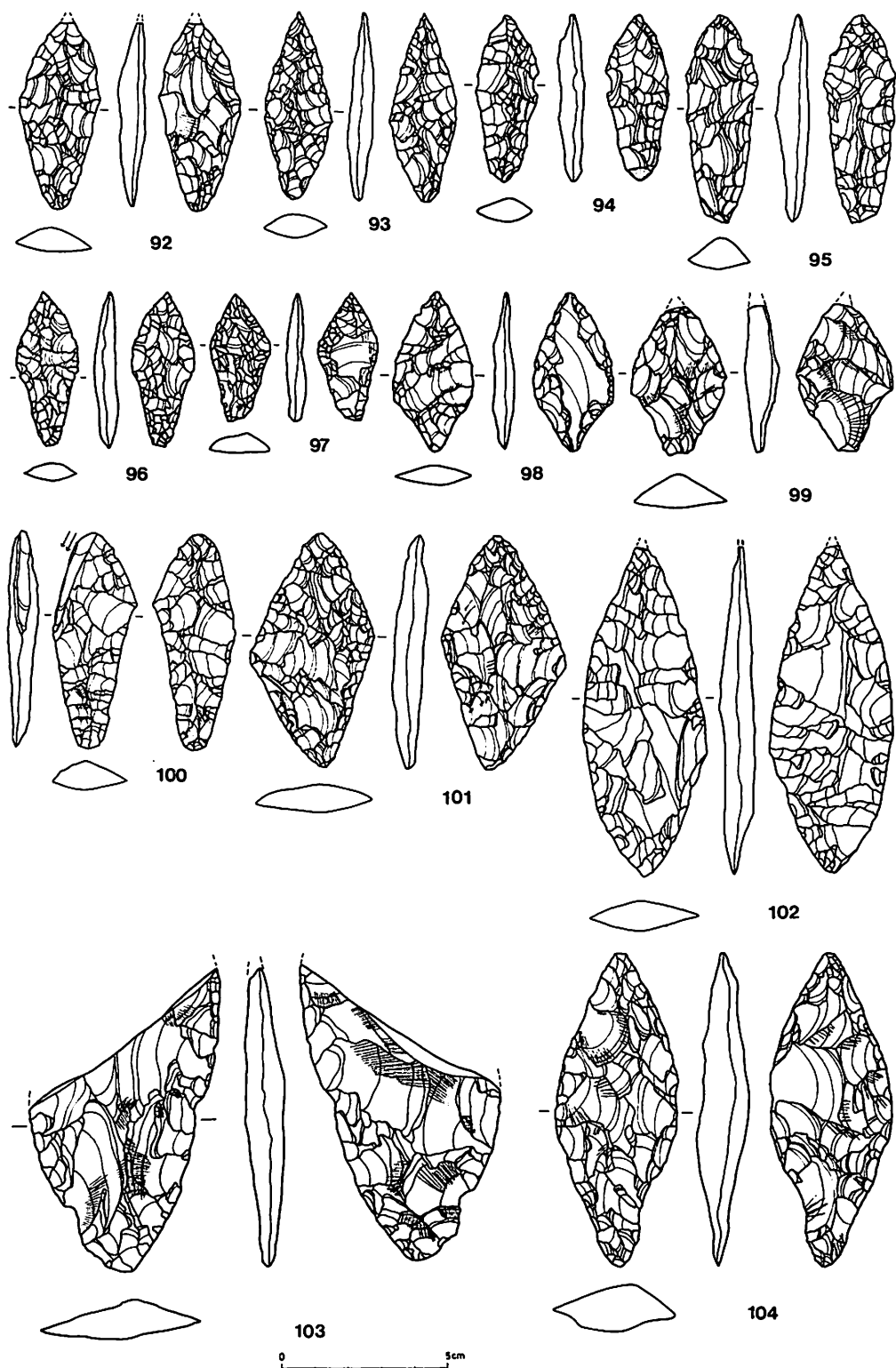


図 4-20 包含層出土の石器 (4)

IV. 包含層出土の遺物

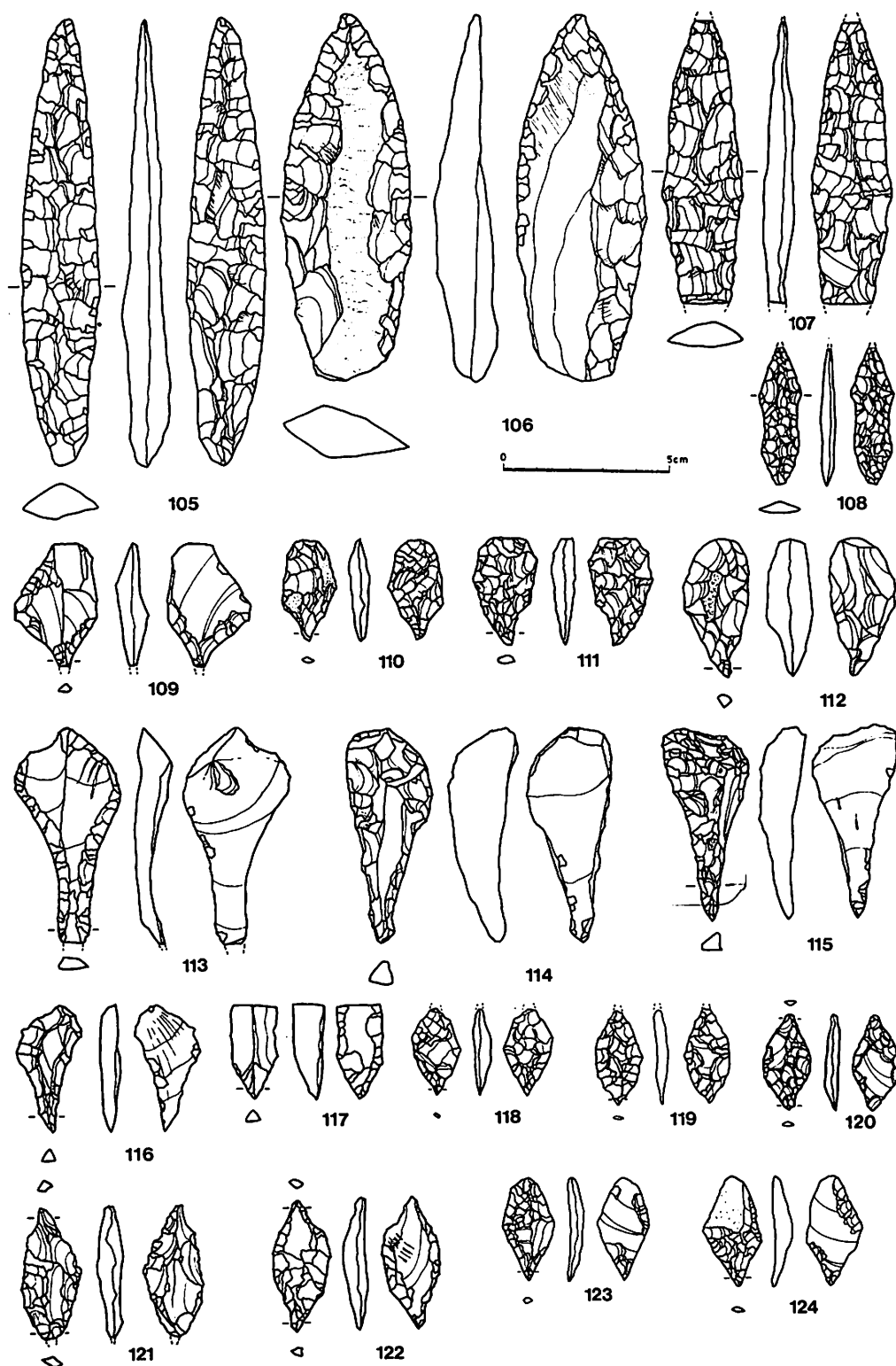


図 4-21 包含層出土の石器 (5)

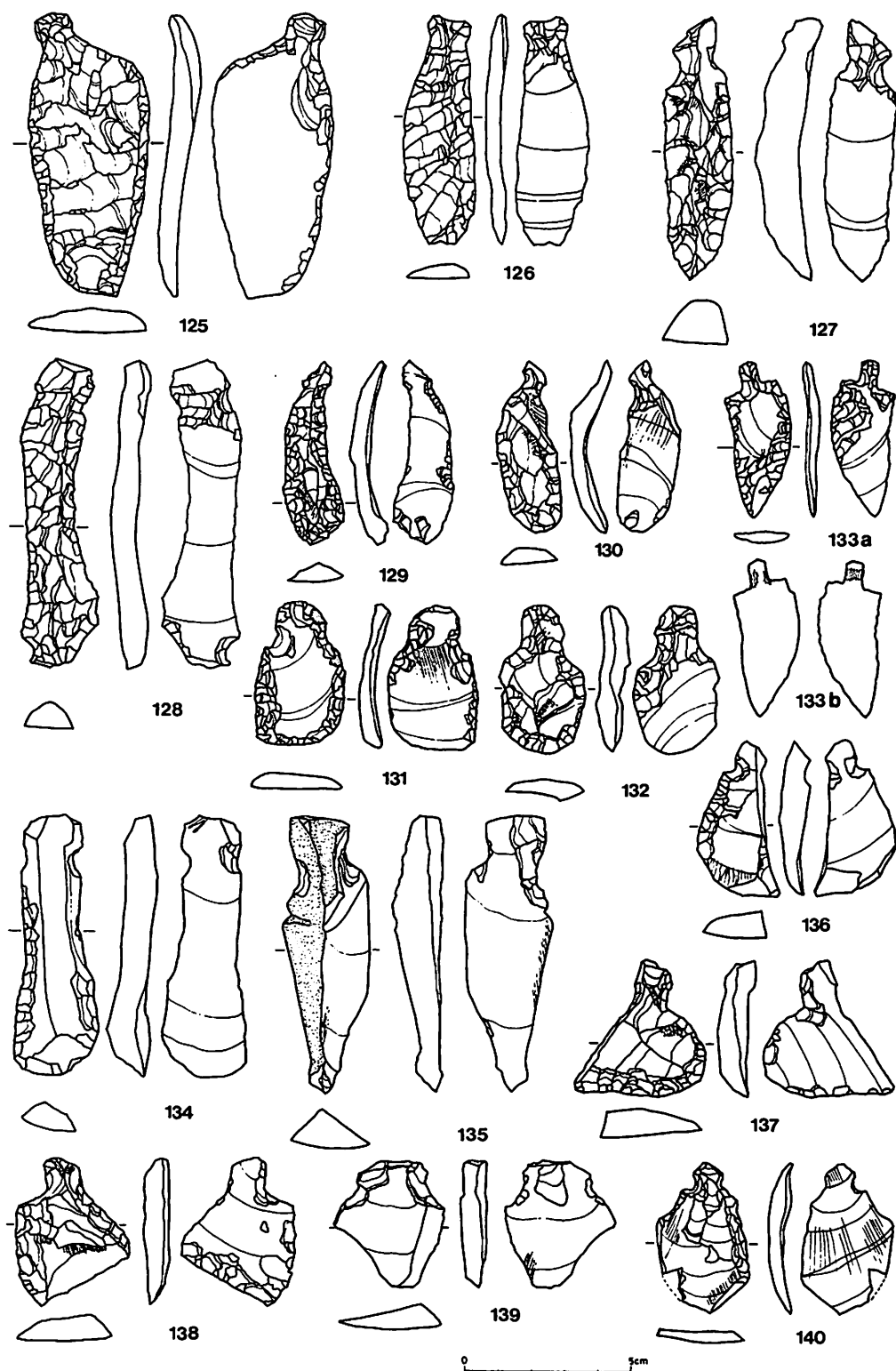


図4-22 包含層出土の石器 (6)

IV. 包含層出土の遺物

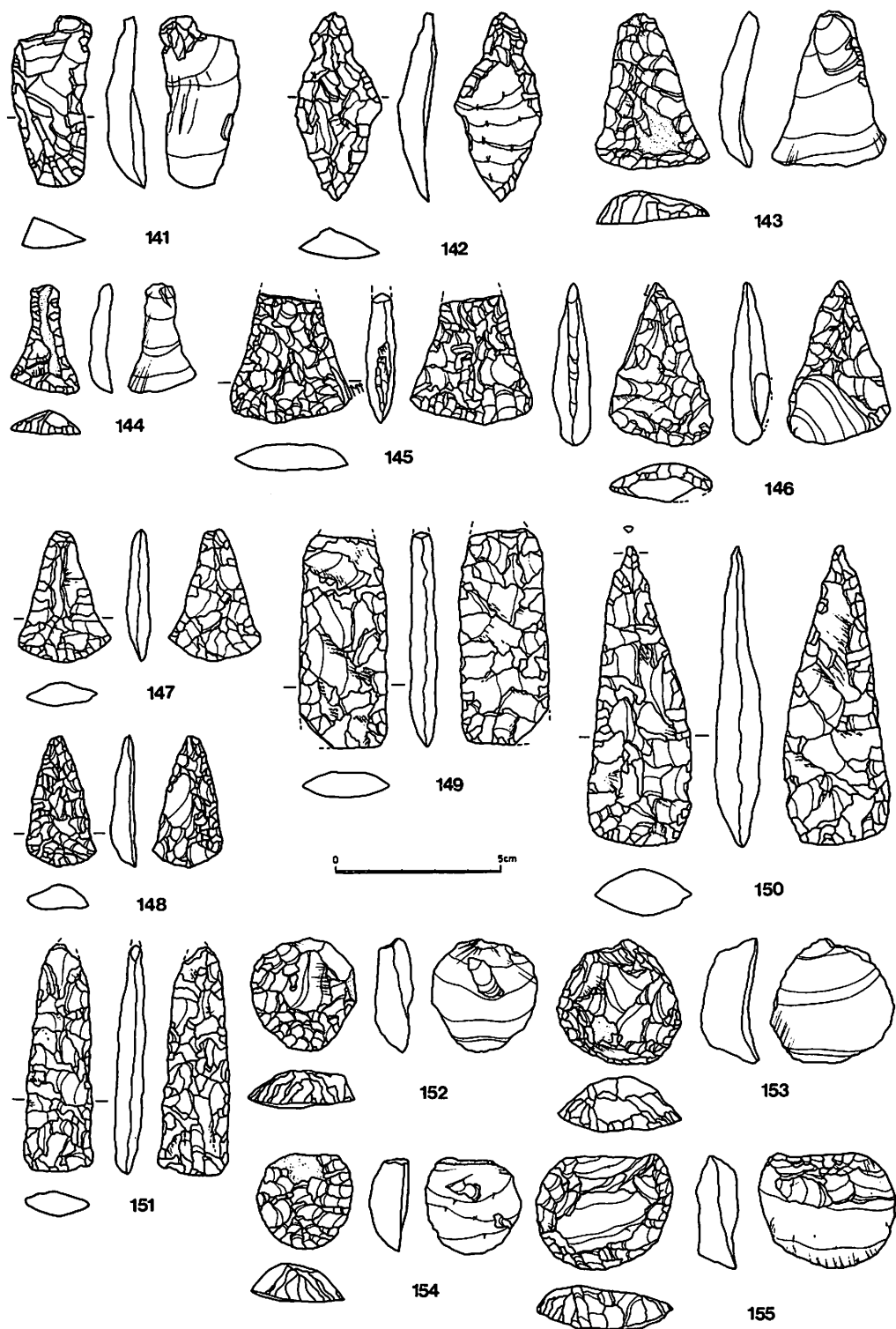


図 4-23 包含層出土の石器 (7)

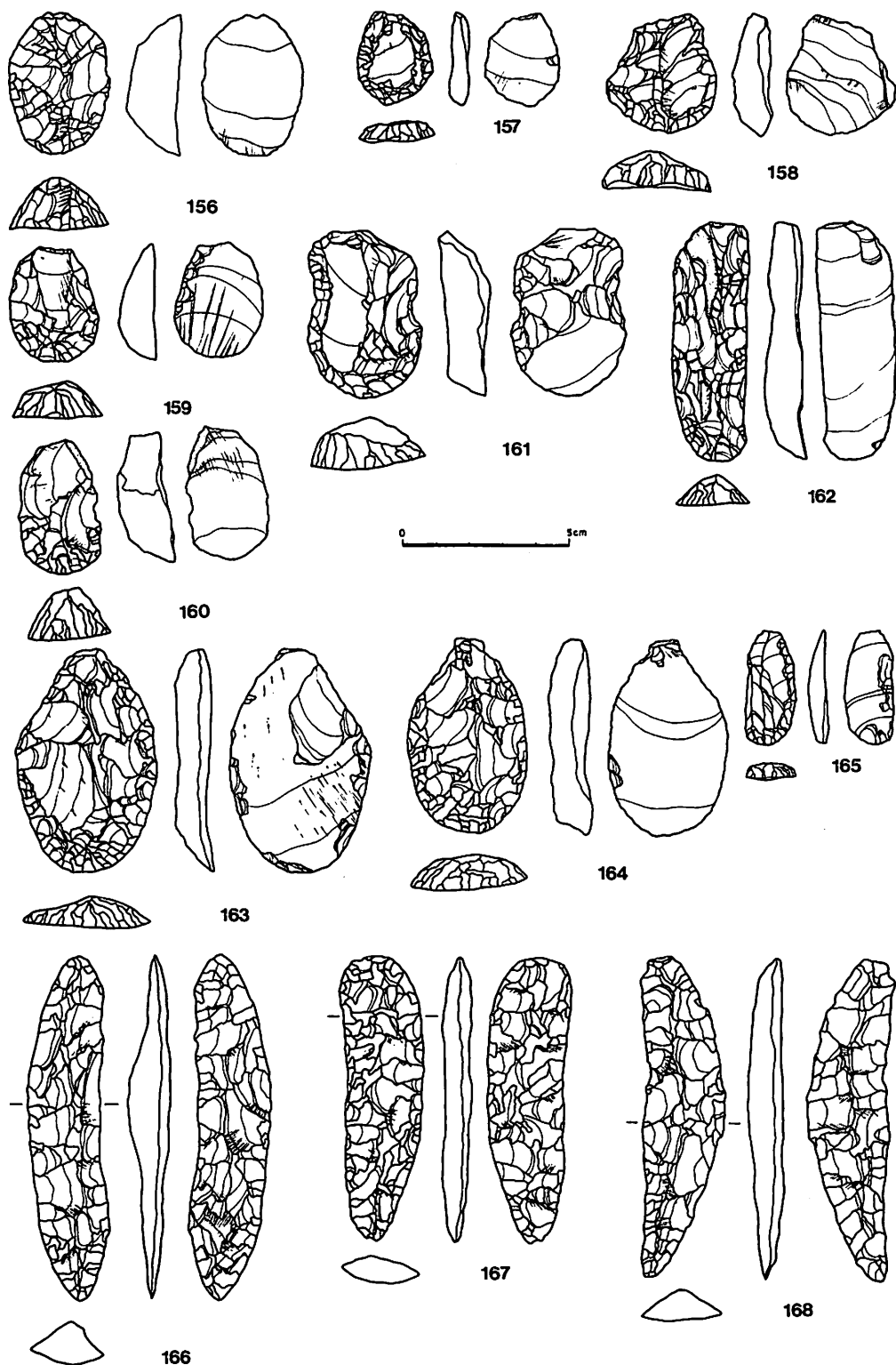


図 4-24 包含層出土の石器 (8)

IV. 包含層出土の遺物

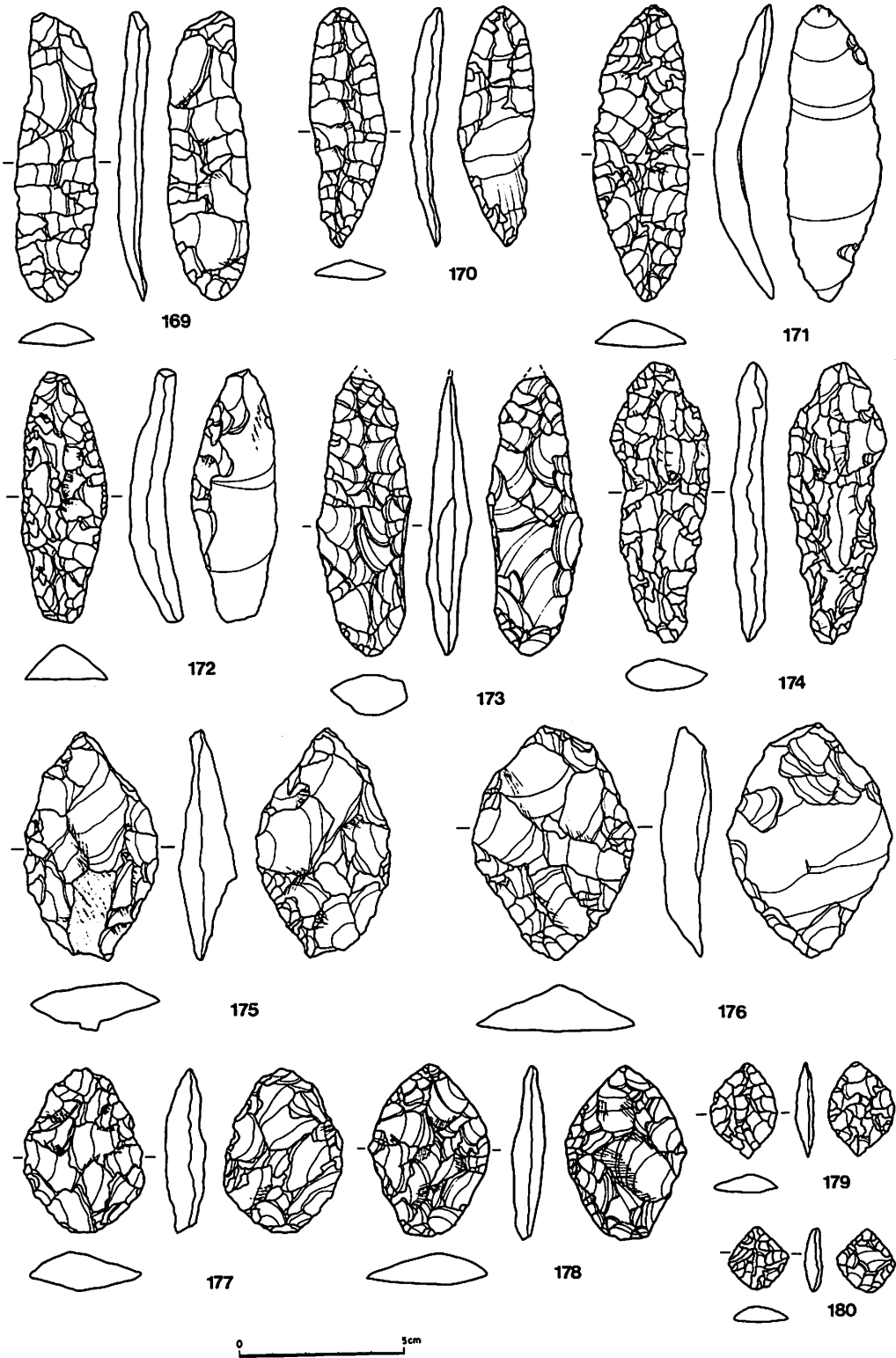


図 4-25 包含層出土の石器 (9)

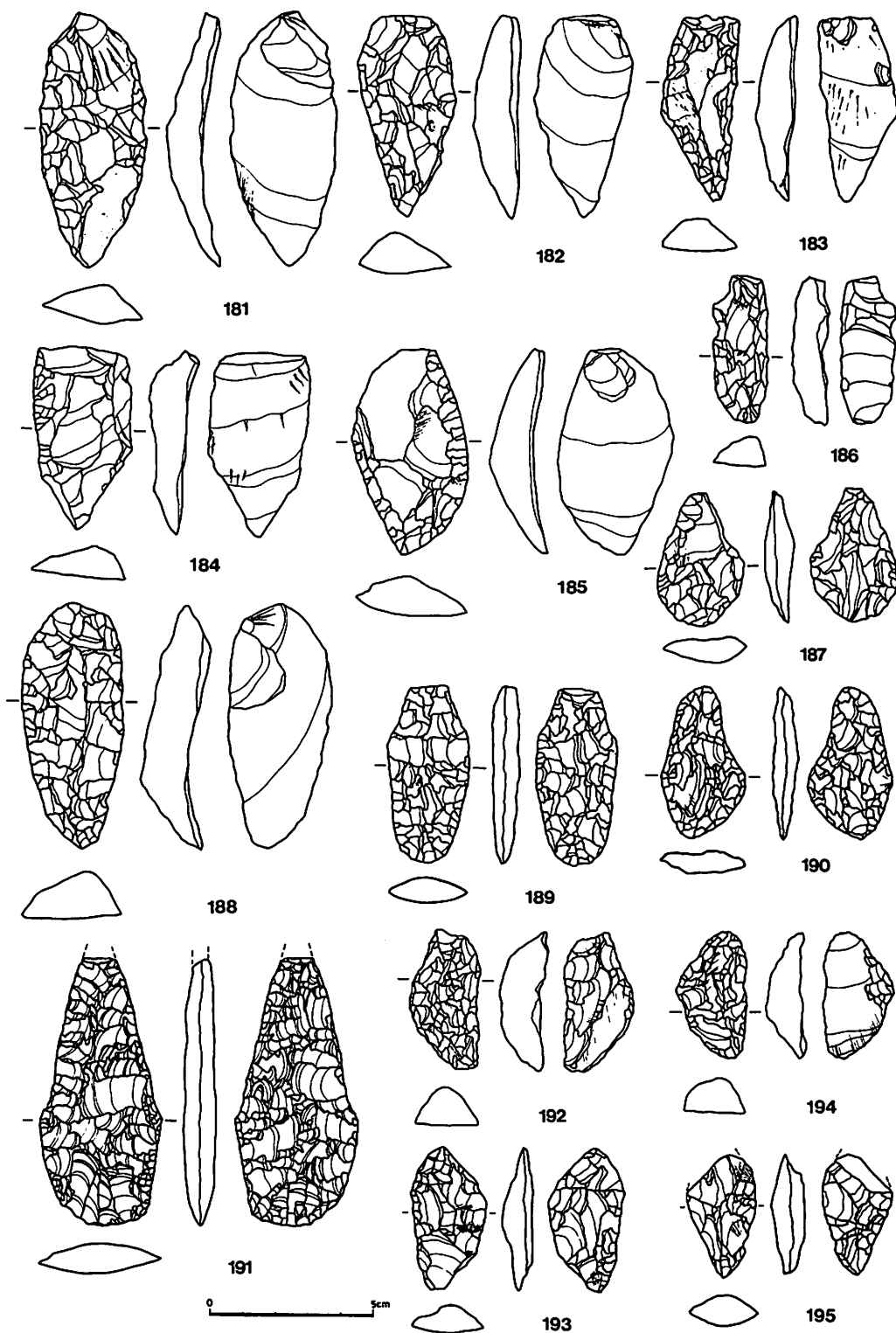


図 4-26 包含層出土の石器 (10)

IV. 包含層出土の遺物

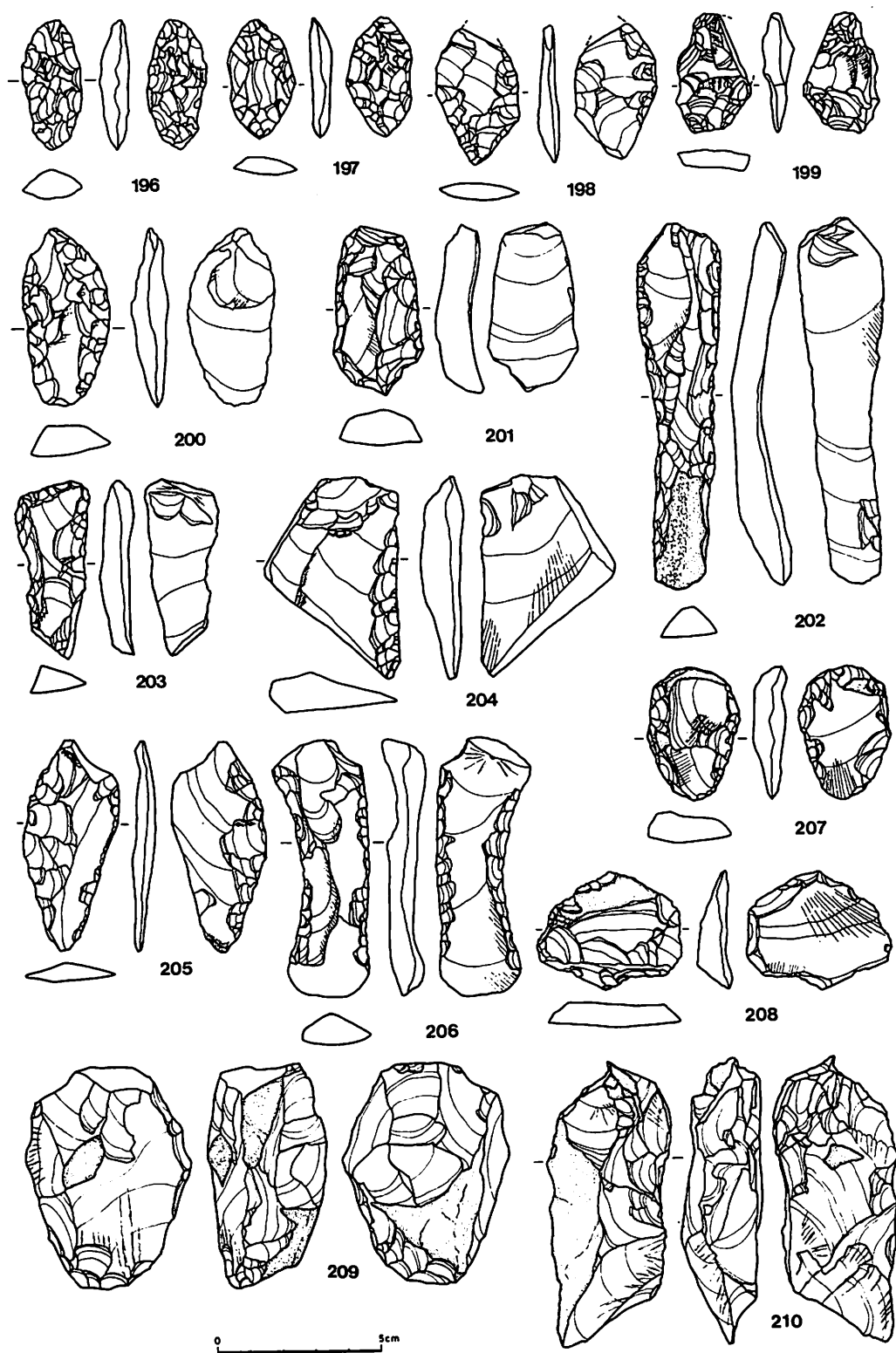


図 4-27 包含層出土の石器 (II)

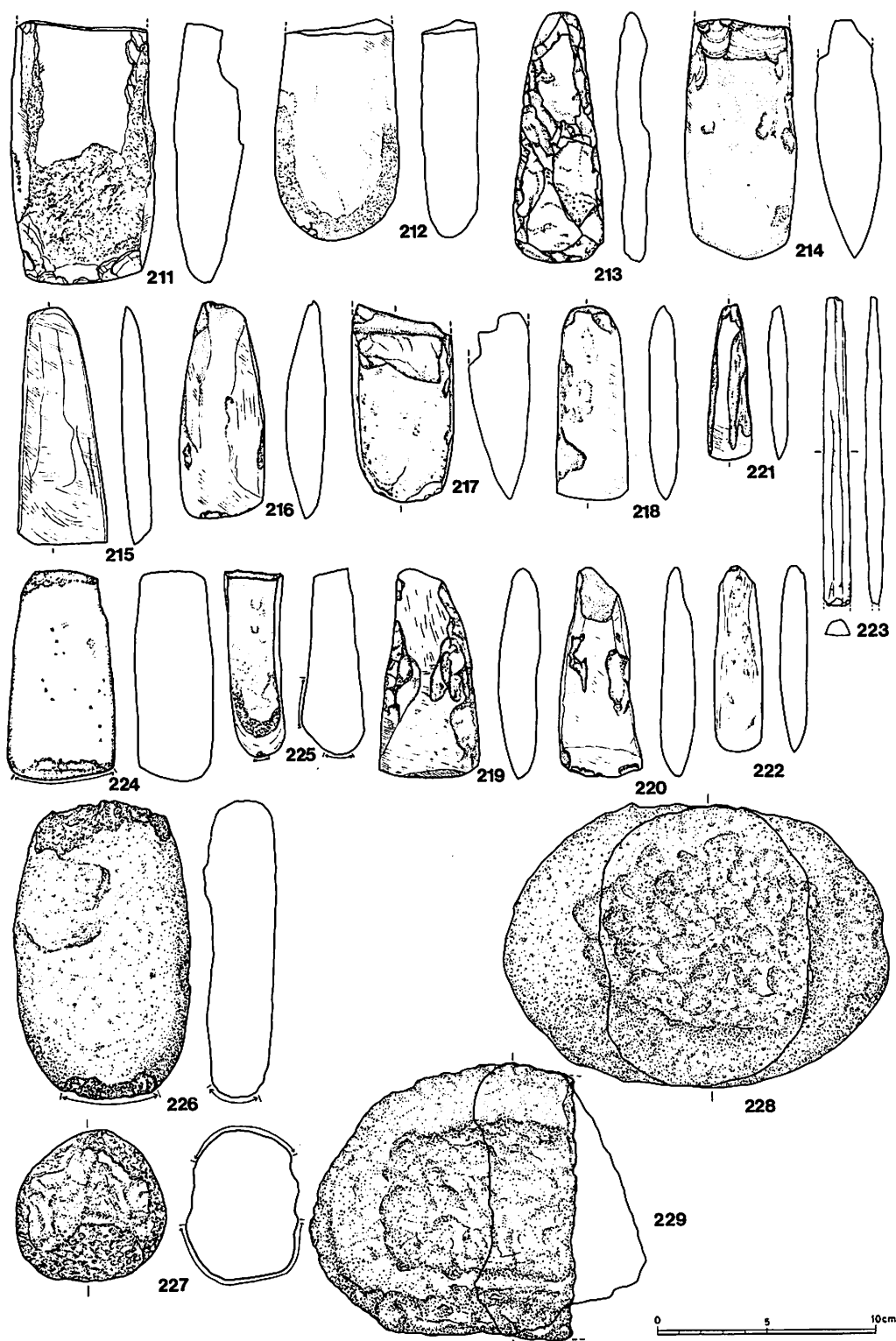


図 4-28 包含層出土の石器 (12)

IV. 包含層出土の遺物

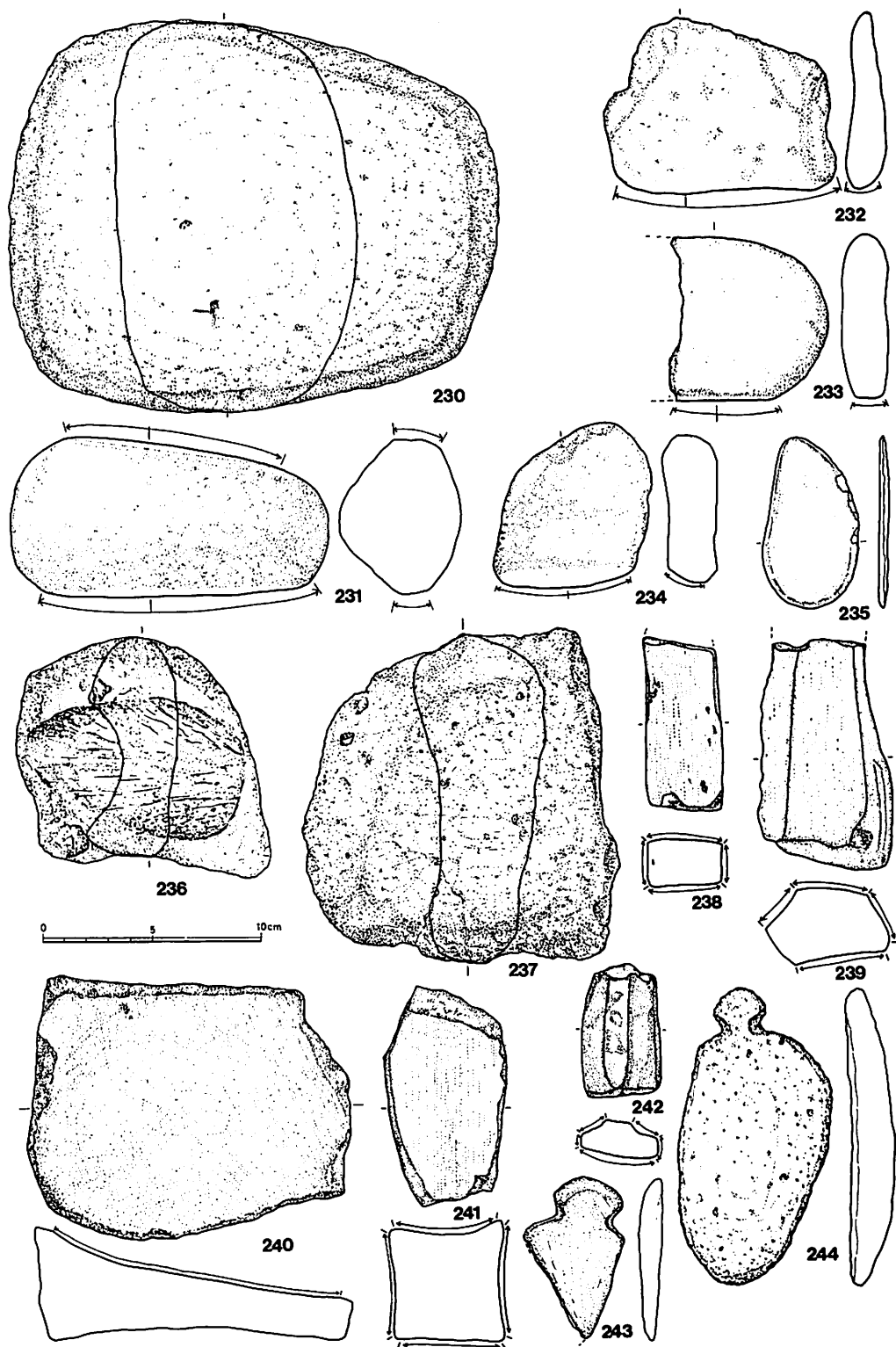


図 4-29 包含層出土の石器等 (13)

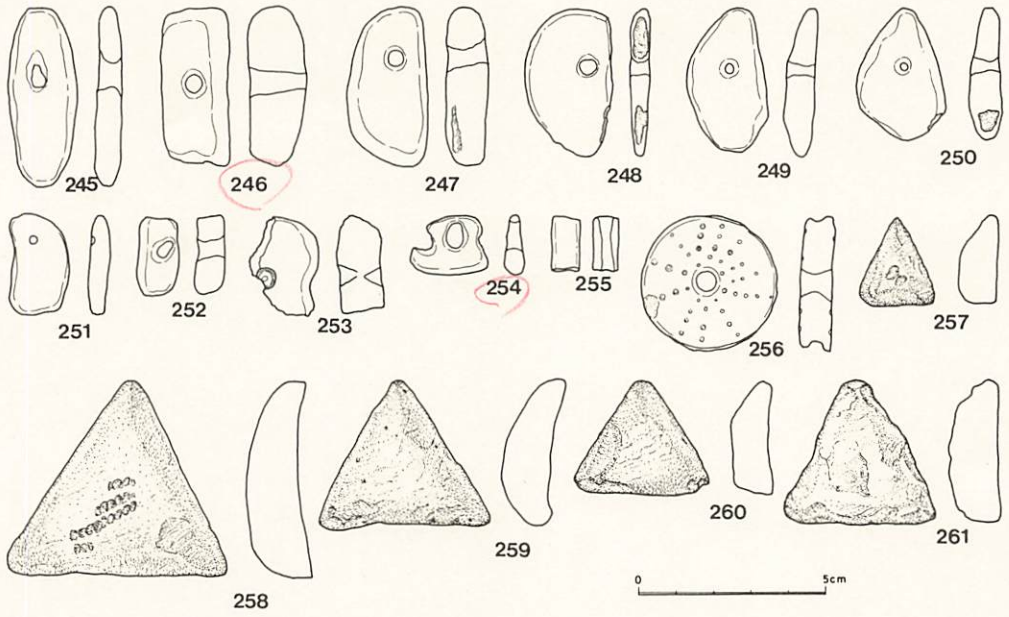


図 4-30 包含層出土の石器等 (14)

資 料 編

表

- 表 1 遺構数一覧
- 表 2 出土遺物一覧
- 表 3 遺構一覧
- 表 4 遺構出土掲載遺物一覧
- 表 5 包含層出土掲載土器一覧
- 表 6 包含層出土掲載石器等一覧

写真図版

- 1 遺跡
- 2 遺構とその遺物
- 3 包含層出土土器
- 4 包含層出土石器等

凡 例

表について

- 1 表中の番号はそれぞれの図中の番号に対応している。遺構一覧と遺構出土遺物一覧は遺構および遺構出土遺物の図に対応する。包含層出土掲載土器・石器等一覧は包含層出土土器・石器等の図に対応する。
- 2 遺構一覧のグリッド欄は10mグリッド，その他の表では5mグリッドで表示している。
- 3 遺構数一覧の遺構の記号，遺構一覧の遺構番号に付けられている記号は，次の遺構を示す。H；住居跡，S；石囲い炉，P；墓およびそれに類するピット，TP；Tピット，F；焼土。
- 4 それぞれの表の土器，石器等の分類記号は，I章5節の遺物の分類の節に示されている。
- 5 遺構および包含層出土の掲載石器等の表では欠損品の重量を（ ）で示してある。

写真図版について

- 1 遺構出土の遺物については，原則として，その遺構のところにそれぞれ示した。
- 2 遺物写真の縮尺は，不同である。

表 1 遺構数一覧

H	S	P	TP	F	計
18	3	36	2	7	66

表 2 出土遺物一覧

名	称	分 類	数		名	称	分 類	数		量
			包含層	遺 構				包含層	遺 構	
土	器	Ⅲa	102	0	石	錐	ⅡA2	4	2	
〃		Ⅲb-1	5	0	〃		ⅡA3	6	2	
〃		Ⅲb-2	102	0	〃		ⅡA8	3	0	
〃		Ⅲb-3	49,978	3,543	〃		ⅡA9	2	1	
〃		Ⅲb	0	3	つまみ付きナイフ		ⅢA1	7	0	
〃		Ⅳa	23,606	2,457	〃		ⅢA2	19	3	
〃		Ⅳb	387	20	〃		ⅢA3	9	0	
〃		Ⅳc	19	0	〃		ⅢA4	2	0	
〃		Ⅳ	1	60	〃		ⅢA8	8	0	
〃		Va	0	1	〃		ⅢA9	13	2	
〃		Vb	23	0	スクレイパー		ⅢB1	9	1	
〃		Vc	6	0	〃		ⅢB2	10	2	
〃		V	3	0	〃		ⅢB8	88	11	
〃		Ⅵ	4	0	〃		ⅢB9	710	127	
〃		不明	16,576	1,309	石	斧	ⅣA1	11	3	
〃		小 計	90,812	7,393	〃		ⅣA2	14	9	
石	鉄	ⅠA2a	1	0	〃		ⅣA3	10	9	
〃		ⅠA3	16	1	〃		ⅣA4	9	2	
〃		ⅠA4	36	8	〃		ⅣA5	93	7	
〃		ⅠA5	207	22	〃		ⅣA8	336	19	
〃		ⅠA8	40	1	〃		ⅣA9	19	1	
〃		ⅠA9	13	1	石 の み		ⅣB	6	2	
埴 先		ⅠB1	310	62	た た き 石		ⅤA1	28	3	
〃		ⅠB2	98	21	〃		ⅤA2	9	3	
〃		ⅠB8	125	16	〃		ⅤA3	13	0	
〃		ⅠB9	25	2	〃		ⅤA8	20	5	
石	錐	ⅡA1	6	2	〃		ⅤA9	18	10	

名 称	分 類	数 量		名 称	分 類	数 量	
		包 含 層	造 構			包 含 層	造 構
た た き 石	VB1	19	5	砥 石	ⅦA9	0	1
台 石	VB8	2	1	〃	ⅦB2	84	27
〃	VB9	2	1	〃	ⅦB8	64	11
す り 石	ⅥA1	13	1	〃	ⅦB9	8	0
〃	ⅥA2	6	2	石 斧	ⅨA	80	17
〃	ⅥA4	1	2	使用痕有りフレイク(UF)	ⅩA1	979	131
〃	ⅥA5	2	0	加工痕有りフレイク(RF)	ⅩA2	520	58
〃	ⅥA8	14	1	フ レ イ ク		30,323	5,309
〃	ⅥA9	17	2	礫		2,138	158
石 皿	ⅦB1	5	5	石 製 品		17	2
〃	ⅦB8	7	0	土 製 品		5	0
〃	ⅦB9	3	0	小 計		36,668	6,096
石 鋸	ⅦA8	6	2	総 計		127,480	13,489

表3 遺構一覽

遺構 番号	グ リ ッ ド	規 模 (cm)	出 土 遺 物
H-1	D-3	(367)×(314)×62	[土器]Ⅲb-3; 171, Ⅴa; 121, Ⅳb; 1, 不明; 11, [石器等] IA5; 2, IB8; 1, ⅢB9; 5, ⅣA1; 1, ⅣA3; 1, ⅣA8; 2, VB1; 1, ⅤB2; 1, XA1; 7, フレイク; 49, 礫; 2
H-2	欠 番		
H-3	H-5, H-6 I-5, I-6	828×520×73	[土器]Ⅲb-3; 41, Ⅳa; 2, 不明; 7, [石器等]IB1; 1, IB8 ; 2, ⅢB2; 1, ⅢB8; 2, ⅢB9; 6, ⅣA2; 1, ⅣA3; 3, VA8; 1, VA9; 2, VB1; 2, ⅤA1; 1, ⅤA2; 1, ⅤB2; 1, IXA; 2, XA1; 5, XA2; 4, フレイク; 110, 礫; 47
H-4	J-5, J-6	468×295×51	[土器]Ⅲb-3; 120, Ⅳa; 32, Ⅳ; 2, 不明; 19, [石器等]IB 1; 5, IB2; 1, IB8; 1, IB9; 1, ⅢB9; 4, ⅣA8; 2, VA9; 1, ⅤA8; 1, ⅤA9; 1, ⅤB2; 1, フレイク; 131 礫; 1
H-5	欠 番		
H-6	J-4, J-5	528×301×41	[土器]Ⅲb-3; 114, Ⅳa; 89, Ⅳb; 1, Ⅳ; 7, 不明; 86, [石器等] IA4; 1, IB2; 1, ⅢA9; 1, ⅢB9; 2, ⅣA2; 1, ⅣA 8; 2, VA2; 1, VA9; 2, ⅤB2; 2, ⅤB8; 3, IXA; 3, XA1; 4, XA2; 3, フレイク; 1, 711, 礫; 5,
H-7	I-4, I-5, J-4, J-5	(568)×467×70	[土器]Ⅲb-3; 746, Ⅳa; 138, Ⅳ; 31, 不明; 340, [石器等] IA4; 1, IA5; 4, IB1; 17, IB2; 2, IB8; 2, IB9 ; 1, ⅡA3; 1, ⅢA2; 2, ⅢA9; 1, ⅢB9; 36, ⅣA2; 2 ⅣA5; 3, ⅣA8; 1, ⅣB; 1, VA1; 2, VA8; 1, ⅤA 9; 1, ⅤB2; 8, ⅤB8; 3, IXA; 1, XA1; 32, XA2; 7, フレイク; 1, 216, 礫; 24, 石製品; 1
H-8	H-6	604×543×73	[土器]Ⅲb-3; 10, 不明; 2, [石器等]IB1; 3, ⅢB9; 2, Ⅳ A3; 1, フレイク; 56
H-9	I-4, J-4	661×518×57	[土器]Ⅲb-3; 235, Ⅳa; 63, Ⅳ; 20, 不明; 138, [石器等] IA5; 1, IB1; 8, IB2; 1, IB8; 2, ⅡA1; 1, ⅡA3 ; 1, ⅡA9; 1, ⅢB2; 1, ⅢB8; 1, ⅢB9; 10, ⅣA2; 3 ⅣA3; 1, ⅣA8; 1, ⅣB; 1, VA8; 1, VA9; 1, VB1; 1, VB8; 1, ⅤB1; 1, ⅤB2; 3, IXA; 1, XA1; 12, XA2; 9, フレイク; 757, 礫; 7
H-10	H-5, H-6	388×315×61	[土器]Ⅲb-3; 74, Ⅳa; 40, Ⅳb; 1, [石器等]IA5; 1, IA9 ; 1, IB2; 2, IB8; 3, IB9; 1, ⅢB9; 7, ⅣA2; 1, ⅣA9; 1, IXA; 2, XA1; 5, XA2; 1, フレイク; 152,

遺 構 番 号	グ リ ッ ド	規 模 (cm)	出 土 遺 物
			礫;5
H-11	I-5, J-5	480×ー×44	[土器]Ⅲb-3;11, [石器等]ⅢB9;2, IVA8;1, フレイク;28 礫;1
H-12	D-2, D-3	(503)×(409)×48	[土器]Ⅲb-3;220, IVa;283, IVb;2, 不明;46, [石器等] I A4;1, IA5;1, IB1;4, IB2;2, IIA2;1, IIIA2;1, ⅢB9;5, IVA3;1, IVA8;3, VA9;1, VIB1;1, XA1 ;8, XA2;1, フレイク;66, 礫;6
H-13	G-4	ー×374×52	[土器]Ⅲb-3;44, IVa;64, 不明;18, [石器等] IA4;2, IB 1;1, ⅢB9;2, IVA3;1, VA2;1, VA9;1, VIB8;1, IXA;1, フレイク;4, 礫;18
H-14	G-3	ー×347×7	[土器]Ⅲb-3;19, IVa;2, [石器等]ⅢB8;1, ⅢB9;1, フレ イク;8, 礫;2
H-15	F-4, F-5	ー×383×53	[土器]Ⅲb-3;127, IVa;45, [石器等] IA5;3, IB1;3, IVA ;1, IVA3;1, IVA5;1, VA9;1, VIA2;1, XA1;2, XA2;1, フレイク;12, 石製品;1
H-16	D-3	ー×ー×ー	[土器]Ⅲb-3;167, IVa;76, IVb;2, 不明;29, [石器等] IA 4;1, IA5;3, IB2;1, IIA1;1, ⅢB8;1, ⅢB9;3, IVA8;1, XA2;2, , フレイク;404, 礫;4
H-17	C-2, C-3 D-2	744×623×45	[土器]Ⅲb-3;383, Ⅲb;3, IVa;456, IVb;5, 不明;177, [石 等] IA4;1, IA5;4, IB1;7, IB2;8, IB8;3, IIA2;1, ⅢB8;1, ⅢB9;26, IVA2;1, IVA3;3 IVA8;2, VA2;1, VA9;1, VIA8;1, VIB2;2, VIB 8;2, IXA;5, XA1;25, XA2;19, フレイク;210, 礫;9
H-18	H-5, I-5	ー×506×45	[土器]Ⅲb-3;58, IVa;66, 不明;15, [石器等] IA5;1, IA 8;1, IB8;1, ⅢB9;1, IVA1;1, IVA8;1, VA9;1, VB9;1, VIB1;1, VIB2;1, XA1;4, フレイク;85, 礫;1
H-19	E-3, F-2	ー×ー×44	[土器]Ⅲb-3;285, IVa;70, IVb;4, Va;1, [石器等] IA5;1 IB1;1, IB2;1, ⅢB1;1, ⅢB9;2, IVA5;1, IVA8 ;1, VIA3;1, VIB2;1, IXA;1, XA1;2, XA2;1, フレイク;47, 礫;2
H-20	C-4, H-5	ー×ー×55	[土器]Ⅲb-3;27, IVa;11, 不明;10, [石器等] VIB8;1, XA 2;1, フレイク;2
S-1	D-2		遺物なし
S-2	F-2		[土器]Ⅲb-3;3, IVa;86, [石器等] XA2;2, フレイク;15
S-3	E-2		[土器]Ⅲb-3;14, IVa;13, 不明;5, [石器等] フレイク;2

遺 番 番 号	グ リ ッ ド	規 模 (cm)	出 土 遺 物
P-1	J-5	85×50×91	[石器等] IB1;2, IB8;1, III B8;2, フレイク;54
P-2	H-5, C-5	365×254×103	[土器] III b-3;20, IVa;215, 不明;158, [石器等] フレイク;4 礫;1
P-3	I-4, J-4	135×104×55	[土器] III b-3;11, IVa;6, [石器等] III B9;1, VI B2;1, フレ イク;2, 礫;9
P-4	H-4	80×68×21	[土器] IVa;4, [石器等] VI B2;1
P-5	I-6	126×88×14	遺物なし
P-6	I-4	150×112×25	[土器] III b-3;13, [石器等] IB1;1, III B9;1, フレイク;19, 礫;1
P-7	C-4	101×41×67	[土器] IVa;10, [石器等] III B9;1, XA1;2, フレイク;30, 礫 ;1
P-8	G-3	97×52×24	[石器等] VI B1;1, 礫;1
P-9	C-3, C-4	141×-×60	[土器] III b-3;75, IVa;35, 不明;46, [石器等] IB1;2, III B 8;1, VI B2;1, XA1;5, XA2;1, フレイク;6, 礫;1
P-10	C-1	101×67×41	遺物なし
P-11	C-1	90×52×20	遺物なし
P-12	J-3	45×37×42	[土器] III b-3;7, [石器等] IA5;1, IB1;1, フレイク;11
P-13	F-4, F-5	59×57×50	[土器] III b-3;2, [石器等] フレイク;1
P-14	D-3	87×51×26	[石器等] VI B1;1
P-15	F-3	42×39×22	遺物なし
P-16	F-3	42×34×22	[土器] III b-3;8, [石器等] 礫;2
P-17	D-3	-×-×59	[土器] III b-3;46, IVa;95, 不明;22, [石器等] IB1;1, III B 9;1, IVA5;2, IVA8;1, XA1;2, フレイク;17, 礫;1
P-18	D-3	73×41×21	遺物なし
P-19	E-2, E-3	69×36×48	[土器] III b-3;3, IVa;45
P-20	D-2, E-2	165×123×47	[土器] III b-3;21, IVa;33, 不明;31, [石器等] IA4;1, III B 9;1, VI B2;1, XA2;1, フレイク;14
P-21	C-3	163×-×70	[土器] III b-3;254, IVa;140, IVb;2, 不明;120, [石器等] I A3;1, IB1;3, III B8;2, III B9;7, IVA3;1, IVA8;1 VI B2;1, XA1;7, XA2;2, フレイク;40, 礫;3
P-22	C-4	72×50×18	[土器] III b-3;10, [石器等] 礫;1
P-23	E-3	30×29×17	遺物なし
P-24	E-3	54×37×17	[石器等] VIA4;1
P-25	E-3	57×39×18	[土器] III b-3;16, IVa;4, IVb;1, [石器等] 礫;1

遺 構 番 号	グ リ ッ ド	規 模 (cm)	出 土 遺 物
P-26	E-2	43×36×27	[土器]Ⅲb-3;14, IVa;11
P-27	B-1	79×74×26	[土器]Ⅲb-3;10, IVa;118, 不明;2, [石器等]VB1;1, IXA ;1, 礫;1
P-28	D-2, E-2	183×174×35	[土器]Ⅲb-3;22, IVa;68, 不明;5, [石器等]VA8;1, VIB 2;1, VIB8;1, XA1;2, XA2;1, フレイク;17, 礫;1
P-29	E-4	32×25×15	[石器等]礫;1
P-30	F-2	33×27×18	[土器]Ⅲb-3;3, IVa;8, IVb;1
P-30	B-2	61×56×16	[土器]Ⅲb-3;7, IVa;8, [石器等]礫;1
P-32	E-2	40×38×17	[土器]Ⅲb-3;24, 不明;22
P-33	B-1	62×50×19	[土器]Ⅲb-3;11, IVa;4, [石器等]VB1;1
P-34	欠 番		
P-35	G-3	83×69×28	遺物なし
P-36	B-1	51×46×25	[土器]Ⅲb-3;1, [石器等]フレイク;4
P-37	C-1	81×66×29	遺物なし
TP-1	I-2, I-3	391×14×109	遺物なし
TP-2	C-3	212×17×90	遺物なし
F-1	J-4		[土器]Ⅲb-3;55, [石器等]ⅢB9;1, XA1;3, フレイク;1, 礫;1
F-2	C-4		遺物なし
F-3	欠 番		
F-4	D-2		遺物なし
F-5	F-2		遺物なし
F-6	E-2		遺物なし
F-7	E-2		遺物なし
F-8	C-4		遺物なし

表 4 遺構出土掲載遺物一覧

H-1

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
1	土 器	Ⅲb-3			床 面	貼付帯に押しびき。上は無文，下に円形刺突文。
2	〃	〃			埋 土	裏面は剝落。LRの斜行縄文。
3	〃	〃			床 面	底部。結束第2種の斜行縄文。厚手の土器。
4	〃	〃			埋 土	結節斜行縄文。内面は黒ずむ。
5	〃	〃			〃	竹管状器具による押しびき。焼成良好。
6	〃	〃			床 面	半截竹管状器具による短刻線。小石を含む。
7	〃	〃			埋 土	口縁部にRLの縄線文と縦横に短刻線。
8	〃	IVa			〃	口唇と裏面研磨。貼付帯上LR，地文RL。
9	〃	〃			〃	胎土に砂粒を含む。貼付帯上にRLの縄線文。
10	〃	IVa			〃	底部。貼付帯直上と底面直上に無文部。
11	〃	〃			〃	胎土に小石を含む。LRの斜行縄文。
12	〃	IVb			〃	口唇部と裏面を研磨。胎土に砂粒を含む。
13	〃	〃			〃	LRの斜行縄文。胎土に砂粒を含む。
14	〃	〃			〃	胎土に石英を含む。LRの斜行縄文。
15	〃	〃			〃	口唇部と裏面を磨り消す。RLの斜行縄文。
16	〃	〃			〃	内面は研磨。RLの斜行縄文。
1	石 鏃	IA5	2.2	頁 岩	〃	
2	〃	〃	2.9	黒曜石	〃	
3	スクレイパー	ⅢB9	(27.6)	〃	床 面	欠損品。
4	〃	〃	2.2	〃	埋 土	
5	〃	〃	3.4	〃	床 面	
6	〃	〃	12.1	〃	埋 土	
7	U F	XA1	2.7	〃	〃	右側縁上部に歯こぼれが見られる。
8	〃	〃	3.3	〃	〃	
9	石 斧	IVA3	(130)	緑色泥岩	〃	
10	〃	IVA1	(13)	〃	〃	右側縁に擦り切り傷を残している。
11	砥 石	ⅥB2	380	砂 岩	床 面	

H-3

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	肥厚帯上にヘラ状器具による押しびき文。
2	〃	〃			〃	口唇上に刺突文。裏面は剝離。結節斜行縄文。

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
3	土 器	Ⅲb-3			埋 土	薄手。円形刺突文が密に並んでいる。
4	◇	◇			◇	口唇に半截竹管状器具の刺突。原体は無節R。
5	◇	◇			◇	結束羽状縄文。胴部。
6	◇	◇			◇	薄手で短刻線を持つ。縄文原体はRL。
1	槍 先	IB1	(7.8)	黒曜石	◇	
2	◇	◇	(5.1)	◇	◇	欠損品。
3	◇	◇	6.9	◇	◇	
4	◇	IB8	(3.2)	◇	◇	欠損品。
5	◇	IB2	15.1	◇	◇	
6	◇	IB8	(2.6)	◇	◇	欠損品。
7	スクレイパー	ⅢB2	12.0	◇	◇	
8	◇	ⅢB9	5.6	◇	◇	右側縁に細かい二次加工を施して尖頭部を作りだしている。
9	◇	◇	(46.0)	◇	◇	欠損品。
10	◇	◇	(5.6)	◇	◇	同 上。
11	◇	◇	(8.1)	◇	◇	同 上。打瘤を取り除いている。
12	◇	◇	(40.0)	頁 岩	◇	
13	石 核	IXA	6.6	黒曜石	◇	
14	R F	XA2	40.6	◇	◇	
15	U F	XA1	(3.9)	◇	◇	両側縁に歯こぼれが見られる。
16	◇	◇	15.8	頁 岩	◇	横長剝片。右側縁に歯こぼれが見られる。
17	R F	XA2	4.8	めのう	◇	
18	◇	◇	1.7	黒曜石	◇	右側縁に細かい二次加工が施されている。
19	U F	XA1	9.0	◇	埋 土	
20	◇	◇	1.9	黒曜石	◇	
21	R F	XA2	4.6	◇	◇	
22	石 斧	IVA2	53	緑色泥岩	◇	
23	◇	IVA3	(25)	◇	◇	欠損品。刃部は丁寧に研磨されている。
24	◇	◇	(34)	◇	◇	欠損品。
25	◇	◇	(61)	◇	◇	
26	す り 石	VIA1	640	砂 岩	床 面	炉石として使用されていた。
27	◇	VIA2	50	◇	埋 土	

H-4

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	口唇、肥厚帯に半截竹管状器具の押しびき。
---	-----	------	--	--	-----	----------------------

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
2	土 器	Ⅲb-3			床 面	口唇、口縁にヘラ状器具の押しびき。突留文。
3	〃	〃			埋 土	結束第2種の斜行縄文。
4	〃	〃			〃	半截竹管状器具による押しびきが3列ある。
5	〃	〃			〃	半截竹管状器具による押しびき。
6	〃	〃			〃	薄手で口唇上に棒状器具による密な刺突。
7	〃	〃			〃	6と同一個体。縄文原体はLR。
8	〃	〃			〃	貼付帯上下方は無文。貼付帯に短刻線。
9	〃	〃			床 面	貼付帯に短刻線。縄文原体はLR。
10	〃	〃			〃	薄手で貼付帯に短刻線。
11	〃	〃			埋 土	貼付帯に短刻線あり。
12	〃	Ⅳb			床 面	底部。厚手で無文。横位の調整。
1	槍 先	IB1	5.7	黒曜石	埋 土	
2	〃	〃	5.6	〃	〃	表面に丁寧な二次加工が施されている。
3	〃	〃	(5.5)	〃	床 面	先端部欠損。
4	〃	〃	(8.0)	〃	〃	同 上。
5	〃	〃	8.2	〃	埋 土	
6	〃	IB9	15.5	硫紋岩	〃	両側縁下部に浅い塊りがつくられている。
7	スクレイパー	ⅢB9	(6.7)	黒曜石	床 面	欠損品。
8	〃	〃	6.2	〃	〃	
9	たたき石	VA9	169	かんらん岩	埋 土	
10	砥 石	ⅦB2	1,678	砂 岩	〃	

H-6

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	半截竹管状器具の刺突。胎土は小石を含む。
2	〃	〃			〃	半截竹管状器具の押しびき。砂粒を含む。
3	〃	〃			〃	結束第1種羽状縄文。口唇部と内面は斜行縄文。
4	〃	〃			〃	結束第1種羽状縄文。ヘラ状器具の押しびき。
5	〃	〃			〃	細い貼付帯上に円形刺突文。RLの斜行縄文。
6	〃	〃			〃	縦に円形刺突文を施した小形土器。
7	〃	〃			〃	半截竹管状器具の押しびき。口唇部に刻みあり。
8	〃	〃			〃	結節斜行縄文。胎土に砂粒を含む。
9	〃	Ⅳa			〃	貼付帯の上下端に磨り消した無文部。
10	〃	〃			〃	薄い貼付帯、下端に無文部、LRの斜行縄文。
11	〃	〃			〃	底部内面は半球状。底面との境は磨り消し。

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
12	土 器	IVa			埋 土	口縁部に無文帯。内面は研磨。
13	〃	〃			〃	口唇部下は無文帯で下に隆起帯がある。
14	〃	〃			〃	胎土に小石を含み表面に繊維の痕が見られる。
15	〃	IVb			〃	深い沈線と曲線を描き、内面は研磨している。
1	石 鏃	IA4	(0.8)	黒曜石	〃	欠損品。
2	槍 先	IB2	(11.4)	〃	〃	先端部欠損。
3	つまみ付きナイフ	ⅢA9	30.4	〃	〃	主要剝離面からの簡単な二次加工でつまみが作りだされている。
4	スクレイパー	ⅢB9	10.0	〃	〃	
5	〃	〃	12.3	〃	〃	
6	U F	XA1	1.1	〃	〃	右側部の一部に使用痕が見られる。
7	〃	〃	(2.9)	〃	〃	欠損品。Ⅲ群B類の破片の可能性が有る。
8	R F	XA2	2.5	〃	〃	右側縁に細かい二次加工が施されている。
9	〃	〃	1.9	〃	〃	
10	石 斧	IVA2	345	緑色泥岩	〃	
11	たたき石	VA9	190	滑 石	床 面	
12	砥 石	VB2	420	砂 岩	埋 土	

H-7

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	突起、張り瘤上に刺突、押しびきを施す。
2	〃	〃			〃	半截竹管状器具による押しびき。内面に突瘤。
3	〃	〃			〃	半截竹管状器具の押しびき。縄文原体はLR。
4	〃	〃			〃	同上。
5	〃	〃			〃	半截竹管状器具の刺突列。縄文原体はLR。
6	〃	〃			〃	縦横に半截竹管状器具の押しびき、突瘤あり。
7	〃	〃			〃	同上。
8	〃	〃			〃	口唇、口縁上に半截竹管状器具の押しびき。
9	〃	〃			〃	同上。
10	〃	〃			〃	肥厚帯に半截竹管状器具の押しびき。結節あり。
11	〃	〃			〃	口唇、肥厚帯にへら状器具の押しびき。
12	〃	〃			〃	へら状器具による押しびき。
13	〃	〃			〃	同上。
14	〃	〃			〃	同上。内面に突瘤。
15	〃	〃			〃	同上。
16	〃	〃			床 面	口唇にへら状器具による押しびき。内面LR。

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
17	土 器	Ⅲb-3			床 面	口唇上及び直下に、ヘラ状器具の押しびき。
18	〃	〃			埋 土	同上。
19	〃	〃			〃	肥厚帯上にヘラ状器具の押しびき。
20	〃	〃			〃	ヘラ状器具の押しびき。結束第2種の羽状。
21	〃	〃			床 面	竹管状器具の押しびき。結節斜行縄文。
22	〃	〃			埋 土	半截竹管状器具の押しびき。縄文原体はLR。
23	〃	〃			〃	ヘラ状器具による押しびき。
24	〃	〃			〃	同上。
25	〃	〃			〃	貼付帯上に半截竹管状器具による押しびき。
26	〃	〃			〃	縦横に半截竹管状器具による押しびき。
27	〃	〃			〃	貼付帯にヘラ状器具の押しびき。結束第1種。
28	〃	〃			〃	27と同一個体。
29	〃	〃			〃	同上。
30	〃	〃			〃	口唇直下に短刻線。
31	〃	〃			〃	30と同一個体。
32	〃	〃			〃	同上。
33	〃	〃			〃	肥厚帯にヘラ状器具による押しびき、刺突。
34	〃	〃			〃	33と同一個体。
35	〃	〃			〃	内面にわずかに突瘤。縄文原体は結束第1種。
36	〃	〃			〃	貼付帯上、直上に刺突。
37	〃	〃			〃	口唇部欠損。縄文原体はRL。
38	〃	〃			〃	内面に突瘤。
39	〃	〃			〃	口唇直下に半截竹管状器具の押しびき。無文。
40	〃	〃			〃	肥厚帯上に短刻線、円形刺突文。縄文原体LR。
41	〃	〃			〃	結節斜行縄文。
42	〃	〃			〃	同上。
43	〃	〃			〃	縄文原体は0段多条。
44	〃	〃			〃	43と同一個体。
45	〃	〃			〃	同上。
46	〃	〃			床 面	沈線の下上に刺突列。
47	〃	〃			埋 土	肥厚帯に貫通孔。無文。
48	〃	〃			〃	47と同一個体。
49	〃	〃			〃	同上。

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
50	土 器	Ⅲb-3			埋 土	小形の土器。口唇部は丸い。
51	〃	〃			〃	貼付帯上に短刻線。
52	〃	〃			〃	貼付帯上に短刻線。縄文原体はLR。
53	〃	〃			〃	貼付帯上に短刻線。
54	〃	〃			〃	貼付帯上に短刻線。縄文原体はRL。
55	〃	〃			〃	53と同一個体。
56	〃	〃			〃	同上。
57	〃	〃			〃	同上。
58	〃	〃			〃	貼付帯上に短刻線。縄文原体はLR。
59	〃	Ⅳa			〃	断面三角形の貼付帯をもつ。
60	〃	〃			〃	同上。
61	〃	〃			床 面	底部。縄文原体はLR。もろい。
62	〃	〃			埋 土	貼付帯と生地面の施文方向が異なる。
63	〃	〃			〃	薄手で口唇は角ばっている。縄文原体はLR。
64	〃	Ⅳb			〃	口唇直下は無文。角ばっている。
1	石 鉄	ⅠA5	1.1	黒曜石	〃	
2	〃	〃	(1.6)	頁 岩	〃	基部にアスファルトが付着している。
3	〃	〃	(1.1)	黒曜石	〃	基部欠損。
4	〃	ⅠA4	(1.0)	〃	〃	〃
5	槍 先	ⅠB1	(3.7)	〃	〃	先端部、基部欠損。
6	〃	〃	(9.1)	〃	床 面	欠損品。
7	〃	〃	(5.5)	〃	埋 土	同 上。
8	〃	〃	8.4	〃	〃	
9	〃	〃	(2.5)	〃	床 面	欠損品。主要剥離面に一次剥離面を残している。
10	〃	〃	(2.7)	〃	埋 土	欠損品。
11	〃	〃	6.4	〃	〃	基部両側縁が磨滅している。
12	〃	〃	(3.6)	〃	〃	先端部欠損。
13	〃	〃	3.8	〃	〃	
14	〃	ⅠB2	3.5	〃	床 面	
15	〃	ⅠB8	(10.7)	〃	埋 土	欠損品。
16	〃	〃	(11.2)	〃	〃	同 上。基部両側縁に浅い塊りがある。
17	石 錐	ⅡA3	(3.1)	〃	〃	錐部欠損。
18	つまみ付きナイフ	ⅢA2	14.0	頁 岩	〃	

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
19	つまみ付きナイフ	ⅢA2	11.8	頁 岩	埋 土	
20	〃	ⅢA9	(1.4)	黒曜石	〃	欠損品。
21	槍 先	IB2	42.0	泥 岩	床 面	
22	スクレイパー	ⅢB9	47.9	頁 岩	埋 土	
23	〃	〃	21.7	頁 岩	〃	
24	〃	〃	8.4	黒曜石	床 面	
25	〃	〃	9.4	泥 岩	埋 土	
26	〃	〃	22.9	頁 岩	〃	
27	〃	〃	(13.6)	黒曜石	〃	欠損品。
28	〃	〃	2.8	〃	〃	
29	〃	〃	50.2	〃	〃	
30	〃	〃	(5.9)	〃	〃	欠損品。
31	〃	〃	7.6	〃	〃	
32	〃	〃	16.1	硬質頁岩	〃	
33	〃	〃	11.8	頁 岩	〃	両側縁に浅い決りがある。
34	〃	〃	22.0	泥 岩	床 面	
35	〃	〃	13.4	頁 岩	埋 土	
36	〃	〃	(6.3)	〃	〃	欠損品。
37	〃	〃	(11.3)	黒曜石	〃	同 上。
38	〃	〃	10.1	〃	〃	
39	〃	〃	11.7	〃	〃	
40	〃	〃	6.7	〃	〃	
41	〃	〃	6.7	頁 岩	〃	
42	〃	〃	13.2	〃	〃	
43	〃	〃	5.1	黒曜石	〃	
44	R F	ⅢA2	(3.0)	頁 岩	〃	欠損品。右側縁に細かい二次加工が施されている。
45	〃	〃	2.1	黒曜石	〃	
46	スクレイパー	ⅢB9	9.8	黒曜石	埋 土	
47	〃	〃	3.9	〃	〃	
48	R F	ⅢA2	2.2	〃	〃	右側縁に細かい二次加工が施されている。
49	U F	ⅢA1	(6.0)	〃	床 面	欠損品。
50	R F	ⅢA2	(4.7)	〃	〃	同 上。
51	〃	〃	9.7	頁 岩	〃	

番号	名	称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
52	U	F	XA1	(6.6)	頁 岩	埋 土	欠損品。
53	〃	〃	〃	(1.0)	黒曜石	〃	同 上。
54	R	F	XA2	6.7	砂 岩	〃	
55	〃	〃	〃	7.9	頁 岩	床 面	
56	石	斧	IVA5	(225)	泥 岩	埋 土	欠損品。
57	〃	〃	IVA2	(240)	緑色泥岩	床 面	同 上。
58	〃	〃	IVA5	(64)	〃	埋 土	同 上。
59	〃	〃	〃	25	泥 岩	〃	
60	石	の み	IVB	15.8	〃	〃	主要剝離面は刃部のみ研磨されている。
61	す	り 石	IVA9	93	安山岩	〃	礫の下弦を荒く打ち欠いた後すっている。
62	砥	石	VI B2	(144)	砂 岩	〃	
63	〃	〃	〃	75	〃	〃	
64	〃	〃	〃	(195)	〃	〃	
65	〃	〃	〃	185	〃	〃	

H-8

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	胎土に砂粒を含む。
2	〃	〃			〃	底部に近い。内面黒ずむ。LRの斜行縄文。
1	槍 先	IB2	12.2	黒曜石	〃	
2	〃	〃	(6.2)	〃	〃	先端部、基部欠損。
3	スクレイパー	ⅢB9	(13.2)	〃	〃	欠損品。
4	〃	〃	2.8	〃	〃	同上。
5	石 斧	IVA3	(51)	滑 石	〃	同上。

H-9

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	半截竹管状器具の押しびきが口唇から口縁部にある。
2	〃	〃			〃	口唇部突起下に貼瘤をもち、短刻線を施す。
3	〃	〃			〃	ヘラ状器具による押しびき。裏面剝離。
4	〃	〃			〃	口唇と口縁部にヘラ状器具で押しびき。
5	〃	〃			〃	結束第2種羽状縄文。胎土に砂粒を含む。
6	〃	〃			〃	胎土に小石を含む。炭化物付着。
7	〃	〃			〃	ヘラ状器具で押しびき。胎土に砂粒を含む。
8	〃	〃			〃	胎土に小石を含み、表面は摩耗。
9	〃	〃			〃	ヘラ状器具で押しびき。胎土に小石を含む。
10	〃	〃			〃	半截竹管状器具で押しびき。胎土に砂粒。

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
11	土 器	Ⅲb-3			埋 土	結節斜行縄文。胎土に砂粒を含む。
12	〃	〃			〃	結節斜行縄文。縄文原体はLR。内面調整痕。
13	〃	〃			〃	内面に炭化物付着。胎土に小石を含む。
14	〃	〃			〃	内面に表面と同じ縄文原体LRの縄線文。
15	〃	〃			〃	縄文原体RLの縄線文。口唇は内傾。薄手。
16	〃	〃			〃	貼付帯上に円形刺突文があり、その下は無文帯。
17	〃	〃			床 面	貼付帯上押しびき。胎土に砂粒を含む。
18	〃	〃			埋 土	幅広い横走沈線の下に縄文を磨り消した無文帯。
19	〃	Ⅳa			〃	竹管状器具による短刻線。胎土に砂粒を含む。
20	〃	〃			〃	薄い貼付帯。縄文原体はRL。
21	〃	〃			〃	貼付帯上に縄の圧痕。内面に調整痕。
22	〃	〃			〃	口唇は平坦でやや角ばり、薄い。
23	〃	〃			〃	底部。無文。器壁の薄い小形土器。
1	石 鏃	ⅠA5	(2.4)	黒曜石	〃	欠損品。表面に一次剝離面を残している。
2	槍 先	ⅠB1	4.0	〃	〃	
3	〃	〃	(2.5)	〃	〃	欠損品。
4	〃	〃	(5.2)	〃	〃	先端部欠損。
5	〃	〃	7.1	〃	〃	
6	〃	〃	8.0	〃	〃	
7	〃	〃	(9.5)	〃	〃	欠損品。
8	〃	〃	5.6	頁 岩	〃	主要剝離面に一次剝離面を残している。
9	槍 先	ⅠB1	(11.9)	黒曜石	〃	先端部欠損。
10	〃	ⅠB2	(23.2)	黒曜石	〃	欠損品。
11	石 錐	ⅡA1	3.7	めのう	〃	
12	〃	ⅡA9	(6.8)	黒曜石	〃	
13	〃	ⅡA3	0.5	頁 岩	〃	
14	スクレイパー	ⅢB9	7.3	黒曜石	〃	
15	〃	ⅢB2	23.5	頁 岩	〃	
16	〃	ⅢB9	14.0	〃	床 面	右側縁上部に、表裏から二次加工が施されている。
17	〃	〃	(6.8)	黒曜石	埋 土	欠損品。
18	〃	〃	8.3	〃	〃	
19	〃	〃	6.4	〃	床 面	
20	〃	〃	8.3	〃	埋 土	右側縁上部に塊りがつくられている。

番号	名 称	分 類	対さ(g)	材 質	出土層位	特 色
21	スクレイパー	◇	22.4	頁 岩	埋 土	横長の剝片を素材としている。
22	◇	◇	14.8	◇	床 面	
23	◇	◇	1.2	黒曜石	埋 土	
24	石 の み	IVB	(20.7)	泥 岩	◇	欠損品。
25	石 斧	IVA3	81	緑色泥岩	◇	
26	◇	IVA2	330	◇	◇	
27	◇	◇	700	◇	◇	
28	◇	◇	(105)	◇	◇	刃部は丁寧に研磨されている。
29	た た き 石	VA8	123	かんらん岩	◇	
30	砥 石	VI B2	(50)	砂 岩	◇	欠損品。
31	◇	◇	(208)	◇	◇	同上。
32	◇	◇	(96)	◇	◇	

H-10

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	口唇と口縁部に半截竹管状器具の押しびき。
2	◇	◇			◇	口唇と口縁部に押しびき。
3	◇	◇			◇	赤色物質付着。上下2列の円形刺突文。
4	◇	◇			◇	羽状縄文。胎土に砂粒を含む。
5	◇	◇			◇	口縁部に突起をもつ。胎土に小石を含む。
6	◇	◇			床 面	半截竹管状器具による短刻線。炭化物付着。
7	◇	◇			埋 土	貼付帯上に刺突。内面に調整痕。
8	◇	IVa			◇	薄い貼付帯。内面研磨。胎土に砂粒を含む。
9	◇	◇			◇	ヘラ状器具による段がある。胎土に小石含む。
10	◇	IVb			◇	V字形に沈線を施している。
1	石 鉄	IA5	(2.6)	黒曜石	埋 土	先端部欠損。
2	◇	IA9	3.8	硬質頁岩	◇	欠損品であるか、未製品か判断しかねる。
3	スクレイパー	ⅢB9	45.0	砂 岩	◇	
4	◇	◇	(5.8)	頁 岩	◇	欠損品。
5	◇	◇	40.1	硬質頁岩	床 面	
6	◇	◇	20.4	頁 岩	埋 土	縦長剝片の周辺に細かい二次加工を施している。
7	◇	◇	24.5	◇	床 面	
8	◇	◇	5.82	黒曜石	埋 土	
9	槍 先	IB2	35.9	砂 岩	◇	荒く打ち欠いて整形した後で、左側縁に細かい二次加工を施している。
10	U F	XA1	11.6	黒曜石	床 面	

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
11	石 斧	ⅣA2	(150)	緑色泥岩	埋 土	欠損品。

H-11

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	結節縄文と結束第2種縄文を重ねて施文。
1	スクレイパー	ⅢB9	3.8	黒曜石	〃	
2	〃	〃	6.2	〃	〃	
3	石 斧	ⅣA8	(77)	緑色泥岩	〃	欠損品。

H-12

1	土 器	Ⅲb-3			床 面	胎土に繊維を含む。炭化物付着。
2	〃	〃			〃	半截竹管状器具で縦と横に沈線。
3	〃	〃			〃	貼付帯上に短刻線。胎土に砂粒を含む。
4	〃	Ⅳa			〃	断面三角形の貼付帯。口唇は角張り平坦。
5	〃	〃			〃	胎土に砂粒を含む。焼成良好。無文帯あり。
6	〃	Ⅲb-3			〃	縄文原体RLの縄線文。内面に調整痕あり。
7	〃	Ⅳa			〃	横位の貼付帯は一部を残し剥落している。
8	〃	〃			〃	胎土に小石を含む。口唇は丸い。
9	〃	〃			〃	表面剥落。胎土に砂粒を含む。
10	〃	〃			埋 土 5	口唇は角張り平坦。炭化物付着。
11	〃	〃			〃	貼付帯の間に無文帯あり。
12	〃	Ⅲb-3			埋 土 4	半截竹管状器具で刻線施文。円形刺突文あり。
13	〃	〃			〃	口唇と内面に半截竹管状器具で押しびき。
14	〃	〃			〃	胎土に繊維と砂粒を含む。
15	〃	〃			〃	底部。内面は黒ずみ炭化物付着。
16	〃	〃			埋 土 3	縄文原体RLの2条の縄線文。薄手。
17	〃	〃			〃	薄い貼付帯上に縄端による短刻線あり。
18	〃	Ⅳa			〃	底面に木葉痕か。
19	〃	Ⅲb-3			埋 土 2	ヘラ状器具で押しびき。胎土に砂粒を含む。
20	〃	〃			〃	貼付帯上に短刻線。胎土に石英粒等を含む。
21	〃	〃			〃	貼付帯上に円形刺突文。
22	〃	Ⅳa			〃	炭化物付着。胎土に砂粒を含む。口唇平坦。
23	〃	〃			〃	口唇は角張り平坦。縄文原体はRL。
24	〃	Ⅲb-3			埋 土 1	ヘラ状器具で押しびき。円形刺突文あり。
25	〃	〃			〃	口唇と口縁に半截竹管状器具で押しびき。
26	〃	Ⅳa			〃	貼付帯と口唇の間は無文帯。

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
27	土 器	Ⅲa			埋 土	貼付帯上に縄の圧痕文。薄手。
28	〃	Ⅲb-3			〃	縄文原体はR。円形刺突文あり。
29	〃	〃			〃	半截竹管状器具で押しびき。胎土に砂粒あり。
30	〃	〃			〃	半截竹管状器具で押しびき。突起上に刺突。
31	〃	〃			〃	ヘラ状器具で押しびき。胎土に小石を含む。
32	〃	〃			〃	竹管状器具で押しびき。肥厚帯上に貼付帯。
33	〃	〃			〃	半截竹管状器具で短刻線。胎土に砂粒を含む。
34	〃	Ⅳa			〃	口唇は角張り平坦。胎土に砂粒を含む。
35	〃	〃			〃	横位の貼付帯上に縦位の貼付帯が重なる。
36	〃	〃			〃	底部。縄文原体はLR。焼成良好。
37	〃	〃			〃	底部。胎土に砂粒を含む。縄文原体はLR。
38	〃	〃			〃	無文帯の下に縄文原体RLの縄線文。薄手。
39	〃	〃			〃	2種類の縄文原体。縄線文あり。薄手。
40	〃	Ⅳb			〃	縦横に沈線。無文部あり。薄手。
1	石 鏃	ⅠA4	(1.4)	黒曜石	〃	先端部欠損。
2	〃	ⅠA5	(1.9)	〃	〃	〃
3	槍 先	ⅠB1	3.5	〃	〃	主要剝離面に一次剝離面を残す。
4	〃	〃	4.0	〃	〃	
5	〃	〃	(10.2)	〃	〃	先端部欠損。
6	〃	ⅠB2	5.1	〃	〃	
7	〃	〃	(27.5)	〃	床 面	先端部欠損。
8	石 錐	ⅡA2	3.2	頁 岩	埋 土	剝片の先端に簡単な調整を加え、錐部をつくりだしている。
9	つまみ付きナイフ	ⅢA3	8.3	黒曜石	〃	
10	スクレイパー	ⅢB9	4.3	〃	床 面	
11	〃	〃	4.5	頁 岩	埋 土	右側縁に主要剝離面から丁寧な二次加工が施されている。
12	〃	〃	(13.6)	〃	〃	欠損品。横長剝片を素材としている。
13	〃	〃	15.9	〃	床 面	
14	〃	〃	19.6	黒曜石	〃	
15	石 斧	ⅣA3	59	緑色泥岩	埋 土	上半に、アスファルトが付着している。
16	〃	〃	90	泥 岩	床 面	刃部のみ、丁寧に研磨されている。
17	たたき石	ⅤA9	(468)	安山岩	〃	欠損品。
18	すり石	ⅤA9	440	泥 岩	〃	厚い偏平礫の周辺を敲打整形し、表裏両面を光沢がでるまで擦っている。

H-13

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	口唇、口縁部に半截竹管状器具の押しびき。
2	〃	〃			〃	同上。
3	〃	〃			〃	半截竹管状器具の押しびき。縄文原体はLR。
4	〃	〃			〃	結束第2種の羽状縄文。
5	〃	〃			〃	縄文原体はLR。
6	〃	Ⅳa			〃	一部貼付帯が剝離している。
7	〃	〃			〃	6の同一個体。
8	〃	〃			〃	縄文原体はLR。
9	〃	〃			床 面	小形土器。縄文原体はRL。
10	〃	〃			埋 土	薄手で焼成は良し。縄文原体はLR。
11	〃	〃			〃	薄手で焼成は良し。
1	石 鉄	IA4	(2.3)	黒曜石	埋 土	欠損品
2	〃	〃	(4.9)	〃	〃	先端部欠損。
3	槍 先	IB1	(6.7)	〃	〃	同上。
4	スクレイパー	ⅢB9	(12.1)	〃	〃	欠損品。
5	U F	XA1	12.8	頁 岩	〃	右側縁に歯こぼれが見られる。
6	石 斧	ⅣA3	(90)	緑色泥岩	〃	欠損品。
7	す り 石	ⅥA2	(64)	砂 岩	〃	同 上。

H-14

1	土 器	Ⅲb-3			床 面	口唇に半截竹管状器具の押しびき。内面剝離。
2	〃	〃			〃	斜行する貼付帯に半截竹管状器具の押しびき。
3	〃	〃			〃	縄文原体はLR。
4	〃	〃			〃	半截竹管状器具の押しびき。
5	〃	Ⅳa			埋 土	薄手のLRの斜行縄文。
6	〃	〃			〃	薄手でRLの斜行縄文。
1	スクレイパー	ⅢB9	23.7	黒曜石	床 面	礫に簡単な二次加工を施して、刃部を作っている。

H-15

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	口唇と内面に半截竹管状器具による押しびき。
2	〃	〃			〃	貼付帯と口唇に半截竹管状器具で押しびき。
3	〃	〃			〃	半截竹管状器具の押しびき。肥厚部下に調整痕。
4	〃	〃			〃	口縁と内面に半截竹管状器具による押しびき。
5	〃	〃			〃	胎土に小石を含む。
6	〃	〃			〃	肥厚帯にヘラ状器具の押しびき。

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
7	土 器	Ⅲb-3			埋 土	炭化物付着。胎土に小石を含む。
8	〃	〃			〃	ヘラ状器具で引いた凹帯。
9	〃	〃			〃	口唇に縄文原体LRの縄線文。薄手焼成良好。
10	土 器	Ⅲb-3			〃	縄文原体はLR。小形土器。浅い円形刺突文あり。
11	〃	〃			〃	縦横の短刻線。内面研磨。胎土に砂粒を含む。
12	〃	〃			〃	11と同一個体。
13	〃	〃			〃	内面研磨。胎土に砂粒を含む。
14	〃	〃			〃	貼付帯上に縄文原体LRの縄線文。内面研磨。
15	〃	〃			〃	縄文原体RLの縄線文。薄く焼成良好。
16	〃	IVb			〃	口唇平坦で角張り、内面と共に研磨。
1	石 鏃	IA5	(0.7)	黒曜石	〃	先端部、基部欠損。
2	〃	〃	1.9	〃	〃	
3	〃	〃	1.6	〃	〃	
4	槍 先	IB1	(5.9)	〃	〃	先端部欠損。
5	〃	〃	(9.8)	〃	〃	右側縁の肩部が欠損している。
6	U F	XA1	5.8	めのう	〃	
7	〃	〃	1.6	黒曜石	〃	
8	R F	XA2	14.4	頁 岩	〃	左側縁に調整剥離が見られる。
9	石 斧	IVA1	39	泥 岩	〃	
10	たたき石	VA9	472	安山岩	〃	
11	すり石	VI A2	(6)	砂 岩	〃	
12	石 製 品		91.5	〃	〃	孔の内面に虫食い状の凹凸がある。

H-16

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	爪形の押しびき。
2	〃	〃			床 面	半截竹管状器具による押しびき。
3	〃	〃			埋 土	ヘラ状器具による押しびき。結束第1種羽状縄文。
4	〃	〃			〃	肥厚帯、内面にLRの斜行縄文。
5	〃	〃			〃	結節斜行縄文。
6	〃	〃			〃	縄文原体はLR。
7	〃	〃			〃	底部。
8	〃	IVa			〃	断面が三角形の貼付帯をもつ。
9	〃	〃			〃	断面が平坦な貼付帯をもつ。
10	〃	〃			〃	貼付帯と地文の施文方向が異なる。

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
11	土 器	IVa			埋 土	縄文原体はRLの斜行。
12	〃	〃			炉	口縁部に貼付帯。
13	〃	〃			埋 土	口唇に縄文。短刻線あり。
14	〃	〃			〃	薄手で焼成良好。縄文原体はLR。
15	〃	〃			〃	同上。
16	〃	〃			〃	孤状の沈線。
17	〃	IVb			〃	焼成良好。縄文原体RL。
1	石 鏃	IA4	2.0	黒曜石	〃	主要剥離面に一次剥離面を残す。
2	〃	IA5	(1.4)	〃	〃	表裏に一次剥離面を残す。
3	石 錐	IIA5	(1.5)	〃	〃	
4	スクレイパー	IIIb9	10.0	〃	〃	
5	R F	XA2	(8.2)	〃	〃	
6	〃	〃	(8.7)	〃	〃	
7	石 斧	IVA8	(80)	緑色泥岩	〃	

H-17

1	土 器	IIIb-3			床 面	肥厚帯に半截竹管状器具による押しびき。
2	〃	〃			〃	厚手で斜めに半截竹管状器具の押しびき。
3	〃	IVa			〃	薄手。断面三角形の貼付帯をもつ。
4	〃	〃			〃	平坦な貼付帯で中央で羽状をなす。
5	〃	〃			〃	口縁に平坦な貼付帯。
6	〃	〃			〃	薄手で黒っぽい。口縁の貼付帯下は無文。
7	〃	〃			〃	底部。胎土は砂粒を含む。
8	〃	〃			〃	貼付帯間は無文。
9	〃	〃			〃	口唇部に縄文あり。
10	〃	〃			〃	薄手で焼成良好。縄文原体はLR。
11	〃	〃			埋 土 6	厚手、縄文原体はLR。
12	〃	IIIb-3			埋 土 5	薄手。円形刺突文。内面に突瘤あり。
13	〃	IVa			〃	貼付帯は平坦で上方は無文部。
14	〃	〃			〃	断面三角形の貼付帯でその中央で羽状をなす。
15	〃	〃			〃	13と同一個体。
16	〃	IIIb-3			埋 土 4	薄手、円形刺突文。内面に突瘤あり。
17	〃	〃			〃	底部。綾くり文のある斜行縄文。
18	〃	〃			埋 土 3	薄手。口唇に半截竹管状器具による押しびき。

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
19	土 器	Ⅲb-3			埋 土 3	貼付帯上に縄線文。
20	〃	Ⅳb			〃	波状口縁。沈線文。
21	〃	〃			〃	沈線文。
22	〃	〃			〃	横走沈線。
23	〃	Ⅲb-3			埋 土 1	口唇、口縁に半截竹管状器具による押しびき。
24	〃	〃			〃	縦位に貼付帯。縦横に半截竹管状器具の押しびき。
25	〃	〃			〃	底部。縄文原体はLR。
26	〃	〃			〃	縄文原体はRL。
27	〃	〃			埋 土	肥厚帯にヘラ状器具による押しびき。
28	〃	〃			〃	縦横の貼付帯に半截竹管状器具の押しびき。
29	〃	〃			〃	底部。底面付近は無文帯。
30	〃	〃			〃	肥厚帯にヘラ状器具の押しびき。
31	〃	〃			〃	貼付帯上に短刻線。表面一部が剥落。
32	〃	Ⅳa			〃	平坦な貼付帯上に縄線文。
33	〃	〃			〃	口縁に縄線文。縄文原体はLR。
34	〃	〃			〃	口縁に貼付帯。
35	〃	〃			〃	細い貼付帯間は無文。
36	〃	〃			〃	薄手。口縁に刻線。
37	〃	〃			〃	底部。薄手。
38	〃	〃			〃	LRとRLの羽状縄文。
39	〃	Ⅳb			〃	曲線を描く沈線。
40	〃	〃			〃	砂粒多し。沈線文。
1	石 鉄	IA5	1.3	黒曜石	〃	茎部と他の部位の水和層の厚さが異なる。
2	〃	IA4	1.6	〃	〃	
3	槍 先	IB1	3.0	〃	〃	
4	〃	〃	4.0	〃	〃	主要剥離面に一次剥離面を残している。
5	〃	〃	3.7	〃	〃	
6	〃	〃	(3.8)	〃	〃	先端部欠損。
7	〃	〃	5.1	〃	〃	茎部右辺が磨滅している。
8	〃	IB2	2.5	〃	〃	
9	〃	〃	14.2	頁 岩	床 面	
10	〃	〃	(5.1)	黒曜石	〃	先端部欠損。主要剥離面に一次剥離面を残している。
11	〃	〃	7.0	〃	〃	

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
12	槍 先	IB2	3.7	◇	◇	先端部、基部だけに両面加工が施されている。
13	◇	IB1	4.6	◇	◇	右辺に肩が顕著に作りだされている。
14	石 錐	IIA2	(15.4)	◇	◇	錐部欠損。
15	スクレイパー	III B9	10.0	めのう	埋 土	
16	◇	◇	31.2	頁 岩	◇	
17	◇	◇	(6.9)	黒曜石	◇	
18	◇	◇	(19.2)	硬質頁岩	◇	欠損品。
19	◇	◇	3.4	頁 岩	◇	両側縁下半に塊りがつくられている。
20	◇	◇	28.0	◇	◇	
21	◇	◇	11.5	黒曜石	◇	
22	◇	◇	7.4	◇	◇	
23	◇	◇	(10.5)	頁 岩	◇	
24	◇	◇	5.3	黒曜石	◇	
25	◇	◇	(5.8)	頁 岩	◇	左側縁を除いて細かな二次加工が施されている。
26	◇	◇	14.7	黒曜石	◇	
27	石 斧	IVA3	(86.5)	泥 岩	◇	欠損品。
28	◇	◇	(50)	緑色泥岩	◇	同 上。
29	た た き 石	VA2	(73)	砂 岩	◇	
30	砥 石	VI B2	72	砂 岩	◇	

H-18

1	土 器	III b-3			埋 土	ヘラ状器具で口縁と口唇に押しびき。
2	◇	◇			◇	縄文原体LRの斜行縄文を施した後、刺突。
3	◇	◇			◇	口唇と肥厚帯に半截竹管状器具の押しびき。
4	◇	◇			◇	口唇部に半截竹管状器具による押しびき。
5	◇	◇			床 面	突起下の肥厚帯は厚く、肥厚体下は無文。
6	◇	◇			◇	ヘラ状器具で押しびき。胎土に砂粒を含む。
7	◇	◇			埋 土	貼付帯上に押しびき。胎土に砂粒を含む。
8	◇	◇			◇	半截竹管状器具による押しびき。
9	◇	◇			◇	貼付帯に短刻線。胎土に小石を含む。
10	◇	◇			床 面	貼付帯上と生地面に短刻線。内面研磨。
11	◇	◇			◇	10と同一個体。
12	◇	◇			◇	同上。
13	◇	◇			◇	LRの縄文施文後短刻線。胎土に砂粒を含む。

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
14	土 器	Ⅲb-3			床 面	口唇部貼付帯の下、縦に貼付帯。内面研磨。
15	〃	〃			〃	14と同一個体。
16	〃	〃			〃	同上。
17	〃	〃			〃	同上。
18	〃	〃			〃	同上。
19	〃	Ⅳa			埋 土	底部。無文。胎土に小石を含む。
1	石 鉄	ⅠA5	(2.1)	黒曜石	床 面	先端部欠損。
2	〃	ⅠA8	(0.8)	〃	埋 土	
3	スクレイパー	ⅢB9	(10.7)	〃	〃	欠損品。
4	石 斧	ⅣA1	57	緑色泥岩	〃	
5	台 石	ⅤB9	3,100	安山岩	床 面	
6	砥 石	ⅥB2	230	砂 岩	埋 土	

H-19

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	ヘラ状器具で押しびき。胎土に砂粒を含む。
2	〃	〃			〃	口唇、口縁部に半截竹管状器具の押しびき。
3	〃	〃			〃	口唇と内面を研磨。胎土に砂粒を含む。
4	〃	〃			〃	短刻線。胎土に砂粒を含む。
5	〃	〃			〃	短刻線。内面に炭化物付着。
6	〃	Ⅳa			〃	断面三角形の貼付帯下部は無文帯。
7	〃	〃			〃	口唇部平坦で角張り、胎土に小石を含む。
8	〃	〃			〃	炭化物付着。焼成良好。
9	〃	〃			〃	縄文原体RLの縄線文。胎土に砂粒を含む。
10	〃	〃			〃	内面に調整痕。小形の土器。縄文原体LR。
11	〃	〃			〃	口唇は角張り平坦。内面共に研磨。焼成良好。
12	〃	Ⅳb			〃	横走る2本の沈線。胎土に砂粒を含む。
13	〃	〃			〃	口唇は平坦で内面と共に研磨。
14	〃	〃			〃	内面に炭化物が付着し研磨。
15	〃	〃			〃	底部に近い。胎土に砂粒を含む。
16	〃	Va?			〃	吊り耳。薄く小形。内面に調整痕。
1	石 鉄	ⅠA5	0.9	黒曜石	埋 土	火熱をうけている。
2	槍 先	ⅠB2	(2.7)	〃	〃	基部欠損。
3	スクレイパー	ⅢB9	6.7	〃	床 面	

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
4	スクレイパー	ⅢB9	0.6	黒曜石	埋 土	
5	石 斧	ⅣA4	(80)	泥 岩	床 面	欠損品。
6	〃	〃	(173)	緑色泥岩	埋 土	同 上。

H-20

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	縄文原体はLR。
2	〃	〃			〃	底部。斜行縄文。
3	〃				〃	貼付帯上に短刻線。
4	〃				〃	口縁に貼付帯。
5	〃				〃	貼付帯と地文を区別せず施文。
6	〃				〃	薄手。LRとRLの羽状縄文。

S-2

1	土 器	Ⅳa				口縁は角張り口唇は平坦。貼付帯下は無文。
2	〃	〃				胎土に砂粒を含む。縄文原体は貼付帯上LR。
3	〃	〃				口唇は角張り平坦で、内面と共に研磨。
4	〃	〃				内面研磨。薄く胎土に小石を含む。
5	〃	〃				炭化物付着。内面は研磨。胎土に砂粒を含む。

S-3

1	土 器	Ⅲb-3				結節斜行縄文。胎土に繊維を含む。
2	〃	〃				半截竹管状器具による押しびき。内面剝落。
3	〃	Ⅳa				薄い貼付帯。口唇と内面を研磨。
4	〃	〃				3と同一個体。
5	〃	〃				表に炭化物付着。胎土に砂粒を含む。
6	〃	〃				底部内面に指頭の圧痕。胎土に砂粒を含む。

P-1

1	槍 先	IB1	4.9	黒曜石	埋 土	
2	〃	IB8	(0.8)	〃	〃	欠損品。
3	スクレイパー	ⅢB8	3.9	〃	〃	

P-2

1	土 器	Ⅲb-3			底 面	口唇に押しびき、内外面に綾くり文を施す。
2	〃	〃			埋 土	胎土に砂粒を含む。結束第1種の羽状縄文。

P-3

1	土 器	Ⅲb-3			底 面	口唇に半截竹管状器具による押しびき。
2	〃	〃			埋 土	ヘラ状器具による押しびき。結節斜行縄文。

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
3	土 器	Ⅲb-3			埋 土	無文で焼成は粗雑。内面は黒色。
4	〃	〃			〃	胎土に小石を多く含む。
5	〃	〃			〃	縦横に薄い貼付帯。貼付帯上に短刻線。
6	〃	〃			〃	貼付帯の上、下方に無文部。焼成良好。
1	スクレイパー	ⅢB9	18.8	黒曜石	床 面	下部に丁寧な二次加工が施されている。
2	砥 石	ⅥB2	168	砂 岩	埋 土	

P-4

1	土 器	Ⅲb-3			底 面	縦の貼付帯上に短刻線。縄文原体はRL。
1	砥 石	ⅥB2	390	砂 岩	埋 土	

P-6

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	地文の上に縄線文あり。
2	〃	〃			〃	縄文原体RL, 内面は黒色。
3	〃	〃			〃	薄い貼付帯上にヘラ状器具による沈線あり。
1	槍 先	IB1	(5.7)	黒曜石	床 面	先端部, 基部欠損。
2	スクレイパー	ⅢB9	16.4	〃	〃	

P-7

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	結節のある単節斜行縄文。縄文原体はLR。
2	〃	Ⅳa			〃	貼付帯有り, 口唇は平坦。
3	〃	〃			〃	貼付帯, 生地面共に無文。焼成良好。
4	〃	〃			〃	口唇平坦。縄文原体RL。波状口縁。
1	スクレイパー	ⅢB9	3.7	黒曜石	〃	

P-9

1	土 器	Ⅲb-3			底 面	肥厚帯上に半截竹管状器具の2条押しびき。
2	〃	〃			〃	円形刺突文。口縁は平縁。
3	〃	〃			〃	結節による単節斜行縄文。原体はLR。
4	〃	〃			〃	同上。
5	〃	Ⅳa			〃	貼付帯断面は三角形, 縄文原体RL。焼成粗。
6	〃	〃			〃	貼付帯断面は三角形, 縄文原体RL。口唇平坦。
7	〃	〃			〃	貼付帯断面は三角形, 貼付帯上で羽状縄文。
8	〃	〃			〃	貼付帯上, 下方に無文部。焼成は粗。
9	〃	〃			〃	貼付帯上と生地面の施文方向が異なる。
10	〃	〃			〃	斜行縄文, 胎土に砂粒含む。
1	槍 先	IB1	(3.4)	黒曜石	床 面	先端部欠損。

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
2	槍 先	IB1	4.1	黒曜石	床 面	
3	スクレイパー	ⅢB8	(5.0)	◇	◇	欠損品。
4	R F	XA2	4.9	◇	◇	右側縁に調整剥離が見られる。
5	砥 石	ⅤB2	150	砂 岩	◇	

P-12

1	石 鏃	IA5	1.2	黒曜石	床 面	
2	槍 先	IB1	(6.9)	◇	◇	先端部欠損。

P-13

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	胎土に小石を含む。縄文原体はLR。
2	◇	◇			◇	内面に調整痕。焼成良好。縄文原体はLR。

P-14

1	石 皿	ⅤB1	25,000	安山岩	底 面	
---	-----	-----	--------	-----	-----	--

P-16

1	土 器	Ⅲb-3			底 面	底部。焼成は粗。縄文原体はRL。
---	-----	------	--	--	-----	------------------

P-17

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	半截竹管状器具で押しびき。突起上に刺突。
2	◇	◇			◇	口唇部に半截竹管状器具で押しびき。
3	◇	◇			◇	貼付帯上に原体RLの縄線文。胎土に砂粒。
4	◇	◇			◇	薄い隆起帯に半截竹管状器具で押しびき。
5	◇	◇			◇	短刻線。内面研磨。胎土に砂粒を含む。
6	◇	◇			◇	貼付帯上に短刻線。内面に調整痕。
7	◇	◇			◇	薄い貼付帯上に短刻線。焼成良好。
8	◇	◇			◇	同上。
9	◇	Ⅳa			◇	断面形が三角の貼付帯。内面研磨。
10	◇	◇			◇	口唇は角張り平坦。胎土に小石を含む。
11	◇	◇			◇	内面研磨。胎土に砂粒を含む。焼成良好。
1	槍 先	IB1	4.8	黒曜石	◇	
2	石 斧	ⅣA3	54	泥 岩	◇	

P-19

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	縄線文あり。
2	◇	Ⅳa			◇	口縁に貼付帯あり。
3	◇	◇			◇	貼付帯あり。
4	◇	◇			◇	焼成良し。縄文原体はRL。

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
----	-----	-----	-------	-----	------	-----

P-20

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	肥厚帯上に半截竹管状器具の押しびき。
2	〃	〃			〃	半截竹管状器具の押しびき。縄文原体はLR。
3	〃	〃			〃	緩くり文のある斜行縄文。繊維を含む。
4	〃	〃			〃	円形刺突文。内面にわずかに突瘤。
5	〃	〃			〃	縄文原体はLR。
6	〃	〃			〃	断面三角形の貼付帯。その中央で羽状縄文。
7	〃	〃			底 面	縦横に貼付帯。
8	〃	〃			〃	底部。貼付帯あり。
9	〃	Ⅳa			〃	口縁に薄い貼付帯。表面に炭化物付着。
10	〃	〃			〃	9 と同一個体。
11	〃	〃			〃	無文の小形土器。

P-21

1	土 器	Ⅲa			埋 土	細い貼付帯の上下に無文帯、口唇部肥厚。
2	〃	Ⅲb-3			〃	結節斜行縄文。半截竹管状器具で押しびき。
3	〃	〃			〃	縄文原体RLの結節斜行縄文。胎土に砂粒。
4	〃	〃			〃	縄文原体LRの結節斜行縄文。
5	〃	〃			〃	半截竹管状器具で押しびき、胎土に砂粒を含む。
6	〃	〃			底 面	貼付帯上半截竹管状器具で押しびき。
7	〃	〃			埋 土	口唇部ヘラ状器具で押しびき。胎土に砂粒。
8	〃	〃			〃	口唇と口縁に半截竹管状器具で押しびき。
9	〃	〃			〃	半截竹管状器具で押しびき。焼成良好。
10	〃	〃			〃	肥厚帯上短刻線。炭化物付着。
11	〃	〃			〃	結束第1種斜行縄文。胎土に小石を含む。
12	〃	〃			〃	口唇上に縄文原体LRの縄文を施し肥厚する。
13	〃	〃			〃	内面に調整痕。胎土に砂粒を含み焼成良好。
14	〃	〃			〃	波状口縁。内面研磨。
15	〃	〃			〃	円形刺突文。薄く焼成良好。
16	〃	〃			〃	薄い貼付帯上に短刻線。炭化物付着。
17	〃	〃			〃	捺糸文。胎土に砂粒を含む。
18	〃	〃			〃	底面に縄文原体LRの斜行縄文。
19	〃	〃			〃	内面に炭化物付着。
20	〃	〃			〃	貼付帯上原体LRの縄線文。胎土に砂粒含む。

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
21	土 器	Ⅲb-3			埋 土	薄い貼付帯上に短刻線。口唇は平坦で角張る。
22	〃	〃			〃	薄い貼付帯上に短刻線。
23	〃	〃			〃	貼付帯上に短刻線。胎土に小石を含む。
24	〃	〃			〃	縦と横の短刻線。縄文原体RL。
25	〃	〃			〃	胎土に砂粒を含み焼成良好。
26	〃	〃			〃	胎土に石英粒を多量に含む。縄文原体LR。
27	〃	IVa			〃	表面一部剥落。炭化物付着。内面に調整痕。
28	〃	〃			〃	内面研磨。焼成良好。縄文原体LR。
1	槍 先	IB1	1.6	黒曜石	〃	
2	〃	〃	(5.1)	頁 岩	〃	先端部欠損。基部両側縁が磨滅している。
3	〃	〃	(5.2)	黒曜石	底 面	先端部、基部欠損。
4	スクレイパー	ⅢB9	23.6	頁 岩	埋 土	
5	〃	〃	23.9	硬質頁岩	底 面	
6	〃	〃	5.5	頁 岩	〃	
7	石 斧	IVA3	(29)	緑色泥岩	埋 土	欠損品。

P-22

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	口唇上に突起あり、押しびき文は胴部に及ぶ。
2	〃	〃			〃	肥厚帯上2条の押しびき。地文は羽状縄文。
3	〃	〃			〃	縄文原体LRの斜行縄文。
4	〃	〃			〃	縄文原体RL、擦痕あり。
5	〃	〃			〃	口唇は平坦。短刻線あり。
6	〃	〃			〃	口縁に2条の縄線文、胎土に砂粒が多い。
7	〃	IVa			〃	薄手の黒ずんだ土器。原体LR。

P-23

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	縄文原体はLR。口唇に押しびき。
---	-----	------	--	--	-----	------------------

P-24

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	縄文原体はLR。内面は剥落。
1	す り 石	ⅥA4	970	流紋岩	〃	

P-25

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	厚手。縄文原体はLR。
2	〃	IVa			〃	薄手。焼成は良い。
3	〃	IVb			〃	沈線あり。

P-26

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	口縁部に円形刺突文。縄文原体はLR。
2	〃	〃			〃	短刻線，円形刺突文あり。縄文原体LR。
3	〃	〃			〃	結節のある単節斜行縄文。焼成は粗。
4	〃	〃			〃	結節のある単節斜行縄文。胎土に小石含む。
5	〃	Ⅳa			〃	RLの縄文の細い貼付帯。上方は無文帯。

P-27

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	口縁，胴部に短刻線。短刻線上で羽状となる。
2	〃	〃			〃	1 と同一個体。
3	〃	〃			〃	短刻線を斜めに施文。縄文は単節斜行縄文。
4	〃	〃			〃	短刻線を斜めに施文。縄文原体はRL。
5	〃	Ⅳa			〃	縄文原体はLR。口縁部の貼付帯は薄い。

P-28

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	肥厚帯上に，LRの斜行縄文。
2	〃	〃			〃	左端に円形刺突文の痕跡あり。
3	〃	〃			〃	結束第2種の羽状縄文。内面剝離。
4	〃	Ⅳa			〃	口唇上，直下に縄線文。
5	〃	〃			〃	貼付帯上に短刻線。
6	〃	〃			〃	同上。
7	〃	〃			〃	焼成は良い。縄文原体はRL。

P-30

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	縄文原体はLR。
2	〃	〃			〃	同上。
3	〃	Ⅳb			〃	沈線文。胎土，焼成は良好。

P-31

1	土 器	Ⅳa			埋 土	焼成は良い。縄文原体はRLとLRの2種。
2	〃	〃			〃	縄文原体はRL。
3	〃	〃			〃	焼成は良い。縄文原体はRLとLRの2種。
4	〃	〃			〃	底部に砂粒を多く含む。

P-32

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	半截竹管状器具の押しびきと円形刺突文。
---	-----	------	--	--	-----	---------------------

P-33

1	土 器	Ⅳa			底 面	底部に近い，貼付帯の上，下方に調整痕。
2	〃	〃			〃	幅が広い横走沈線。縄文は見られない。

番号	名 称	分 類	重さ(g)	材 質	出土層位	特 色
----	-----	-----	-------	-----	------	-----

P-36

1	土 器	Ⅲb-3			埋 土	へら状器具の押しびき。結束第1種斜行縄文。
2	〃	Ⅳa			〃	焼成は良い。縄文原体はLR。

F-1

1	土 器	Ⅲb-3				胴部がふくらむ器形。
2	〃	〃				肥厚帯上に半截竹管状器具による押しびき。
3	〃	〃				口唇に半截竹管状器具の押しびき。
4	〃	〃				結節のある縄文。

F-2

1	土 器	Ⅳa				口縁部に貼付帯。
---	-----	----	--	--	--	----------

F-6

1	土 器	Ⅳb				底部付近に横位の擦痕がある。
---	-----	----	--	--	--	----------------

表 5 包含層出土掲載土器一覧

図 4-2 (Ⅲ群b-3類土器)

番号	グリッド	分類	特 色	写真番号
1	D-4-a	Ⅲb-3	口唇, 肥厚帯にヘラ状器具の押しびき。突起上に刺突。	図版 37の左上
2	C-5-b	"	口唇に刻み目。口縁に円形刺突列, 内面に突瘤あり。	図版 37の右上
3	B-1-a, D-3-c E-2-a, E-2-d F-2-a, F-4-d	"	3個の突起を持つ。細い貼付帯の上方は無文帯。	図版 37の左中
4	D-1-d	"	口唇直下は無文。無文帯の下方に縄線文。LRの斜行縄文。	図版 37の右中
5	G-3-c	"	口唇直下と胴部に縄線文。地文はRLの斜行縄文。	図版 37の左下
6	C-3-c	"	薄手で地文は撚糸文。注口土器の可能性有り。	図版 37の右下
7	F-2-c F-2-d	"	口唇から垂直に沈線。口唇, 頸部に半截竹管状器具の押しびき。	図版 38の左上

図 4-3 (Ⅲ群b-3類・Ⅳa類土器)

8	F-2-d	Ⅲb-3	小形土器。胴部に半截竹管状器具の浅い押しびき。結節斜行縄文。	図版 38の右上
9	J-4-d	"	無文の粗製土器。	図版 38の左中
10	C-4-a C-4-d	"	口唇上, 直下に連続短刻線。	図版 38の左中
11	H-5-d	"	底部, 貼付帯上に短刻線。地文はRLの斜行縄文。	図版 38の左下
12	E-2-d, E-3-a C-1-d	"	貼付帯上に半截竹管状器具の刺突, 地文はRLの斜行縄文。	図版 38の右下
13	D-2-a	Ⅳa	薄手で斜行縄文のみ。	図版 39の右上
14	G-3-c	"	同上。	図版 39の左上

図 4-4 (Ⅲ群a類・b-3類土器)

15	C-2-c D-2-a, D-2-d	Ⅲa	口縁貼付帯間に縄線文。貼付帯上に絡条体圧痕文。	図版 39の下
16	C-2-a	"	15と同一個体。	"
17	C-2-c	"	貼付帯上に絡条体圧痕文。貼付帯間に馬蹄形圧痕文。	
18	D-1-d	"	貼付帯上方に縄線文。貼付帯上に絡条体圧痕文。地文はLR。	図版 39の下
19	D-2-d	"	同上。地文はRL。	"
20	E-3-a	"	同上。	"
21	D-2-d	"	貼付帯上に絡条体圧痕文。	
22	C-1-c	"	同上。貼付帯間に馬蹄形圧痕文。	
23	D-1-c	"	肥厚部, 貼付帯上に絡条体圧痕文。	図版 39の下
24	D-1-d	"	孤状に縄線文。	"
25	"	"	円形の貼付帯上に絡条体圧痕文。その中に孤状の縄線文。	"
26	D-1-c	"	口唇に大きな穴あり。口唇から垂下する貼付帯に縄線文。	"
27	D-2-c	"	26と似た胎土。焼成は良し。貼付帯上に縄線文。	"
28	D-1-d	"	貼付帯上に絡条体圧痕文。地文はRL。	"

番号	グリッド	分類	特 色	写真番号
29	J-4-b	Ⅲ a	貼付帯上に竹管状器具による刺突。地文はLRの斜行縄文。	図版 39の下
30	E-2-b	"	斜、横の貼付帯上に半截竹管状器具の刺突。	"
31	D-4-a	"	貼付帯上に竹管状器具による刺突。	"
32	B-3-b	Ⅲ b-3	口唇直下に爪形文。竹管状器具の円形刺突。	図版 40の上
33	H-5-d	"	同上。	"
34	E-4-b	"	同上。	"
35	D-4-a	"	肥厚帯上にヘラ状器具による爪形文状の押しびき。	"
36	E-3-c	"	貼付帯上に半截竹管状器具の押しびき。地文は撚糸文。	
37	B-3-b	"	貼付帯下に竹管状器具の円形刺突、撚糸文。	
38	H-6-b	"	口唇の突起上に刺突。前面に貼瘤あり。赤色物質が付着。	
39	C-4-b	"	半截竹管状器具の押しびき 2条あり。	
40	D-4-a	"	肥厚帯上にヘラ状器具の押しびき。直下に円形刺突。地文はLR。	
41	E-5-a	"	肥厚帯上にヘラ状器具の押しびきと縄線文あり。赤色物質付着。	図版 40の上
42	E-4-a	"	肥厚帯上にヘラ状器具の押しびき。内面は結節斜行縄文。	"
43	C-4-a	"	肥厚帯上にヘラ状器具の押しびき。直下に円形刺突。	"
44	D-4-a	"	口唇、肥厚帯上に半截竹管状器具の押しびき。	"
45	F-4-a	"	肥厚帯上にヘラ状器具の押しびき。直下に円形刺突。	"
46	G-3-a	"	口唇、口縁にヘラ状器具の押しびき。	"
47	D-4-a	"	口唇の突起上に刺突あり。口唇直下にヘラ状器具の押しびき。	"
48	I-5-c	"	口唇、肥厚帯上にヘラ状器具の押しびき。結束第2種の羽状縄文。	"
49	B-1-b	"	肥厚帯上にヘラ状器具の押しびき。	"
50	I-4-a	"	肥厚帯上に半截竹管状器具の押しびき。結束第2種の斜行縄文。	"
51	E-3-a	"	口唇、肥厚帯上にヘラ状器具の押しびき。結節のある斜行縄文。	"

図4-5 (Ⅲ群b-3類土器)

52	I-6-b	Ⅲ b-3	ヘラ状器具で口唇と口縁に押しびき。内面に調整痕。	図版 40の下
53	C-1-c	"	口唇から肥厚帯にかけて半截竹管状器具で押しびき。	"
54	F-2-a	"	胎土に石英粒を含む砂粒と繊維を含む。	"
55	C-4-d	"	口唇突起部に刺突、その下に縦の押しびき。	"
56	D-2-c	"	半截竹管状器具で口唇と口縁に押しびき。胎土に砂粒を含む。	"
57	J-4-c	"	半截竹管状器具で口唇と肥厚帯と胴部に押しびき。	"
58	D-4-a	"	内面研磨。円形刺突文を起点に斜位に半截竹管状器具で押しびき。	"
59	C-4-a	"	貼付帯上に半截竹管状器具で押しびき。胎土に砂粒を含む。	"
60	D-4-b	"	ヘラ状器具で押しびき。胎土に小石を含む。肥厚帯に剝離がある。	"

番号	グリッド	分類	特 色	写真番号
61	表 採	Ⅲb-3	結束斜行縄文。押しびきを施した口縁部は磨耗している。	図版 40の下
62	B-2-d	"	ヘラ状器具で押しびき。炭化物付着。胎土に砂粒を含む。	"
63	B-1-a	"	胎土に繊維を含む。結節斜行縄文。半截竹管状器具で押しびき。	"
64	B-2-a	"	結節斜行縄文。胎土に砂粒と繊維を含む。	"

図4-6 (Ⅲ群b-3類土器)

65	D-3-b	Ⅲb-3	口唇、肥厚帯上に半截竹管状器具の押しびき。	図版 41の上
66	E-2-a	"	隆起帯上に半截竹管状器具の刺突の様な押しびき。	"
67	B-3-a	"	同上。	"
68	C-4-a	"	肥厚帯上に半截竹管状器具の刺突の様な押しびき。突起上に刺突。	"
69	E-4-a	"	口唇、貼付帯上に半截竹管状器具の刺突の様な押しびき。	"
70	G-3-d	"	口唇に半截竹管状器具の刺突の様な押しびき。結束あり。	"
71	E-3-d	"	突起上に刺突。縦横に刺突の様な押しびき。	"
72	C-4-c	"	口唇、隆起帯に刺突状の様な押しびき。	"
73	H-3-b	"	口唇及び直下に刺突状の様な押しびき。口唇には刻み目がある。	"
74	G-3-c	"	口唇及び直下に押しびき。	"
75	B-3-a	"	肥厚帯に半截竹管状器具による刺突の様な押しびき。	"
76	H-4-a	"	口唇及び口縁に半截竹管状器具による刺突の様な押しびき。	"
77	B-1-d	"	同上。	"
78	D-3-b	"	口唇及び、内面上部に刺突の様な押しびき。	"
79	D-2-d	"	78と同一個体。	"
80	G-3-c	"	口唇及び、直下に刺突の様な押しびき。	"
81	B-2-d	"	同上。内面に沈線。	"
82	C-4-b	"	肥厚帯上にヘラ状器具の押しびき。結節斜行縄文。	
83	H-3-d	"	吊り耳。口唇に半截竹管状器具による刺突の様な押しびき。	図版 41の上
84	C-4-b	"	刺突の様な押しびき。口唇は刻み目、口縁は沈線文がある。	
85	D-3-c	"	口唇及び、直下に刺突の様な押しびき。結節縄文。	
86	C-4-c	"	口唇直下に刺突の様な押しびき。	
87	D-2-c	"	口唇及び、直下に長い押しびき。貼付帯に刺突の様な押しびき。	図版 41の上
88	D-3-c	"	貼付帯上に半截竹管状器具の押しびき。LRの斜行縄文。	"

図4-7 (Ⅲ群b-3類土器)

89	C-4	Ⅲb-3	口唇上に突起。縄文原体は表面がLR、内面は不明。	図版 41の下
90	D-2-c	"	肥厚帯直下に円形刺突。内面に縄文あり。	"
91	J-6-b	"	口唇に突起あり。突起上に刺突文。縄文原体はLR。	"

番号	グリッド	分類	特 色	写真番号
92	J-4-a	Ⅲb-3	口唇に突起あり。口唇上半截竹管状器具による押しびき。	図版 41の下
93	D-2-c	"	口唇上縄文あり。縄文原体LR, RLの結束羽状縄文。	"
94	J-3-a	"	口唇上半截竹管状器具による押しびき。胎土に砂粒を多く含む。	"
95	F-4-a	"	口唇上は平坦で縄文の施文あり。縄文原体はLR。	"
96	H-6-d	"	口縁部円形刺突文の下方に結節斜行縄文あり。焼成は粗。	"
97	D-3-c	"	口縁部は波状。器面に結束斜行縄文あり。	"
98	D-2-d	"	肥厚帯上LRの縄文, 下方に無文帯。内面縄文あり。	"
99	F-3-a	"	口縁部に結節斜行縄文。胎土の色は赤味がかっている。	"
100	I-5-a	"	口唇に半截竹管状器具による押しびき。縄文原体はLR。	"
101	B-3-a	"	口唇に縄文あり。内面は黒色を呈する。縄文原体はLR。	"
102	D-4-a	"	口唇に半截竹管状器具による押しびき。口縁部貼付帯上LR。	"
103	B-1-d	"	口唇に突起, 肥厚帯上に突起あり。表面に赤色物質付着。	"
104	J-4-a	"	口唇は平坦。口縁部に押しびき。縄文原体はLR。	"
105	C-4-a	"	胎土に小石を含む。縄文原体はLR。	"
106	J-4-a	"	口縁に半截竹管状器具による刺突のような押しびき。	"
107	F-4-a	"	口唇は平坦で半截竹管状器具による2条の短刻線, 縄文原体はLR。	"
108	D-4-b	"	口唇に半截竹管状器具による押しびき。口縁にも押しびきがある。	"
109	表 採	"	口唇にもLRの斜行縄文。	"
110	J-4-a	"	口唇, 口縁部に半截竹管状器具による押しびき。突縮文あり。	"

図4-8 (Ⅲ群b-3類土器)

111	E-3-d	Ⅲb-3	口唇は平坦で無文である。	
112	C-4-a	"	表面炭化物付着, 全体に黒ずんでいる。	
113	C-3-a	"	口唇と口縁部に突起あり。胎土に石粒を含む。	
114	F-4-a	"	口唇と口縁部に突起あり。口唇部の突起に刺突文。	
115	G-3-c	"	口唇と口縁部に突起あり。口唇に刺突文あり。	
116	H-4-b	"	肥厚帯が顕著。口唇部突起に刺突文あり。	
117	D-4-a	"	肥厚帯が顕著。内面に赤色物質付着。	
118	C-2-b	"	外反が著しい。無節の結節斜行縄文。	
119	C-1-b	"	口唇と口縁部に突起, 内面にも刺突文あり。	
120	J-3-d	"	内面に斜行縄文。口唇は無文。表面やや炭化物付着。	
121	H-4-c	"	表面全体に炭化物付着。波状口縁で短刻線状の文様あり。	
122	D-2-c	"	口唇の突起に刺突文。口縁部に刻線あり。	図版 42の上
123	D-1-c	"	貼付帯上に短刻線があり, 上方に円形刺突文。	"

番号	グリッド	分類	特 色	写真番号
124	C-1-d	Ⅲb-3	123と同一個体。	図版 42の上
125	H-5-b	"	口唇, 口縁部に突起あり。内面は研磨されている。	"
126	A-1-c	"	内面剥離。短刻線状の押しびきあり。	"
127	F-3-d	"	外面, 内面とも, LRの結節斜行縄文が施文されている。	"
128	D-4-a	"	口唇は角張っている。短刻線状の押しびきあり。	"
129	I-4-c	"	貼付帯上に短刻線状の押しびき。口唇は平坦で角張っている。	"
130	F-4-a	"	肥厚帯上に短刻線状の押しびき。	"
131	G-3-b	"	肥厚帯上に短刻線状の押しびき。口唇部は無文で薄い。	"
132	C-4-b	"	肥厚帯上に浅い沈線3列。縄文原体はLR。	"
133	B-1-c	"	内面は研磨されている。口唇部は縄文を施し角張っている。	"
134	B-1-b	"	内面は研磨されている。沈線が縦横に走っている。	"

図4-9 (Ⅲ群b-3類土器)

135	C-4-a	Ⅲb-3	口唇に半截竹管状器具の押しびき, 口縁に竹管状器具の刺突。	図版 42の下
136	E-2-a	"	同上。	"
137	B-3-b	"	竹管状器具の円形刺突。内面にわずかに突瘤。	"
138	G-3-d	"	同上。	"
139	D-2-b	"	竹管状器具による密な円形刺突列。	"
140	C-4-b	"	肥厚帯上に半截竹管状器具の押しびき, 突起上の口縁に円形刺突。	"
141	D-3-b	"	口唇, 口縁に半截竹管状器具の押しびき。	"
142	E-2-a	"	口唇直下に沈線, 円形刺突, 内面に突瘤。	"
143	"	"	142と同一個体。	"
144	"	"	142, 143と同一個体。	"
145	D-2-d	"	胴部に円形刺突。	図版 42の下
146	I-5-c	"	口縁部と胴部の縦の貼付帯上に円形刺突列。	"
147	H-6-c	"	縦の貼付帯に円形刺突列。	"
148	H-6-b	"	薄手。口縁部に円形刺突列。	"
149	C-2-c	"	口唇直下に2列の円形刺突列。内面に沈線あり。	"
150	D-2-c	"	胴部, 縦, 横に2列の刺突列。	"
151	F-2-c	"	胴部。横に3列の刺突列。	"
152	G-2-d	"	口唇直下に竹管状器具の刺突列。	"
153	G-3-a	"	口唇直下に竹管状器具による浅い刺突列。	"
154	C-2-a	"	隆起帯に刺突列。	"
155	B-2-b	"	同上。	"

番号	グリッド	分類	特 色	写真番号
156	B-4-a	Ⅲb-3	無文帯下に刺突列。	図版 42の下
157	H-4-c	〃	口唇上, 直下に刺突列。	〃
158	B-3-b	〃	口唇直下の無文帯の中に刺突列, 隆起帯下にも刺突列あり。	〃
159	D-2-c	〃	158 と同一個体。	〃
160	C-4-b	〃	同上。	〃
161	D-2-c	〃	同上。	〃
162	E-2-a	〃	口唇に半截竹管状器具の押しびき。赤色物質付着。	〃
163	B-3-b	〃	内反。L R L の複節縄文。	〃
164	C-2-d	〃	結節斜行縄文。左端に円形刺突文あり。	〃
165	G-2-d	〃	地文は結節斜行縄文。	〃
166	D-4-b	〃	5 個の刺突が 1 ヶ所に横に配列されている。	〃
167	I-6-b	〃	口唇に刺突あり。	〃
168	I-6-b	〃	同上。	〃
169	H-4-c	〃	同上。	〃

図 4-10 (Ⅲ群b-3 類土器)

170	B-2-b	Ⅲb-3	突起状に縄線文。	図版 43の上
171	D-1-d	〃	薄手で口唇直下に縄線文。	〃
172	D-3-b	〃	胴部近くに縄線文。	〃
173	C-4-d	〃	薄手で口唇直下に縄線文が 2 列。	〃
174	B-2-c	〃	胴部。無文帯の下方に縄線文。	〃
175	J-4-a	〃	口唇に縄文。口唇直下に縄線文が 2 列。	〃
176	E-2-a	〃	口唇直下に 3 列の縄線文。	〃
177	E-2-a	〃	口唇直下に縄線文が 2 列。	〃
178	G-3-a	〃	口唇直下に縄線文。	〃
179	D-4-a	〃	胴部に縄線文。	〃
180	D-1-d	〃	口唇直下に 2 本の縄線文。	〃
181	D-2-c	〃	縦横に縄線文。	〃
182	C-3-b	〃	胴部に縄線文。	〃
183	B-1-a	〃	口唇直下に縄線文。	〃
184	F-3-c	〃	横, 斜めに縄線文。	〃
185	D-3-a	〃	同上。	〃
186	F-2-c	〃	口唇直下の無文帯中に縄線文が 2 列。	〃
187	F-2-c	〃	同上。	〃

番号	グリッド	分類	特 色	写真番号
188	F-2-c	Ⅲb-3	無文帯下に縄線文が2列。外反する口縁。	図版 43の上
189	B-1-a	"	胴部。無文帯下に縄線文。厚手。	"
190	D-3-a	"	口唇下の無文帯下に縄線文。	"
191	H-2-d	"	口唇から斜めに下がる貼付帯上に縄線文。	"
192	F-2-c	"	縄線文の下に半截竹管状器具による刺突のような押しびき。	"
193	B-1-b	"	口縁の貼付帯上に縄線文。貼付帯上に浅い竹管状の円形刺突。	"
194	E-2-a	"	貼付帯上に縄線文。貼付帯間に縄端によるとみられる刺突。	"
195	D-1-d	"	194と同一個体。	"
196	D-2-b	"	同上。	"
197	E-2-a	"	同上。	図版 43の下
198	C-1-d	"	貼付帯上に2本の縄線文。上方の縄線文の途中から押しびき。	"
199	B-1-b	"	胴部の貼付帯上に縄線文。	"
200	C-4-a	"	貼付帯上に縄線文。貼付帯間は無文。薄手。	"
201	D-1-c	"	同上。	"
202	B-1-a	"	貼付帯上に縄線文。貼付帯直下に沈線。	"
203	D-4-d	"	口縁の貼付帯下方の無文帯の上端と下端に縄線文。	"

図4-11 (Ⅲ群b-3類土器)

204	D-3-a	Ⅲb-3	赤色物質付着。口唇は無文で平坦。短刻線あり。	図版 44の上
205	E-3-a	"	204と同一個体。	"
206	F-4-a	"	口唇は平坦で丸みあり。口縁部に短刻線2列あり、縄文原体RL。	"
207	D-4-d	"	口唇は平坦で角張っている。口縁部に短刻線。縄文原体RL。	"
208	C-3-d	"	口唇は無文で平坦。口縁部に短刻線。縄文原体LR。	"
209	F-2-a	"	口唇に短刻線。短刻線を縦横に施文。焼成良好。	"
210	C-1-d	"	口唇は平坦。短刻線が2列。羽状縄文。	"
211	C-4-b	"	表面炭化物付着。胴部に短刻線2列。焼成良好。	"
212	D-3-a	"	隆起帯上に短刻線あり。口唇部は平坦。	"
213	G-2-d	"	口唇部は平坦で角張る。口唇部貼付帯LR, RLの結束羽状。	"
214	E-3-a	"	内面剥落。縄文原体RL, LRの羽状縄文。	"
215	F-2-a	"	口唇は縄文を施し角張っている。短刻線あり。縄文原体はRL。	"
216	G-3-d	"	石英粒を含む。沈線に似る短刻線あり。縄文原体はLR。	"
217	E-3-a	"	胎土に砂粒が多い。縄文原体LR。	"
218	F-4-a	"	内面研磨。縄文原体はRL。短刻線あり。	"
219	J-3-c	"	内面研磨。口唇は縄文を施し角張っている。焼成良好。	"

番号	グ リ ョ ッ	分 類	特 色	写真番号
220	F-3-a	Ⅲ b-3	表面は磨耗。口唇部は角張っている。	
221	F-2-a	"	羽状縄文上に短刻線と縦位のヘラ状器具による短刻線あり。	
222	F-2-a	"	内面磨耗。ヘラ状器具による細い短刻線2列を縦横に施文。	
223	F-2-a	"	内面研磨。細い短刻線あり。	
224	D-2-b	"	口唇は角張っている。半截竹管状器具による短刻線あり。	図版 44の上
225	D-2-c	"	縦位の短刻線は1列と2列の個所あり。羽状縄文、短刻線あり。	"
226	G-3-c	"	表面突起上に竹管状器具による刺突。彫りの深い短刻線あり。	"
227	I-5-a	"	内面剥落。口唇の角は内面角張っているが、表面丸みあり。	
228	G-3-c	"	口唇は縄文を施し外に張り出している。貼付帯上に短刻線。	図版 44の上
229	I-5-d	"	貼付帯上に彫りの深い短刻線。表面に石粒が見られる。	"
230	E-2-d	"	焼成良好。石英の粒が見られる。	"
231	F-3-a	"	縄文が羽状の個所に短刻線あり。	
232	H-2-d	"	貼付帯上に短刻線が縦横にあり。縄文原体はRL。	図版 44の上
233	F-3-a	"	口唇部は薄くなっている。表面に炭化物付着。	
234	H-3-d	"	貼付帯上に太い短刻線あり。	図版 44の上
235	B-2-a	"	口縁部は内傾する。口唇は平坦で角張る。貼付帯上に短刻線。	"
236	C-4-a	"	焼成良好。縄文原体はLR。短刻線あり。	"
237	C-3-b	"	石英の粒あり。焼成良好。縄文原体はLR。貼付帯上に短刻線。	
238	C-3-b	"	石英の粒あり。縄文が羽状の個所に短刻線、縄文原体RL, LR。	
239	B-3-b	"	縄文原体はLR。短刻線は縄端によって施文。	
240	B-3-b	"	239と同一個体。	
241	B-3-b	"	239, 240と同一個体。	

図4-12 (Ⅲ群b-3類土器)

242	E-2-c	Ⅲ b-3	口唇直下と胴部の隆起帯上に短刻線。	図版 44の下
243	G-3-b	"	貼付帯上に短刻線。	"
244	F-2-d	"	横、斜めの貼付帯上に短刻線。	"
245	F-3-a	"	貼付帯上に短刻線。貼付帯下方に無文部あり。	"
246	D-3-b	"	縦の貼付帯に短刻線。薄手で焼成良好。内面は黒色。	
247	E-2-d	"	肥厚帯上に竹管状器具による刺突のような2列の短刻線。	
248	D-4-a	"	肥厚帯上に半截竹管状器具による短刻線。	図版 44の下
249	E-4-a	"	同上。	
250	C-4-b	"	同上。	図版 44の下
251	C-2-c	"	貼付帯上に短刻線。貼付帯間の縄文はLR。	"

番号	グリッド	分類	特 色	写真番号
252	B-2-a	Ⅲb-3	貼付帯上に短刻線。貼付帯の下方は無文帯。	図版 44の下
253	D-3-a	〃	断面三角形の貼付帯上に短刻線。	〃
254	F-3-c	〃	貼付帯上に短刻線。	〃
255	C-3-c	〃	同上。	
256	F-4-a	〃	貼付帯上に短刻線。貼付帯下方にも短刻線。施文原体は縄端。	
257	F-3-d	〃	貼付帯に短刻線。貼付帯直下に沈線あり。	
258	D-4-a	〃	補修孔あり、貼付帯直上に沈線状の凹帯あり。	図版 44の下
259	D-3-d	〃	口唇上に縄文。その直下に凹帯、短刻線あり。	〃
260	F-2-d	〃	貼付帯上に短刻線。縦に半截竹管状器具による押しびき。	〃
261	B-2-a	〃	貼付帯上に短刻線。貼付帯下方は無文帯。	〃
262	J-4-d	〃	貼付帯上に短刻線。貼付帯上の上下方は縄文が摩耗。	〃
263	F-4-a	〃	薄手。内面を研磨。薄い貼付帯上に短刻線。	〃
264	H-6-a	〃	貼付帯上に刺突の様な短刻線。色調は赤褐色。	〃
265	D-2-b	〃	貼付帯上に竹管状器具による刺突列。	〃
266	C-1-d	〃	貼付帯上に縄端による短刻線。縄文原体はLR。	
267	C-3-c	〃	貼付帯上と端に短刻線。端のものは意図的な施文ではない？	図版 44の下
268	D-5-a	〃	底部。貼付帯上に短刻線。貼付帯下面に調整痕あり。	〃
269	B-3-b	〃	底部。縦横の貼付帯上に短刻線。色調は赤い。	〃
270	I-4-a	〃	薄手。沈線。	〃
271	I-4-a	〃	270と同一個体。沈線はS字状を描く。	〃
272	E-2-a	〃	曲線状の沈線をもつ。沈線の間の無文部は磨り消しによる。	〃

図4-13 (Ⅳ群a類土器)

273	B-1-a	Ⅳa	貼付帯上縄文原体RLの斜行縄文。地文に燃糸文。	図版 45の上
274	B-1-a	〃	口唇に貼付帯。下方に無文帯。縄線文、縄文がある。	〃
275	B-3-c	〃	貼付帯上縄文原体RLの縄線文。内面研磨。	〃
276	D-2-a	〃	貼付帯上縄文原体RLの縄線文。胎土に小石を含む。	〃
277	D-2-d	〃	貼付帯上縄文原体RLの縄線文。口唇は角張り平坦。	〃
278	C-2-c	〃	口唇は平坦で内面は研磨。貼付帯上縄文原体LRの縄線文。	
279	D-3-c	〃	口唇は平坦。2本の貼付帯間はきわめて狭い。	
280	B-1-a	〃	貼付帯の上方は角張り下方は調整痕がある。胎土に砂粒を含む。	図版 45の上
281	E-3-a	〃	横の貼付帯上に縦の貼付帯が重なる。胎土に砂粒を含む。	〃
282	E-2-d	〃	口唇上に突起あり。表面の無文帯に調整痕。	
283	C-1-d	〃	横の貼付帯に縦の貼付帯を重ねた後、縄文を施文。	図版 45の上

番号	グ リ ッ ド	分 類	特 色	写真番号
284	C-4-b	Ⅳ a	胎土に砂粒を含む。焼成不良。縦の貼付帯間に調整による無文部。	図版 45の上
285	B-3-a	〃	貼付帯上と生地面で縄文の施文方向が異なる。	〃
286	D-2-a	〃	285 と同一個体。	
287	D-1-c	〃	胎土に小石を含み薄手。表面に炭化物付着。L R の縄文。	図版 45の上
288	D-2-c	〃	胎土に砂粒を含み貼付帯上方は磨り消した調整痕。	
289	D-1-c	〃	胎土に砂粒を含み貼付帯上方は磨り消した無文部。磨耗が著しい。	
290	D-2-a	〃	底部付近。胎土に砂粒を含み 3 本の貼付帯間に磨り消した調整痕。	図版 45の上
291	E-3-a	〃	赤色物質付着。横の貼付帯上に縦の貼付帯を付けている。	〃
292	E-2-d	〃	縦の貼付帯は内面にも及んで貼付されている。口唇上に縄文あり。	〃
293	D-1-c	〃	胎土に石英粒の混った砂粒を含む。縦横の貼付帯あり。	
294	D-2-b	〃	輪積みの痕が明瞭である。胎土に砂粒を含む。	
295	D-1-c	〃	口唇直下の貼付帯は太く頸部のものは細い。	図版 45の上
296	C-1-d	〃	胎土に小石を含み厚手。口縁は外反する。縄文原体は L R。	〃
297	C-1-d	〃	胎土に小石を含む。口唇と貼付帯下端に調整痕。	〃
298	D-1-c	〃	R L の縄文を回転方向を変えて施文。口唇は角張り平坦。	
299	C-3-a	〃	口唇直下の貼付帯断面は平坦で頸部のものは三角形。	図版 45の上
300	D-1-c	〃	口唇直下の貼付帯断面は三角形。頸部のものは平坦。	〃
301	G-3-b	〃	貼付帯の貼付に際し調整をしていない。	
302	E-2-a	〃	貼付帯上で縄文の斜行方向が変化する。	図版 45の上
303	J-6-a	〃	貼付文上に刻みあり。口唇は角張り平坦で内面と共に研磨。	
304	G-3-b	〃	貼付文。胎土に石英粒の混った砂粒を含む。303と同一個体。	

図 4-14 (Ⅳ群a類土器)

305	D-5-c	Ⅳ a	胎土に小石を含み焼成良好。L R, R L の 2 種の縄文施文。	図版 45の下
306	E-2-c	〃	胎土に小石を含む。肥厚帯下端に磨消帯あり。	
307	B-2-a	〃	胎土に砂粒を含む。L R の縄文。	
308	E-4-b	〃	胎土に砂粒を含む。横の貼付帯下から縦の貼付帯が垂下する。	図版 45の下
309	B-1-a	〃	口唇上の調整は粗雑。	
310	A-1-c	〃	貼付帯上端にナデのような調整痕あり。内面研磨。	図版 45の下
311	C-4-b	〃	貼付帯の上下方は調整してあるが、生地面との間に亀裂がある。	〃
312	D-3-d	〃	貼付帯下半分とその下方に磨消帯。	
313	E-2-c	〃	口唇は角張り平坦。貼付帯と生地面との境なく縄文施文。	図版 45の下
314	B-1-c	〃	薄く焼成良好。口唇は角張り平坦。	〃
315	E-3-a	〃	胎土に砂粒を含む。貼付帯は痕跡程度残っている。	〃

番号	グリッド	分類	特 色	写真番号
316	E-3-a	IV a	薄い貼付帯である。	図版 45の下
317	B-2-d	"	胎土に砂粒を含む。磨耗が著しい。	
318	D-3-d	"	内面に爪形の圧痕あり。縄文原体はLR。	
319	E-2-c	"	313と同一個体。	
320	C-4-a	"	胎土に小石を含む。焼成良好。口唇は角張り平坦。縄文原体LR。	
321	C-4-a	"	胎土に石英粒の混った砂粒を含む。口唇面は内傾する。	
322	H-3-c	"	胎土に小石を含む。内面研磨。	
323	G-3-c	"	胎土に小石を含む。口唇は平坦。表面に炭化物付着。	図版 45の下
324	C-3-d	"	縄文原体RLの縄文を、貼付帯と生地面に一度に施文。	
325	B-1-a	"	胎土に砂粒を含む。貼付帯下半分は磨り消し。	
326	C-5-a	"	胎土に小石を含み薄手。縄文原体はLR。	
327	D-4-a	"	貼付帯とその下方に無節Lの縄文。内面に擦痕状の調整痕あり。	
328	D-3-a	"	口縁の貼付帯は2本の粘土紐からつくられている。	
329	D-1-a	"	貼付帯は薄く、中央がくぼむ。内面は研磨し炭化物付着。	図版 45の下
330	D-1-a	"	胎土に砂粒を含む。薄い貼付帯の下方は調整されている。	"
331	B-1-b	"	口唇は角張り平坦で研磨されている。薄く痕跡程度の貼付帯。	"
332	I-5-a	"	薄い貼付帯。口唇は平坦。内面は研磨し一部剝落している。	"
333	E-3-a	"	薄い貼付帯の薄手土器。貼付帯下は無文。	"
334	B-1-a	"	薄い貼付帯。胎土に砂粒を含み内面研磨。口唇は平坦。	"
335	D-3-d	"	薄い貼付帯。生地面は無文。胎土に砂粒を含む。RLの縄文。	
336	B-1-a	"	前方に突出する貼付帯。内面はヘラ状器具で横位に整形。	
337	B-1-a	"	胎土に砂粒を含む。内面は黒褐色。薄い貼付帯。	

図4-15 (IV群a類土器)

338	E-2-d	IV a	粘土紐を孤状に貼付。孤状の沈線、磨消帯あり。	図版 46の上
339	J-4-b	"	同上。	
340	J-4-b	"	339と同一個体。	図版 46の上
341	E-2-d	"	338と同一個体。	
342	D-3-a	"	薄手で口唇直下から縦、斜めに沈線。口唇は丸い。	
343	G-2-c	"	無文地に細い沈線。	図版 46の上
344	B-2-a	"	曲線状の沈線。地文はLRの斜行縄文。胎土は砂粒が多い。	"
345	E-2-a	"	無文地に孤状沈線。内面は横位の研磨。	"
346	B-1-d	"	胴部。曲線の沈線、地文はLRの斜行縄文。	"
347	E-3-a	"	縄文地を沈線で囲み、他は磨り消している。	"

番号	グリッド	分類	特 色	写真番号
348	D-1-d	Ⅳa	胴部。曲線の沈線をもつ。RLの縄文。	
349	D-3-b	"	同上。	
350	E-3-b	"	同上。	
351	C-1-d	"	同上。	
352	D-1-d	"	348と同一個体。	
353	D-3-a	"	胴部。曲線上の沈線をもつ。	
354	D-1-d	"	348, 352と同一個体。	
355	E-2-d	"	砂粒多し。LRの縄文。	
356	E-2-a	"	胴部。曲線の沈線が2本みられる。	
357	B-2-a	"	同上。曲線の沈線がある。	
358	F-2-a	"	同上。	
359	E-2-d	"	同上。	
360	F-2-d	"	同上。曲線の沈線がある。	図版 46の上
361	F-3-b	"	同上。磨消帯がある。	"
362	D-2-d	"	同上。	
363	B-2-b	"	同上。口頸部付近の破片である。	図版 46の上
364	F-3-b	"	同上。	"
365	E-2-b	"	胴部。曲線の沈線。	
366	B-2-a	"	同上。	
367	G-3-c	"	薄手。波状口縁で外反する。	図版 46の上
368	G-3-a	"	胴部。曲線の沈線。	"
369	D-3-a	"	同上。	
370	B-1-d	"	同上。	
371	E-3-b	"	口縁部。内面は研磨されている。	図版 46の上
372	C-2-d	"	口縁部。蛇行する沈線。	"
373	C-4-b	"	口縁部。蛇行する沈線。	"
374	D-1-c	"	372と同一個体。	"
375	C-3-c	"	胴部。蛇行する沈線。	"

図4-16 (Ⅳ群b類土器, その他の資料)

376	J-3-c	Ⅳb	波状口縁。表面に沈線とLRの縄文。内面に隆起線。	図版 46の下
377	D-1-d	"	口唇部は平坦。焼成良好。沈線。LRの縄文原体で羽状縄文構成。	"
378	E-1-d	"	沈線の下部に横位の調整痕。内面は炭化物付着。	"
379	G-3-c	"	内面は研磨, 縄文原体はLR。	"

番号	グリッド	分類	特 色	写真番号
380	J-3-d	Ⅳb	棒状器具による横走沈線。内面は研磨。	図版 46の下
381	E-2-a	"	沈線は浅い。焼成が粗。	"
382	I-3-b	"	口縁部は外反。内面は研磨。LRの縄文。	"
383	J-3-c	"	縄文原体LR。内面は研磨。焼成良好。382と同一個体。	"
384	G-3-c	"	焼成良好。無文帯はヘラ状器具の研磨によって光沢をもつ。	"
385	A-1-c	"	口唇部は平坦。RLの縄文と沈線。	"
386	D-2-c	"	口唇部は平坦。沈線浅い。内面に横位の擦痕あり。	"
387	E-1-d	"	口縁部に突起あり。内外面ともよく研磨されている。	"
388	I-4-a	"	沈線は太く、内外面とも良く研磨されている。LRの縄文。	"
389	B-3-b	"	沈線は浅く、横走している。	"
390	B-3-a	"	口唇部は平坦。口縁部、内面はよく研磨されている。	"
391	B-3-b	"	390と同一個体。	"
392	B-2-b	"	波状口縁で内反する。内外面とも良く研磨されている。	"
393	B-3-b	"	深鉢の頸部付近。縄文原体はLR。内面は横位の調整。	"
394	F-2-a	"	胎土に砂粒を多く含む。焼成は粗。	"
395	F-2-b	"	口縁部内反、口縁部に2条の浅い沈線を施す。Lの無節縄文。	"
396	G-2-d	"	395と同一個体。	"
397	F-2-a	"	横走沈線あり。	"
398	I-4-b	Ⅳc	貼付帯の両脇にそって刺突文。縄文原体はLR。	"
399	I-4-b	"	398と同一個体。	"
400	I-4-b	"	貼付帯の両端に刺突文。三叉文あり。398、399と同一個体。	"
401	G-2-c	V?	吊り耳。突起をもつ。LRの斜行縄文。	
402	H-4-a	"	吊り耳。薄手の土器。	
403	C-4-c	"	吊り耳。LRの斜行縄文。	
404	H-3-d	"	同上。	
405	F-2-c	Ⅲb-3	吊り耳。小形土器。北筒式土器に相当する。	
406	E-2-d	V?	吊り耳。薄手の土器。	
407	C-3-b	"	同上。406と同一個体。	
408	A-1-c	"	長い吊り耳をもつ。	
409	C-3-b	"	突起に対して水平方向に貫通孔を穿っている。	
410	E-2-d	Ⅵ	横走沈線。RLの斜行縄文。恵山式土器に相当する。	
411	D-3-b	Ⅲb-3?	底部。内側に突起をもつ。	図版 47の上
412	D-2-b	?	底部の立ち上がり半截竹管状器具による押しびき。	"

番号	グリッド	分類	特 色	写真番号
413	C-5-b	?	地文はRLの斜行縄文。貫通孔あり。	図版 47の上
414	C-1-a	?	底部の裏に網代痕あり。	”
415	H-4-b	?	同上。	”
416	D-2-c	?	同上。	”
417	D-1-c	?	同上。	”
418	C-1-d	?	葉脈の痕跡あり。	”

表 6 包含層出土掲載石器一覧

番号	名 称	分 類	グ リ ッ ド	重さ(g)	材 質	写真 番号	番号	名 称	分 類	グ リ ッ ド	重さ(g)	材 質	写真 番号
1	石 鏃	IA2a	D-2-a	1.2	黒曜石	図版 47の下	28	石 鏃	IA5	D-3-c	(2.8)	頁 岩	図版 47の下
2	"	IA3	I-4-b	0.7	"	"	29	"	"	C-4-c	1.4	黒曜石	
3	"	"	D-2-a	0.6	"	"	30	"	"	I-3-b	1.3	"	
4	"	"	C-4-c	0.5	"	"	31	"	"	C-3-c	1.5	頁 岩	
5	"	"	I-6-b	0.4	"	"	32	"	"	D-2-b	1.6	黒曜石	
6	"	"	D-2-d	(0.8)	"	"	33	"	"	E-2-d	2.0	"	図版 47の下
7	"	"	D-3-a	0.4	頁 岩	"	34	"	"	D-2-b	2.1	"	"
8	"	"	G-2-d	1.0	"	"	35	"	"	G-2-d	1.3	"	"
9	"	"	C-4-c	1.6	"	"	36	"	"	B-1-a	(2.5)	"	
10	"	IA4	B-2-a	1.3	黒曜石	図版 48の上	37	"	"	E-2-a	1.3	"	
11	"	"	J-3-c	0.5	頁 岩		38	"	"	J-4-c	0.9	頁 岩	図版 47の下
12	"	"	C-4-c	2.0	黒曜石	図版 47の下	39	"	"	I-4-d	3.2	"	
13	"	"	E-3-a	1.1	"	"	40	"	"	D-1-d	3.2	"	
14	"	"	C-4-c	2.7	頁 岩		41	"	"	J-3-d	2.0	黒曜石	
15	"	"	F-2-c	1.2	黒曜石	・図版 47の下	42	"	"	D-3-a	(2.7)	"	
16	"	"	B-2-a	1.6	"	"	43	"	"	D-3-a	3.1	"	
17	"	"	E-2-d	1.5	"	"	44	"	"	D-4-a	(0.8)	"	図版 47の下
18	"	"	G-3-a	0.8	"		45	"	"	J-6-a	0.5	"	
19	"	"	E-2-d	0.6	"		46	"	"	I-3-b	1.0	頁 岩	図版 47の下
20	"	"	E-2-d	1.4	"		47	"	"	I-3-d	0.6	黒曜石	
21	"	"	D-3-a	2.4	"	図版 47の1	48	"	"	E-4-d	0.5	"	図版 47の下
22	"	"	G-3-c	1.0	"	"	49	"	"	G-2-d	(1.6)	"	
23	"	"	C-4-b	0.6	"	"	50	"	"	D-4-b	1.6	"	
24	"	IA5	C-5-b	(1.6)	頁 岩	"	51	"	"	B-2-a	1.4	"	
25	"	"	J-3-a	1.8	"	"	52	"	"	G-3-c	1.5	"	
26	"	"	J-3-d	1.0	黒曜石	"	53	"	"	E-2-a	(1.9)	"	
27	"	"	J-4-a	1.5	頁 岩	"	54	"	"	表 採	(1.9)	"	

番号	名 称	分 類	グ リ ッ ド	重さ(g)	材 質	写 真 番 号	番号	名 称	分 類	グ リ ッ ド	重さ(g)	材 質	写 真 番 号
55	石 鉄	IA5	B-2-a	2.3	黒曜石		84	槍 先	IB2	H-4-a	4.8	黒曜石	図版 48の上
56	"	"	C-4-b	1.5	"		85	"	IB1	B-2-b	(7.8)	"	図版 48の下
57	"	"	I-4-d	0.8	"		86	"	"	C-3-b	7.7	"	"
58	"	"	B-3-b	(1.3)	"		87	"	"	B-2-c	1.9	"	
59	"	"	B-2-c	(1.2)	"		88	"	"	G-3-c	1.1	"	図版 48の下
60	"	"	C-4-c	1.4	"		89	"	"	D-2-a	(4.5)	"	"
61	"	"	D-3-a	1.7	"		90	"	"	D-4-a	2.7	"	
62	"	"	C-3-b	2.6	"		91	"	"	I-5-b	24.7	頁 岩	図版 48の下
63	"	"	F-3-b	1.1	"	図版 48の上	92	"	IB2	E-2-d	8.5	黒曜石	
64	"	IA9	C-4-b	2.5	頁 岩		93	"	"	F-2-b	6.9	頁 岩	図版 48の下
65	"	"	D-2-d	0.9	"	図版 48の上	94	"	"	I-5-d	6.3	"	図版 48の上
66	"	"	C-4-b	(0.9)	黒曜石		95	"	"	E-2-a	10.5	黒曜石	"
67	"	"	C-2-b	(0.4)	"		96	"	"	D-3-b	4.2	"	
68	"	"	E-3-d	1.0	頁 岩	図版 48の上	97	"	"	D-1-a	3.0	"	
69	"	"	C-4-a	(0.6)	黒曜石	"	98	"	"	H-5-b	6.0	頁 岩	
70	"	"	D-2-d	0.5	"	"	99	"	"	I-5-c	(9.4)	黒曜石	
71	"	"	B-1-a	(0.8)	"	"	100	"	"	I-5-a	10.9	頁 岩	図版 48の上
72	"	"	B-1-a	(2.6)	"	"	101	"	"	D-3-d	17.4	黒曜石	図版 48の下
73	"	"	G-3-c	3.4	"		102	"	"	B-2-c	30.8	頁 岩	"
74	欠 番						103	"	"	C-4-a	(3.5)	黒曜石	
75	槍 先	IB1	G-3-c	11.7	黒曜石	図版 48の上	104	"	"	I-3-a	38.0	頁 岩	
76	"	"	A-1-b	8.9	"	"	105	"	"	E-2-b	20.9	"	図版 48の下
77	"	"	D-4-a	9.6	"	"	106	"	"	E-4-c	60.2	"	"
78	"	"	E-2-a	15.0	"	"	107	"	"	C-2-a	(17.2)	"	"
79	"	"	D-4-b	9.6	"	"	108	"	IB9	I-5-c	1.8	黒曜石	"
80	"	"	I-4-d	8.5	"	"	109	石 錐	IIA1	C-2-a	6.7	頁 岩	図版 49の上
81	"	"	E-4-c	3.0	"	"	110	"	"	E-2-d	2.0	黒曜石	"
82	"	"	D-4-b	5.6	頁 岩	"	111	"	"	D-2-d	(2.9)	"	"
83	"	IB2	I-6-a	10.0	黒曜石		112	"	"	C-4-c	9.8	頁 岩	"

番号	名 称	分 類	グ リ ッ ド	重さ(g)	材 質	写 真 番 号
113	石 錐	Ⅱ A 3	I-3-b	12.4	頁 岩	
114	"	"	C-4-a	24.6	黒曜石	
115	"	"	F-2-a	9.4	"	図版 49の上
116	"	"	C-2-b	(3.2)	"	"
117	"	Ⅱ A 2	J-3-d	(3.4)	頁 岩	"
118	"	Ⅱ A 9	B-2-d	1.4	黒曜石	
119	"	"	C-3-d	1.1	"	図版 49の上
120	"	Ⅱ A 1	F-2-a	1.2	頁 岩	
121	"	"	D-3-c	3.6	黒曜石	図版 49の上
122	"	"	C-4-b	4.6	頁 岩	"
123	"	Ⅱ A 9	E-1-d	1.4	黒曜石	
124	"	"	E-2-d	18.0	"	
125	つまみ付きナイフ	Ⅲ A 1	B-2-b	25.3	頁 岩	図版 49の上
126	"	Ⅲ A 2	F-4-a	(8.4)	"	"
127	"	"	H-4-c	22.5	"	
128	"	"	E-2-a	18.6	"	
129	"	Ⅲ A 3	I-4-c	4.5	黒曜石	図版 49の上
130	"	"	E-3-c	5.9	"	"
131	"	"	D-4-b	6.5	"	"
132	"	"	E-4-c	7.8	頁 岩	"
133	"	"	G-6-b	2.9	"	"
134	"	Ⅲ A 9	K-4-d	18.3	"	"
135	"	"	B-2-d	19.9	"	
136	"	"	F-3-d	6.7	"	図版 49の上
137	"	"	I-4-a	(13.0)	"	"
138	"	"	F-2-d	(10.5)	"	"
139	"	"	C-1-c	7.1	"	"
140	"	"	I-4-d	4.9	黒曜石	"
141	"	"	F-2-c	10.2	頁 岩	
142	つまみ付きナイフ	Ⅲ A 9	D-2-b	6.4	黒曜石	図版 49の上
143	スクレイパー	"	I-4-d	10.0	"	図版 49の下
144	"	Ⅲ B 1	I-5-b	2.5	"	
145	"	"	F-4-a	11.5	"	図版 49の下
146	"	"	J-4-b	11.2	"	"
147	"	"	H-6-b	5.1	頁 岩	"
148	"	"	I-4-c	4.7	黒曜石	"
149	"	"	H-3-c	(16.8)	頁 岩	
150	"	"	J-4-a	37.0	"	図版 49の上
151	"	"	D-4-a	11.3	"	
152	"	Ⅲ B 2	H-5-b	12.6	黒曜石	図版 49の下
153	"	"	D-4-a	8.4	"	
154	"	"	D-4-d	10.0	"	図版 49の下
155	"	"	I-5-a	200.0	"	"
156	"	"	I-4-d	19.3	頁 岩	"
157	"	"	J-4-d	3.8	黒曜石	
158	"	Ⅲ B 9	J-4-d	9.3	"	図版 49の下
159	"	"	J-3-d	9.7	"	"
160	"	"	D-3-c	15.4	"	"
161	"	"	H-5-c	25.1	頁 岩	"
162	"	"	C-4-b	21.3	"	図版 49の下
163	"	"	J-4-c	26.3	黒曜石	
164	"	"	E-2-d	27.5	めのう	図版 49の下
165	"	"	B-3-b	3.3	黒曜石	"
166	"	"	H-5-b	21.8	頁 岩	
167	"	"	E-2-d	17.0	"	図版 50の上
168	"	"	F-2-c	1.5	"	"
169	"	"	D-2-c	16.6	"	"
170	"	"	C-1-d	10.5	"	

番号	名 称	分 類	グ リ ッ ド	重さ(g)	材 質	写 真 番 号	番号	名 称	分 類	グ リ ッ ド	重さ(g)	材 質	写 真 番 号
171	スクレイパー	Ⅲ B 9	C-2-b	19.8	頁 岩		200	スクレイパー	Ⅲ B 9	B-1-a	4.5	黒曜石	図版 50の下
172	"	"	I-5-b	21.0	黒曜石		201	"	"	C-3-d	18.8	頁 岩	
173	"	"	I-5-d	27.7	"		202	"	"	H-3-c	35.2	"	図版 51の上
174	"	"	D-4-a	21.5	黒曜石		203	"	"	D-2-d	11.2	"	
175	"	"	E-4-b	31.4	頁 岩	図版 50の上	204	"	"	E-4-a	25.9	泥 岩	図版 51の上
176	"	"	J-4-c	45.0	"	"	205	"	"	C-1-d	7.7	頁 岩	
177	"	"	B-3-a	19.2	"		206	"	"	C-3-b	21.6	"	図版 51の上
178	"	"	G-2-d	15.0	黒曜石		207	"	"	F-3-b	9.9	黒曜石	
179	"	"	C-2-a	2.3	"	図版 50の上	208	"	"	C-3-c	12.1	頁 岩	
180	"	"	E-4-c	1.4	"	"	209	石 核	Ⅳ A	D-2-a	130.4	"	図版 51の上
181	"	"	C-4-a	25.4	頁 岩		210	"	"	I-5-a	74.5	珪 岩	"
182	"	"	G-3-c	25.0	"	図版 50の上	211	石 斧	Ⅳ A 2	H-3-b	420	泥 岩	図版 51の下
183	"	"	C-1-a	12.5	黒曜石		212	"	"	I-5-a	275	緑色泥岩	"
184	"	"	D-4-a	(20.3)	頁 岩		213	"	Ⅳ A 3	C-4-c	83	泥 岩	"
185	"	"	I-4-c	26.0	"	図版 50の上	214	"	Ⅳ A 5	D-4-b	280	"	"
186	"	"	D-3-c	8.7	"	"	215	"	Ⅳ A 1	I-5-d	87	緑色泥岩	"
187	"	"	D-4-a	6.9	黒曜石		216	"	Ⅳ A 5	E-3-c	88	"	"
188	"	"	I-4-d	34.5	頁 岩	図版 50の上	217	"	"	G-2-d	160	頁 岩	"
189	"	"	E-2-c	11.1	"	"	218	"	"	D-5-d	75	泥 岩	"
190	"	"	J-3-d	5.8	黒曜石	"	219	"	Ⅳ A 3	I-4-b	111	緑色泥岩	"
191	"	"	I-4-d	27.5	"	"	220	"	"	H-4-d	79	"	"
192	"	"	C-4-b	10.8	"	図版 50の下	221	"	Ⅳ B	I-3-c	17	泥 岩	"
193	"	"	B-3-b	7.3	"	"	222	"	"	J-6-b	37	"	"
194	"	"	H-4-a	7.3	"	"	223	"	"	J-3-d	25	"	"
195	"	"	C-5-b	6.1	"	"	224	たたき石	Ⅴ A 1	B-3-b	325	緑色泥岩	図版 52の下
196	"	"	H-4-c	5.3	"	図版 50の下	225	"	"	E-2-a	104	安山岩	"
197	"	"	F-2-c	3.4	"	"	226	"	Ⅴ A 2	D-2-c	535	"	
198	"	"	F-2-a	6.4	"	"	227	"	Ⅴ A 9	E-2-a	400	"	図版 52の下
199	"	"	C-4-a	4.9	"	"	228	台 石	Ⅴ B 1	F-3-d	2200	安山岩	図版 52の下

番号	名 称	分 類	グ リ ッ ド	重さ(g)	材 質	写 真 番 号	番号	名 称	分 類	グ リ ッ ド	重さ(g)	材 質	写 真 番 号
229	台 石	VB1	I-5-a	1140	安山岩	図版 52の下	246	石 製 品		C-4-b	17.2	硬 玉	図版 53の下
230	"	"	H-2-a	6900	"	図版 53の上	247	"		D-3-d	9.0	滑 石	"
231	すり石	VIA1	D-2-d	845	"	図版 52の上	248	"		D-3-d	10.0	"	"
232	"	VIA2	F-3-a	131	砂 岩	"	249	"		F-2-c	4.2	"	"
233	"	"	E-3-b	180	片麻岩	"	250	"		D-3-d	9.0	"	"
234	"	VIA4	J-4-c	260	安山岩	"	251	"		F-2-c	4.2	"	"
235	"	VIA9	J-4-d	21	緑色泥岩		252	"		B-3-b	2.9	めのう	"
236	石 皿	VB1	E-3-b	278	軽 石		253	"		F-2-b	3.1	石 炭	"
237	"	"	B-2-a	1230	安山岩		254	"		C-1-a	1.5	硬 玉	"
238	砥 石	VB2	E-2-a	120	砂 岩	図版 52の上	255	"		C-4-b	1.5	滑 石	"
239	"	"	E-2-a	270	"	"	256	"		E-4-b	22.0	"	"
240	"	"	E-2-a	720	"	"	257	三角形土製品		E-1-d	2.6		
241	"	VB2	G-3-d	380	砂 岩		258	"		C-4-b	27.9		
242	石 斧	IVA8	H-5-a	(47)	"		259	"		C-4-b	14.9		
243	石 製 品		B-3-a	27.9	"	図版 53の下	260	"		C-4-b	7.9		
244	"		G-3-d	112.7	軽 石	"	261	"		C-4-b	13.1		
245	"		E-2-d	12	滑 石	"							

写真図版



○印は千歳5遺跡を示す。



遺跡全景



調査風景



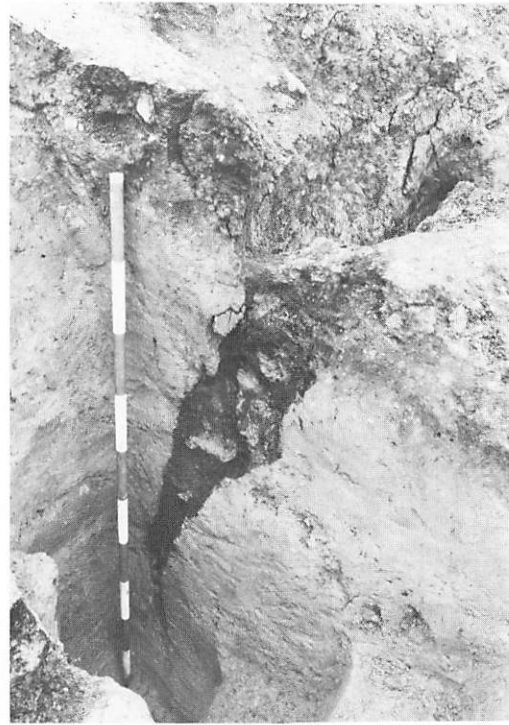
ハルキオカシベツ川



C-3-eグリッド南面セクション



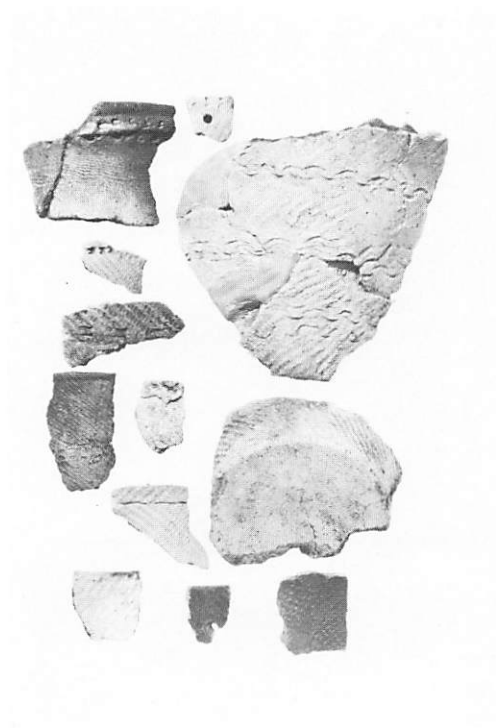
調査区南部のクレバス



クレバス・セクション北西面



H-1 全 景



H-1 出土土器



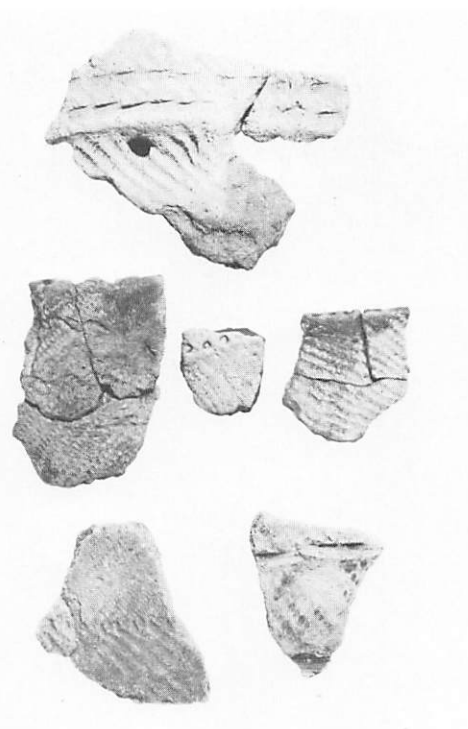
H-1 出土石器



H-3 全 景



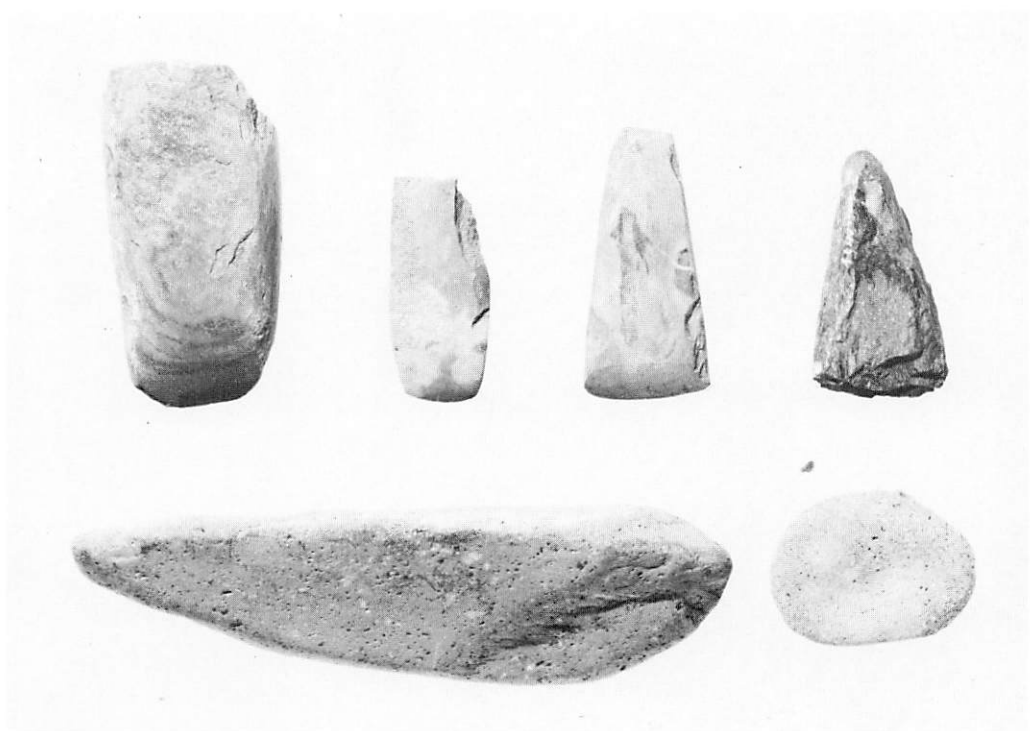
H-3 石囲い炉(上) 集石(下)



H-3 出土土器



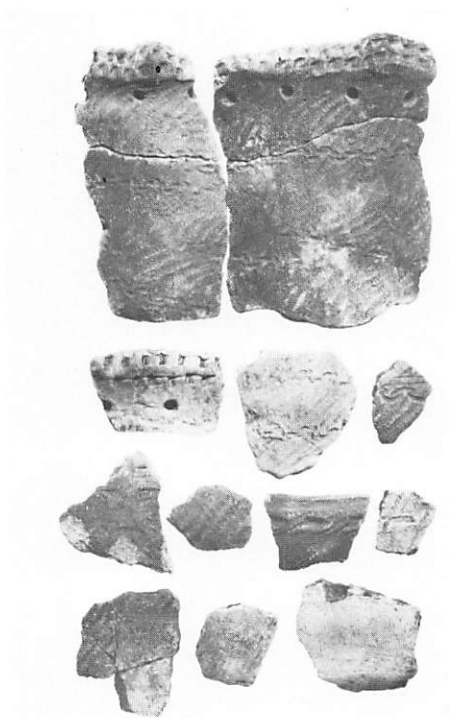
H-3 出土石器



H-3 出土石器



H-4 全 景



H-4 出土土器



H-4 出土石器



H-6 全 景



H-6 フレイク出土状況



H-6 出土土器



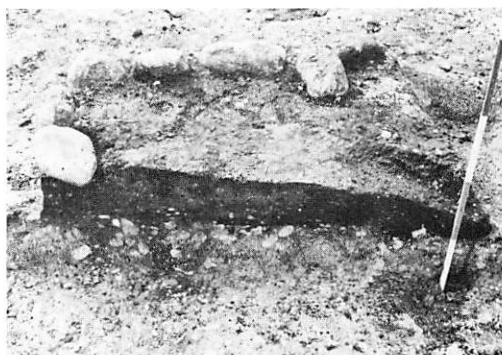
H-6 出土石器



H-7 全 景



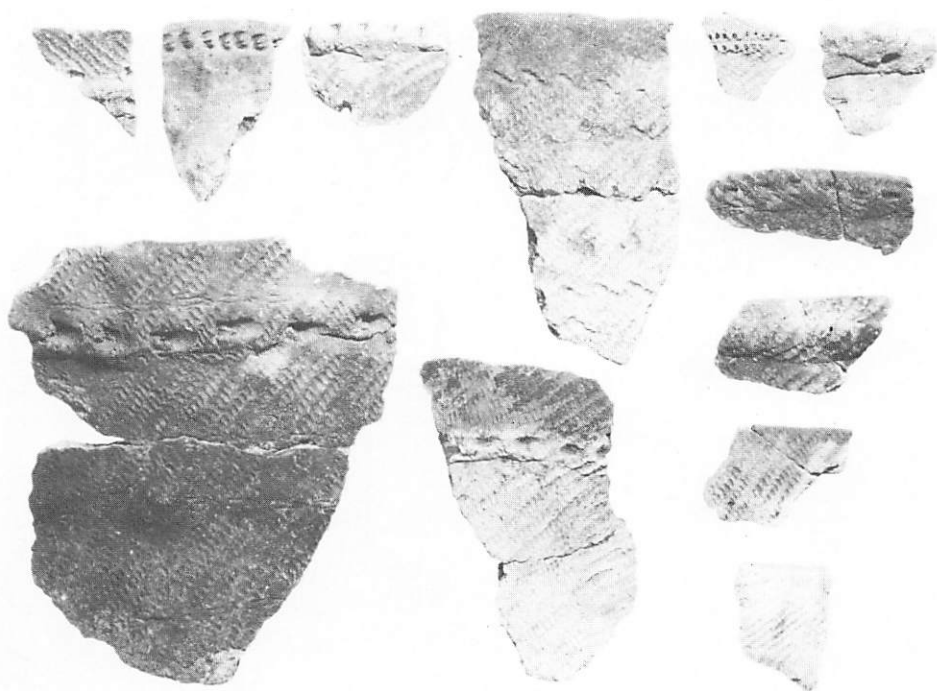
H-7 出土土器



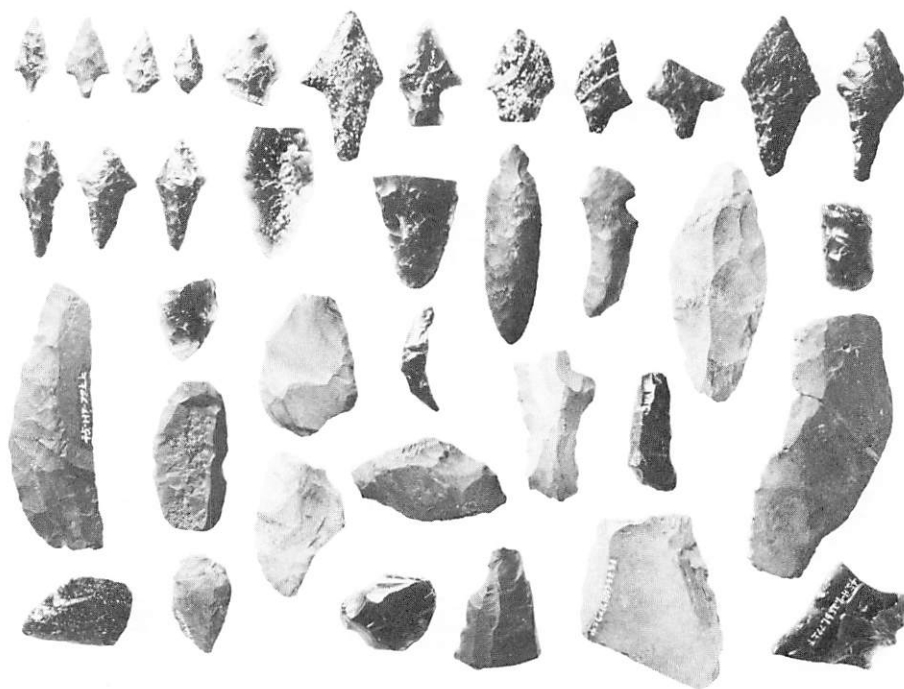
H-7 出土土器(上) 石囲い炉(下)



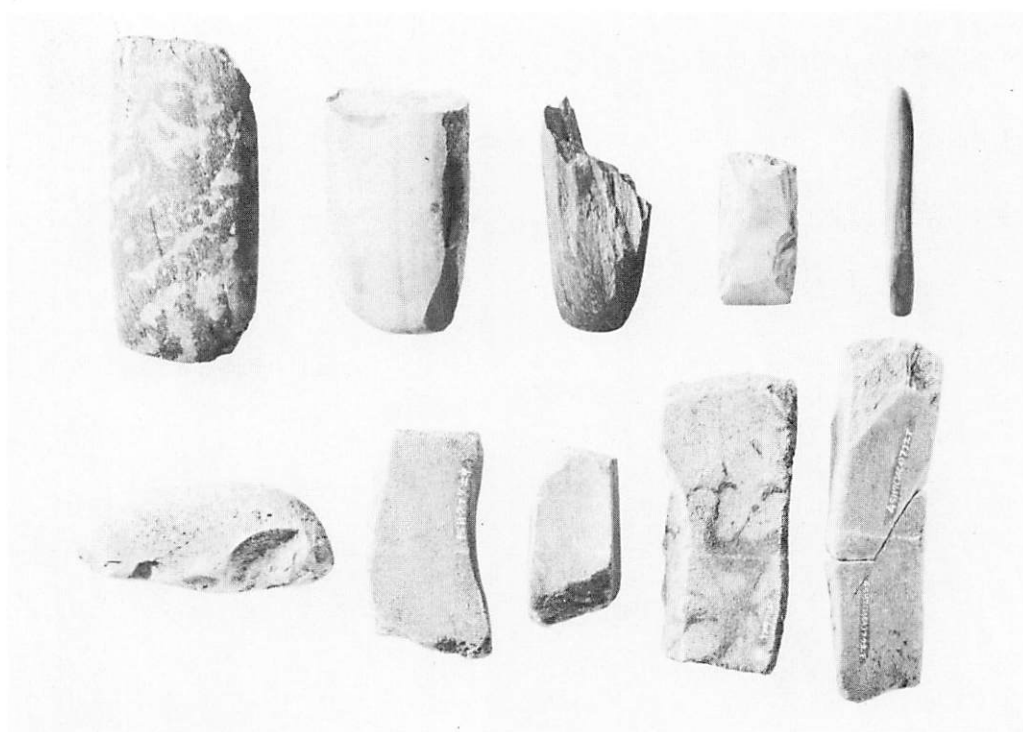
H-7 出土土器



H-7 出土土器



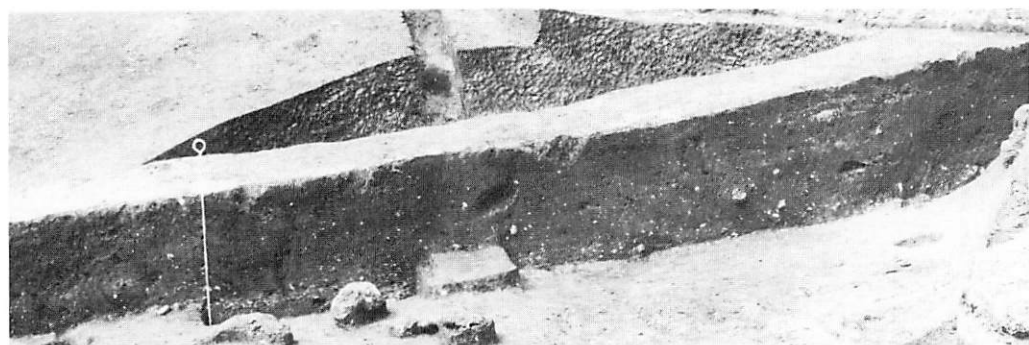
H-7 出土石器



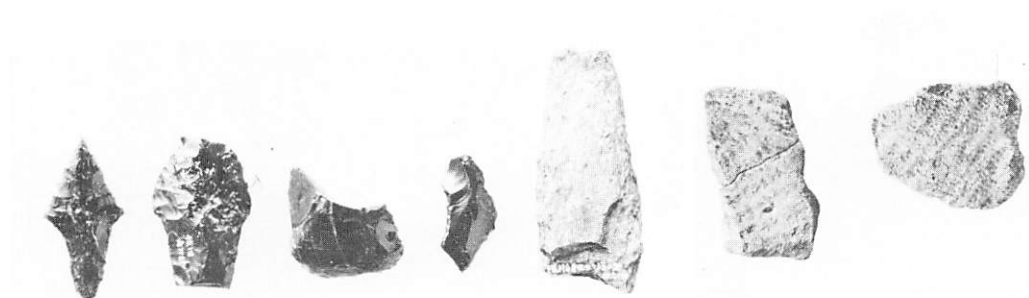
H-7 出土石器



H-8 全 景



H-8 東西セクション(南面)

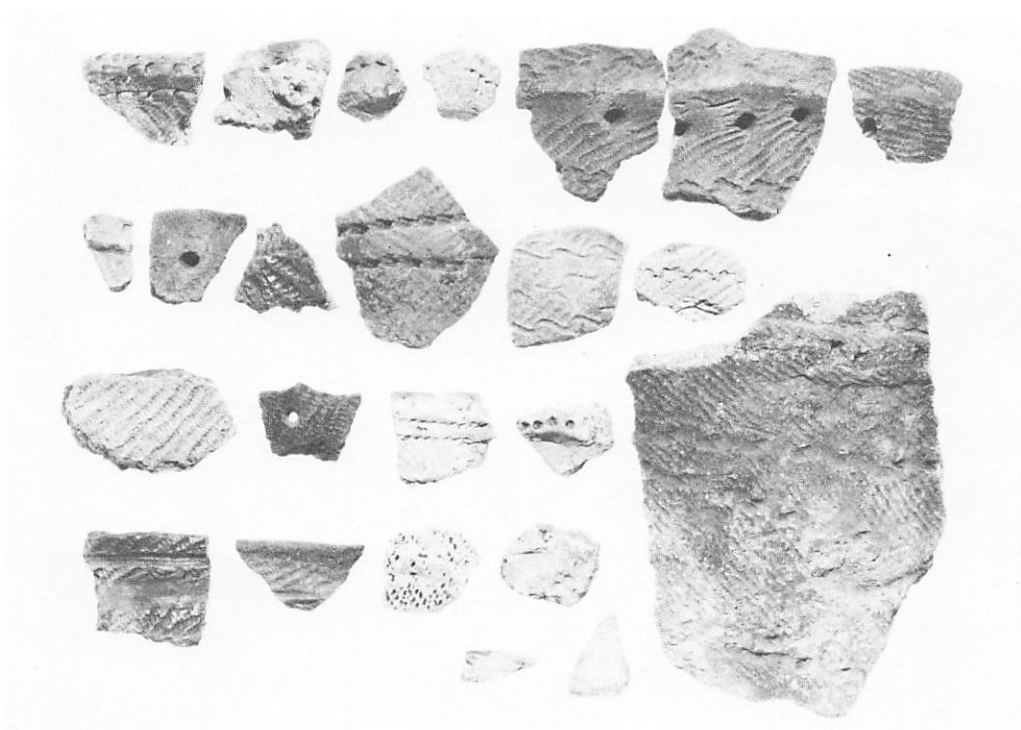


H-8 出土石器

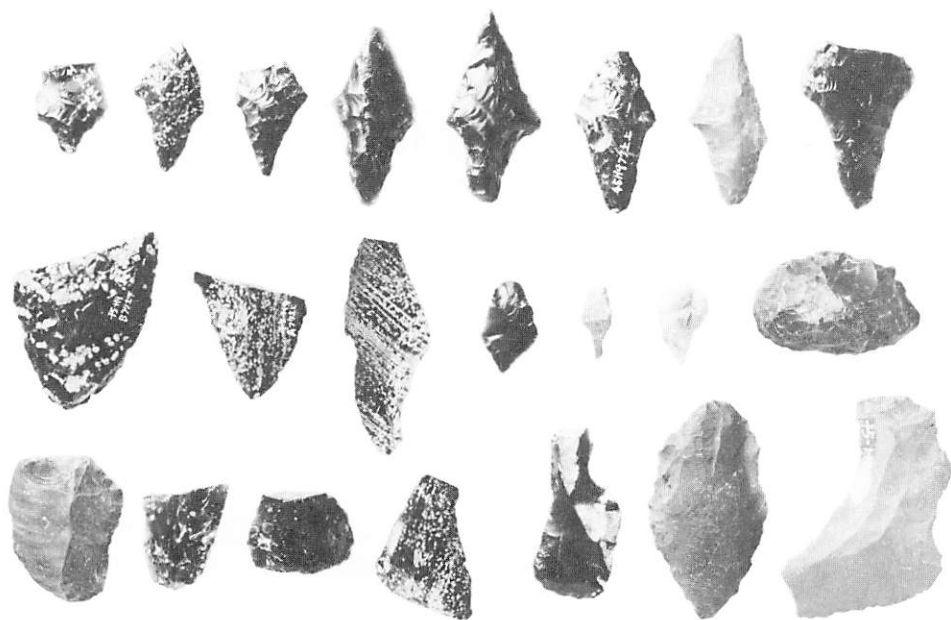
H-8 出土土器



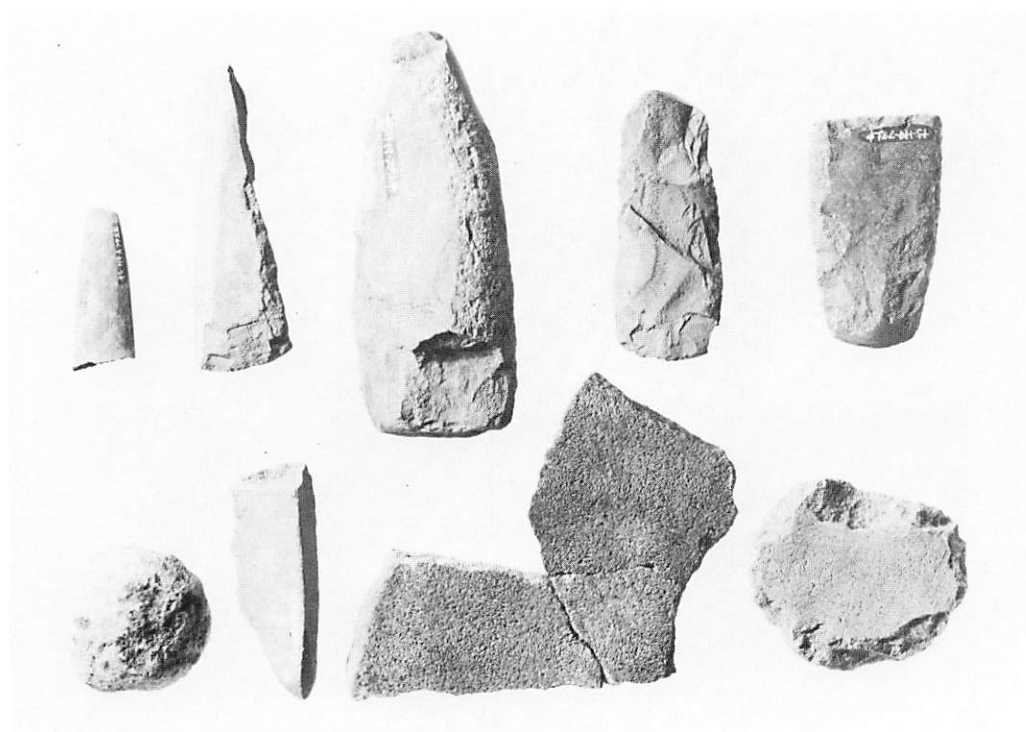
H-9 全 景



H-9 出土土器



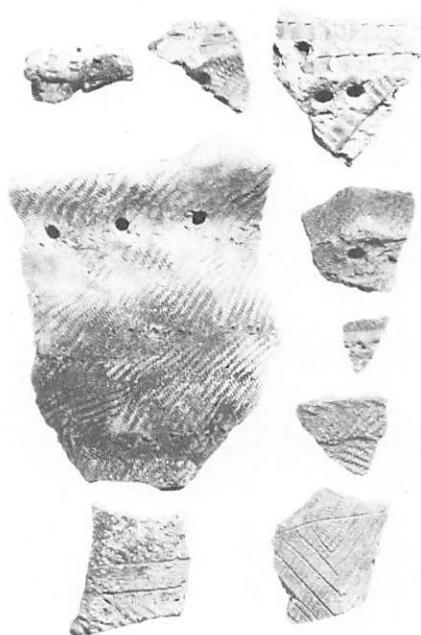
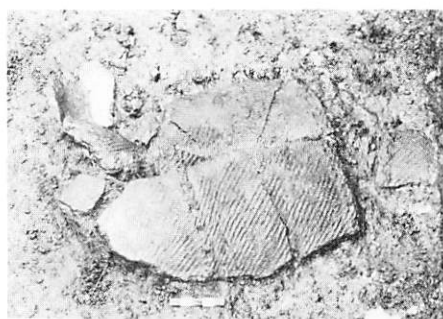
H-9 出土石器



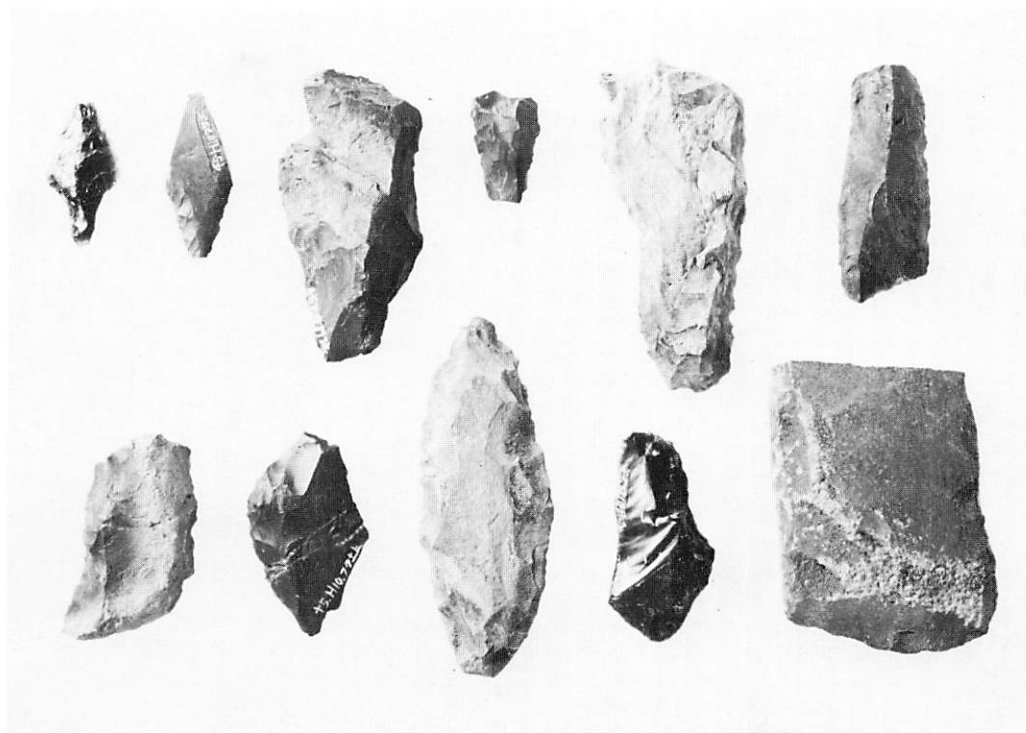
H-9 出土石器



H-10 全 景



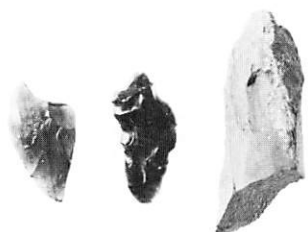
H-10 一括土器出土状況(左上) 出土土器(左下) 出土土器(右)



H-10 出土石器



H-11 全 景



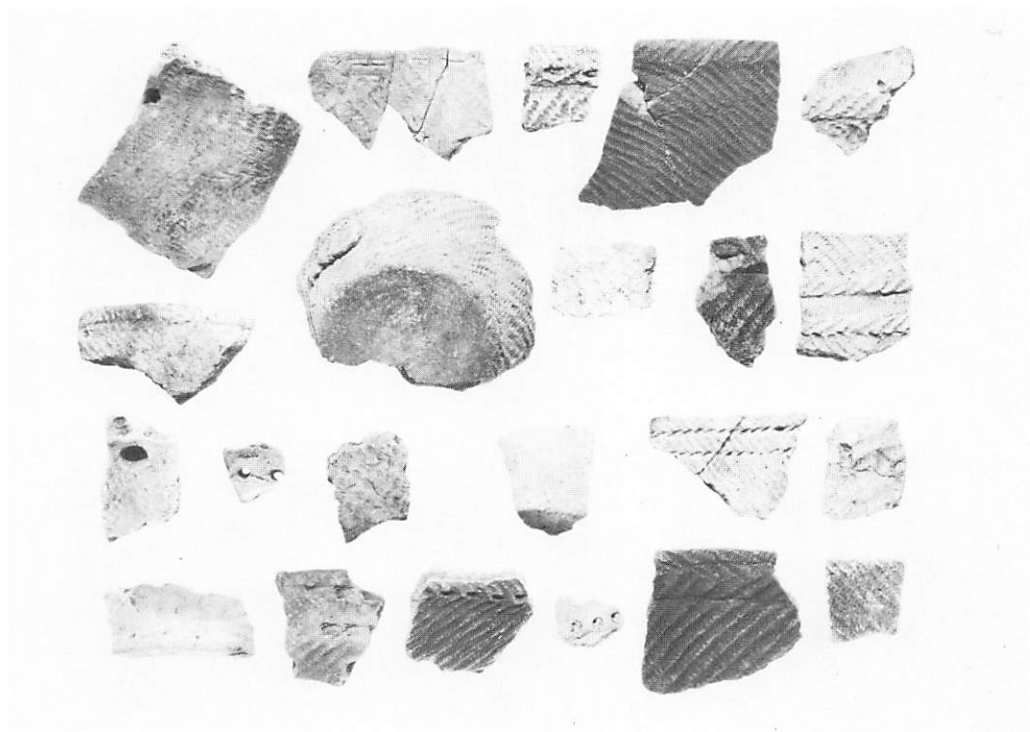
H-11 出土土器(上)
出土土器(下)



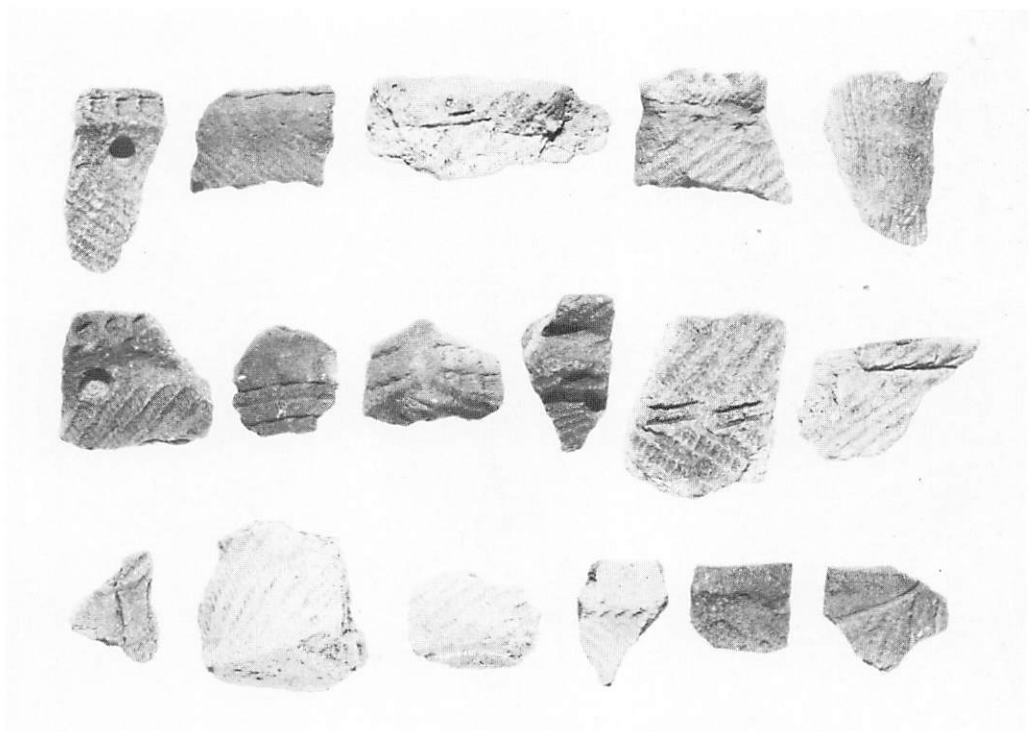
H-12 全 景



H-12 炭化材出土状況



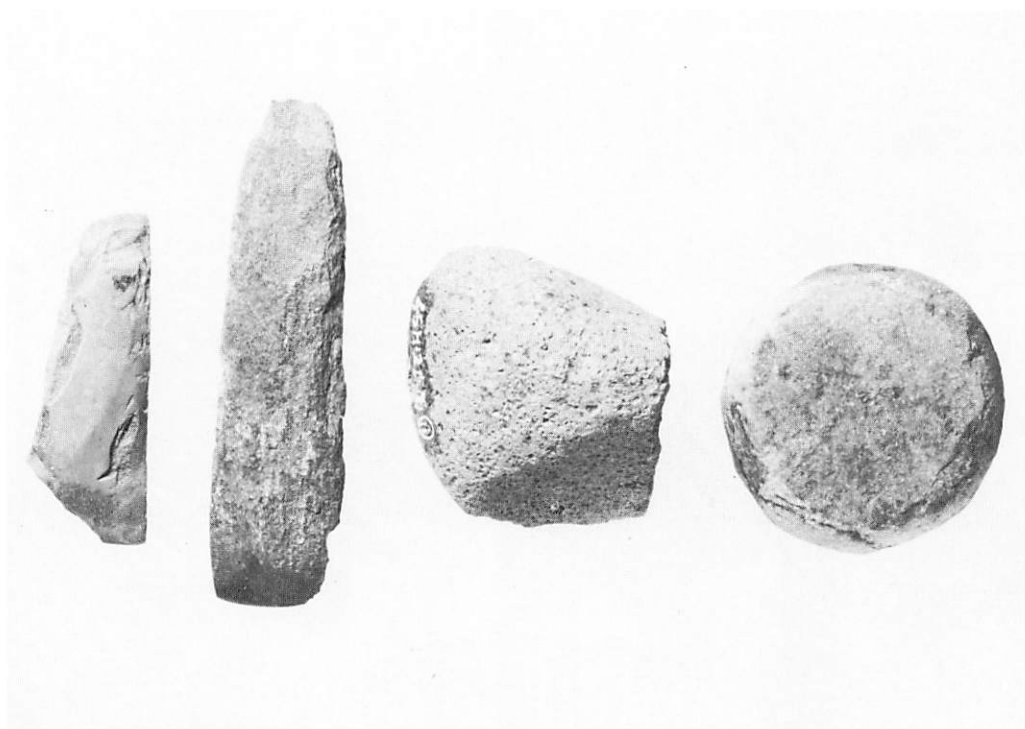
H-12 出土土器



H-12 出土土器



H-12 出土石器

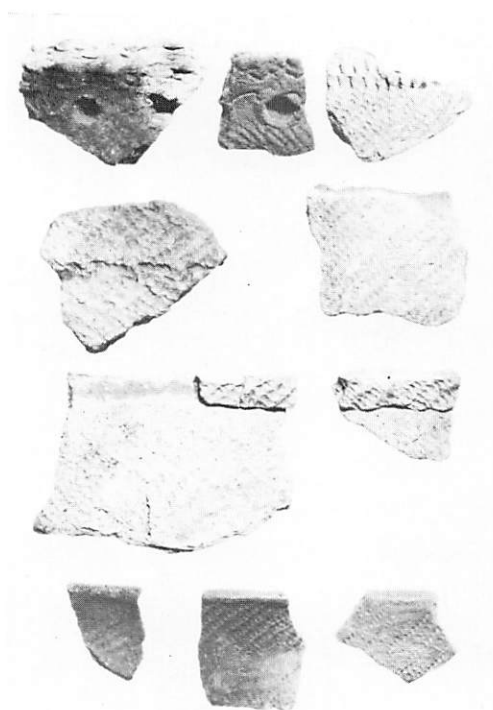


H-12 出土石器



H-13 全 景

H-13 土器出土状况(上) 出土土器(下)



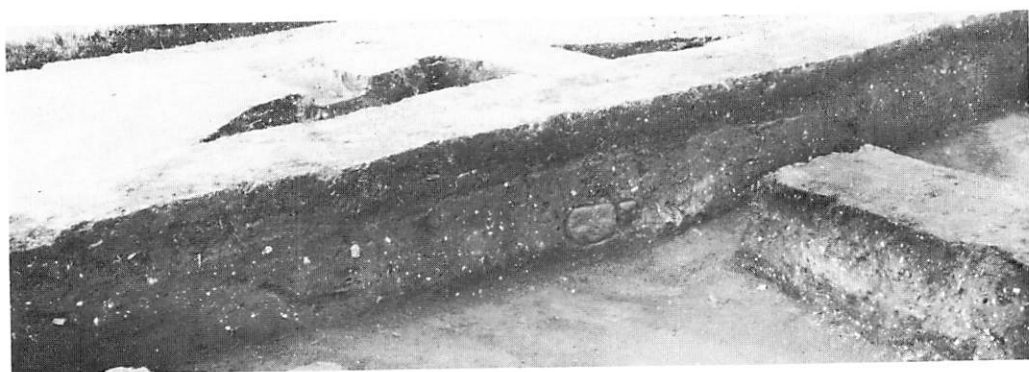
H-13 出土土器



H-13 出土石器



H-14 全 景



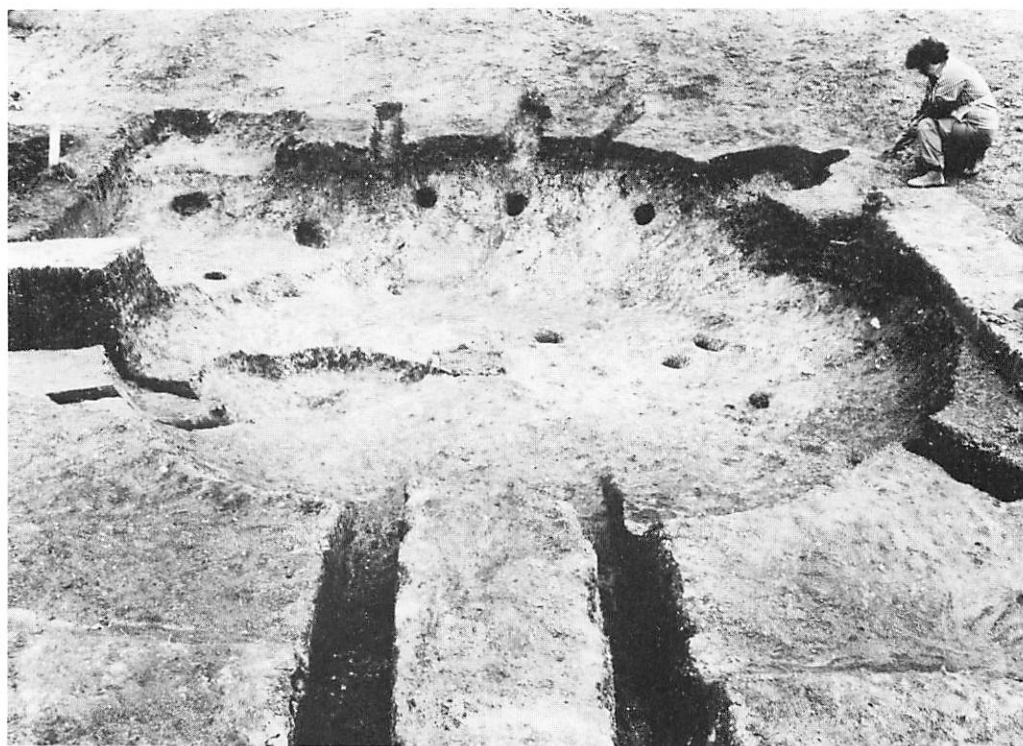
H-14 東面セクション



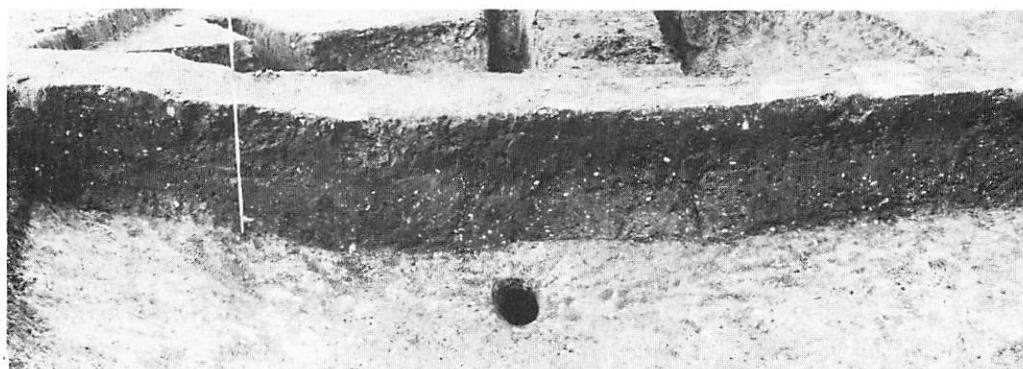
H-14 出土土器



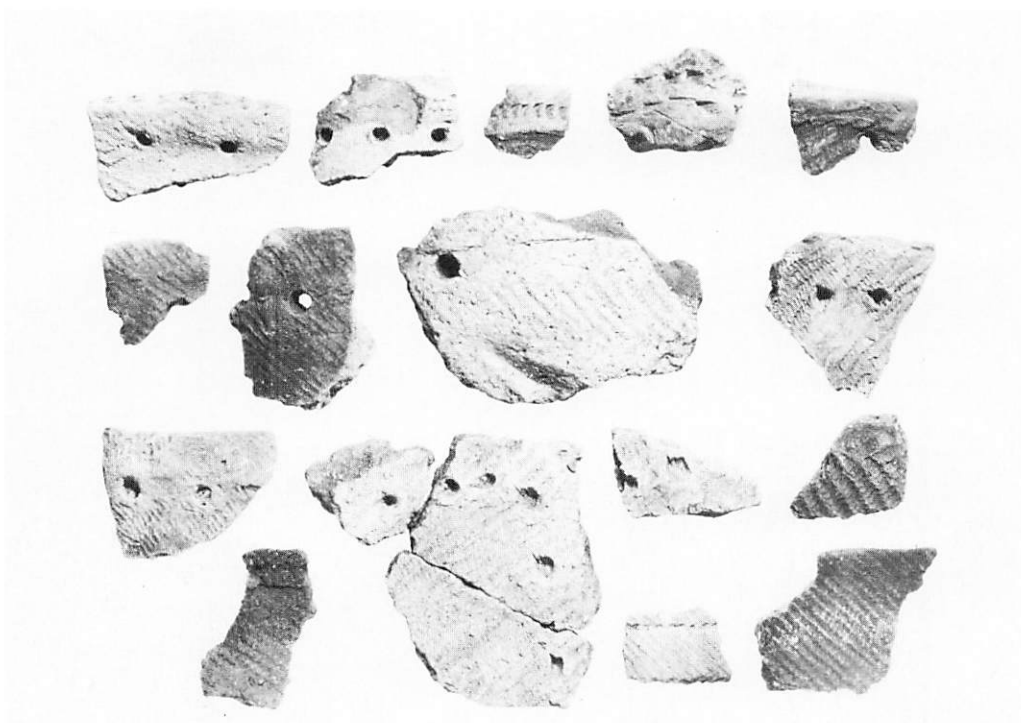
H-14 出土石器



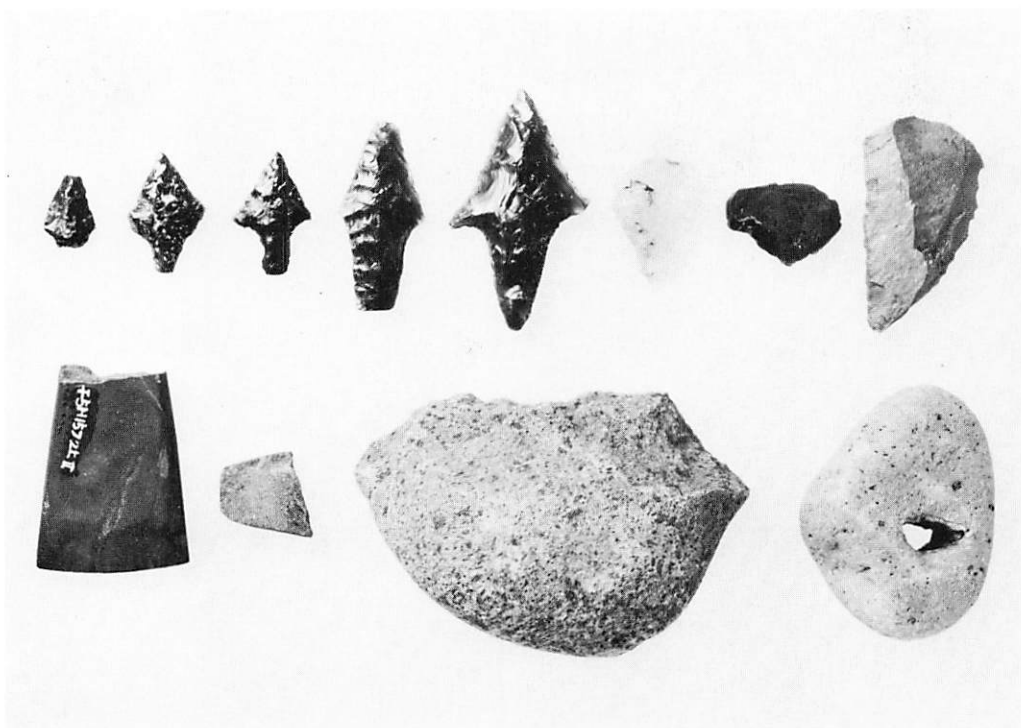
H-15 全 景



H-15 セクション東面(上) 石囲い炉(左下) 木は柱穴の方向を示す(右下)



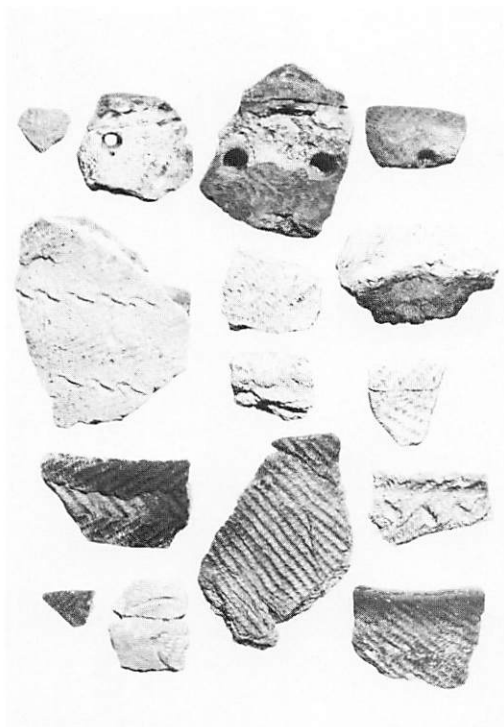
H-15 出土土器



H-15 出土石器



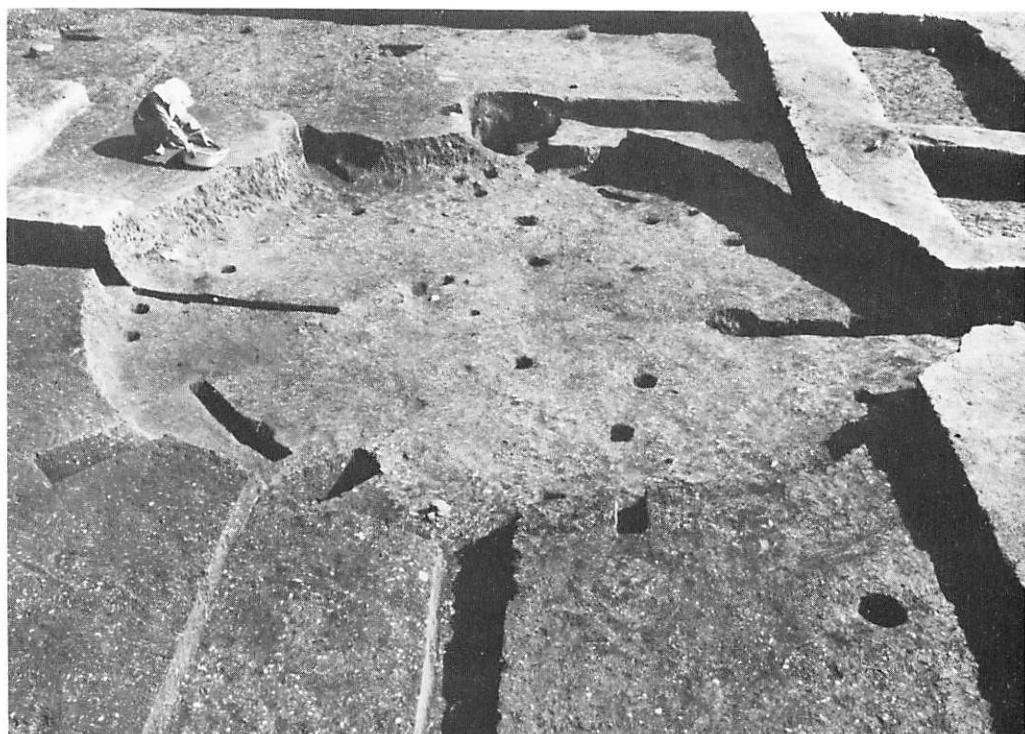
H-16 全景(左) 土器囲い炉(右上) 土器囲い炉の土器(右下)



H-16 出土土器



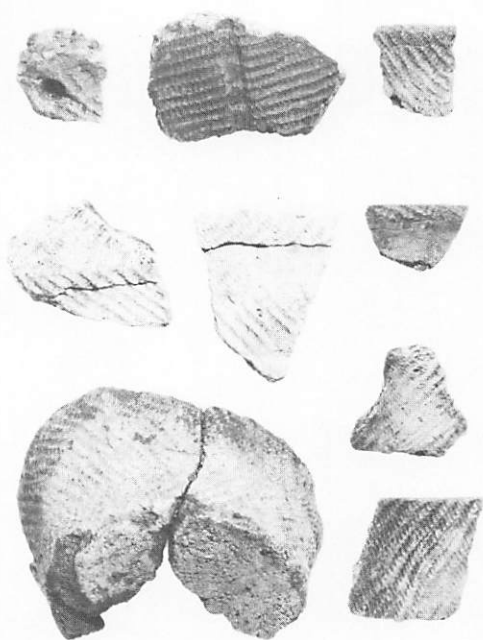
H-16 出土石器



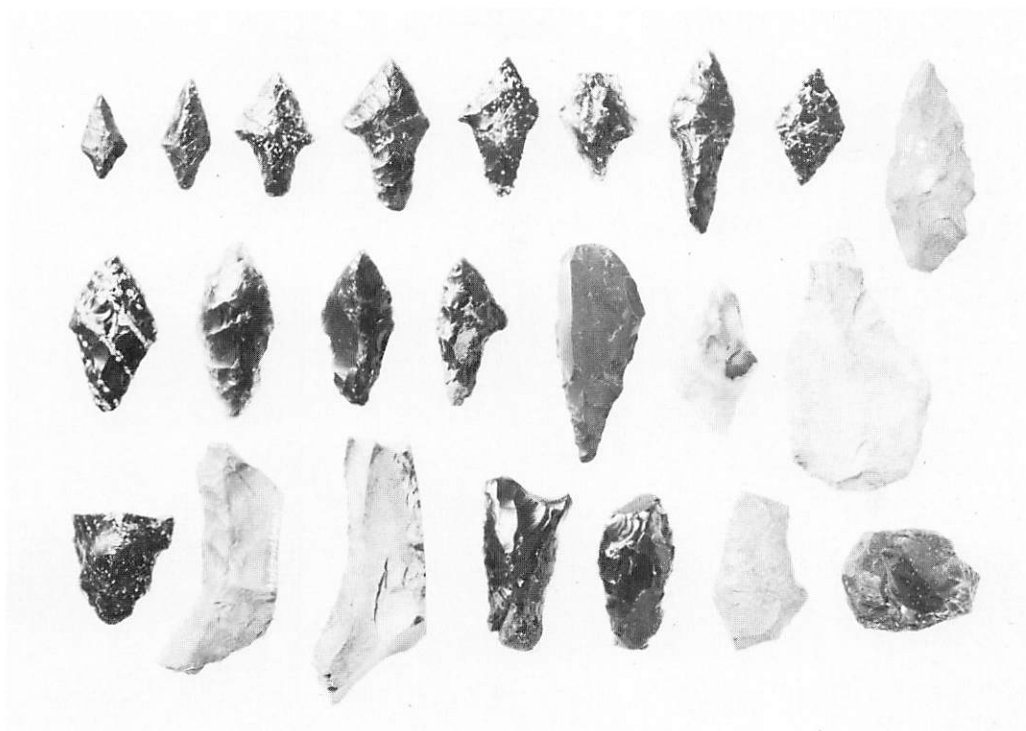
H-17 全 景



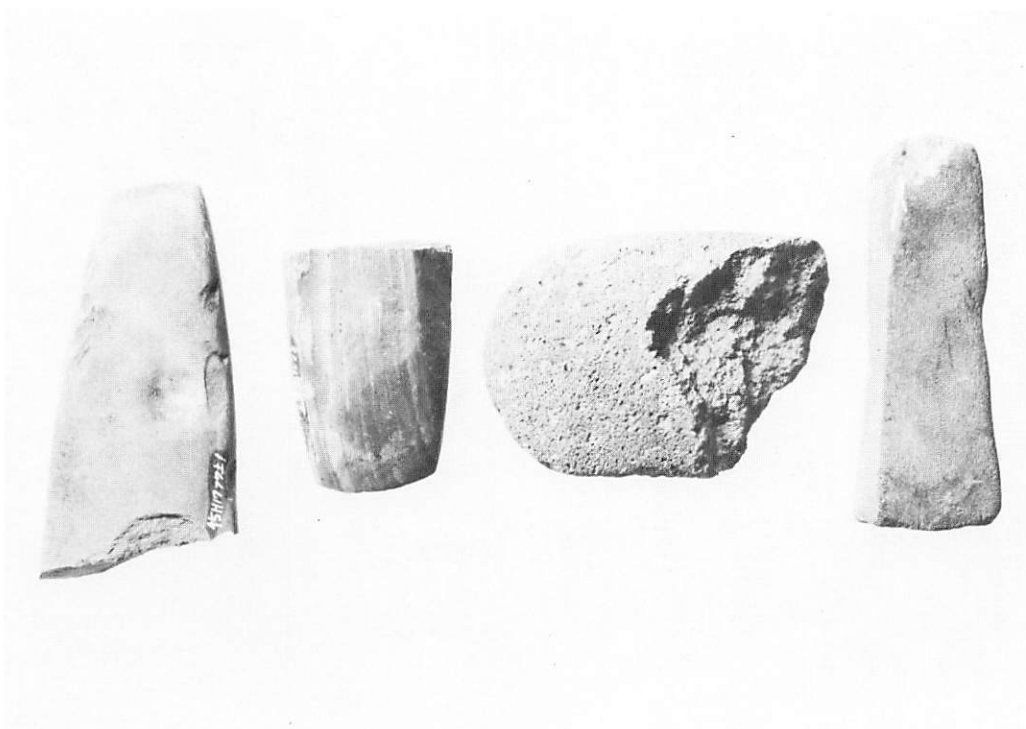
H-17 土器出土状況(上) 出土土器(下)



H-17 出土土器



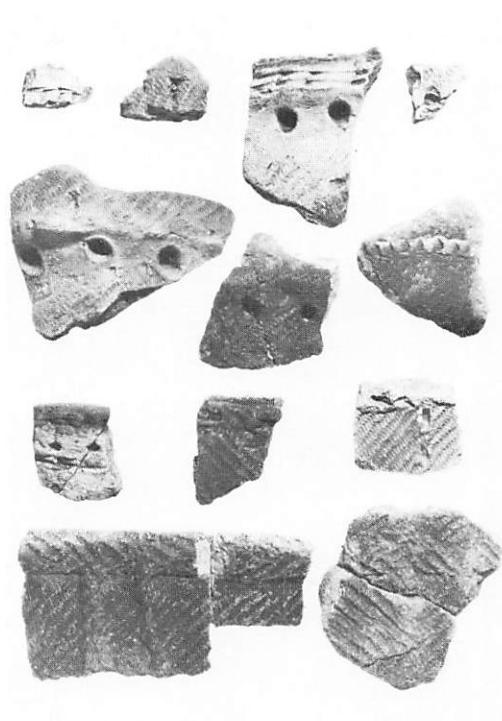
H-17 出土石器



H-17 出土石器



H-18 全 景



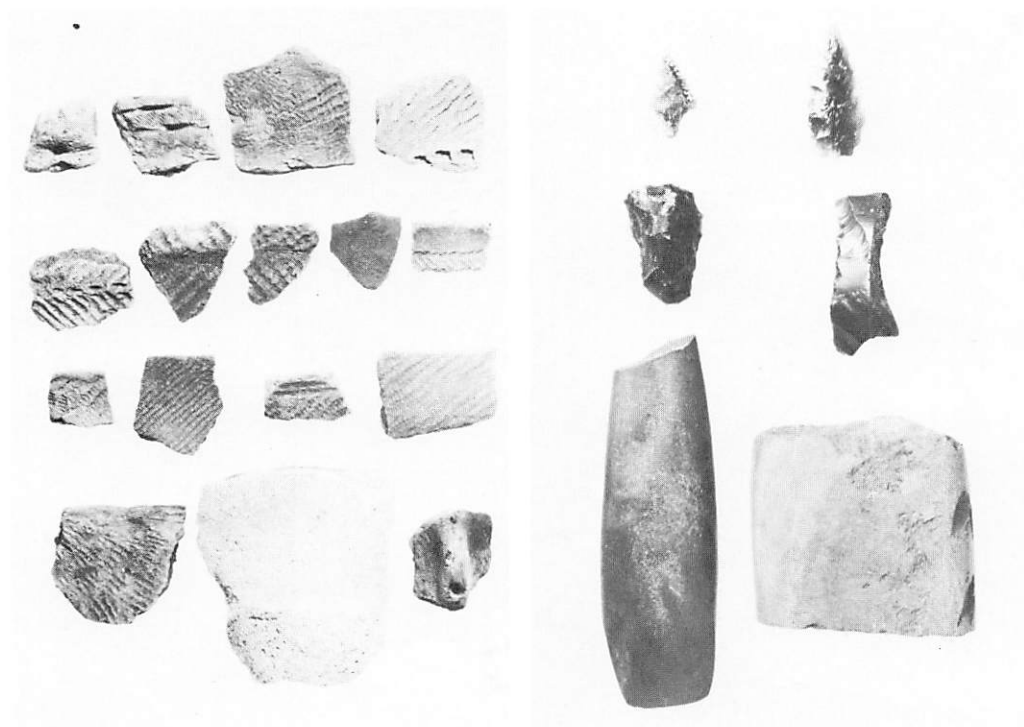
H-18 出土土器



H-18 出土石器



H-19 全 景



H-19 出土土器

H-19 出土石器



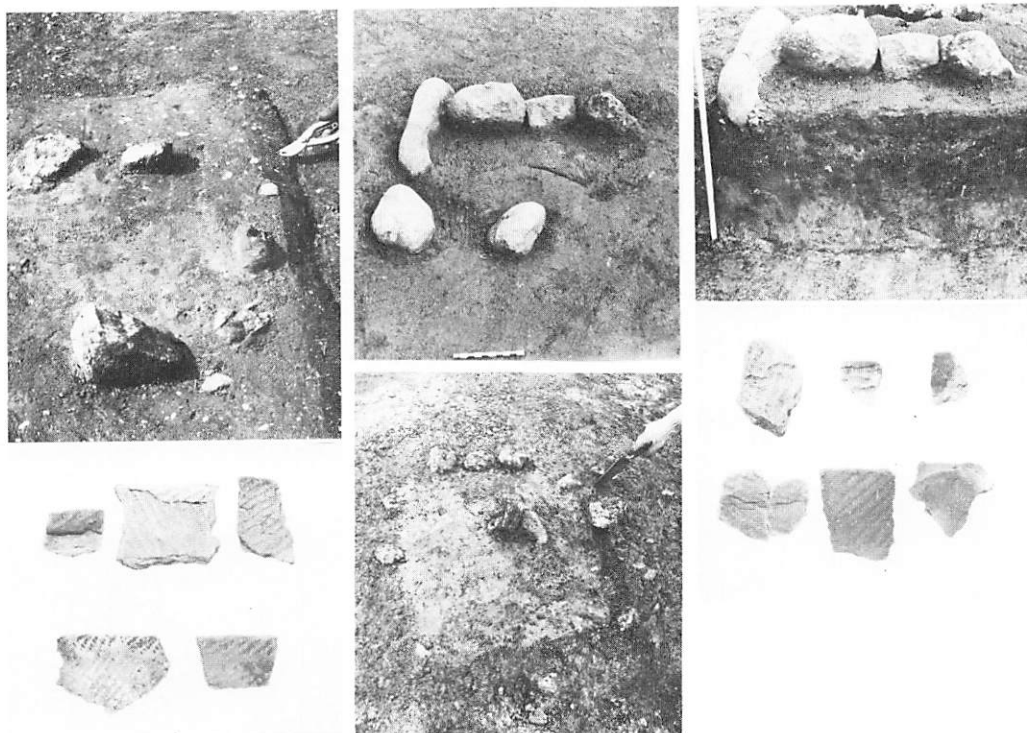
H-20 全 景



H-20 柱穴セクション



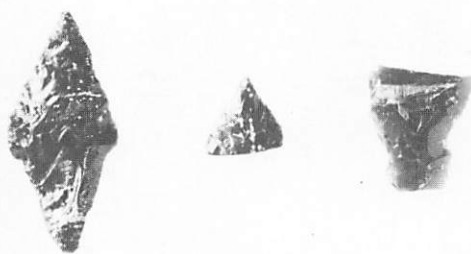
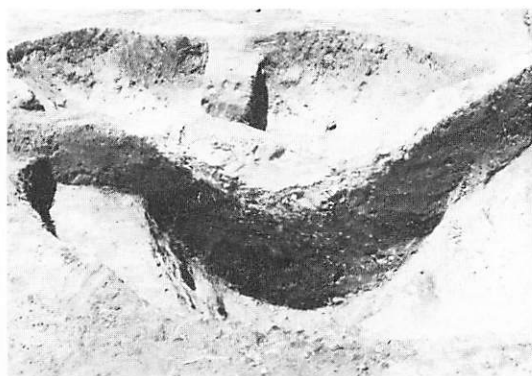
H-20 出土土器



S-1 (左上) S-2 (中上) セクション北面 (右上) 出土土器 (左下)



P-1 全 景



P-1 セクション南面 (上) 出土石器 (下)



P-2 全 景



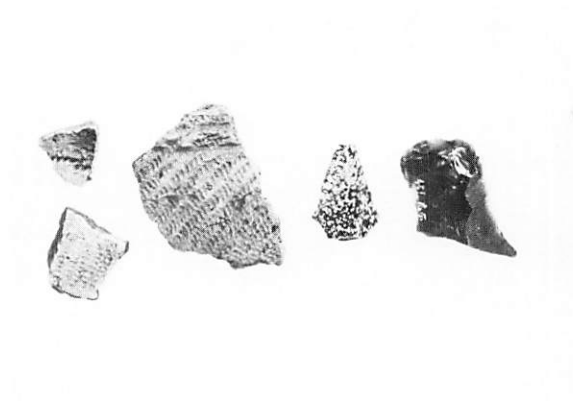
P-3 全 景



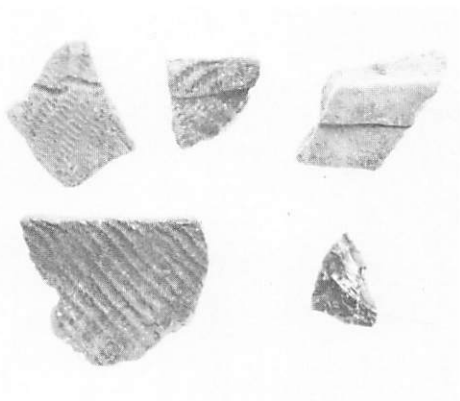
P-3 出土土器



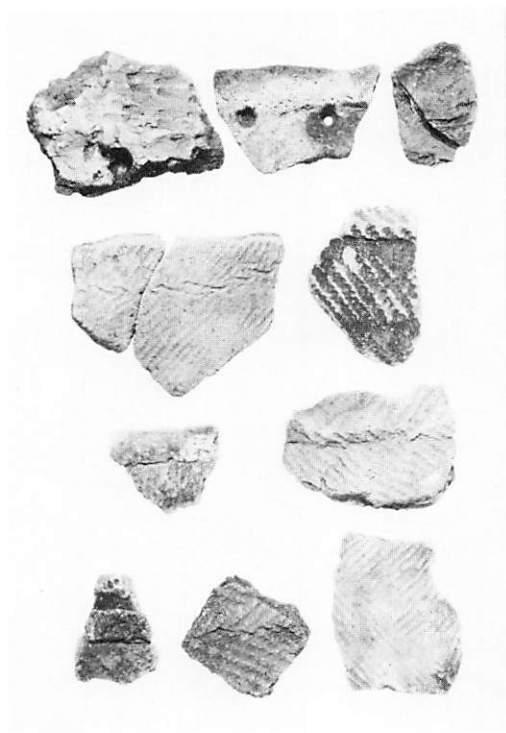
P-3 出土石器



P-6 出土土器・石器



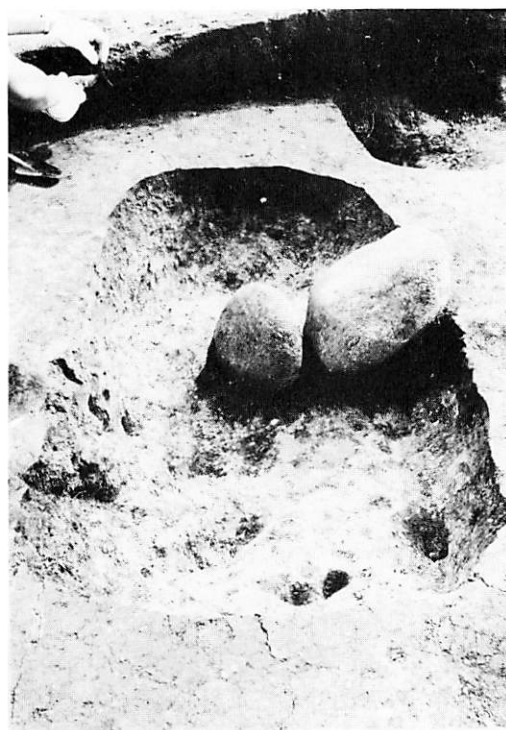
P-7 出土土器・石器



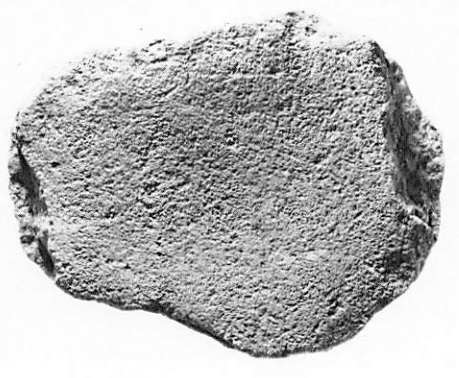
P-9 出土土器



P-9 出土石器



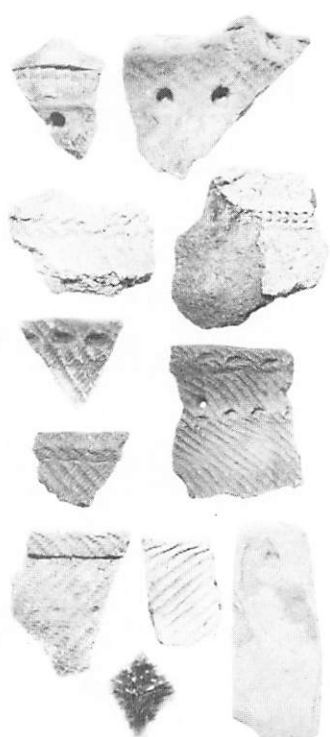
P-8 礫出土状況



P-14 石皿出土状況(上) P-14 石皿(下)



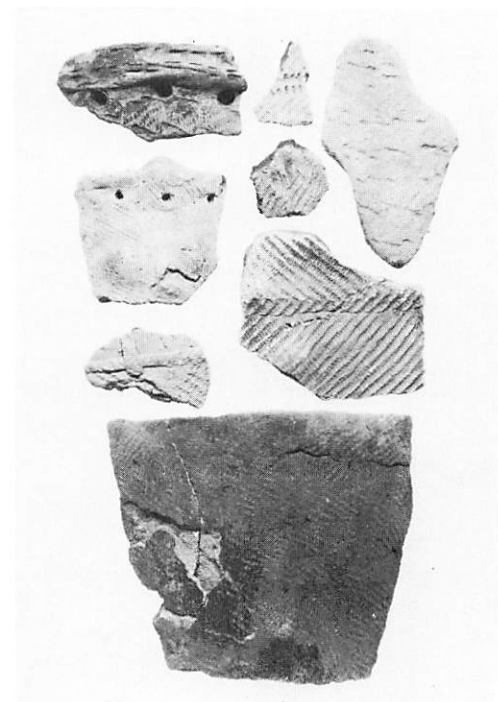
P-17 全 景



P-17 出土土器・石器



P-20 遺物出土状況



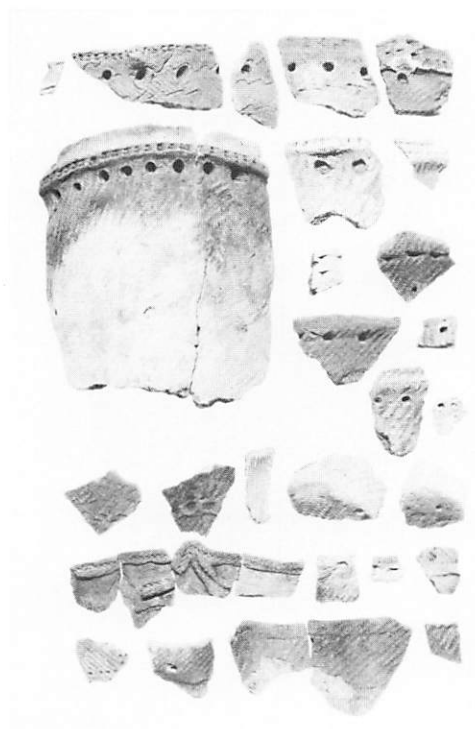
P-20 出土土器



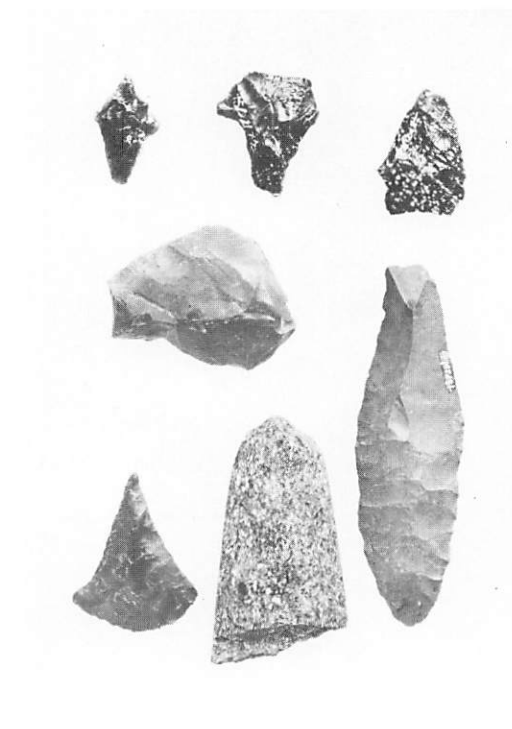
P-20 出土土器



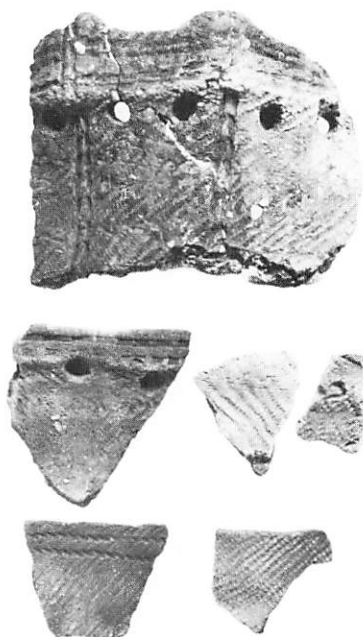
P-21 全 景



P-21 出土土器



P-21 出土石器



P-22 出土土器



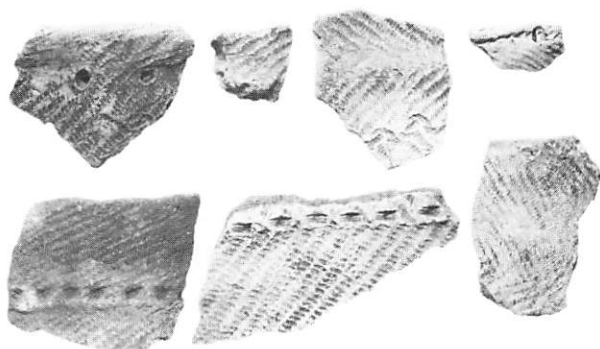
P-27 出土土器



P-27 遺物出土状況①(上) ②(下)



P-27 出土土器



P-28 遺物出土状況(左上・右上) P-28 出土土器(左下)

P-32 遺物出土状況(右下)



TP-1 全 景

TP-2 全 景



F-1 一括土器出土状況



F-1 出土土器



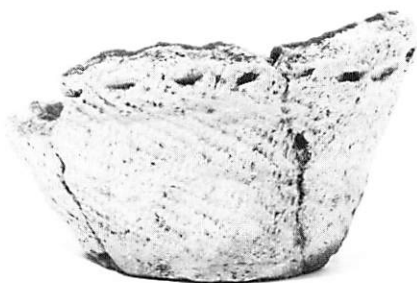
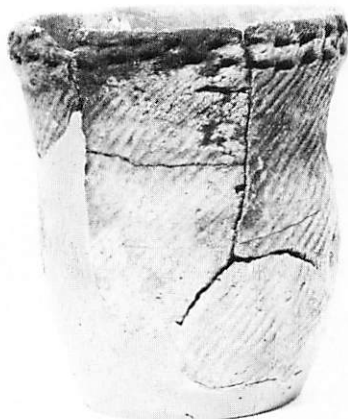
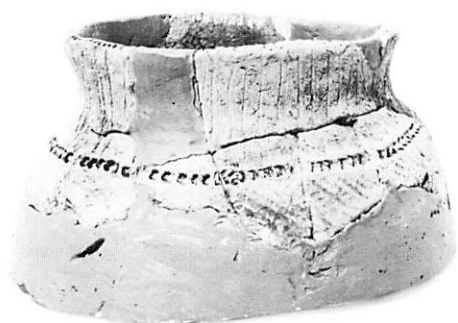
F-6 一括土器出土状況



F-6 出土土器



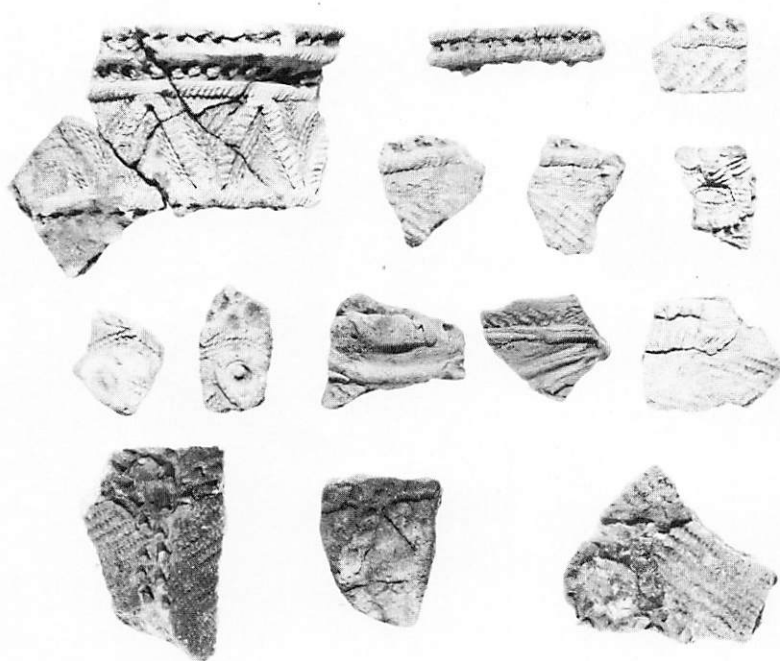
包含層出土の土器



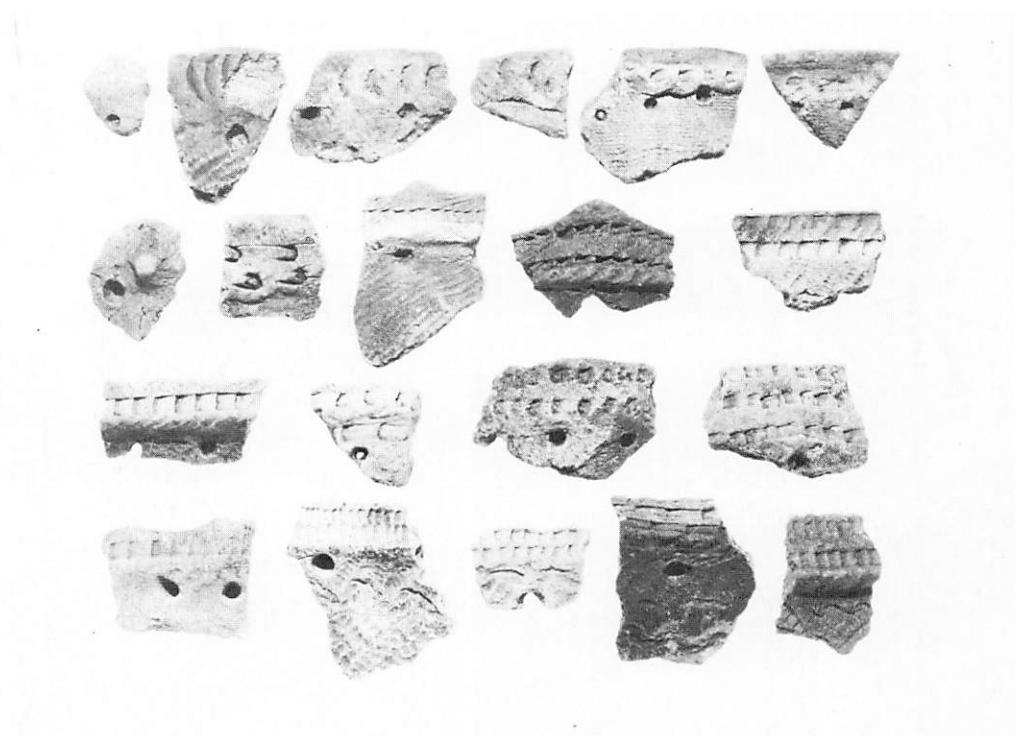
包含層出土の土器



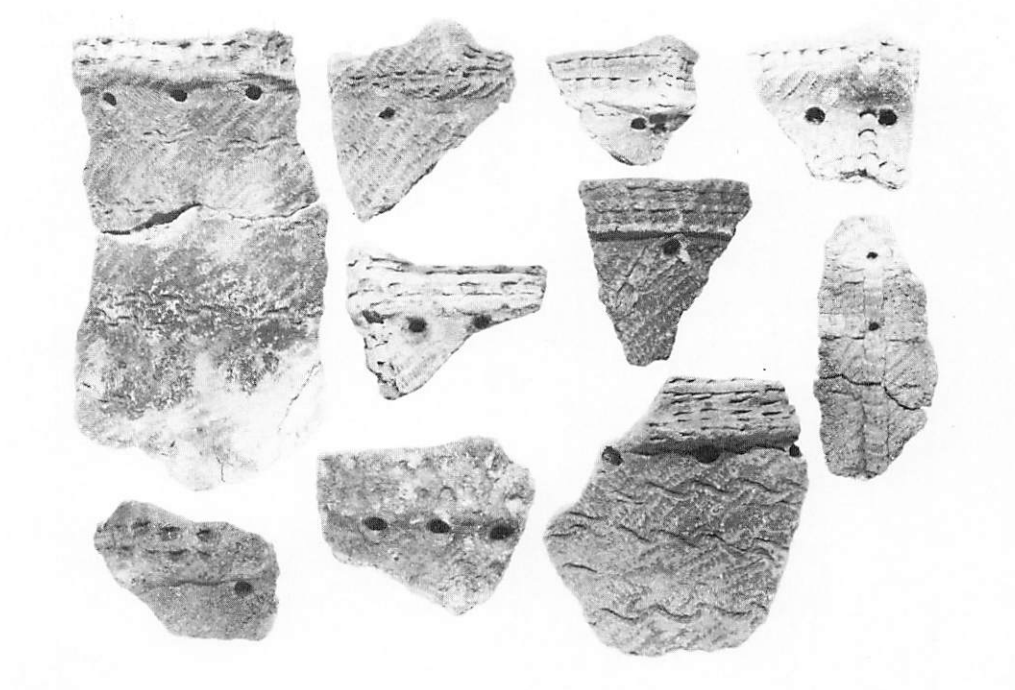
包含層出土の土器



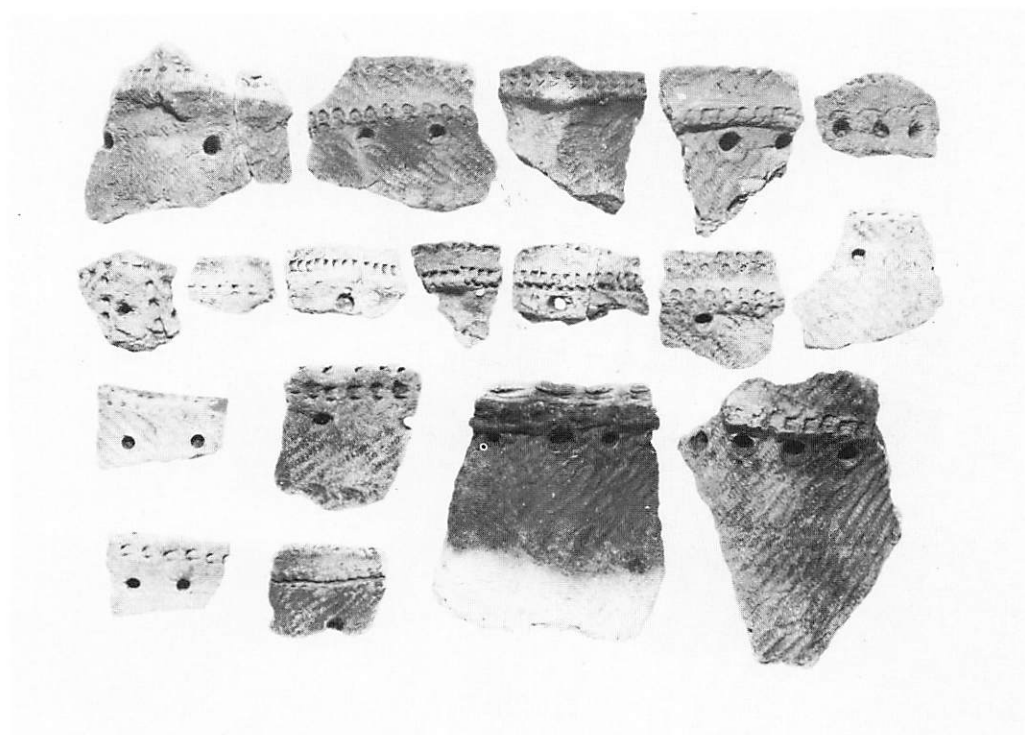
包含層出土の土器



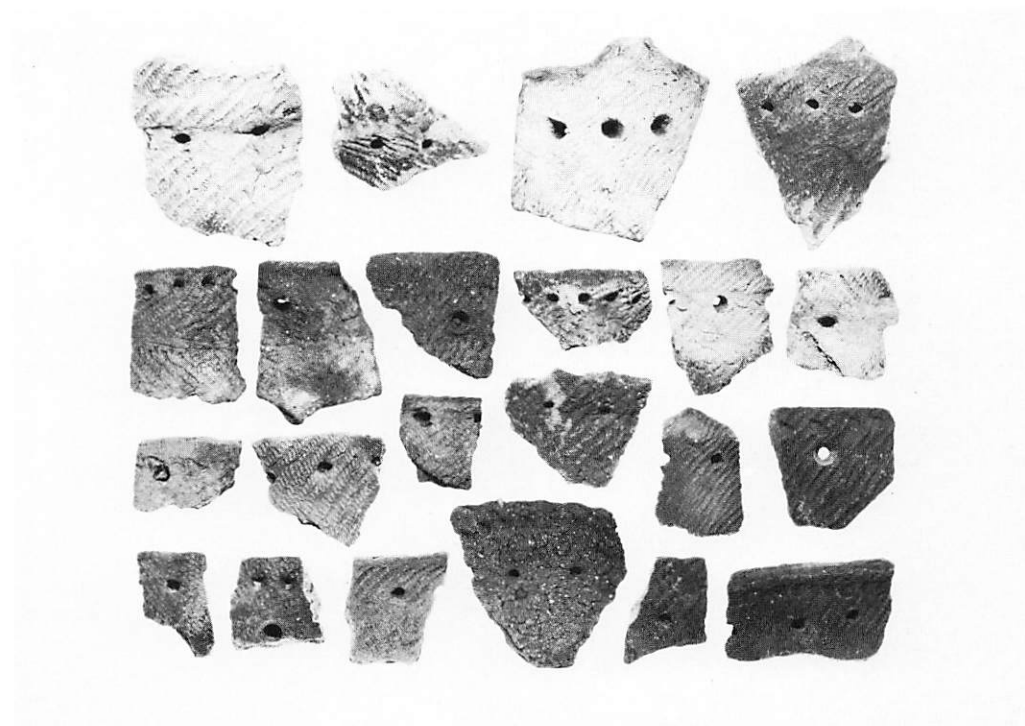
包含層出土の土器



包含層出土の土器

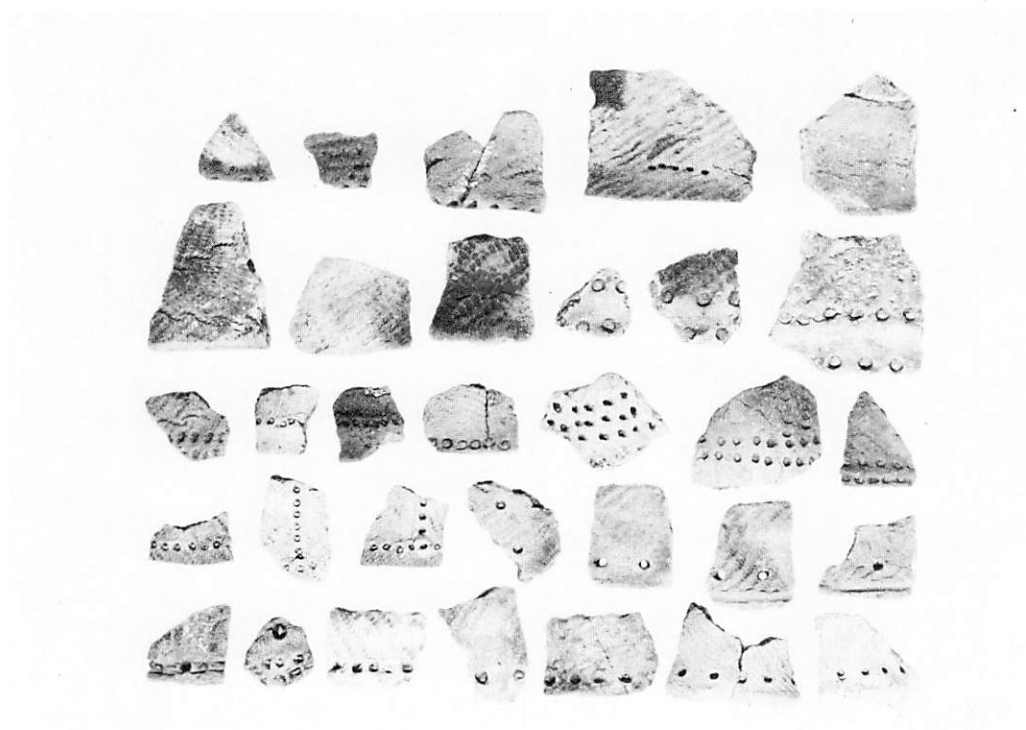


包含層出土の土器

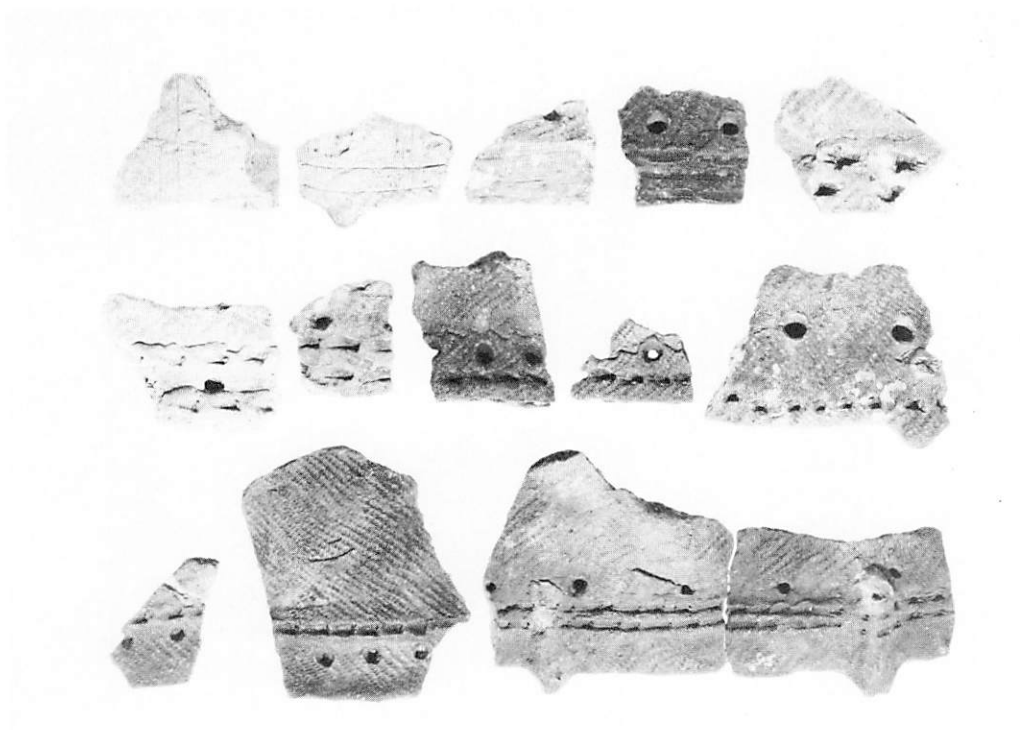


包含層出土の土器

器干の干田畠多

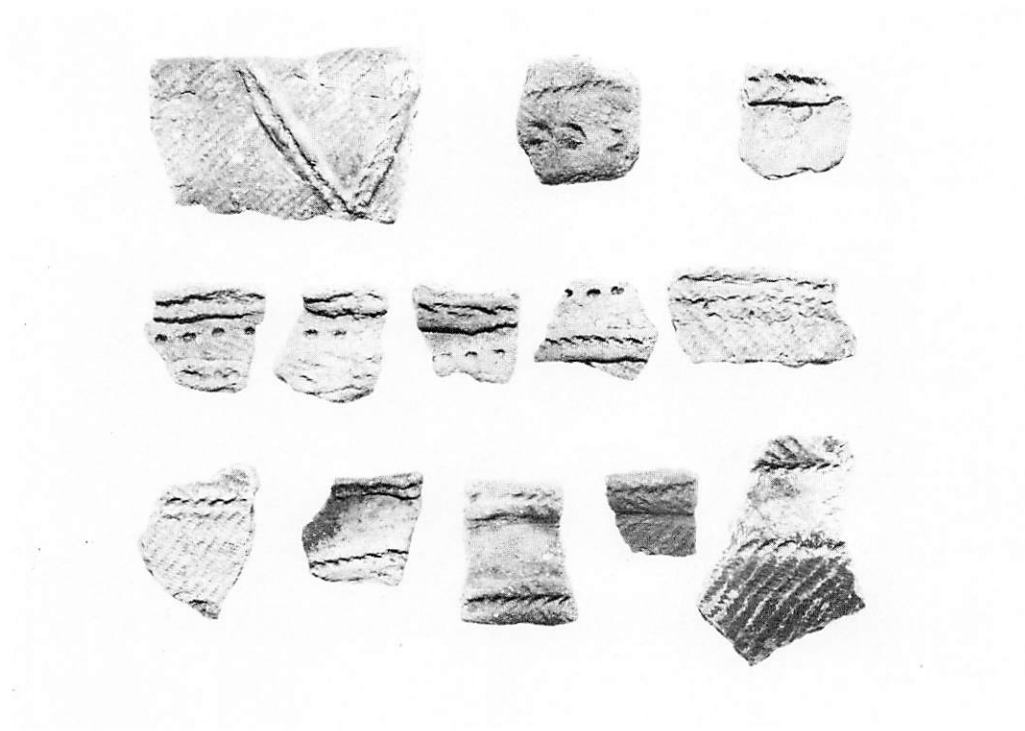


器干の干田畠多

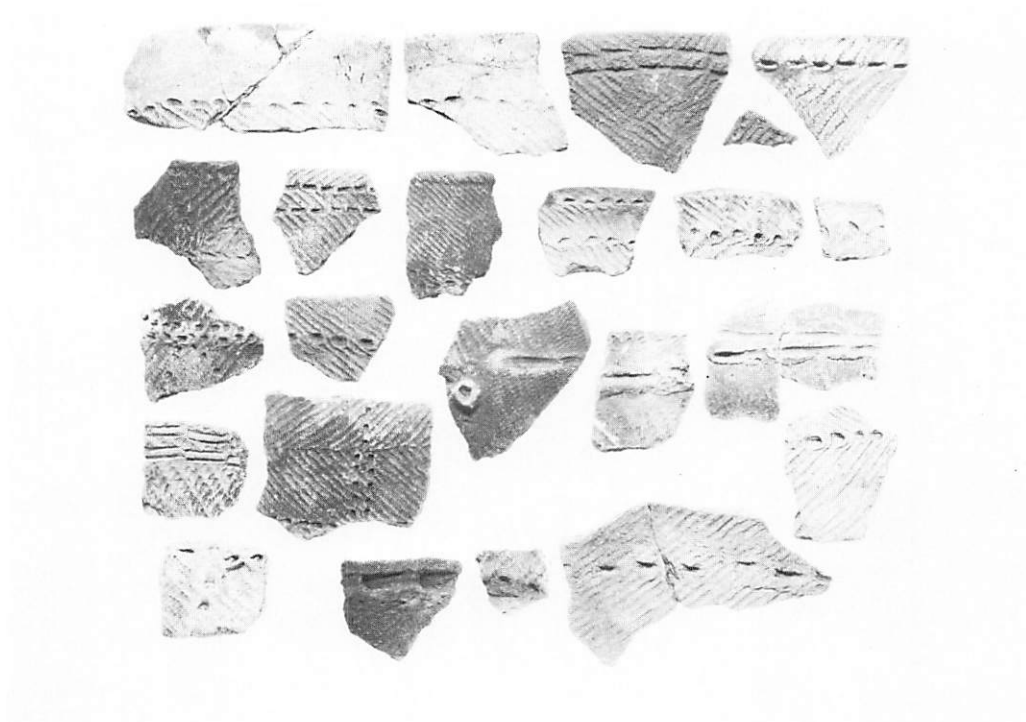




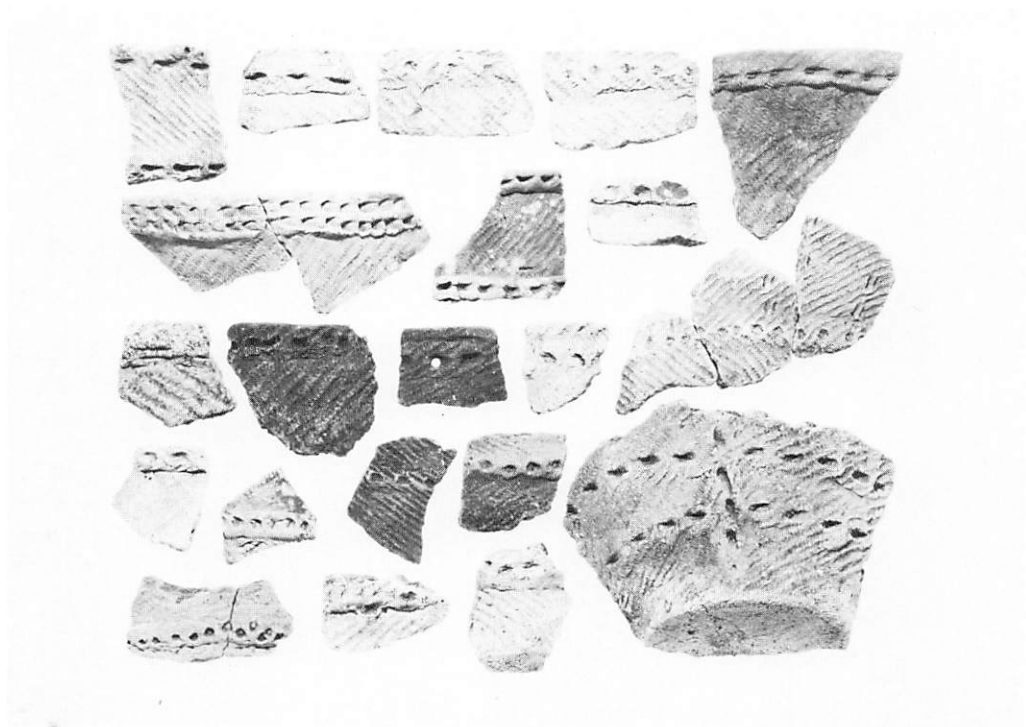
包含層出土の土器



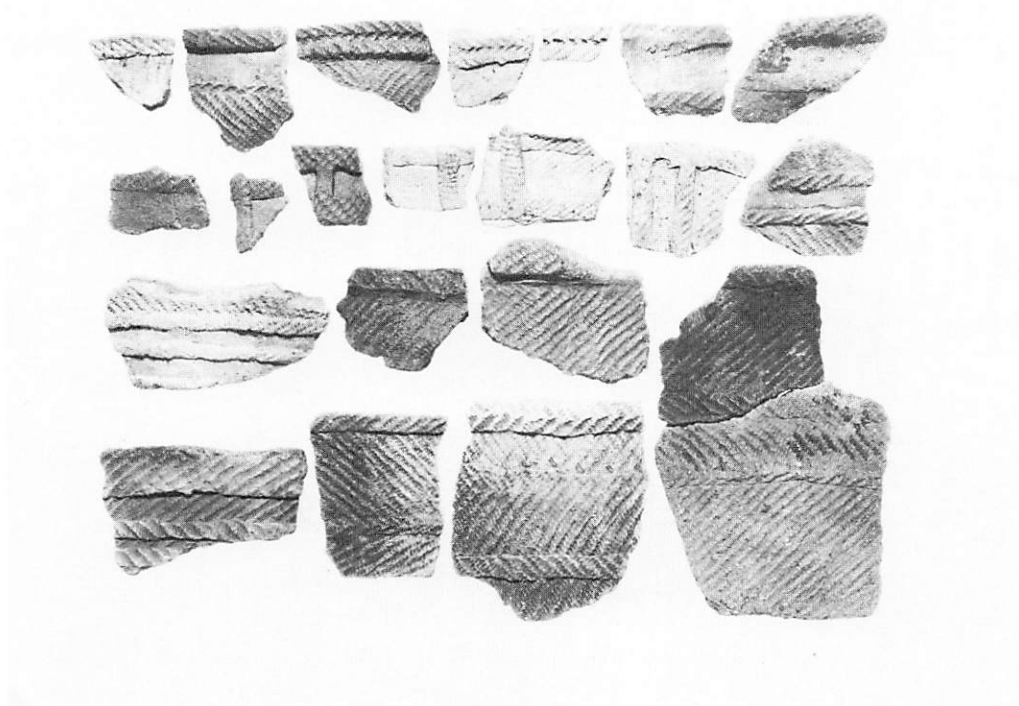
包含層出土の土器



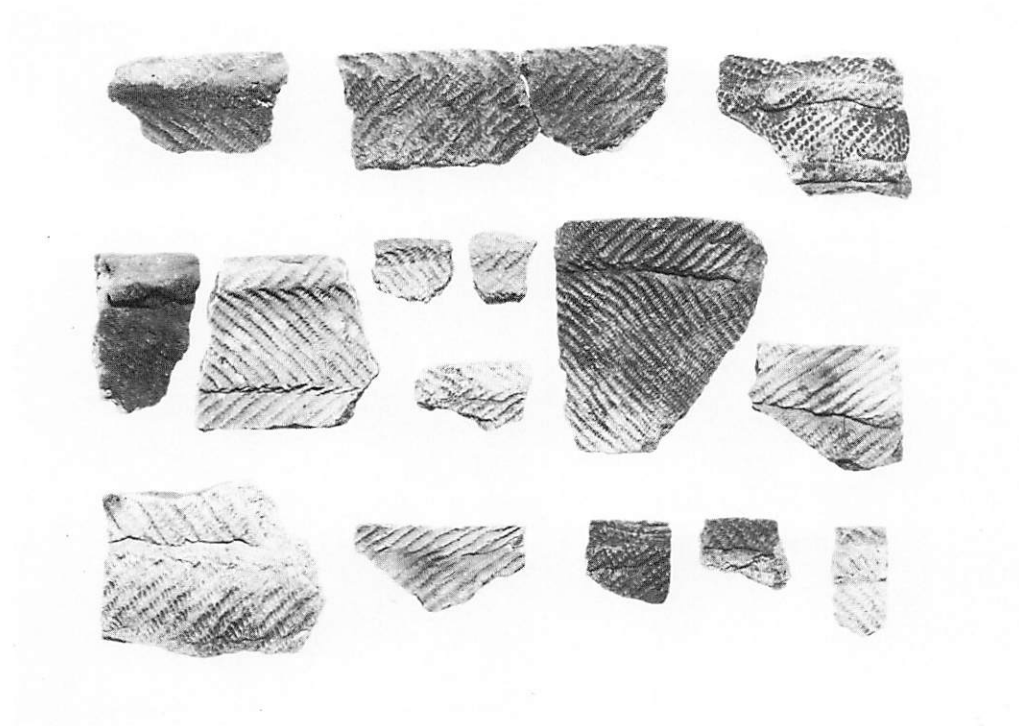
包含層出土の土器



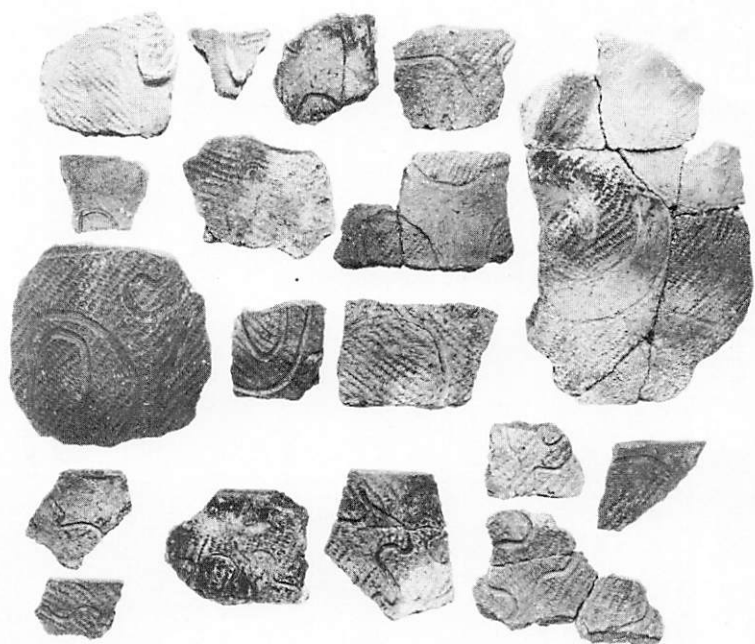
包含層出土の土器



包含層出土の土器



包含層出土の土器

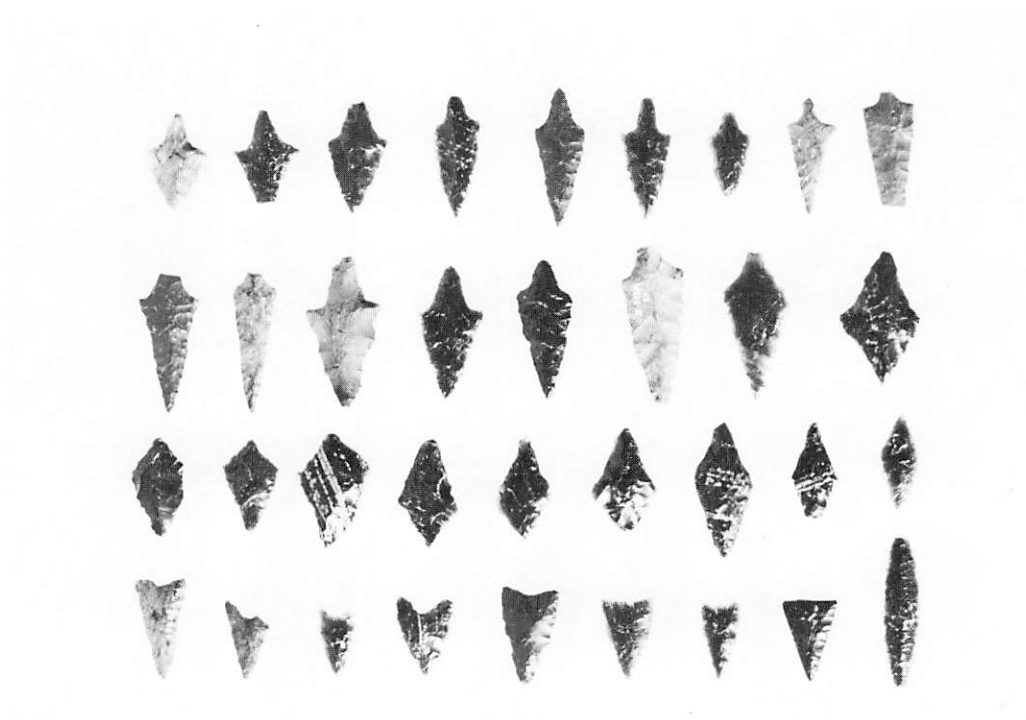


包含層出土の土器

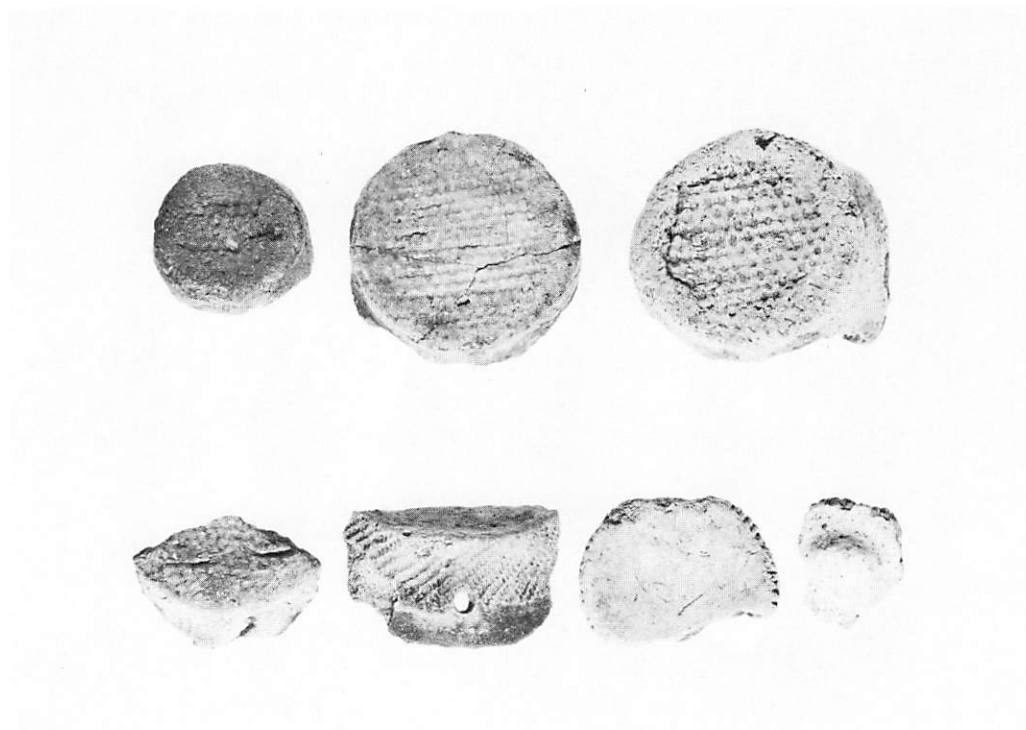


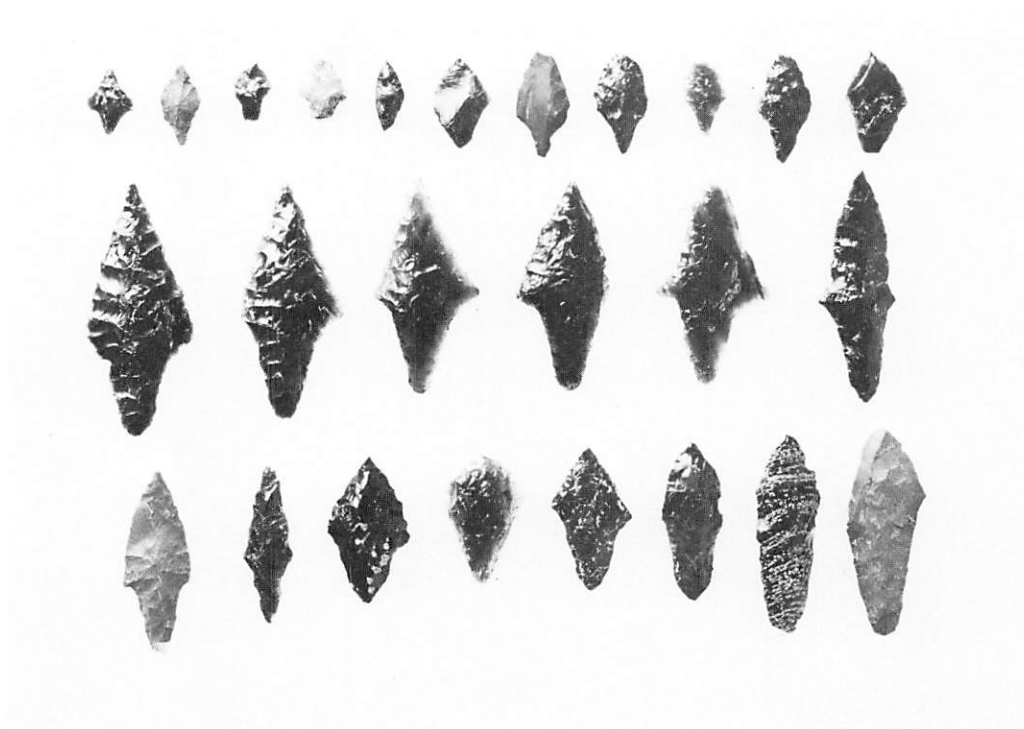
包含層出土の土器

包多層出土の石器

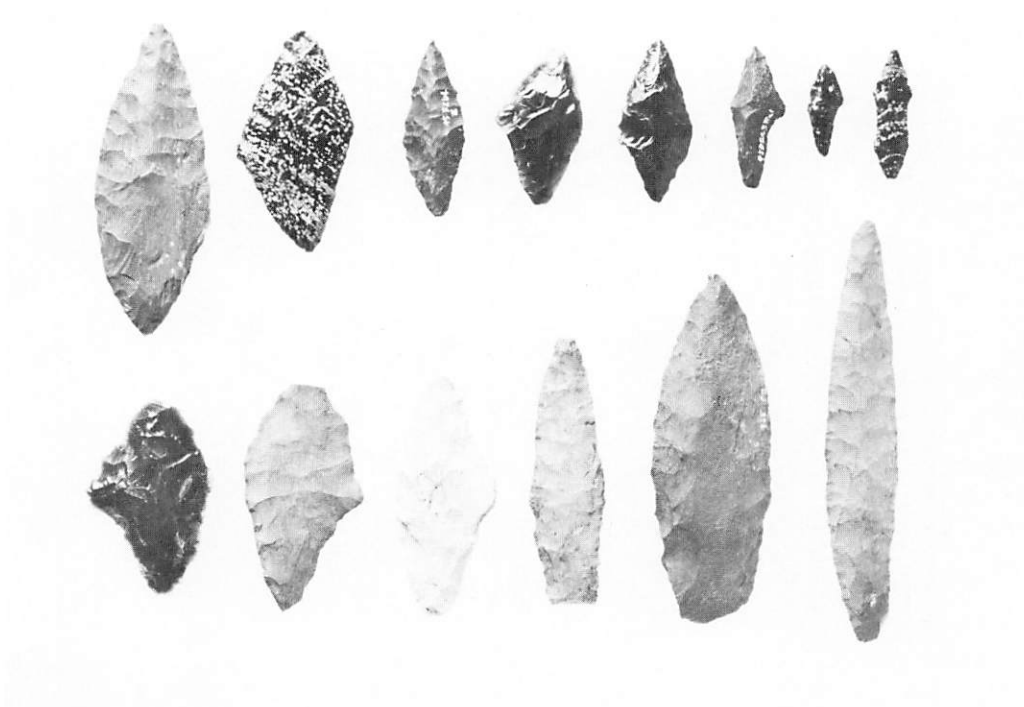


包多層出土の土器

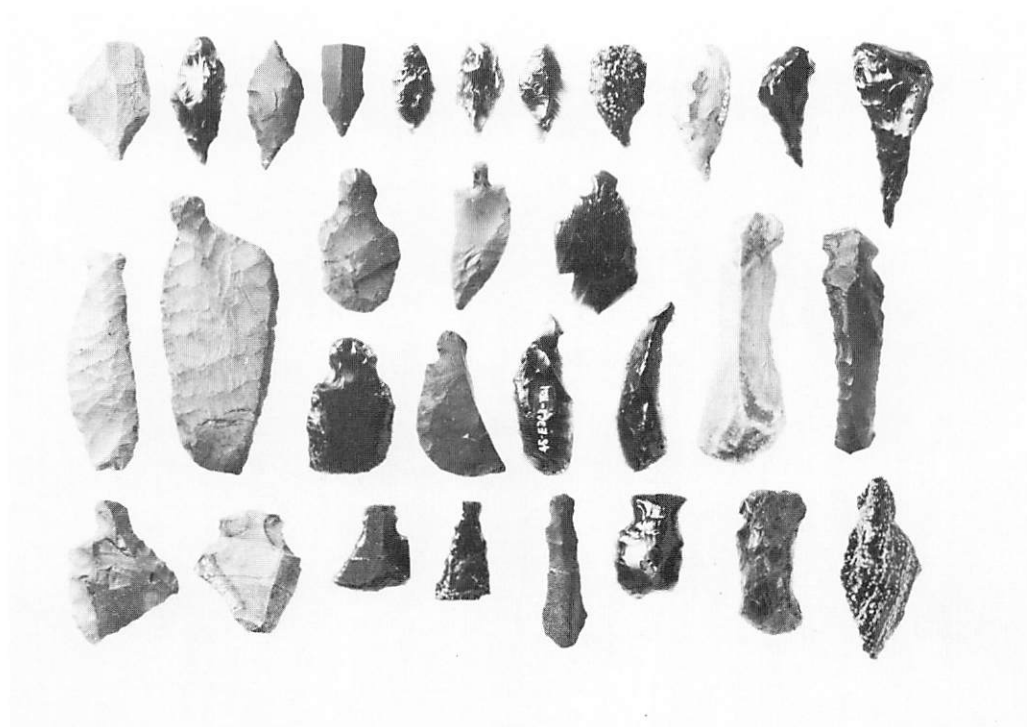




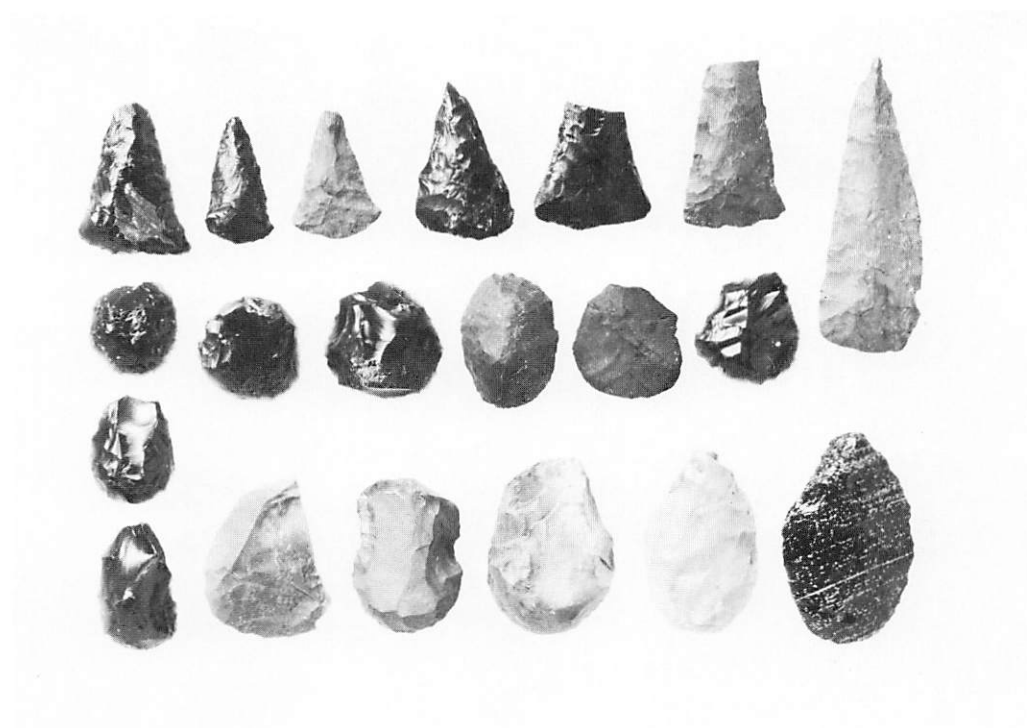
包含層出土の石器



包含層出土の石器



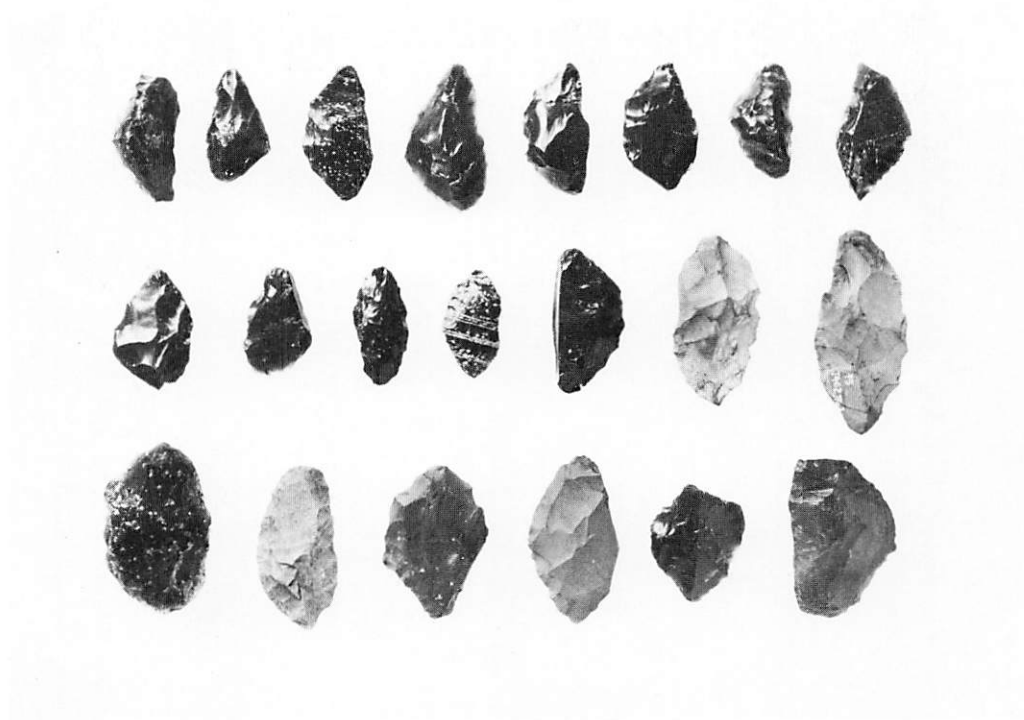
包含層出土の石器



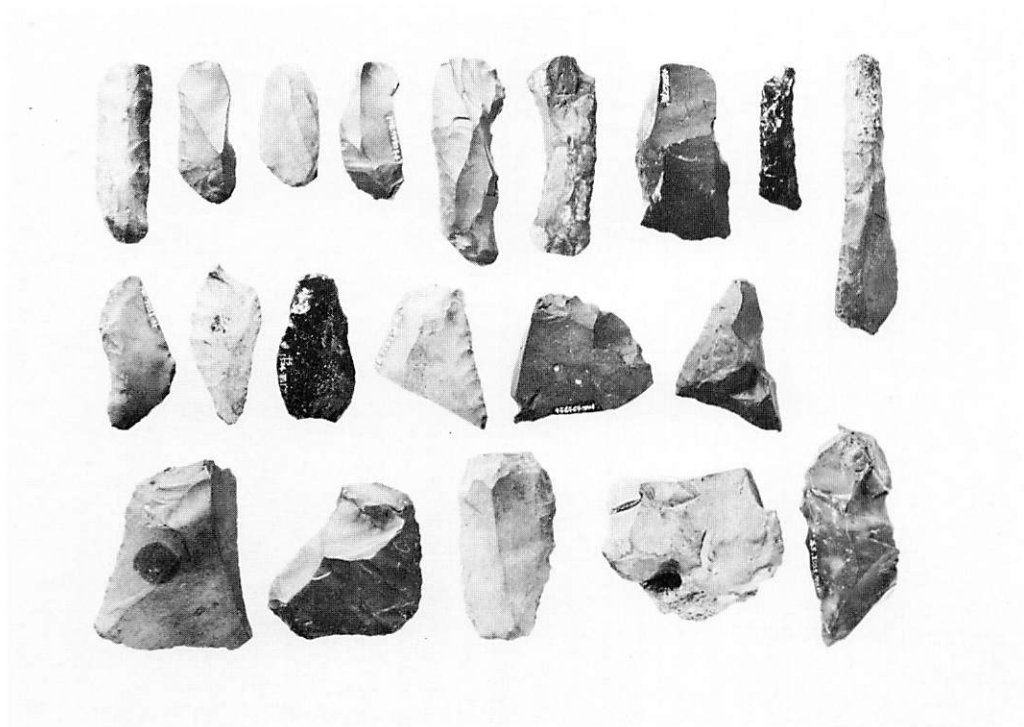
包含層出土の石器



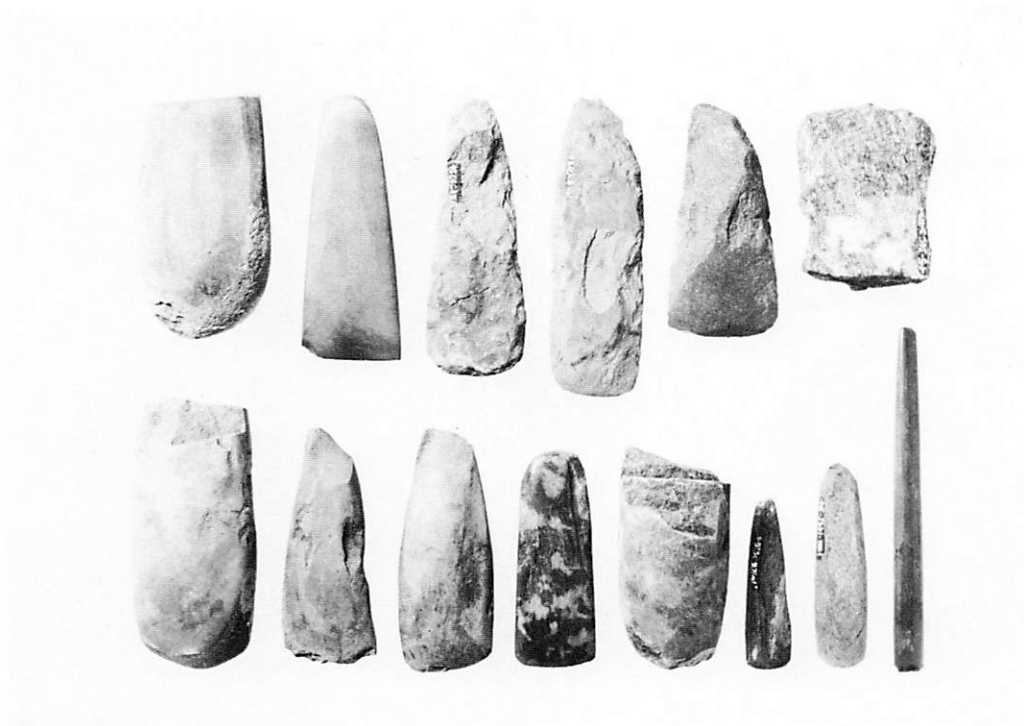
包含層出土の石器



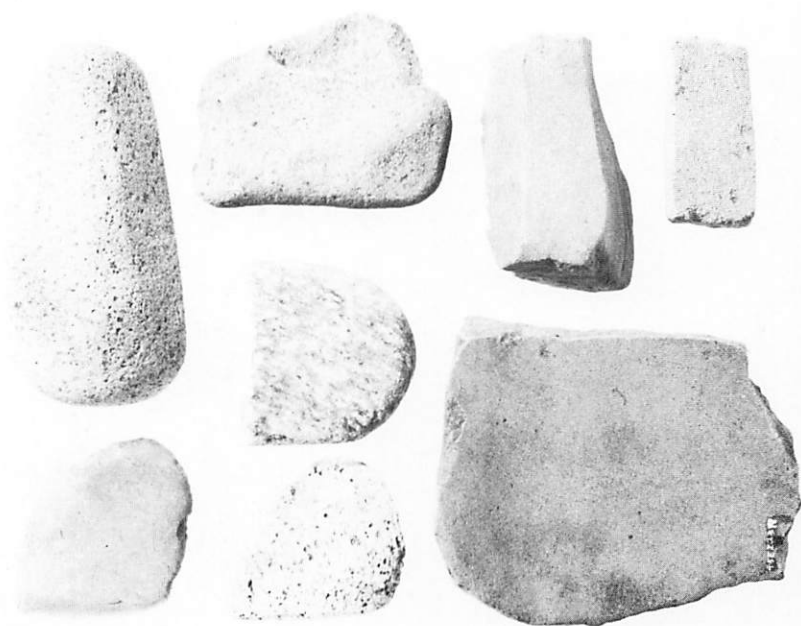
包含層出土の石器



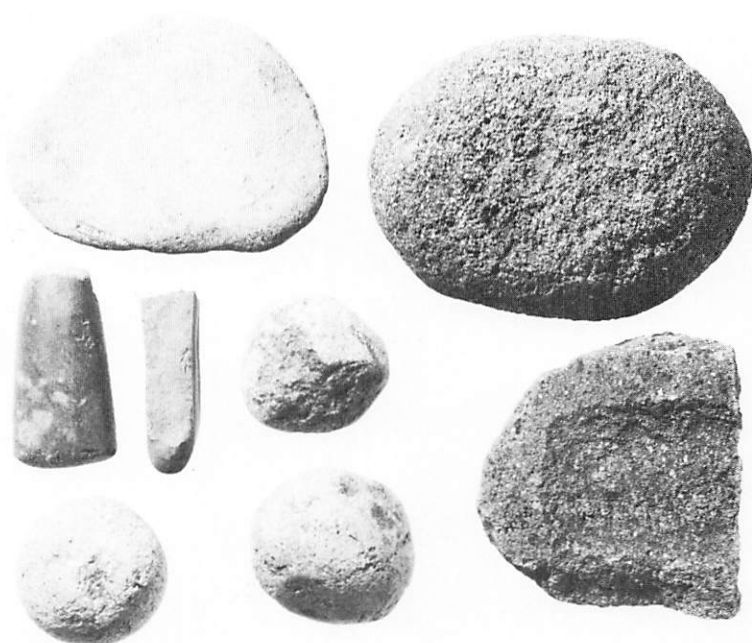
包含層出土の石器



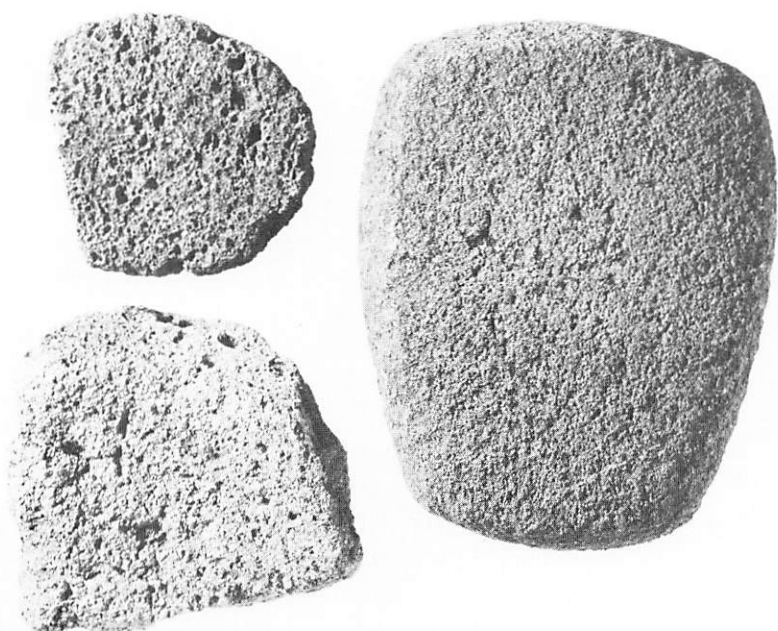
包含層出土の石器



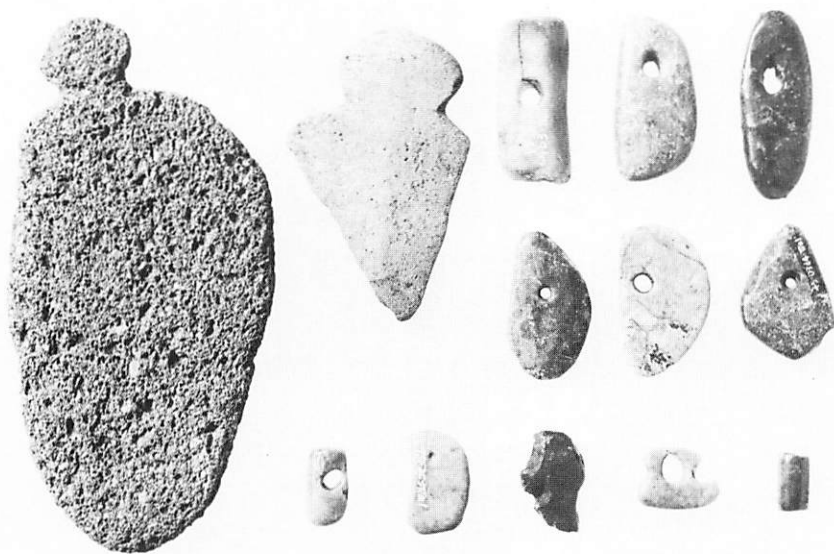
包含層出土の石器



包含層出土の石器



包含層出土の石器



包含層出土の石製品



(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告 第12集

千 歳 5 遺 跡

—北海道縦貫自動車道登別地区及び白老地区埋蔵文化財発掘調査報告書—

昭和58年3月31日 発行

編集・発行 財団法人北海道埋蔵文化財センター

064 札幌市中央区南15条西17丁目

印刷 富士プリント株式会社

064 札幌市中央区南16条西9丁目 TEL (011)531-4711番



10016824

北海道埋蔵文化財センター